



HP ALM ラボ管理

ソフトウェアバージョン: 12.50

ラボ管理ガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 9 月 (英語版)
ソフトウェアリリース日: 2015 年 9 月

ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®, Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Unix® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして、[Register] をクリックしてください。

サポート

HP ソフトウェアサポートオンライン Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザ ID の登録は、次の Web サイトにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして、[Register] をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP ソフトウェアソリューションと統合とベストプラクティス

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) では、HP ソフトウェアのカタログ記載製品がどのような仕組みで連携、情報の交換、ビジネスニーズの解決に対応するのかご確認いただけます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) では、ベストプラクティスに関するさまざまなドキュメントや資料をご覧ください。

目次

第1章: ラボ管理の概略	11
第2章: ラボ管理の管理	13
ラボ管理 の管理の概要	14
ラボ管理の管理者の作成方法	14
ラボ管理の管理の使用方法	14
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース	17
[ラボ管理] タブ	18
[一般設定] ダイアログ・ボックス	19
第3章: プロジェクト設定	21
プロジェクトの設定の概要	22
ターゲット IP アドレスの使用	22
サブネット・マスクの使用	22
プロジェクトを作成する方法	23
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース	25
プロジェクト設定モジュール	26
プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン	27
プロジェクト設定モジュールのフィールド	29
[プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックス	30
VUD のアクション	33
[Performance Center Controller のオプション] ダイアログ・ボックス	35
第4章: メンテナンス・タスク	41
メンテナンス・タスクの概要	42
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース	43
メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ	44
メンテナンス・タスクのフィールド	45
メンテナンス・タスクのメニューとボタン	45
[メンテナンスタスクの詳細] ダイアログ・ボックス	46
第5章: クラウド設定	48
クラウド・ホストの概要	49
クラウド・ホストを使用するメリット	49
ALM でのクラウド・ホストの使用	49
クラウド・ホストの設定方法	50
クラウドの初期設定	51

クラウドの初期設定の概要	52
クラウド通信の初期設定	56
クラウド・ネットワークの設定方法	57
デジタル証明書を作成する方法	58
クラウドの初期設定のユーザ・インタフェース	60
[クラウド ネットワーク設定] ダイアログ・ボックス	61
クラウド・アカウント	62
クラウド・アカウントの概要	63
クラウド・クレジット	63
クラウド・アカウントを管理する方法	64
クラウド・アカウントの追加	64
クラウド・アカウントの詳細の変更	66
クラウド・アカウントの削除	66
クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース	67
クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ	68
クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン	69
クラウド・アカウント・モジュールのフィールド	71
[新規クラウド アカウント] ダイアログ・ボックス	72
[クラウド アカウントの詳細] ダイアログ・ボックス	73
[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックス	74
クラウド・アカウントの [リンクされたプロジェクト] ページ	75
ホスト・テンプレート	76
ホスト・テンプレートの概要	77
ホスト・テンプレートを管理する方法	78
ホスト・テンプレートの作成	78
Microsoft Azure クラウド・アカウント用の画像の作成	79
ホスト・テンプレートの詳細の変更	80
ホスト・テンプレートの削除	80
ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース	81
ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ	82
ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン	82
ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド	84
[新規ホスト テンプレート] ダイアログ・ボックス	86
[ホスト テンプレートの詳細] ダイアログ・ボックス	86
ホストのプロビジョニング	88
ホストのプロビジョニングの概要	89
クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法	89
クラウド・ホストのプロビジョニング	89
クラウド・ホストの終了	91
ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース	92
[クラウド ホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックス	93
ホスト・プロビジョニング・レポート	96

クラウド・リソースの監視	98
クラウド・リソースの監視の概要	99
クラウドの使用状況レポート	99
クラウド警告および通知	99
クラウド警告の構成方法	99
クラウド・リソースの監視のユーザ・インタフェース	100
[クラウド警告および通知] ダイアログ・ボックス	101
第6章: ラボ・リソース	103
ラボ・リソースの概要	104
ラボ・リソースの管理	106
テストング・ホストの管理方法	106
ホスト・プールを管理する方法	113
ホストの場所を管理する方法	115
タイムスロットの予約方法	116
メンテナンス・タイムスロットのスケジュール- 管理者のユース・ケース	117
ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	120
ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン	121
ホスト・モジュール	125
ホスト/テストング・ホスト・モジュールのウィンドウ	126
ホストのフィールド	128
[新規テストング ホスト] ダイアログ・ボックス	132
[テストング ホストの詳細] ダイアログ・ボックス	133
イベント・ログ	135
[プロセス] ページ	137
[サービス] ページ	138
[ホストのステータスの確認] ページ	139
ホストのステータスの確認のフィールド	140
[ファイアウォール越し] ページ	140
[インストールするパッチの選択] ダイアログ・ボックス	142
プール・モジュール	142
プール・モジュール・ウィンドウ	143
プール・フィールド	144
[新規ホストプール] ダイアログ・ボックス	144
[ホストプール詳細] ダイアログ・ボックス	145
[ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス	146
[リンクされたホスト] ページ	147
場所モジュール	148
場所モジュール・ウィンドウ	149
場所のフィールド	149
[新規ホストの場所] ダイアログ・ボックス	150

[ホストの場所詳細] ダイアログ・ボックス	150
タイムスロット・モジュール	151
[タイムスロットの予約：メンテナンス] ダイアログ・ボックス	152
第7章: PC テスト実行	155
PC テスト実行モジュールの概要	156
PC テスト実行のユーザ・インタフェース	156
PC テスト実行モジュールのウィンドウ	157
PC テスト実行モジュールのフィールド	158
PC テスト実行モジュールのメニューとボタン	159
[実行詳細] ダイアログ・ボックス	161
第8章: 使用状況レポート	163
使用状況レポートの概要	164
使用状況レポートを作成する方法	165
レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法	166
使用状況レポートの時間フレーム	166
使用状況レポートのユーザ・インタフェース	167
リソース・サマリ・レポート	168
同時実行対ライセンス・レポート	170
タイムスロット使用状況レポート	175
継続時間別リソース・レポート	177
実行別リソースレポート	180
プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポート	182
日次 VUD ライセンス使用状況レポート	184
プロトコル粒度使用状況レポート	185
プロトコル粒度使用状況サマリ	186
クラウド高レベル・レポート	187
クラウド・クレジット(タイプ別) レポート	189
クラウド利用率レポート	192
クラウド操作レポート	194
第9章: システム・ヘルス	198
システムのヘルスの概要	199
システムのヘルスのユーザ・インタフェース	199
システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ	200
[システムチェックの設定] ダイアログ・ボックス	201
第10章: PC ライセンス	202
HP ALM Performance Center ライセンスの概要	203

Performance Center のライセンス・キーの設定方法	204
PC ライセンスのユーザ・インタフェース	205
PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ	206
[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス	208
第11章: MI Listener	210
MI Listener の概要	211
MI Listener を管理する方法	211
MI Listener モジュール	212
MI Listener モジュール・ウィンドウ	213
MI Listener のフィールド	213
MI Listener モジュールのメニューとボタン	214
[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス	216
[MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス	216
第12章: 診断管理	218
J2EE/.NET 診断の概要	219
ERP/CRM 診断の概要	219
ERP/CRM メディエータの追加方法	221
HP Diagnostics サーバの追加方法	222
Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法	222
Oracle 11i 診断を事前に設定する方法	226
SAP 診断を事前に設定する方法	227
Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法	227
Oracle サーバのログを有効にする方法	229
Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法	230
診断のユーザ・インタフェース	230
診断モジュール・ウィンドウ	231
診断モジュールのフィールド	231
診断モジュールのメニューとボタン	232
第13章: パッチ管理	235
パッチの概要	236
パッチの ALM へのアップロード方法	236
パッチ管理のユーザ・インタフェース	236
パッチ・モジュール・ウィンドウ	237
パッチ・モジュールのフィールド	237
パッチ・モジュールのメニューとボタン	238
[パッチの詳細] ダイアログ・ボックス	239
[新規パッチ] ダイアログ・ボックス	240

第14章: AUT ホストの管理	242
AUT リソースの概要	243
Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法	243
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	246
AUT ホスト・モジュール	247
AUT ホストのフィールド	247
[新規 AUT ホスト] ダイアログ・ボックス	248
[AUT ホストの詳細] ダイアログ・ボックス	249
AUT プール・モジュール	250
[リンクされたホスト] ページ	251
[AUT ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス	252
AUT プールのフィールド	253
[新規 AUT ホストプール] ダイアログ・ボックス	253
[AUT ホストプール詳細] ダイアログ・ボックス	254
AUT リソース・モジュールのメニューとボタン	255
第15章: プロジェクト管理	258
ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法	259
第16章: PC サーバ	261
PC サーバの概要	262
Performance Center サーバを管理する方法	262
Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース	263
PC サーバ・モジュール・ウィンドウ	264
PC サーバ・モジュールのメニューとボタン	265
PC サーバ・モジュールのフィールド	267
[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックス	268
[新規 PC サーバ] ダイアログ・ボックス	269
[プロセス] ページ	270
[サーバのステータスの確認] ページ	271
第17章: CDA サーバ	273
CDA サーバの概要	274
CDA サーバを管理する方法	274
CDA サーバのユーザ・インタフェース	275
CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ	276
CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン	276
CDA サーバ・モジュールのフィールド	278
[新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックス	278
[CDA サーバ詳細] ダイアログ・ボックス	279

第18章: Lab Service	281
HP ALM Lab Service の概要	282
HP ALM Lab Service のインストール	282
HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール	288
HP ALM Lab Service の使用	289
自動ログイン	291
HP ALM Lab Service Agent	292
フィードバックをお送りください	296

第1章: ラボ管理の概略

HP ALM ラボ管理では、ALM サーバ側テストで使用するリソースを管理します。

ALM テストでは、さまざまな実行モードでテストを実行できます。ALM エディションまたは Performance Center のユーザは、機能テスト・セットまたはパフォーマンス・テスト・セットにアクセスし、リモート・テストング・ホストでテストの即時実行またはスケジュール実行を行うことができます。ALM では、ビルドのデプロイメントとテストをエンドツーエンドで実行し、ラボ管理では、ALM のサーバ側テスト機能のインフラストラクチャを構成するテスト・リソースを管理します。

ラボ管理は、次のモジュールで構成されています。

ラボ設定

リソースを監視、保守、ALM プロジェクトに割り当てる方法を管理します。このグループには次のモジュールが含まれます。

プロジェクト設定	各 ALM プロジェクトの設定を管理します。ホスト数の上限とホスト・プールの割り当てを、プロジェクトごとに設定します。
メンテナンス・タスク	主要なシステム・コンポーネントで発生した障害を検出および修復するタスクを監視します。

クラウド設定

ALM でクラウド・テストング・ホストのプロビジョニングに使用するクラウド・アカウントとホスト・テンプレートを追加します。

クラウド・アカウント	外部クラウド・アカウントを ALM に追加します。
ホスト・テンプレート	クラウド・ホストのプロビジョニングに使用するテンプレートを作成および変更します。

ラボ・リソース

サーバ側テストで使用できるテストング・ホストとプールを作成および定義します。

ホスト	ALM がサーバ側テストで使用するテストング・ホストを作成および変更します。
プール	テストング・ホストのプールを作成および変更します。ホスト・プールは、ALM プロジェクトに割り当てられます。
場所	テストング・ホストに割り当て可能な場所を定義します。
タイムスロット	ホスト上で行う手動メンテナンスのスケジュールリングと予約を行います。

Performance Center

Performance Center に関連するリソース、設定、テスト結果データを管理します。

PC テスト実行	すべてのプロジェクトについて、Performance Center テスト実行の結果を表示します。
使用状況レポート	Performance Center サイト・ユーザとリソースの使用状況を分析します。
システムのヘルス	システムの稼働状態を追跡および管理します。
PC ライセンス	Performance Center と Performance Center のホスト・ライセンスを管理します。
MI Listener	MI Listener を作成および変更します。これにより、ファイアウォールを介してパフォーマンス・テストを実行可能になります。
診断	診断モジュールを統合することによって、複雑なテスト対象アプリケーションのパフォーマンスを監視および分析します。
パッチ	アプリケーション・パッチをアップロードします。これにより、Performance Center サーバとホストにパッチをインストールできるようになります。
AUT ホスト	テスト対象アプリケーション (AUT) コンポーネントをホストするマシンを作成および変更します。
AUT ホスト・プール	AUT ホストのプールを作成および変更します。

サーバ

パフォーマンス・テストとテストのデプロイメントで使用するサーバを作成および構成します。

PC サーバ	Performance Center サーバを作成し、パフォーマンス・テストでの使用方法を管理します。
CDA サーバ	HP Continuous Delivery Automation (CDA) サーバを作成および変更します。これによって ALM は、サーバ側テストの環境を、クラウドを使って動的にデプロイできるようになります。

第2章: ラボ管理の管理

本章の内容

- ラボ管理 の管理の概要 14
- ラボ管理の管理者の作成方法 14
- ラボ管理の管理の使用方法 14
- ラボ管理管理のユーザ・インタフェース 17

ラボ管理の管理の概要

ホストやホスト・プールの作成や保守などの管理タスクを実行するラボ管理ユーザには、管理者権限を割り当てる必要があります。

ラボ管理ユーザの定義や管理者の役割の割り当ては、ALM サイト管理で行います。ラボ管理の管理者ユーザを作成する方法の詳細については、「[ラボ管理の管理者の作成方法](#)」(14ページ)を参照してください。

関連タスクの詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

ラボ管理の管理者の作成方法

このタスクでは、ラボ管理とサイト管理で、すべてのプロジェクト管理タスクを担当する、ラボ管理の管理者ユーザを作成する方法について説明します。

注:

- このタスクは、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)のタスクの前提条件になります。
- このタスクはサイト管理で実行されます。サイト管理へのログインと使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理の管理者ユーザを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「サイト管理」にログインします。
2. [サイトのユーザ] タブで、新しいユーザを作成します。
3. [ラボ管理] タブで、[ラボ管理ユーザ] タブを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[ラボ管理\] タブ](#)」(18ページ)を参照してください。
4. 手順2で作成したユーザを追加し、新しいユーザに対して[プロジェクト管理者] オプションを選択します。

ラボ管理の管理の使用方法

本項では、ラボ管理 管理者が実行できるタスクの一覧を示します。

一部のタスクは、Performance Center ライセンスのあるプロジェクトのみで実行できます。

- 「[前提条件](#)」(15ページ)
- 「[Performance Center の初期設定の実行](#)」(15ページ)
- 「[Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義](#)」(15ページ)
- 「[ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守](#)」(15ページ)
- 「[パフォーマンス・テストの実行の表示と管理](#)」(15ページ)
- 「[Performance Center 使用状況レポートの表示](#)」(15ページ)
- 「[アプリケーション・パッチのアップロード](#)」(16ページ)

- [「Performance Center サーバの管理」](#) (16ページ)
- [「Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理」](#) (16ページ)
- [「Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータの管理」](#) (16ページ)
- [「システムのヘルスの維持」](#) (16ページ)
- [「Performance Center システム・ユーザの変更」](#) (16ページ)
- [「通信セキュリティ・パスフレーズの更新」](#) (16ページ)
- [「セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新」](#) (16ページ)
- [「Performance Center の一般設定の設定」](#) (17ページ)

前提条件

これらのいずれかのタスクを実行するには、ラボ管理 管理者である必要があります。ラボ管理の管理者を作成する方法の詳細については、[「ラボ管理の管理者の作成方法」](#) (14ページ)を参照してください。

Performance Center の初期設定の実行

Performance Center コンポーネントのインストール直後に、関連するコンポーネントの設定ツールが開き、初期設定の入力が求められます。この設定をスキップした場合、Performance Center の使用を開始する前に、手動で設定を行う必要があります。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義

サイト管理でプロジェクトを作成し、ラボ管理のプロジェクト設定モジュールでプロジェクトの制限やその他の設定を定義します。詳細については、[「プロジェクトを作成する方法」](#) (23ページ)を参照してください。

ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守

ホスト、ホスト・プール、ホストの場所の管理は、ラボ・リソース・モジュールで行います。詳細については、[「テスト・ホストの管理方法」](#) (106ページ)を参照してください。

ホスト上でメンテナンス・タスク (バッチのインストール、ホストの再起動など) の実行を計画している場合、これらのホストをタイムスロットに確保することをお勧めします。これで、ホストをメンテナンスに確実に利用できるようになります。詳細については、[「タイムスロットの予約方法」](#) (116ページ)を参照してください。

パフォーマンス・テストの実行の表示と管理

システムのすべてのラボ管理からのテストの実行は、テスト実行モジュールで表示、管理できます。詳細については、[「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」](#) (157ページ)を参照してください。

Performance Center 使用状況レポートの表示

Performance Center 使用状況レポートには、Performance Center サイト・ユーザの全体的な分析、

リソース使用状況、同時実行リソース使用状況とライセンスによる上限の比較、タイムスロット使用状況、期間と実行別のリソース使用状況に関する情報が表示されます。詳細については、「[使用状況レポートを作成する方法](#)」(165ページ)を参照してください。

これらのレポートを PDF 形式と Excel 形式でエクスポートすることもできます。詳細については、「[レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法](#)」(166ページ)を参照してください。

アプリケーション・パッチのアップロード

アプリケーション・パッチを Performance Center のサーバとホストにインストールする前に、パッチをシステムにアップロードする必要があります。詳細については、「[パッチの ALM へのアップロード方法](#)」(236ページ)を参照してください。

Performance Center サーバの管理

Performance Center サーバの管理は、ラボ管理の PC サーバ・モジュールから行います。詳細については、「[Performance Center サーバを管理する方法](#)」(262ページ)を参照してください。

Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理

Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理は、ラボ管理のライセンス・モジュールから行います。詳細については、「[PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ](#)」(206ページ)を参照してください。

Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータの管理

診断モジュールを ALM と統合すると、テスト対象の複雑なアプリケーションのパフォーマンスを監視、分析できます。診断モジュールの設定の詳細については、「[診断管理](#)」(218ページ)を参照してください。

システムのヘルスの維持

システムのヘルスの追跡と維持は、システムのヘルス・モジュールから行います。詳細については、「[システムのヘルスの概要](#)」(199ページ)を参照してください。

Performance Center システム・ユーザの変更

Performance Center のサーバとホスト上の Performance Center システム・ユーザを変更するには、Performance Center サーバ上にインストールされているシステム ID ユーティリティを使用します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

通信セキュリティ・パスフレーズの更新

Performance Center のサーバとホスト上の通信セキュリティ・パスフレーズを更新するには、Performance Center サーバ上にインストールされているシステム ID ユーティリティを使用します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新

最初に、Performance Center ホストまたはスタンドアロン Load Generator にローカルにインストー

ルされているホスト・セキュリティ・セットアップ・ユーティリティを使用して、各ホストまたは Load Generator 上でセキュリティ保護された通信設定を定義します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

すべてのホストと Load Generator で同時にこれらの設定を更新するには、Performance Center サーバにインストールされている Host Security Manager を使用できます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center の一般設定の設定

Performance Center の一般設定は、ラボ管理で管理します。マストヘッドで、 をクリックして [Performance Center 一般設定] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[一般設定\] ダイアログ・ボックス」\(19ページ\)](#)を参照してください。

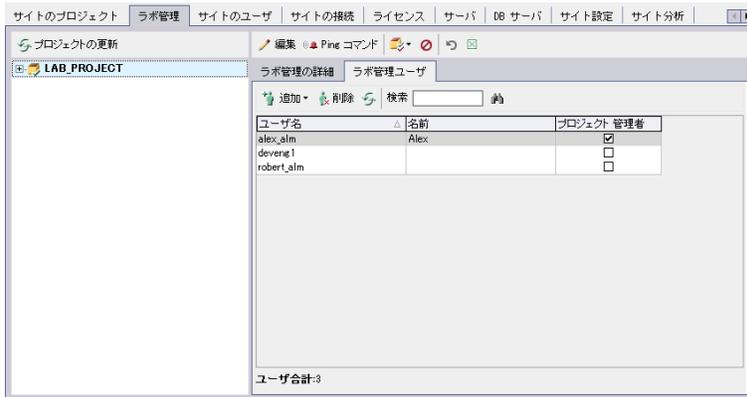
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[ラボ管理\] タブ](#) 18
- [\[一般設定\] ダイアログ・ボックス](#) 19

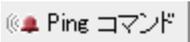
[ラボ管理] タブ

サイト管理の [ラボ管理] タブを使用すると、LAB_PROJECT プロジェクトの詳細を管理し、ラボ管理管理タスクを担当するラボ管理ユーザを定義できます。



アクセス方法	「サイト管理」の [ラボ管理] タブをクリックします。
関連タスク	「ラボ管理の管理者の作成方法」 (14ページ)
参照情報	「ラボ管理の管理の概要」 (14ページ)

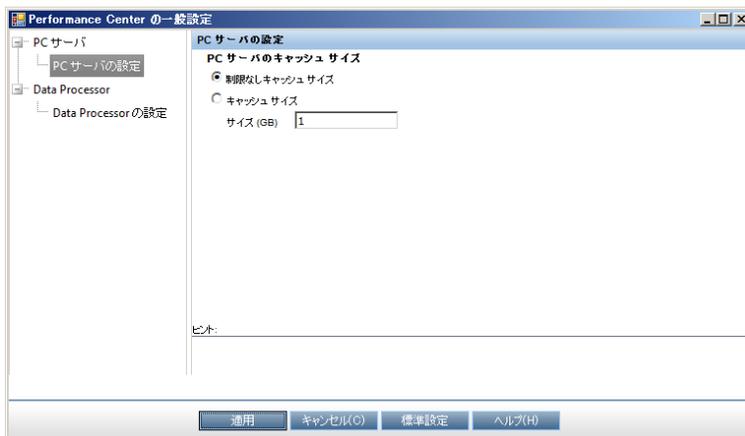
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
 編集	接続文字列の編集 ：ラボ管理の接続文字列を編集します。接続文字列の編集の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
 Ping コマンド	プロジェクトに Ping コマンドを適用 ：プロジェクト・データベースがサイト管理からアクセスできるかどうかをチェックします。
	プロジェクトのメンテナンス ：プロジェクトを検証、修復、アップグレードできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
	プロジェクトのアクティブ化/非アクティブ化 ：LAB_PROJECT を非アクティブ化すると、ユーザはラボ管理にログインできなくなります。非アクティブにすると、プロジェクトに現在接続されているすべてのユーザが、強制的にログアウトされます。LAB_PROJECT がサーバから削除されるわけではありません。 また、ユーザは LAB_PROJECT にリンクされているプロジェクトに接続できず、現在接続されているユーザは切断されます。
	ラボ・プロジェクトの復元 ：LAB_PROJECT へのアクセスを復元し、サイト管理の [ラボ管理] タブに追加します。LAB_PROJECT を復元した場合、復元した LAB_PROJECT で作成したラボ管理プロジェクトのみ使用できます。 復元プロセスの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
	<p>ラボ・プロジェクトの削除：サイト管理の [ラボ管理] タブから LAB_PROJECT を削除します。この操作で LAB_PROJECT がサーバから削除されることはありません。LAB_PROJECT は、必要に応じて元に戻せます。プロジェクトがまだアクティブな場合は、非アクティブにするように求めるメッセージが表示されます。</p> <p>LAB_PROJECT を削除すると、関連付けられているすべてのラボ管理プロジェクトが非アクティブ化されます。これらのプロジェクトを有効にするには、該当するバージョンの LAB_PROJECT を復元する以外に方法はありません。</p>
【ラボ管理の詳細】タブ	<p>ラボ管理を使用するための LAB_PROJECT の詳細を表示、編集できます。プロジェクトの詳細の表示と編集の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
【ラボ管理ユーザ】タブ	<p>ラボ管理 管理を担当するユーザを割り当てることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>

[一般設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、Performance Center の一般設定を定義できます。



アクセス方法	<p>ラボ管理の ALM マストヘッドで、 をクリックして [Performance Center の一般設定] を選択します。</p>
重要な情報	<p>ここで定義した設定は、Performance Center システムの一般設定となります。</p>
関連タスク	<p>「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)</p>
参照情報	<p>「ラボ管理の管理の概要」(14ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
【PC サーバ】 > 【PC サーバの設定】 ページ	<p>Performance Center サーバの次のキャッシュ設定を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 制限なしキャッシュ・サイズ：Performance Center サーバのキャッシュ・

UI 要素	説明
	<p>サイズが無制限になり、キャッシュはクリアされません。</p> <ul style="list-style-type: none">• キャッシュ・サイズ : Performance Center サーバのキャッシュ・サイズ(ギガバイト単位)。 標準設定値 : 1GB
【Data Processor】 > 【Data Processor の設定】 ページ	<p>Data Processor の次の設定を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Data Processor のタイムスロットの最小長 (分) : Data Processor のタイムスロットに割り当てる必要がある最小時間 (分)。 標準設定値 : 1分• 保留中の Data Processor タスクのタイムアウト (分) : データ処理タスクが保留中のままの状態を維持できる時間。 標準設定値 : 30分
適用	定義した設定を保存します。
標準設定	Performance Center サーバおよび Data Processor の標準設定を復元します。

第3章: プロジェクト設定

本章の内容

- プロジェクトの設定の概要22
- プロジェクトを作成する方法23
- プロジェクト設定のユーザ・インタフェース25

プロジェクトの設定の概要

プロジェクト設定モジュールを使用すると、プロジェクト設定の次のような項目を表示、変更できます。

- 一般的なプロジェクトの詳細
- パフォーマンス・テストのターゲットとしての IP アドレスの使用
- プロジェクトと使用状況への VUD 仮想ユーザの割り当て
- プロジェクトに対するタイムスロットの設定
- プロジェクトに対する Controller の設定

ターゲット IP アドレスの使用方法の詳細については、「[ターゲット IP アドレスの使用](#)」(22ページ)を参照してください。

ターゲット IP アドレスの使用

ターゲット IP アドレスは、指定されたネットワーク上のすべてのホストのアドレスが共通のプレフィックスを共有するように割り当てられます。共通のプレフィックスで IP アドレスのネットワーク部分を定義し、残りでホスト部分 (ローカル部分とも呼ばれる) を定義します。

このコンテキストでのネットワークという用語は、1つまたは複数の物理ネットワークにまたがる論理ネットワークを指します。IP アドレスのネットワーク部分によってサイトが識別され、ローカル部分によってそのサイトの1つのホストが識別されます。

サブネット・マスクの使用

サブネット・アドレス指定を使用しているサイトは、各ネットワークに32ビットのサブネット・マスクを指定する必要があります。サブネット・マスクの各ビットは、ネットワークで IP アドレスの対応するビットがネットワーク・アドレスの一部として扱われる場合、1に設定され、IP アドレスの対応するビットがホスト ID として扱われる場合、0に設定されます。

たとえば、次のサブネット・マスクを考えてみましょう。

```
11111111 11111111 00000000 00000000
```

(10進数形式では255.255.0.0)。このサブネット・マスクでは、最初の2つのオクテットでネットワークが識別され、最後の2つのオクテットでそのネットワークのホストが識別されます。

個々の IP アドレスの定義時に追加する、サブネット・マスク 255.255.255.255 (2進数形式では11111111 11111111 11111111 11111111) では、サブネット・マスクが存在しないかのように、IP アドレスの4つのオクテットすべてでネットワークとホストが識別されます。実際には、NULL がターゲット・パフォーマンス・テストに対する正確な IP アドレスとして使用されます。

プロジェクトを作成する方法

このタスクでは、プロジェクトを作成する方法について説明します。サイト管理でプロジェクトを作成し、ラボ管理でプロジェクトの設定を定義します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。
- **製品の機能紹介ムービー**: パフォーマンス・テスト・プロジェクトの作成方法を例示するムービーを表示するには、ALM のメイン・ウィンドウで、**[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「[サイト管理へのログイン](#)」(23ページ)
- 「[プロジェクト・ドメインの作成 - オプション](#)」(23ページ)
- 「[プロジェクト管理者ユーザの作成](#)」(23ページ)
- 「[新規プロジェクトの作成](#)」(24ページ)
- 「[その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て - オプション](#)」(24ページ)
- 「[プロジェクトの設定の定義](#)」(24ページ)
- 「[プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ](#)」(24ページ)

1. サイト管理へのログイン

Web ブラウザを開き、次の形式で ALM の URL を入力します。

http://<ALM 名> [<ポート番号>] /qcbn

HP Application Lifecycle Management ウィンドウで、**[サイト管理]** をクリックします。

サイト管理者のユーザ名とパスワードを入力し、**[ログイン]** をクリックします。

2. プロジェクト・ドメインの作成 - オプション

[ドメインの作成] ボタンをクリックし、新しいドメインの名前を入力して、**[OK]** をクリックします。

3. プロジェクト管理者ユーザの作成

- a. **[サイトのユーザ]** タブを選択し、**[ユーザの新規作成]** ボタンをクリックします。**[ユーザの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- b. プロジェクト管理者ユーザの詳細を入力し、**[OK]** をクリックします。
- c. ユーザを選択し、**[パスワード]** をクリックして、パスワードを入力します。**[OK]** をクリックします。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

4. 新規プロジェクトの作成

- a. [サイトのプロジェクト] タブをクリックし、プロジェクトを作成するドメインを選択します。
- b. [プロジェクトの作成] ボタンをクリックし、プロジェクトを作成する手順を実行します。必要な場合、次の操作を実行します。
 - 上記で作成したプロジェクト管理者ユーザを追加します。
 - まだ有効になっていない場合には、**ALM ラボ拡張**を有効化します。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

5. その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て - オプション

その他のプロジェクト管理者を追加するには、次の手順を実行します。

- a. [サイトのプロジェクト] タブをクリックします。
- b. 左側の [プロジェクト] リストで、作成したプロジェクトを選択します。
- c. 右の表示枠の [プロジェクト ユーザ] タブをクリックします。
- d. 別のユーザを追加し、[プロジェクト管理者] を選択します。

6. プロジェクトの設定の定義

プロジェクトは標準設定で作成されますが、必要に応じて変更できます。ラボ管理で、次のようにプロジェクトの設定を定義します。

- a. 管理者のユーザ名とパスワードを使用して、ラボ管理にログインします。
- b. ラボ管理サイドバーの [ラボ設定] で、[プロジェクト設定] を選択します。
- c. 少なくとも次の設定を定義します。**ホスト数の上限、仮想ユーザ数の上限、同時実行数の上限。**

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[プロジェクト設定の詳細\] ダイアログ・ボックス](#)」(30ページ)を参照してください。

注: プロジェクト管理者は、ALM 内のプロジェクトのプロジェクト設定を表示し、いくつかのプロジェクト設定を変更できます。ALM 内のプロジェクト設定にアクセスするには、ALM マストヘッドで、 をクリックし、[ラボ設定] を選択します。

7. プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ

この手順は、プロジェクト管理者が実行します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定のユーザ・インタ フェース

本項の内容

- [プロジェクト設定モジュール](#) 26
- [プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン](#) 27
- [プロジェクト設定モジュールのフィールド](#) 29
- [\[プロジェクト設定の詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 30
- [\[Performance Center Controller のオプション\] ダイアログ・ボックス](#) 35

プロジェクト設定モジュール

このモジュールを使用すると、すべてのプロジェクトとその設定を表示、管理できます。

プロジェクト設定 編集 表示 お気に入りに追加

フィルタ定義なし

プロジェクト	プール	AUT プール	仮想ユーザ数の...	VUD 数の上限	同時実行数の...
another_project	General		100	0	1
a_test	General		10000	0	2
a_1	General		1000	10	3
PC	General	PC default AUT pool	1000	2	3
sql	General		0	0	0
vpool	V_pool		1000	20	10
VC_PC1	General		1000	0	10
AUTOMATION_MIGRATION_PROJ	General		0	0	0
PC1	General		1000	0	10

PC VUD トランザクション 履歴

フィルタ プロジェクトの一覧の ID[0357d9c4-e298-4842-905f-9798b532c6d] ソート基準 発生日 [Descending] VUD トランザクション ID [Descending]

発生日	責任者のユーザ名	アクション	VUD 数	更新された使用中の VUD	更新された保留中の VUD	更新されたプロジェクトの上限	VU
13/07/2010 14:4	antons	Deallocated	100			0	1005
13/07/2010 14:4	antons	Allocated	100			100	1005

アクセス方法	サイドバーの [ラボ設定] で、 [プロジェクト設定] を選択します。
重要な情報	このモジュールによって、ALM 内のすべてのプロジェクトのリストが表示されます。 あるいは、特定のプロジェクト内からプロジェクト設定にアクセスできます。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」 (23ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」 (22ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<プロジェクト設定モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト設定モジュールのフィールド：フィールドの定義については、 「プロジェクト設定モジュールのフィールド」 (29ページ) を参照してください。 プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、 「プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン」 (27ページ) を参照してください。 ALM メイン・メニューとサイドバー： [ツール] メニュー、 [ヘルプ] メニュー、サイドバーの詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。
<プロジェクト設定のグリッド>	ALM 内のプロジェクトのリストとそのプロジェクト設定が表示されます。
[PC VUD トランザクション]	各プロジェクト内の PC VUD トランザクションが表示されます。詳細については、 「[プロ

UI 要素	説明
クシヨ	プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックス」(30ページ)を参照してください。
【履歴】タブ	現在選択されているプロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン

プロジェクト設定モジュールを使用すると、プロジェクト設定を表示、管理できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> サイドバーの [ラボ設定] で、[プロジェクト設定] を選択します。 プロジェクト管理者: ALM のマストヘッドで、 をクリックして [Performance Center ラボ設定] を選択します。
重要な情報	プロジェクト管理者の場合、ALM で現在のプロジェクト設定を表示できます。一部の設定を変更することもできます。

プロジェクト設定モジュールのメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入り	お気に入り	[追加 お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	[プロジェクト設定] と <右クリック・メニュー>	選択したプロジェクトをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。プロジェクト自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、プロジェクト・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
エクスポート	[プロジェクト設定] と <右クリック・メニュー>	<p>[グリッドデータのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのプロジェクト設定をテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてエクスポート: グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。
検索 	表示	[検索] ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでプロジェクト設定を検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
プロジェクト設定に移動	プロジェクト設定	【プロジェクト設定に移動】ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のプロジェクト設定レコードを検索できます。
グリッド・フィルタ	【表示】と<右クリック・メニュー>	【フィルタ】ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	【表示】と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。
お気に入りの整理	お気に入り	【整理 お気に入り】ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロジェクト設定の詳細 	【プロジェクト設定】と<右クリック・メニュー>	【プロジェクト設定の詳細】ダイアログ・ボックスが開き、選択したプロジェクトの詳細を表示、編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	【編集】と<右クリック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに【置換】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	【カラムの選択】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 プロジェクト設定のフィールドの詳細については、「 プロジェクト設定モジュールのフィールド 」(29ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のプロジェクト設定に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	【編集】と<右クリック・メニュー>	【選択項目の更新】ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定モジュールのフィールド

本項では、プロジェクト設定モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
AUT プール	プロジェクトの AUT ホスト・プール。
ビルド検証スイートの自動延長時間(分)	初期タイムスロットが経過した時点で、ビルド検証スイートのタイムスロットを自動延長するときの分数。タイムスロットを延長するには、そのタイムスロットで [タイムスロットを自動的に拡張] を有効にし、テスト・リソースを十分に確保しておく必要があります。
CDA ドメイン	CDA サーバのドメイン。
CDA サーバ	CDA サーバの名前。
同時実行数の上限	プロジェクト内で許可される同時テスト実行の最大数。
Diagnostics サーバ	プロジェクトに定義されている Diagnostics サーバ。
ドメイン名	プロジェクトが作成されたドメイン。
機能テストの自動延長時間(分)	初期タイムスロットが経過した時点で、機能テストのタイムスロットを自動延長するときの分数。タイムスロットを延長するには、そのタイムスロットで [タイムスロットを自動的に拡張] を有効にし、テスト・リソースを十分に確保しておく必要があります。
ホスト数の上限	タイムスロットに予約するホストの合計数 (Controller + Load Generator) は、この上限を超えることはできません。
ID	プロジェクトの ID。
タイムスロットの自動延長の最大回数	BVS または機能テストで設定されている初期タイムスロットが経過した後、タイムスロットを自動延長できる回数の最大値。
プール	プロジェクトのホスト・プール。
プロジェクト	プロジェクトの名前。
消費済み VUD 数	プロジェクトによって消費されている VUD の数。
VUD 数の上限	プロジェクトで利用できる VUD の最大数。
VuGen 作業モード	VuGen からスクリプトをアップロードするために使用するモード。 <ul style="list-style-type: none">• 【Runtime Files】モード：スクリプトを正しく再生するのに必要なファイルのみアップロードします。• 【User Defined】モード：サムネイル画像を含む利用可能なすべてのファイルをアップロードします。
仮想ユーザ数の上限	プロジェクトで一度に実行できる仮想ユーザの最大数。すべてのプロジェクトの同時実行パフォーマンス・テストで使用される合計数は、この上限を超えることはできません。

[プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、プロジェクトの設定を行うことができます。

アクセス方法	<p>ラボ管理の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの [ラボ設定] で、[プロジェクト設定] を選択します。 2. グリッド内のプロジェクトを右クリックし、[プロジェクト設定の詳細] を選択します。 <p>ALM の場合：</p> <p>ALM マストヘッドで、 をクリックして [Performance Center ラボ設定] を選択します。</p>
重要な情報	<p>[Controller のオプション] ページは、特定のプロジェクトにログインした場合にのみ利用できます。ラボ管理では、Controller のオプションを設定できません。</p>
関連タスク	<p>「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)</p>
参照情報	<p>「プロジェクトの設定の概要」(22ページ)</p>

共通要素

次に、共通ユーザ・インタフェース要素について説明します。

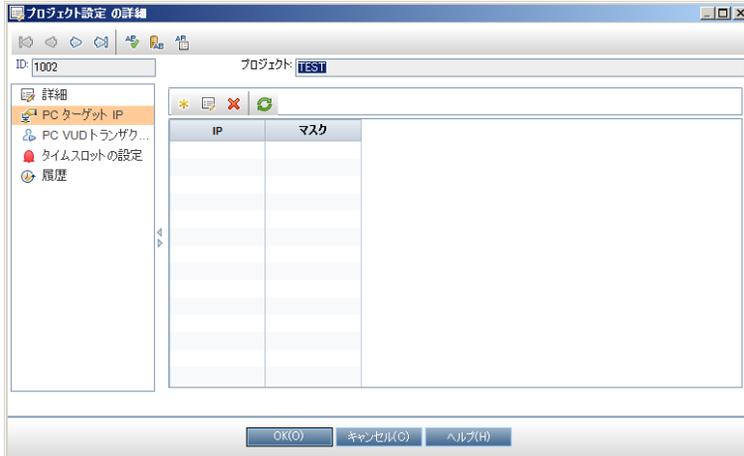
UI 要素	説明
	<p>保存： 詳細を保存します。</p>
	<p>最初の/前の/次の/最後のエンティティ： プロジェクトのリストの間を移動できます。 利用可能な場所： ラボ管理のみ。</p>
	<p>スペル・チェック： 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>類語辞典： 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。</p>
	<p>スペル・オプション： スペル・チェックの方法を設定できます。</p>
	<p>フィールド検索： 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。</p>
プロジェクト	<p>プロジェクトの名前。</p>

【詳細】 ページ

このページには、選択したプロジェクトの一般的な詳細が表示されます。詳細については、「[プロジェクト設定モジュールのフィールド](#)」(29ページ)を参照してください。

【PC ターゲット IP】 ページ

このページを使用すると、パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。



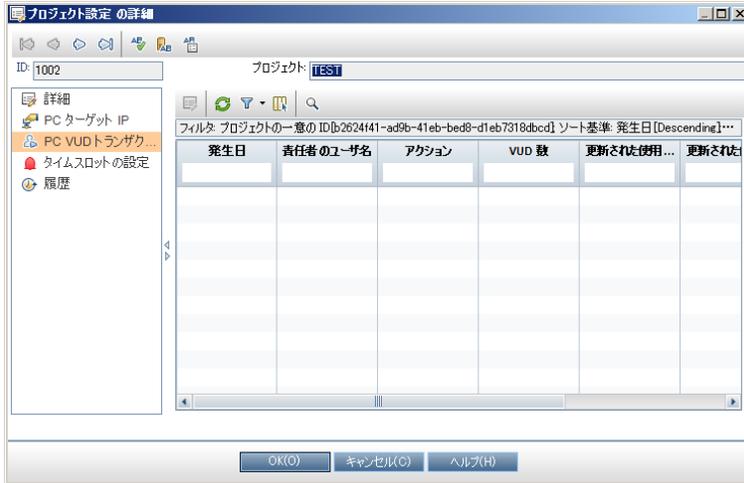
重要な情報	ターゲット IP を定義できるのは、Performance Center host のみで、スタンドアロン Load Generator では定義できません。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」 (23ページ)
参照情報	「ターゲット IP アドレスの使用」 (22ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規: [新規ターゲット IP] ダイアログ・ボックスが開き、パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。
	編集: [ターゲット IP 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したターゲット IP の詳細を表示、編集できます。
	削除: 選択したターゲット IP を削除できます。
	更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
IP	ターゲット IP アドレス。
マスク	各ネットワークの 32 ビットのサブネット・マスク。

【PC VUD トランザクション】 ページ

このページを使用すると、プロジェクト内の PC VUD トランザクションを追跡できます。



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アクション	実行する VUD アクション。可能なアクションの詳細については、 「VUD のアクション」 (33 ページ) を参照してください。
使用中の実行 ID	VUD を現在実行しているテスト実行の ID。
所有者実行 ID	VUD を最初に発行したテスト実行の ID。
発生日	トランザクションが発生した日付。
責任者のユーザ名	トランザクションを担当するユーザまたは自動化されたシステム・プロセス。
トークンの一意の ID	同じトランザクションに属するすべてのアクションを識別します。 注: VUD を使用する 1 つの通常の実行で、発行済み、保留中、期限切れの 3 つのアクションがあります。これらの各アクションには、異なるトランザクション ID が設定されますが、トークン ID は同じです。
更新された使用中の VUD	トランザクションの結果実行中の VUD の現在の数。
更新された保留中の VUD	トランザクションの結果保留中の状態にある VUD の現在の数。
更新されたプロジェクトの上限	トランザクションの結果によるプロジェクトの VUD の上限。
VUD 数	アクションに関わる VUD の数。
VUD トランザクション ID	アクション ID。

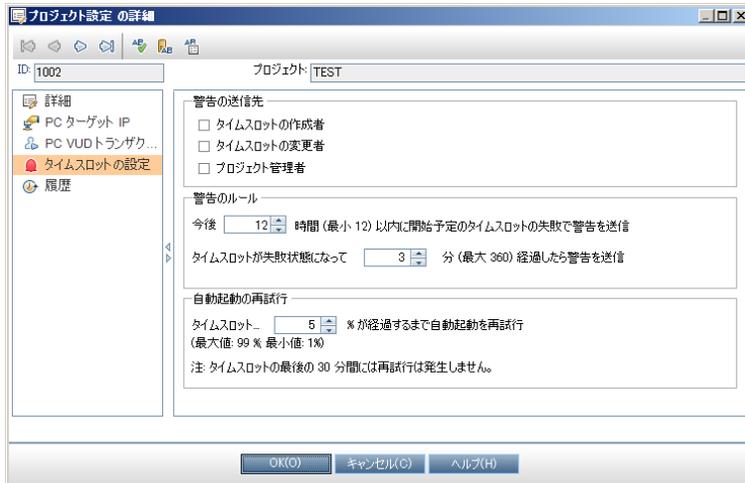
VUD のアクション

次の表に、可能な VUD アクションの一覧を示します。

UI 要素	説明
割り当て済み	管理者によってプロジェクトの VUD 数の上限に追加された VUD 数。
割り当て解除済み	管理者によってプロジェクトの VUD 数の上限から削除された VUD 数。
期限切れ	24 時間の有効期間終了後にライセンスから削除される VUD 数。 注: 24 時間を超えるパフォーマンス・テストに関わる VUD は、期限が切れても完了するまで実行し続けます。
発行済み	パフォーマンス・テストに追加される VUD 数。 注: <ul style="list-style-type: none">パフォーマンス・テストに関わるすべての VUD は、実行が開始されていたかどうかに関わらず、テストの開始時点から発行されているものと見なされます。発行済みの VUD 数によって、プロジェクトの VUD 数の上限は減ります。未使用のすべての VUD は、テストの完了時点でプロジェクトの VUD 数の上限に返されます。
保留中	テスト実行は完了したが、24 時間の有効期間が終了していないため、今後さらに利用できる VUD 数。
返却済み	発行済みで、テストで未使用の VUD 数。これらの VUD は、プロジェクトの VUD 数の上限に返され、後日再発行される可能性があります。
再使用済み	保留中の状態の VUD から差し引かれる実行中の VUD 数。 注: ALM Performance Center は、新しい VUD を発行する前に、保留中の状態の VUD を再利用します。たとえば、 100 個の VUD を含むパフォーマンス・テストを定義するとします。ここで、現在のプロジェクトの上限は 200 で、 25 個の VUD が現在保留中の状態です。ALM Performance Center は、この場合最初に 25 個の保留中の VUD を再利用し、ライセンスからは 75 個のみ発行します。新しい上限は 125 個になります。

【タイムスロットの設定】 ページ

このページを使用すると、タイムスロットの設定を行うことができます。



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
警告の送信先	<p>タイムスロット警告を受信する必要があるユーザ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイムスロットの作成者 : タイムスロットを予約したユーザ。 ・ タイムスロットの変更者 : タイムスロットを最後に変更したユーザ。 ・ プロジェクト管理者 : タイムスロットが予約されたプロジェクトの管理者。
警告のルール	<p>タイムスロット警告を送信する条件 (両方の条件を保持する必要があります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後 <XX> 時間以内に開始予定のタイムスロットの失敗で警告を送信 : タイムスロット開始予定の XX 時間以内に警告を送信します。 標準設定値 : 72 時間 最小値 : 12 時間 ・ タイムスロットが失敗状態になって <XX> 分経過したら警告を送信 : タイムスロットが XX 分間無効になったら警告を送信します。 標準設定値 : 30 分 最大値 : 360 分 (6 時間)

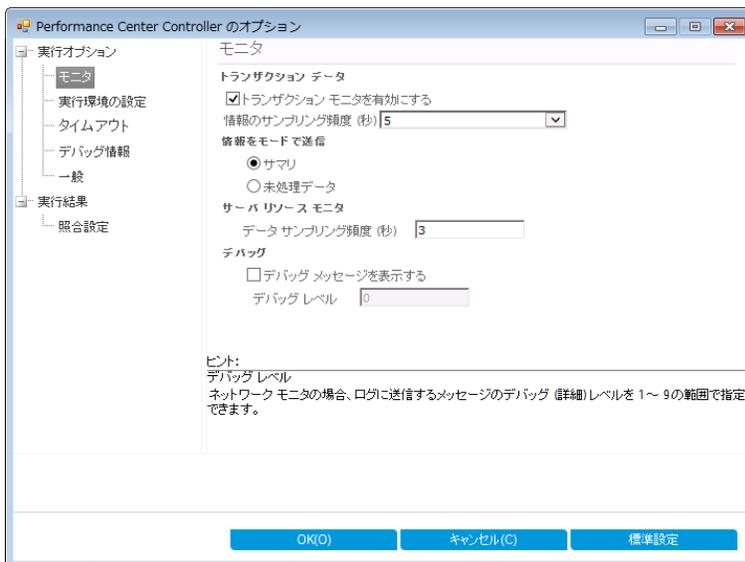
UI 要素	説明
自動起動の再試行	<p>タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストの自動起動が予定されているが、実行を開始しない場合、システムは正常に実行されるまで、テストの自動起動を試行し続けます。</p> <p>【自動起動の再試行】 オプションでは、システムがテストの自動起動の試行を停止する必要があります。いずれの場合でも、タイムスロットの残りが30分以内になると、再試行は停止されます。</p> <p>標準設定値 : 50%, つまり、タイムスロットの半分が経過すると、システムは再試行を停止します。</p> <p>最大値 : 99%, 最小値 : 1%</p> <p>注: システムは、最大3回パフォーマンス・テストの再起動を試みます。</p>

履歴ページ

このページには、プロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[Performance Center Controller のオプション] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、Performance Center プロジェクトの Controller のグローバル・オプションを設定できます。



アクセス方法

ALM マストヘッドで、 をクリックして **[Performance Center Controller のオプション]** を選択します。

	<p>注: このページにアクセスできるのは、ALM プロジェクト自身からのみで、ラボ管理からはアクセスできません。</p>
重要な情報	<p>Controller は、パフォーマンス・テストのマネージャです。Controller は、スクリプト、その実行時の設定、使用する Load Generator のリストを受け取ります。Controller は、実行するスクリプト、スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数、仮想ユーザの実行の開始時点を含む指示を Load Generator に発行します。</p> <p>パフォーマンス・テスト中に、Controller はオンライン監視情報を表示します。テスト実行の終了時に、Controller は Analysis 用のデータを照合します。</p> <p>パフォーマンス・テストを実行する前に、プロジェクト内のすべてのパフォーマンス・テストに対して Load Generator と仮想ユーザのオプションを設定できます。標準設定ではほとんどの環境に対応できますが、設定を変更してテストの動作をカスタマイズできます。</p> <p>これらの設定は、プロジェクトの今後のすべてのテスト実行に適用され、通常、一度だけ設定する必要があります。これらの設定は、パフォーマンス・テストのすべての Load Generator にグローバルに適用されます。</p>
関連タスク	<p>「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)</p>
参照情報	<p>「プロジェクトの設定の概要」(22ページ)</p>

【実行オプション】 > 【モニタ】

トランザクション・モニタをアクティブにし、トランザクション・データの動作を設定し、オンライン・モニタのデータ・サンプリング頻度、デバッグ、周波数設定を設定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
トランザクション・データ	<p>トランザクション、データ・ポイント、および Web リソースの各オンライン・グラフ用のデータの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> トランザクション・モニタを有効にする: オンライン仮想ユーザ・トランザクション・モニタを有効にして、テスト実行の開始時にトランザクションの監視を開始するには、このオプションを選択します。 <p>情報のサンプリング頻度 (秒) <->: オンライン・モニタがデータをサンプリングして、トランザクション、データ・ポイント、Web リソースの各オンライン・グラフを作成する頻度 (秒単位) を選択します。</p> <p>頻度が高いほど、ネットワーク・トラフィックが少なくなります。データは定義された頻度の期間で平均化され、ただ1つの値が Controller に送信されます。</p> <p>標準設定値: 5 秒</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さなテストでは、頻度 1 を使用してください。 大きなテストでは、頻度 3 ~ 5 を使用してください。 <p>注: テスト実行中にこれらの設定を変更できません。モニタを非アクティブ化するか、頻度を変更する前に、テスト実行を停止する必要があります。</p>

UI 要素	説明
情報をモードで送信	<p>データを Controller に返信する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サマリ: トランザクション・データのサマリを Controller に返信します。 • 未処理データ: トランザクション・データをすべて未処理形式で Controller に返信します。未処理データを送信すると、データを処理する必要がないため、時間を節約できます。 <p>注: [未処理データ] を選択した場合、Controller に転送されるデータ量によって、より多くのネットワーク・トラフィックが発生する可能性があります。転送速度が重要な場合は、[サマリ] を選択してください。</p>
サーバ・リソース・モニタ	<p>サーバ・リソース・モニタの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データ・サンプリング頻度: 連続して行われるデータ・サンプリングの間の時間 (秒) です。標準設定では、オンライン・モニタは 3 秒の間隔でデータをサンプリングします。サンプリング頻度を大きくすると、データの監視頻度が減ります。この設定はすべてのグラフに適用されます。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ここで設定したサンプリング頻度は、その後アクティブにするすべてのサーバ・モニタに適用されます。すでにアクティブにされているサーバ・モニタには適用されません。新しいサンプリング頻度をアクティブになっているサーバ・モニタに適用するには、パフォーマンス・テストを保存してから再度開きます。 • 各タイプのモニタには、異なる最小サンプリング頻度が設定されています。標準設定のサンプリング頻度またはここで設定されている頻度がモニタの最小サンプリング頻度より小さい場合、モニタはその最小サンプリング頻度でデータをサンプリングします。たとえば、Oracle モニタの最小サンプリング頻度は 10 秒です。ここでデータ・サンプリング頻度が 10 秒未満に設定されている場合、Oracle モニタは 10 秒の間隔でデータを監視し続けます。
デバッグ	<ul style="list-style-type: none"> • デバッグ・メッセージを表示する: オンライン・モニタはデバッグ機能を提供します。デバッグ・メッセージを出力ウィンドウに表示するには、このオプションを選択します。 • デバッグ・レベル: ネットワーク・モニタの場合、ログに送信するメッセージのデバッグ (詳細) レベルを 1 ~ 9 の範囲で指定できます。

【実行オプション】 > 【実行環境の設定】

仮想ユーザ・クォータ、仮想ユーザの停止時、およびランダム・シーケンス・シードに関連するテストの実行環境の設定を指定して、システムに負荷がかかりすぎるのを防止し、仮想ユーザが実行を停止する方法を制御できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
仮想ユーザ・クォータ	<p>仮想ユーザ・クォータは、システムに負荷がかかりすぎるのを防止し、すべての Load Generator の仮想ユーザに適用されます。</p> <p>すべての Load Generator で同時に初期化できる仮想ユーザ数: 一度に初期化できる仮想ユーザ数を制限します (初期化コマンドの送信時)。</p>

UI 要素	説明
	標準設定値 : 999
仮想ユーザの停止時	<p>テスト実行を手動で停止時に仮想ユーザが実行を停止する方法を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 停止前に現在の反復終了まで待機する : (標準設定オプション) 停止前に仮想ユーザが実行中の反復を完了します。仮想ユーザは 【徐々に終了】 ステータスに移行し、段階的にテスト実行を終了します。 停止前に現在のアクション終了まで待機する : 停止前に仮想ユーザが実行中のアクションを完了します。仮想ユーザは 【徐々に終了】 ステータスに移行し、段階的にテスト実行を終了します。 直ちに停止する : 仮想ユーザは直ちに実行を停止して、 【終了中】 ステータスに移行し、直ちにテスト実行を終了します。
ファイル・タイプ・パラメータのランダム・アドバンス・モード	<ul style="list-style-type: none"> シード付きのランダム・シーケンスを使用する : ランダム・シーケンスのシード数を設定できます。テストの実行中に問題が発生して、同じシーケンスのランダム値を使用してテストを繰り返す場合、このオプションを選択します。 シードを使用する<#> : 各シード値は、テストの実行に使用されるランダム値の1つのシーケンスを表します。このシード値を使用するときは、常に同じシーケンスの値がテスト内の仮想ユーザに割り当てられます。 <p>この設定は、データ・ファイルから値を割り当てるために Random メソッドを使用しているパラメータ化された仮想ユーザ・スクリプトに適用されます。記録された思考遅延時間の乱数率 (『HP Virtual User Generator ユーザーズ・ガイド』の [実行環境の設定] ダイアログ・ボックスの情報を参照) にも影響します。</p>

【実行オプション】 > 【タイムアウト】

Performance Center のさまざまなコマンドのタイムアウトを設定できます。Controller からコマンドが発行されたら、コマンドを実行するための Load Generator または仮想ユーザの最大時間を設定できます。時間制限内にコマンドが完了しない場合、Controller はエラー・メッセージを発行します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
コマンド・タイムアウト (秒)	<p>タイムアウトをチェックする : 次に示すように、Load Generator と仮想ユーザのタイムアウトをチェックできます。</p> <p>注: このオプションを選択しない場合、ALM は、Load Generator による接続と切断、および初期化、仮想ユーザの開始、期間、仮想ユーザの停止の各アクションが実行されるのを無期限に待機します。</p>
Load Generator	<p>Load Generator のタイムアウト制限 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 接続操作 (秒) : 任意の Load Generator に接続するまでに待機する時間 (秒) です。この時間内に接続が成功しない場合、Load Generator のステータスは 【失敗】 になります。 標準設定の接続タイムアウト : 30 秒 切断操作 (秒) : 任意の Load Generator から切断するまで待機する時間です。Load Generator がこの時間内に切断しない場合、Load Generator のステータスは 【失敗】 になります。

UI 要素	説明
	標準設定の切断タイムアウト：120 秒
仮想ユーザ	<p>仮想ユーザのタイムアウト制限：</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期化ステージ (秒)：初期化アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限：180 秒 実行ステージ (秒)：仮想ユーザの開始アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限：120 秒 一時停止ステージ (秒)：期間アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限：120 秒 停止ステージ (秒)：仮想ユーザの停止アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限：120 秒 <p>注: 計算では、アクティブな仮想ユーザ数とそのタイムアウト値への影響が考慮されます。たとえば、1000 個の仮想ユーザが初期化を試行している場合、10 個の仮想ユーザより時間がかかりかかります。アクティブな仮想ユーザ数に基づいて、指定したタイムアウト値に内部値が追加されるためです。</p>

【実行オプション】 > 【デバッグ情報】

テスト実行中にトレースする情報のタイプを選択できます。ここでの選択に応じて、トレース・ファイルが作成され、デバッグ目的での情報の収集に使用されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
次のトレースを有効にする	<p>発生しているパフォーマンス・テストの問題に関連するトレース・フラグ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般：テスト実行中に一般トレースを実行します。 ファイル転送：テスト実行中にファイルの転送に関わる問題をトレースします。 受信：テスト実行中に受信をトレースします。 送信：テスト実行中に送信をトレースします。 <p>注: Performance Center エージェントと Controller は、仮想ユーザに送信されるパラメータ・ファイル、出力コンパイル・ファイル、設定ファイルなどの情報を収集するいくつかの一時ファイルを作成します。Performance Center エージェントのファイルは、エージェント・マシンの TMP または TEMP ディレクトリの brr フォルダに保存されます。Controller のファイルは、Controller マシンの TMP または TEMP ディレクトリの lrr フォルダに保存されます。テスト実行の最後に、これらのファイルはすべて自動的に削除されます。</p>

【実行オプション】 > 【一般】

IP スプーフィングを有効にした場合に、マルチ IP アドレスを割り当てるモードを選択できます。また、パフォーマンス・テスト・デザイナー・ウィンドウに詳細な警告を表示することもできます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
マルチ IP アドレス・モード	<p>Controller は、次のいずれかの方法で IP アドレスを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• プロセスごとに IP アドレスを割り当てる：プロセスごとに IP アドレスを割り当てます。• スレッドごとに IP アドレスを割り当てる：スレッドごとに IP アドレスを割り当てるため、テスト実行における IP アドレスの範囲がより多様になります。 <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none">• Web 仮想ユーザには、プロセスごとに IP アドレスを割り当てる必要があります。• WinSock 仮想ユーザの IP アドレスは、スレッドまたはプロセスごとに割り当てることができます。
詳細警告	パフォーマンス・テスト・デザイナー・ウィンドウの [メッセージ] 表示枠に詳細な警告を表示します。

【実行結果】 > 【照合設定】

実行結果の照合に関連する動作を指定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
出力メッセージ・データベース	<ul style="list-style-type: none">• 次の値より小さい場合に output.mdb を RawResults.zip に追加：照合プロセスは、サイズが指定した RawResults.zip ファイルのサイズより小さい場合にのみ、output.mdb を RawResults.zip に追加します。• output.mdb を RawResults.zip から常に除外：照合プロセスは、output.mdb を RawResults.zip から常に除外します。
タイムアウト	<ul style="list-style-type: none">• 照合タイムアウト (分)：照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。• 診断の照合タイムアウト (分)：結果と診断データの照合時に、照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。

第4章: メンテナンス・タスク

本章の内容

- メンテナンス・タスクの概要42
- メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース43

メンテナンス・タスクの概要

サーバ側のテストを ALM で実行するには、ラボ・システムが起動し、正常に動作している必要があります。自動メンテナンスのスケジュールを指定しておくことで、主要なシステム・コンポーネントを定期的に監視し、システム障害を検出することができます。システムのステータス・チェックには、メンテナンス・タスク・モジュールを使用します。

次の表では、メンテナンス・タスクについて説明します。

UI 要素	説明
Check Host Task	ホストのインストールを確認し、ホストのステータスを [稼働中] または [非稼働] に更新します。 標準設定の頻度：24 時間ごと
Data Processor Task	次のアクションのいずれかのデータ処理キューを設定、更新します。テスト実行の分析、SLA の再計算、またはテスト実行のトレンド・レポートへの追加。 標準設定の頻度：1 分ごと
Handle Non Polling Functional Hosts	登録済みのすべての機能テスト・ホストを対象に、[最終ポーリング時刻] フィールドをチェックします。長期間アクティブになっていないテスト・ホストを検出すると、ステータスを [アイドル] または [非稼働] に変更します。
OFW Status Update Task	ファイアウォール越しのホストの実際のステータス ([稼働中] または [非稼働]) を更新します。 標準設定の頻度：15 分ごと
Orphan Run Task	アクティブなタイムスロット中と外で孤立したテスト実行を識別します。 標準設定の頻度：15 分ごと
Resource Recovery Task	[非稼働] 状態の Controller と Load Generator で、定義済みの検証テストを実行します。ホストがテストに成功した場合、ステータスが [稼働中] に変わります。 <ul style="list-style-type: none">• Controller の検証テスト：OTA 接続、実行機能、利用可能なディスク領域をテストします。• Load Generator の検証テスト：エージェントへの接続をテストします。 タスクのパラメータは次のガイドライン以内である必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• MIN_APPLICATION_DIR_DISK_SPACE：10 ~ 1000• CHECK_LG_TIMEOUT：1 ~ 15• MAX_RETRIES：1 ~ 1000 標準設定の頻度：15 分ごと 注 : ファイアウォール越しの Load Generator の場合、これは OFW ステータス更新タスクによって実行されます (上記を参照)。
Result Cleaning Task	次のインスタンスで、Controller または Load Generator からのテスト実行結果をクリーニングします。 <ul style="list-style-type: none">• 結果がすでに照合済みの場合。• 結果が照合されていない古いパフォーマンス・テストがある場合。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none">パフォーマンス・テストが削除済みの場合。 RESULT_EXPIRY_DAYS タスク・パラメータには, 1 ~ 1000 の値を指定します。 標準設定の頻度 : 6 時間ごと
Synchronize Lab and SA times	ラボ管理とサイト管理者の時刻の差異を検出し, DATACONST テーブルの SA_LAB_TIME_DIFF_MILLIS パラメータに設定します。

メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ](#) 44
- [メンテナンス・タスクのフィールド](#) 45
- [メンテナンス・タスクのメニューとボタン](#) 45
- [\[メンテナンスタスクの詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 46

メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには、システムによって実行されたメンテナンス・タスクに関する情報が表示されま
す。

名前	反復実行(分)	説明	最終実行時刻
Resource Recovery Task	15	リソースの回復タスク	2013/05/02 19:02:11
Result Cleaning Task	360	結果のクリーニング タスク	2013/05/02 15:46:51
FW Status Update Task	15	ファイアウォール越しのホスト ステータスの更新タスク	2013/05/02 19:02:11
Orphan Run Task	15	ヘルス チェックのテスト実行	2013/05/02 19:02:11
Data Processor Task	1	保留中の Data Processor タスクの処理	2013/05/02 19:03:11
Check Host Task	15	ホストの安全検査タスクのテスト	2013/05/02 19:02:11
Handle Non-Polling Functional Hosts	5	非ポーリング機能ホストを非稼働およびアイドルにします	2013/05/02 19:02:11
Synchronize Lab and SA Times	5	このジョブは、ラボと SA の間の時間差を DATACONST テーブルのバ...	2013/05/02 19:03:11
Handle Stale Execution	5	クライアントによってしばらく更新されていない期限切れの実行項目を...	
Orphan FAL Reports Task	60	レポートの構成要素になっていないレポート項目を削除します。	2013/05/02 18:48:10

アクセス方法	サイドバーの 「ラボ設定」 で、 「メンテナンス タスク」 を選択します。
参照情報	「メンテナンス・タスクの概要」 (42ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
< 「メンテナンス タスク」 タブの UI 要素 >	<ul style="list-style-type: none"> ● メンテナンス・タスクのフィールド : フィールドの定義については、 「メンテナンス・タスクのフィールド」 (45ページ) を参照してください。 ● メンテナンス・タスクのメニューとボタン : コマンドとボタンの説明については、 「メンテナンス・タスクのメニューとボタン」 (45ページ) を参照してください。 ● ALM メイン・メニューとサイドバー : 「ツール」 メニュー、 「ヘルプ」 メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
< メンテナンス・タスクのグリッド >	メンテナンス・タスクのリストが表示されます。詳細については、 「メンテナンス・タスクの概要」 (42ページ) を参照してください。
「パラメータ」 タブ	選択したメンテナンス・タスクのパラメータ情報が表示されます。 テキスト・ボックス内で右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
「説明」 タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。

メンテナンス・タスクのフィールド

【メンテナンスタスク】タブでは、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	メンテナンス・タスクの説明。
ID	メンテナンス・タスクのID。
最終実行時刻	メンテナンス・タスクを最後に実行した時刻。
名前	メンテナンス・タスクの名前。メンテナンス・タスクのタイプのリストについては、 「メンテナンス・タスクの概要」(42ページ) を参照してください。
反復実行(分)	メンテナンス・タスクの頻度。

メンテナンス・タスクのメニューとボタン

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	場所	説明
URL のコピー 	【メンテナンスタスク】と<右クリック・メニュー>	選択したメンテナンス・タスクをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。タスク自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、タスク・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
エクスポート	【メンテナンスタスク】と<右クリック・メニュー>	<p>【グリッドデータのエクスポート】ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのタスクをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッドの選択したタスクをエクスポートします。
検索 	表示	【検索】ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでタスクを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
メンテナンス・タスクに移動 	メンテナンス・タスク	【メンテナンスタスクに移動】ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のタスクを検索できます。現在のフィルタで利用可能なタスクにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	【表示】と<右クリック・メニュー>	【フィルタ】ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application

UI 要素	場所	説明
		Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	〔表示〕と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある〔情報パネル〕を表示/非表示にします。
メンテナンス・タスクの詳細 	〔メンテナンスタスク〕と<右クリック・メニュー>	〔メンテナンスタスクの詳細〕ダイアログ・ボックスが開き、タスクの詳細を表示、編集できます。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	〔編集〕と<右クリック・メニュー>	グリッドに〔置換〕ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	〔カラムの選択〕ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 システムのヘルスのフィールドの詳細については、「 メンテナンス・タスクのフィールド 」(45ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のタスクに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	〔編集〕と<右クリック・メニュー>	〔選択項目の更新〕ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

〔メンテナンスタスクの詳細〕ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したメンテナンス・タスクの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの〔ラボ設定〕で、〔メンテナンス タスク〕を選択します。 2. グリッドでメンテナンス・タスクを選択し、〔メンテナンス タスクの詳細〕ボタン  をクリックします。
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ」(44ページ) • 「メンテナンス・タスクのフィールド」(45ページ) • 「メンテナンス・タスクの概要」(42ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
【詳細】 タブ	現在選択されているメンテナンス・タスクの詳細が表示されます。詳細については、 「メンテナンス・タスクのフィールド」 (45ページ) を参照してください。
【説明】 タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。
【パラメータ】 タブ	パラメータ, パラメータの値と説明をグリッドに表示します。詳細については、 「メンテナンス・タスクの概要」 (42ページ) を参照してください。

第5章: クラウド設定

本章の内容

• クラウド・ホストの概要	49
• クラウド・ホストの設定方法	50
• クラウドの初期設定	51
• クラウド・アカウント	62
• ホスト・テンプレート	76
• ホストのプロビジョニング	88
• クラウド・リソースの監視	98

クラウド・ホストの概要

ソフトウェア・アプリケーションのテストには、大量のリソースが必要になることがあります。特にパフォーマンス・テストには、負荷を生成する複数のホストとコントローラを使用し、テスト結果の照合機能などを備えた大規模なラボ環境が必要になることがあります。したがって、必要なホスト数がテスト・ラボの限界を超えてしまうケースや、社内ではラボ環境を保守しないことを選択するケースも考えられます。いずれの場合も、Amazon EC2, Microsoft Azure, HP Helion Public Cloud などのクラウド・プロバイダを利用することによって、それぞれのニーズに合ったテスト・ホストをオンデマンドで使用できるようになります。このようなクラウド・リソースを最大限に活用することを目的に、ALM ではクラウド・アカウントとの統合に対応しています。

注:

- HP ALM がサポートできるのは、Performance Center Load Generator のプロビジョニングのみです。
- HP ALM と統合できるのは、HP Helion Public Cloud, Microsoft Azure, Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。
- HP ALM は、他の HP Helion クラウド・サービス(プライベート, 管理など)とは統合できません。
- クラウドベースの Load Generator は、外部 AUT のテストに最適です。

クラウド・ホストを使用するメリット

ALM でクラウド・ホストを使用することには、次のようなメリットがあります。

- 必要なときだけにテスト・ホストをプロビジョニングできる。
- クラウド・プロビジョニングをプロジェクト単位で管理できる。各プロジェクトに、必要なクラウド・リソースのみへのアクセスを割り当てることができる。
- QA テスト担当者は、事前に承認されたテスト・ホストのプロビジョニングを行うことができるので、クラウド・アカウントに直接アクセスする必要がない。
- プロジェクトにクレジットを割り当てることによって、クラウド・ホストの使用を調整できる。
- クラウド・ホストの使用状況レポートに基づいて、クラウド・リソースの消費を管理できる。

ALM でのクラウド・ホストの使用

ALM でクラウド・ホストを使用するには、次の作業が必要です。



段階	説明	詳細情報
クラウドの初期設定	クラウド・プロバイダにアカウントを設定し、クラウド・プロバイダの資格情報を取得します。次に、ALMからクラウド・プロバイダへの通信を設定し、クラウドベースのLoad Generatorとの通信に使用するネットワーク設定を行います。	「クラウドの初期設定の概要」(52ページ)
クラウド・アカウントの追加	クラウド・プロバイダにアカウントを設定したら、ALMでもクラウド・アカウントを設定します。ALMでクラウド・アカウントを設定する際、クラウド・プロバイダの資格情報の入力、プロジェクトとアカウントの関連付け、プロビジョニングするホストが消費可能なクラウド・クレジットの総数の指定を行います。	「クラウド・アカウントの概要」(63ページ)
ホスト・テンプレートの定義	ホスト・テンプレートは、プロビジョニング関連の情報(インスタンス・タイプ、領域、ハードウェア仕様、ソフトウェア・イメージなど)の定義に使用されます。標準設定のホスト・テンプレートを使用する方法と、独自のテンプレートを作成する方法があります。ALMは、選択されたテンプレートの詳細情報を使用してホストをプロビジョニングします。 注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには標準設定テンプレートは使用できません。テンプレートを作成する必要があります。	「ホスト・テンプレートの概要」(77ページ)
クラウド・ホストのプロビジョニング	プロビジョニングとは、クラウド上にマシンを作成する操作をクラウド・プロバイダに要求するプロセスです。マシンの定義には、選択したクラウド・アカウントとホスト・テンプレートが使用されます。マシンの数と場所はユーザが選択できます。また、選択したアカウントのクレジットの残高確認も可能です。	「ホストのプロビジョニングの概要」(89ページ)
リソース使用状況の監視	クラウド・ホストのプロビジョニングが完了したら、クラウド・リソースの使用状況を分析および監視できます。これには、使用状況レポートを作成する方法と、警告と通知を送信する方法があります。	「クラウド・リソースの監視の概要」(99ページ)

ALMでクラウド・ホストを設定する方法の詳細については、「[クラウド・ホストの設定方法](#)」(50ページ)を参照してください。

クラウド・ホストの設定方法

このタスクでは、ALMでのクラウド・ホストの設定方法を説明します。

1. クラウドと通信するための最初のステップを実行します。タスクの詳細については、「[クラウド通信の初期設定](#)」(56ページ)を参照してください。
2. ALMにクラウド・アカウントを追加します。タスクの詳細については、「[クラウド・アカウントを管理する方法](#)」(64ページ)を参照してください。

3. 標準設定のホスト・テンプレートを使用するか、追加のホスト・テンプレートを作成します。Microsoft Azure では、ホスト・テンプレートを作成する必要があります。タスクの詳細については、「[ホスト・テンプレートを管理する方法](#)」(78ページ)を参照してください。
4. クラウド・ホストをプロビジョニングします。タスクの詳細については、「[クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法](#)」(89ページ)を参照してください。
5. クラウド警告を設定し、使用状況レポートを生成して、クラウド・リソースの消費を監視します。タスクの詳細については、「[クラウド警告の構成方法](#)」(99ページ)および「[使用状況レポートを作成する方法](#)」(165ページ)を参照してください。

クラウドの初期設定

本項の内容

- [クラウドの初期設定の概要](#) 52
- [クラウド通信の初期設定](#) 56
- [クラウド・ネットワークの設定方法](#) 57
- [デジタル証明書を作成する方法](#) 58
- [クラウドの初期設定のユーザ・インタフェース](#) 60

クラウドの初期設定の概要

クラウド・プロバイダとの通信の初期設定では、クラウド・プロバイダにアカウントを作成し、クラウド・プロバイダの資格情報を取得する必要があります。次に、ALM からクラウド・プロバイダへの通信を設定し、クラウドベースの Load Generator との通信に使用するネットワーク設定を行います。

クラウド・プロバイダでのアカウント作成

最初に、クラウド・プロバイダ・サービスを使用するためのクラウド・プロバイダ・アカウントを作成する必要があります。クラウドにリソースを格納しアクセスするために、資格情報を次のように指定する必要があります。

- HP Helion : アクセス・キー, 秘密キー, プロジェクト ID, プロジェクト名
- Amazon EC2 : アクセス・キー, 秘密キー, アカウント番号
- Microsoft Azure : サブスクリプション ID, 証明書ファイル

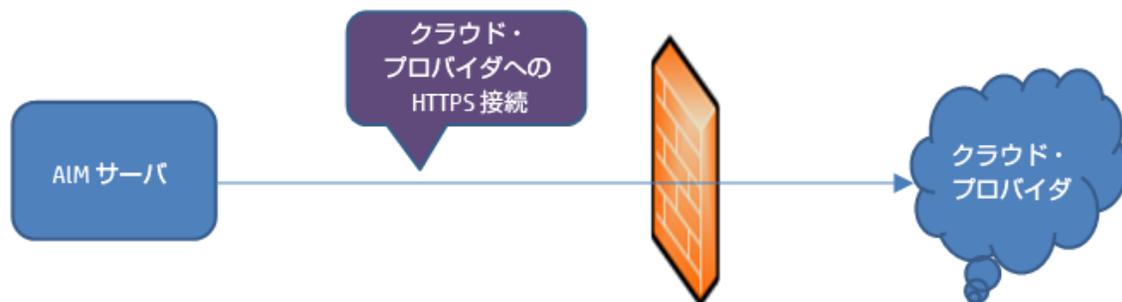
注: HP ALM と統合できるのは、HP Helion, Microsoft Azure, Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。

クラウド・プロバイダ・アカウントの作成に関する詳細は、クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。

クラウド・プロバイダとの通信

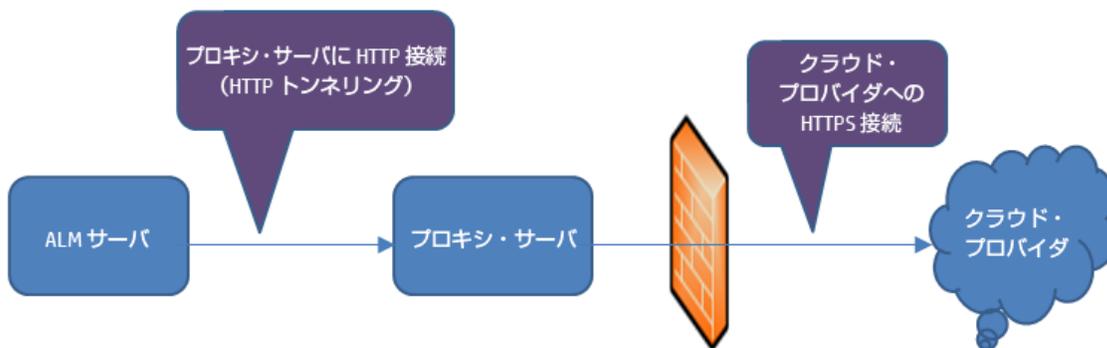
クラウド・プロバイダとの通信では、直接通信とプロキシ経由の通信のいずれかを選択できます。

次の図は、クラウド・プロバイダとの直接通信を示しています。



ALM サーバが通信を開始し、企業ファイアウォールを経由してクラウド・プロバイダに通信します。ポートが開くのは、発信要求のみです。

次の図は、プロキシ・サーバを経由したクラウド・プロバイダとの通信を示しています。



ALM サーバが、HTTP トンネリングを使用して、定義されたプロキシ・サーバとの通信を開始します。プロキシ・サーバは企業ファイアウォールを経由して、発信要求をクラウド・プロバイダに転送します。

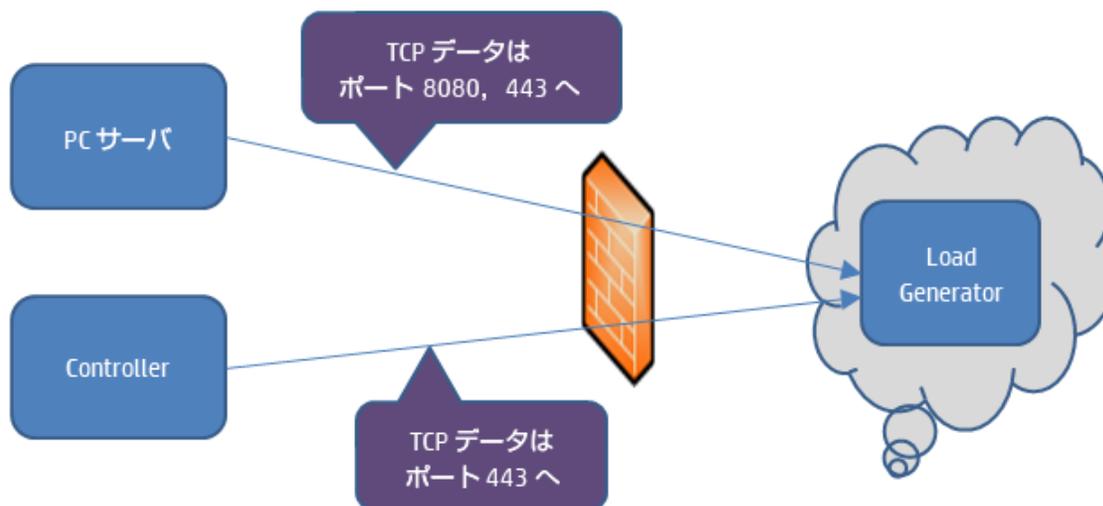
クラウドベースの Load Generator との通信

クラウドベースのホストとの通信では、直接通信とプロキシ経由の通信のいずれかを選択できます。

注:

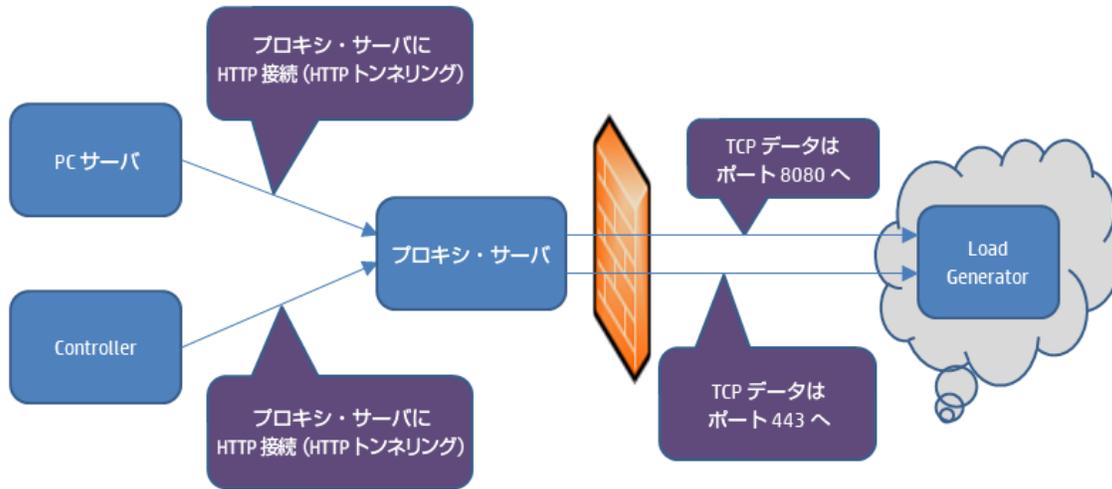
- プロキシ経由の場合は SSL (Secure Socket Layer) が必要です。
- HP ALM がサポートできるのは、Performance Center Load Generator のプロビジョニングのみです。

次の図は、クラウドベースの Load Generator との直接通信を示しています。



Performance Center サーバと Controller が通信を開始し、ファイアウォールを経由してクラウドベースの Load Generator に接続します。データはポート経由で転送され、TCP (Transmission Control Protocol) が使用されます。ポートは発信要求に対して開かれます。ポートは再設定が可能です。

次の図は、プロキシ・サーバを経由したクラウドベースの Load Generator との通信を示しています。



Performance Center サーバと Controller が通信を開始し、定義したプロキシ・サーバに接続します。Performance Center サーバと Controller からプロキシ・サーバへの通信には HTTP トンネルが使用されます。プロキシ・サーバはファイアウォールを経由して、データを TCP ポートからクラウドベース Load Generator に転送します。

注: コントローラとクラウドベース Load Generator との間は SSL がサポートされています。

セキュリティ設定

クラウド・プロバイダに関連するその他のセキュリティ機能。

機能	説明
セキュリティ・グループ	<p>一般的に、ローカル・ネットワーク上のホストへのアクセスはファイアウォールによって制御されますが、クラウド・ホストへのアクセスの制御にはセキュリティ・グループを使用します。セキュリティ・グループでは、使用を許可するプロトコル、クラウド・ホストに対する受信トラフィックと送信トラフィックで開くポートが定義されています。受信トラフィックについては、アクセスを1つまたは複数の IP アドレスに限定することができます。</p> <p>例: クラウド・ホストにはリモート・デスクトップ経由で接続する必要があります。したがって、TCP ポート 3389 (RDP) 経由で受信トラフィックを転送できるようにセキュリティ・グループを設定します。ただし、外部からの不正アクセスを防止するために、会社の IP アドレスへのアクセスのみを許可します。</p> <p>セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダの Web サイトで設定し、領域ごとに個別に作成する必要があります。セキュリティ・グループは必要に応じて作成でき、クラウド・プロバイダが設定した最大数が上限となります。クラウド・ホストのプロビジョニング時にセキュリティ・グループを選択すると、ホストが停止するまでそのセキュリティ・グループが適用されます。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。</p>

機能	説明
<p>キー・ペア</p>	<p>公開イメージから作成されたクラウド・ホストにリモート接続するには、キー・ペアが必要になります。</p> <p>キー・ペアとは、公開キーと秘密キーのペアです。公開キーはクラウド・ホストに保管され、秘密キーはコンピュータまたはネットワーク上にローカルに保管されます。</p> <p>注意: 新しいキー・ペアを作成すると、プロンプトに従って公開キーを保存します。保存先には安全な場所を選択してください。公開キーがないと、ホストにログインできなくなります。</p> <p>秘密キーは、Windows ホストと Linux ホストでは異なる方法で使います。</p> <p>Windows ホスト: Windows ホストへのリモート接続には、管理者パスワードが必要です。秘密キーをアップロードすると、管理者パスワードがクラウド・プロバイダの Web サイトで作成されます。</p> <p>Linux ホスト: Linux ホストへの接続には秘密キーをそのまま使います。</p> <p>キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイトで作成され、領域ごとに個別に作成する必要があります。キー・ペアは、テスト・チームごとに必要に応じて作成でき、クラウド・プロバイダが設定した最大数が上限となります。クラウド・ホストのプロビジョニング時にキー・ペアを選択すると、ホストが停止するまでそのキー・ペアが適用されます。</p> <p>注: カスタム・イメージからホストのプロビジョニングを行う場合、管理者パスワード (Windows マシン) または公開キー (Linux マシン) は、イメージが作成されたコンピュータから取得されます。管理者パスワードまたは秘密キーが必要な場合は、カスタム・イメージの管理担当者に問い合わせてください。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。</p>
<p>エラスティック IP アドレス</p>	<p>このクラウド・プロバイダ機能では、プロビジョニングするホストの静的な IP アドレスを定義できます。ファイアウォールの設定を開く際にエラスティック IP アドレスを使用すると、ホストマシンをプロビジョニングするときに毎回異なる IP アドレスを使用する必要があります。そうするには、ファイアウォール・アクセスを割り当てる IP アドレスの静的なプールを作成し、自分のアカウント専用予約しておきます。この IP アドレスのプールは、明示的に解放するまで、自分のクラウド・アカウントに関連付けられたままになります。</p> <p>注: HP Helion は、エラスティック IP アドレスのみをサポートします。ホストのプロビジョニングに、固定 IP アドレスは使用できません。詳細については、HP Helion Public Cloud Web サイト (http://www.hpcloud.com/) を参照してください。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。</p>
<p>証明書ファイル</p>	<p>証明書は、Windows Azure のセキュリティ機能において重要なコンポーネントです。</p> <p>アプリケーションやサービスのセキュリティ保護では、主にサービス証明書と管理証明書の 2 つを使用します。</p> <p>ALM で使用するサービス証明書として、Personal Information Exchange (.pfx) 形式の Windows Azure サービス証明書が必要です。</p> <p>X.509 (.cer) 形式の Windows Azure 管理証明書を取得し、Azure にアップロードする必要があります。</p>

機能	説明
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。

セキュリティ・グループ、キー・ペア、エラスティック IP アドレス、証明書ファイルの詳細については、クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。

通信の初期設定に関するタスクの詳細については、「[クラウド通信の初期設定](#)」(56ページ)を参照してください。

クラウド通信の初期設定

このタスクでは、クラウドとの通信を設定する上で最初に必要になる作業について説明します。

概要は、「[クラウドの初期設定の概要](#)」(52ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[クラウド・ホストの設定方法](#)」(50ページ)を参照してください。

1. クラウド・プロバイダでのアカウント作成

- a. クラウド・プロバイダ・サービスに登録し、アカウントを作成します。
- b. 次のクラウド証明書を取得します。
 - i. HP Helion : アクセス・キー, 秘密キー, プロジェクト ID, プロジェクト名
 - ii. Amazon EC2 : アクセス・キー, 秘密キー, アカウント番号
 - iii. Microsoft Azure : サブスクリプション ID, 証明書ファイル

注: HP ALM と統合できるのは、HP Helion, Microsoft Azure, Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。

2. ALM サーバからクラウド・プロバイダへのクラウド通信の定義

外側のネットワークとの通信にプロキシ・サーバを使用する場合は、「[クラウド ネットワーク設定](#)」ダイアログ・ボックスでプロキシの設定を定義します。タスクの詳細については、「[クラウド・ネットワークの設定方法](#)」(57ページ)を参照してください。

注: HP Helion では、HP Helion Public Cloud Identity Service がポート 35357 を使用します。このポートは、HPCS での認証が必要です。発信要求のみにポートが開くようにしてください。プロキシがこのポートに対して http 発信要求を転送できるようにしてください。

3. クラウドベースの Load Generator との通信の定義

タスクの詳細については、「[クラウド・ネットワークの設定方法](#)」(57ページ)を参照してください。

4. HP Helion および Amazon EC2 クラウド・アカウント向けに、クラウド・プロバイダ側でのセキュリティ設定の定義。

- a. クラウド・プロバイダ・コンソールから、セキュリティ・グループを作成します。クラウドベース Load Generator との通信用に定義されたポートが開いている必要があります。セキュリティ・グループのルールの詳細については、『HP ALM ラボ管理トラブルシューティング・ガイド』を参照してください。
セキュリティ・グループの詳細については、クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。
- b. キー・ペアを作成します。
- c. エラスティック IP アドレスを使用する場合には、エラスティック IP アドレスを割り当て、発信トラフィックが企業ファイアウォールを通過できるように設定してください。

5. Microsoft Azure クラウド・アカウント用クラウド・プロバイダのセキュリティ設定の定義

- a. JDK の強度を [無制限] に設定してください。適切なバージョンの Java Cryptography Extension を java.sun.com からダウンロードします。local_policy.jar ファイルと、JRE の US_export_policy.jar ファイルを置換します。jar ファイルは標準設定では C:\Program Files\HP\ALM\java\jre\lib\security にあります。
- b. ALM で使用する Personal Information Exchange (.pfx) 形式の Windows Azure サービス証明書を作成します。
- c. X.509 (.cer) 形式の Windows Azure 管理証明書を作成し、Azure にアップロードします。

クラウド・ネットワークの設定方法

本項では、ALM からクラウド・プロバイダへの通信と、クラウドベースの Load Generator との通信に使用するクラウド・ネットワークを設定する方法を説明します。

概要は、『[クラウドの初期設定の概要](#) (52ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、『[クラウド通信の初期設定](#) (56ページ)を参照してください。

1. SSL (Secure Socket Layer) を使用する場合の前提条件

クラウドベースの Load Generator で SSL を有効にするには、証明機関 (CA) とデジタル証明書を作成し、作成したファイルを ALM, Performance Center サーバ, Controller に保管する必要があります。証明書の作成の詳細については、『[デジタル証明書を作成する方法](#) (58ページ)を参照してください。

2. [クラウド ネットワーク設定] ダイアログ・ボックスを開く

ラボ管理 のマストヘッドで、 をクリックして **[クラウド ネットワーク設定]** を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[クラウド ネットワーク設定\] ダイアログ・ボックス](#)」(61ページ)を参照してください。

注: Performance Center サーバが作成されていない場合、**[クラウド ネットワーク設定]** オプションは使用できません。Performance Center サーバの作成の詳細については、「[Performance Center サーバを管理する方法](#)」(262ページ)を参照してください。

3. ALM からクラウド・プロバイダへの通信を有効化

- a. **[プロキシ設定]** で**プロキシ・サーバ**の URL (http[s]://server[:8080] という形式) を入力します。
- b. プロキシ・サーバへの接続権限を持つユーザの**ユーザ名とパスワード**を入力します。

注: HP Helion では、HP Helion Public Cloud Identity Service がポート 35357 を使用します。このポートは、HPCS での認証が必要です。発信要求のみにポートが開くようにしてください。プロキシがこのポートに対して http 発信要求を転送できるようにしてください。

4. クラウドベースの Load Generator との通信を有効化

- a. **[Performance Center 通信設定]** で通信モードを定義します。標準設定では、**[Load Generator との通信にプロキシ サーバを使用]** と **[Load Generator との通信に SSL を使用]** が選択されます。プロキシ経由で通信する場合は SSL が必要です。
- b. **Performance Center エージェント・サービスのポート番号**を入力します。このポートは、Load Generator で仮想ユーザを実行する際に使用します。発信要求に対してポートが開くことを確認してください。
- c. **リモート管理エージェント・サービスのポート番号**を入力します。このポートは、ラボ管理の操作で使用されます。発信要求に対してポートが開くことを確認してください。

デジタル証明書を作成する方法

このタスクでは、証明機関とデジタル証明書を作成する方法を説明します。作成した証明機関とデジタル証明書は、クラウドベースの Load Generator との通信でセキュリティを確保する SSL (Secure Socket Layer) で使用します。

概要は、「[クラウドの初期設定の概要](#)」(52ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[クラウド・ネットワークの設定方法](#)」(57ページ)を参照してください。

1. 証明機関 (CA) の作成

注: ここでは、`gen_ca_cert.exe` ユーティリティで CA を作成する方法を説明します。Linux

プラットフォームの場合は **gen_ca_cert** ユーティリティを使用してください。

CA を作成するには、次の手順を実行します。

- a. **gen_ca_cert** ユーティリティを <LoadRunner ルート・フォルダ>\bin フォルダから実行します。
- b. 次のいずれかのオプションを指定して、**gen_ca_cert** コマンドを実行します。
 - -country_name
 - -organization name
 - -common_name

これにより、ユーティリティを実行したフォルダ内に、CA 証明書 (**cacert.cer**) と CA 秘密キー (**capvk.cer**) の2つのファイルが作成されます。

注: 標準設定では、CA の有効期限は作成時から3年間です。有効期限を変更するには、**-nb_time** (有効期限の開始日) と **-na_time** (有効期限の終了日) をそれぞれ使用してください。

次のサンプル・コマンドを実行すると、現在のフォルダに **ca_igloo_cert.cer** と **ca_igloo_pk.cer** の2ファイルが作成されます。

```
gen_ca_cert - country_name "North Pole" -organization_name "Igloo Makers" -common_name "ICL" -CA_cert_file_name "ca_igloo_cert.cer" - CA_pk_file_name "ca_igloo_pk.cer" -nb_time 10/10/2013 -na_time 11/11/2013
```

- c. 次のいずれかのオプションでCAをインストールします。
 - **-install <証明書ファイル名>** : 既存のCAリストがあれば置換し、指定したCAのみを含むリストを新規作成します。
 - **-install_add <証明書ファイル名>** : 新しいCAを既存のCAリストに追加します。

注: -install オプションと -install_add オプションを指定すると、証明書ファイルのみがインストールされます。秘密キー・ファイルは安全な場所に保管し、証明書の発行時のみに使用するようしてください。

2. デジタル証明書の作成

注: ここでは、**gen_cert.exe** ユーティリティでデジタル証明書を作成する方法を説明します。Linux プラットフォームの場合は **gen_cert** ユーティリティを使用してください。

デジタル証明書を作成するには、次の手順を実行します。

- a. **gen_cert** ユーティリティを <LoadRunner ルート・フォルダ>\bin フォルダから実行します。
- b. 次のいずれかのオプションを指定して、**gen_cert** コマンドを実行します。
 - **-country_name**

- **-organization_name**
- **-organization_unit_name**
- **-eMail**
- **-common_name**

コマンド実行では次の点に注意してください。

- 証明書の作成には、CA 証明書ファイルと CA 秘密キー・ファイルが必要です。標準設定では、このファイルは現在のフォルダに作成され、ファイル名は **cacert.cer** と **capvk.cer** です。ファイル名と場所が異なる場合は、**-CA_cert_file_name** オプションと **-CA_pk_file_name** オプションをそれぞれ使用します。
- 証明書ファイルは、ユーティリティを実行したフォルダ内に作成されます。標準設定のファイル名は **cert.cer** です。

3. ALM, Performance Center, Controller への証明書のコピー

- ALM: cert.cer** と **cacert.cer** を <ALM デプロイメント・ディレクトリ > \repository\sa\DomsInfo\Certificates にコピーします。
- Performance Center サーバ: cert.cer** を <Performance Center サーバ・ディレクトリ > \dat\cert にコピーし、**cacert.cer** を <Performance Center サーバ・ディレクトリ > \dat\cert\Verify にコピーします。
- Controller: cert.cer** を <Performance Center ホスト・ディレクトリ > \dat\cert にコピーし、**cacert.cer** を <Performance Center ホスト・ディレクトリ > \dat\cert\Verify にコピーします。

クラウドの初期設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[クラウドネットワーク設定\] ダイアログ・ボックス](#)61

[クラウド ネットワーク設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ALM とクラウドベースの Load Generator との通信を有効にする設定を行います。この設定は、パフォーマンス・テストの実行で使用されます。

アクセス方法	ラボ管理 のみ： ラボ管理 のマストヘッドで、  をクリックして [クラウド ネットワーク設定] を選択します。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">「クラウド通信の初期設定」(56ページ)「クラウド・ネットワークの設定方法」(57ページ)「デジタル証明書を作成する方法」(58ページ)「クラウド・ホストの設定方法」(50ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none">「クラウドの初期設定の概要」(52ページ)「クラウド・アカウントの概要」(63ページ)

プロキシ設定

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロキシ・サーバ	プロキシ・サーバの URL (http[s]://server[:8080] という形式)。
ユーザ名	プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前 (Domain\username という形式)。
パスワード	プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。

Performance Center 通信設定

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
Load Generator との通信にプロキシ・サーバを使用	上記の [プロキシ設定] セクションで指定したプロキシ情報に基づいて、Load Generator との通信を有効にします。 注: このオプションを有効にすると、[Load Generator との通信に SSL を使用] オプションも有効になります。
Load Generator との通信に SSL を使用	SSL を使用した Load Generator との通信を有効にします。 注: <ul style="list-style-type: none">これは、標準設定の選択です。SSL を使用するには、デジタル証明書を作成する必要があります。証明書は、ALM, Performance Center サーバ, Controller に保管する必要があります。デジタル証明書の

UI 要素	説明
	作成の詳細については、「 デジタル証明書を作成する方法 」(58ページ)を参照してください。
Performance Center エージェント・サービスのポート	Performance Center エージェント・サービスのポート番号。このポートは、Load Generator で仮想ユーザを実行する際に使用します。 注: ポートは、発信要求に対して開く必要があります。 標準設定値: 54345
リモート管理エージェント・サービス・ポート	リモート管理エージェントのポート番号。このポートは、ラボ管理の操作で使用されます。 注: ポートは、発信要求に対して開く必要があります。 標準設定値: 54245

クラウド・アカウント

本項の内容

- [クラウド・アカウントの概要](#) 63
- [クラウド・アカウントを管理する方法](#) 64
- [クラウド・アカウントのユーザ・インターフェース](#) 67

クラウド・アカウントの概要

クラウド・プロバイダにアカウントを設定したら、ALM でもクラウド・アカウントを設定します。ALM でクラウド・アカウントを設定する際、クラウド・プロバイダの資格情報の入力、プロジェクトとアカウントの関連付け、プロビジョニングするホストが消費可能なクラウド・クレジットの総数の指定を行います。

クラウド・アカウントの追加は、ラボ管理 または ALM プロジェクトから実行できます。ラボ管理 から追加したアカウントは公開なので、リンクされているすべてのプロジェクトがアクセスできます。ALM プロジェクトから追加したアカウントは非公開なので、アカウントを作成したプロジェクトのみがアクセスできます。

注: ALM にアカウントを追加するには、既存の HP Helion, Microsoft Azure, または Amazon EC2 アカウントが必要です。

クラウド・クレジット

ALM でクラウド・アカウントをセットアップするときは、効率性を確保しコストを削減するために、仮想的なクラウド・クレジットをプロジェクトに割り当てて、クラウド・プロビジョニングの使用状況を制御できます。各プロジェクトに対して、プロビジョニングしたホストで消費可能なクラウド・クレジットの総数を定義できます。なお、使用され消費されるクレジットが、クラウド・プロバイダに対する実際のコストを表すわけではありません。

定義した数よりクレジット数が少なくなったときに、電子メールで警告を受け取るように設定できます。詳細については、「[クラウド警告の構成方法](#)」(99ページ)を参照してください。また、クラウド・クレジットの消費状況を、使用状況レポートを生成して監視することもできます。詳細については、「[使用状況レポートを作成する方法](#)」(165ページ)を参照してください。

注:

- プロビジョニングされたホストは、プロビジョニングで使用したプロジェクトのクレジットを消費します。
- 各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。
- 使用可能なクレジットがないと、ホストのプロビジョニングは実行できません。クレジットの総数がゼロになると、新しいホストをプロビジョニングすることができなくなります。プロビジョニング済みのホストは、引き続きクレジットを消費します。

クラウド・アカウントを ALM で作成し管理する処理の詳細については、「[クラウド・アカウントを管理する方法](#)」(64ページ)を参照してください。

クラウド・アカウントを管理する方法

本項では、ALM でのクラウド・アカウントの管理方法を説明します。

概要については、「[クラウド・アカウントの概要](#)」(63ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[クラウド・ホストの設定方法](#)」(50ページ)を参照してください。

クラウド・アカウントの追加

このタスクでは、ALM にクラウド・アカウントを追加する方法、およびそのアカウントにプロジェクトをリンクする方法を説明します。

1. 前提条件

ALM にクラウド・アカウントを追加するには、サポートされているクラウド・プロバイダと契約しクラウド・アカウントを取得しておく必要があります。

クラウド・アカウントを準備した後に、クラウド・プロバイダの Web サイトから次の情報を記録する必要があります。

- アカウントのアクセス・キー (HP Helion および Amazon EC2 アカウントのみ)
- アカウントの秘密キー (HP Helion および Amazon EC2 アカウントのみ)
- プロジェクト ID (HP Helion アカウントのみ)
- クラウド・プロジェクト名 (HP Helion アカウントのみ)
- アカウント番号 (Amazon EC2 アカウントのみ)
- サブスクリプション ID (Microsoft Azure アカウントのみ)
- 証明書ファイル (Microsoft Azure アカウントのみ)

2. ALM へのクラウド・アカウントの追加

ALM にクラウド・アカウントを追加するには、次の手順を実行します。

- a. ALM または ラボ管理 で、[\[クラウド設定\]](#) > [\[クラウド アカウント\]](#) に移動します。
- b. [\[新規クラウド アカウント\]](#) ボタン  をクリックします。「[\[新規クラウド アカウント\] ダイアログ・ボックス](#)」(72ページ)が開きます。
- c. クラウド・アカウント情報を入力します。[\[OK\]](#) をクリックすると、ALM にクラウド・アカウントが追加されます。
- d. [\[プロバイダ\]](#) が Microsoft Azure の場合、[\[MS Azure API アクセス証明書\]](#) ダイアログ・ボックスが開きます。

- i. Personal Information Exchange (.pfx) 形式の Microsoft Azure サービス証明書を選択します。
- ii. サービス証明書のパスワードを入力します。
- iii. **[OK]** をクリックします。

注: アカウントの作成処理は、完了するまでに数分かかります。

注: ユーザ・プロジェクトから追加したクラウド・アカウントは公開されておらず、このアカウントを作成したプロジェクトでしか使用できません。ただし、プロジェクトが他のプロジェクトとプールを共有している場合、プロビジョニングされるマシンは、同じプールを共有するすべてのプロジェクトから認識されるようになります。

これで、このクラウド・アカウントからテンプレートを作成し、ホストをプロビジョニングできるようになりました。

3. クラウド・アカウントへのプロジェクトのリンク

ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントからホストをプロビジョニングするのに必要なすべてのプロジェクトは、そのクラウド・アカウントにリンクする必要があります。

ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントにプロジェクトをリンクするには、次の手順を実行します。

- a. ラボ管理 で、**[クラウド設定]** > **[クラウド アカウント]** に移動します。
- b. アカウント・グリッドで、リンクするクラウド・アカウントを選択します。
- c. **[リンクされたプロジェクト]** タブで、**[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]**  をクリックします。「**[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックス**」(74ページ)が開きます。
- d. グリッドからプロジェクトを選択し、**[割り当て]** をクリックします。これにより、選択したプロジェクトがクラウド・アカウントにリンクされます。

これで、リンクされたすべてのプロジェクトは、選択したクラウド・アカウントからクラウド・ホストにプロビジョニングできるようになりました。

注: プロジェクトにリンクできるのは、ラボ管理 で追加したアカウントのみです。ユーザ・プロジェクトから追加したアカウントは、このアカウントを追加したプロジェクトに自動的にリンクされ、他のプロジェクトにはリンクできません。

4. クラウド・アカウントに対するクレジットの合計数の定義

クレジットをラボ管理で定義する場合は、クラウド・アカウントにリストされたプロジェクトごとにクレジットを割り当てます。ALM では、1つのプロジェクトに対してクレジットを定義します。

- **ラボ管理:** **[リンクされたプロジェクト]** タブの **[クレジット残高]** で、アカウントにリストされているプロジェクトごとにクレジット数を定義します。

- **ALM**: **[クラウド設定]** > **[クラウド アカウント]** に移動します。アカウント・グリッドで、クラウド・アカウントを選択します。**[クレジット]** タブで、アカウントに対するクレジット数を定義します。

注:

- ホストをプロビジョニングすると、そのホストをプロビジョニングしたプロジェクトとアカウントのクレジットが消費されます。
- 各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。
- 使用可能なクレジットがないと、ホストのプロビジョニングは実行できません。クレジットの総数がゼロになると、新しいホストをプロビジョニングすることができなくなります。プロビジョニング済みのホストは、引き続きクレジットを消費します。
- 定義した数よりクレジット数が少なくなったときに、電子メールで警告を受け取るように設定できます。詳細については、「[クラウド警告の構成方法](#) (99ページ)を参照してください。また、クラウド・クレジットの消費状況を、使用状況レポートを生成して監視することもできます。詳細については、「[使用状況レポートを作成する方法](#) (165ページ)を参照してください。

クラウド・アカウントの詳細の変更

クラウド・アカウントの詳細を変更するには、次の手順を実行します。

1. クラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
2. **[クラウド設定]** > **[クラウド アカウント]** で、グリッド内のクラウド・アカウントを選択し、**[クラウド アカウントの詳細]** ボタン  をクリックします。「[\[クラウドアカウントの詳細\] ダイアログ・ボックス](#) (73ページ)が開きます。
3. 必要な変更を行い、**[OK]** をクリックします。

クラウド・アカウントの削除

クラウド・アカウントを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除するクラウド・アカウントからプロビジョニングしたすべてのクラウド・ホストを終了します。詳細については、「[クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法](#) (89ページ)を参照してください。
2. 削除するクラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
3. **[クラウド設定]** > **[クラウド アカウント]** で、グリッド内のクラウド・アカウントを選択し、**[削除]** ボタン  をクリックします。クラウド・アカウントと、このクラウド・アカウントを使用するすべてのホスト・テンプレートが削除されます。

注意: クラウド・アカウントを削除すると、このクラウド・アカウントを使用するすべてのホス

ト・テンプレートも削除されます。

注: 削除しようとするクラウド・アカウントで現在プロビジョニングされているクラウド・ホストが存在する場合、そのクラウド・アカウントは削除できません。

クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ](#)68
- [クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン](#)69
- [クラウド・アカウント・モジュールのフィールド](#)71
- [\[新規クラウドアカウント\] ダイアログ・ボックス](#)72
- [\[クラウドアカウントの詳細\] ダイアログ・ボックス](#)73
- [\[クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て\] ダイアログ・ボックス](#)74
- [クラウド・アカウントの \[リンクされたプロジェクト\] ページ](#)75

クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ

クラウド・アカウント・モジュールを使用すると、外部のクラウド・アカウントを ALM に追加できます。

アクセス方法	ラボ管理 および ALM : サイドバーの [クラウド設定] で [クラウド アカウント] をクリックします。
重要な情報	ラボ管理 : ユーザ・プロジェクト内で作成したアカウントは読み取り専用です。これらのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてください。 ALM : 現在のプロジェクト内で作成したアカウントのみを表示できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」 (64ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」 (63ページ), 「クラウド・ホストの概要」 (49ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<クラウド・アカウント・モジュールの共通の UI 要素>	クラウド・アカウント・モジュールのフィールド : フィールドの定義については、 「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」 (71ページ)を参照してください。 クラウド・アカウントのメニューとボタン : コマンドとボタンの説明については、 「クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン」 (69ページ)を参照してください。
<アカウント・グリッド>	ALM に追加したクラウド・アカウントの一覧が表示されます。
【説明】 タブ	選択したクラウド・アカウントについての説明を入力できます。
【リンクされたプロジェクト】 タブ	選択したクラウド・アカウントにリンクされているプロジェクトの一覧が表示されます。またこのタブでは、他のプロジェクトのリンクまたはリンクの解除を行うことができます。ユーザ・プロジェクトがラボ管理 で作成したクラウド・アカウントからホストをプロビジョニングするには、プロジェクトにアカウントをリンクする必要があります。またこのタブには、選択したアカウントで使用できるクレジットの合計数が表示されます。詳細については、 「クラウド・アカウントの [リンクされたプロジェクト] ページ」 (75ページ)を参照してください。 利用可能な場所 : ラボ管理
クレジット	選択したアカウントで使用できるクレジットの合計数が表示されます。 利用可能な場所 : ALM
イベント・ログ	イベント・ログには、クラウド・アカウントを作成する際に発生したイベントが表示され、各イベントの原因と重大度が報告されます。詳細については、 「イベント・ログ」 (135ページ)を参照してください。
【履歴】 タブ	選択したクラウド・アカウントに行った変更が一覧されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン

本項では、クラウド・アカウント・モジュールで利用可能なメニューとボタンを説明します。

重要な情報	<p>ラボ管理：ユーザ・プロジェクト内で作成したアカウントは読み取り専用です。これらのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてください。</p> <p>ALM：現在のプロジェクト内で作成したアカウントのみを表示できます。</p>
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(64ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(63ページ) , 「クラウド・ホストの概要」(49ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
 お気に入りに追加	お気に入り	<p>[追加 お気に入りに] ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りにビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
 クラウド・アカウントの詳細	[クラウドアカウント] と <右クリック・メニュー>	<p>クラウド・アカウントの詳細を表示できるように [クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックス」(73ページ)を参照してください。</p>
 URL のコピー	[クラウドアカウント] と <右クリック・メニュー>	<p>選択したクラウド・アカウントへのリンクをコピーします。クラウド・アカウント自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。このリンクをクリックすると ALM が開き、クラウド・アカウントが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。</p>
 削除	[編集] と <右クリック・メニュー>	<p>選択したクラウド・アカウントを削除します。削除しようとするクラウド・アカウントから現在プロビジョニングされているクラウド・ホストがない場合にかぎり、そのクラウド・アカウントを削除できます。</p>
 エクスポート	[クラウドアカウント] と <右クリック・メニュー>	<p>[すべてのグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスを開き、グリッド内のアカウントを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
 検索	表示	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開き、アカウントを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle</p>

UI 要素	メニュー	説明
		Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・アカウントへの移動 	クラウド・アカウント	[クラウドアカウントに移動] ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のクラウド・アカウントを検索できます。
グリッド・フィルタ	[表示] と <右クリック・メニュー>	グリッドの各カラムにフィルタ・ボックスが表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示] と <右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある [情報パネル] を表示/非表示にします。
新規クラウド・アカウント 	クラウド・アカウント	新しいクラウド・アカウントを追加できるように [新規クラウドアカウント] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「 [新規クラウドアカウント] ダイアログ・ボックス 」(72ページ)を参照してください。
お気に入りの整理 	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
置換	[編集] と <右クリック・メニュー>	[置換] ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	クラウド・アカウント・グリッドにフィルタ処理とソートのオプションを設定できます。 次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • フィルタ/ソートの設定： [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。クラウド・アカウントのフィルタ処理とソートを実行できます。 • フィルタ/ソートのクリア：適用したフィルタまたはソートが解除されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
選択項目の更新	【編集】と<右クリック・メニュー>	【選択項目の更新】ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドの複数のクラウド・アカウントのフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

クラウド・アカウント・モジュールのフィールド

本項では、クラウド・アカウントのフィールドについて説明します。ラボ管理では、プライベート・アカウントのフィールドはすべて読み取り専用です。

フィールド	説明
アクセス・キー	ALM からクラウド・アカウントへの接続で使用します。このキーは、クラウド・アカウント・プロバイダから取得します。 注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
アカウント ID	アカウントの ID。アカウントの追加時に ALM によって自動生成されます。
アカウント番号	Amazon EC2 のアカウント番号。この番号は、クラウド・アカウントからカスタム・イメージにアクセスするときに使用します。 注: 追加したアカウント番号が正しくない場合は、このアカウントに関連するカスタム・イメージにアクセスできなくなります。 利用可能な対象: Amazon EC2 アカウントのみ。
アクティブなホスト	このアカウントから現在プロビジョニングされているホストの数。ホストの表示は、ラボ管理では【ラボ リソース】>【ホスト】、ALM では【ラボ リソース】>【テスト ホスト】を選択します。
クラウド・プロジェクト ID	HP Helion プロジェクト ID 番号。この番号は、クラウド・アカウントからカスタム・イメージにアクセスするときに使用します。 注: 追加した ID 番号が正しくない場合は、このアカウントに関連するカスタム・イメージにアクセスできなくなります。 利用可能な対象: HP Helion アカウントのみ。
作成者	アカウントを作成したユーザ。
クラウド・プロジェクト名	HP Helion プロジェクト名。 利用可能な対象: HP Helion アカウントのみ。
作成されたプロジェクト	クラウド・アカウントが作成されたプロジェクト。
説明	クラウド・アカウントの説明。

フィールド	説明
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
プロバイダ	アカウントのクラウド・プロバイダ。 注: HP ALMと統合できるのは、HP Helion, Microsoft Azure, Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。
秘密キー	クラウド・アカウントへの接続で アクセス・キー に使用するパスワード。このキーは、クラウド・プロバイダから取得します。 注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
サブスクリプション ID	Microsoft Azure クラウド・アカウントのサブスクリプション ID。 利用可能な対象: Microsoft Azure アカウントのみ。

[新規クラウドアカウント] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいクラウド・アカウントを ALM に追加します。

アクセス方法	<p>ラボ管理 および ALM :</p> <ol style="list-style-type: none"> サイドバーの [クラウド設定] で [クラウドアカウント] をクリックします。 [新規クラウドアカウント] ボタン  をクリックするか、[クラウドアカウント] メニューから [新規クラウドアカウント] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ALM にアカウントを追加するには、既存の HP Helion, Microsoft Azure, または Amazon EC2 アカウントが必要です。 フィールド・クラウド・プロジェクト ID は、プロバイダが HP Helion に設定されている場合にのみ表示されます。 クラウド・アカウントは、ラボ管理から追加すると公開アカウントとなり、どのプロジェクトでも使用できるようになります。ユーザ・プロジェクトから追加したクラウド・アカウントは非公開なので、アカウントを作成したプロジェクトのみが使用できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(64ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(63ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドのリセット: ダイアログ・ボックス内のフィールドに入力されているデータをすべて消去します。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。クラウド・アカウントのフィールドの詳細については、「 クラウド・アカウント・モジュールのフィールド 」(71ページ)を参照してください。
説明	クラウド・アカウントの説明を入力します。

[クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したクラウド・アカウントの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	ラボ管理 および ALM : <ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの [クラウド設定] で [クラウドアカウント] をクリックします。 2. グリッドでクラウド・アカウントを右クリックし、 [クラウドアカウントの詳細] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このダイアログ・ボックスは、ラボ管理 と ALM の両方で利用できます。 • ラボ管理 : ユーザ・プロジェクトに追加したクラウド・アカウントは読み取り専用になります。 • ALM : ラボ管理 で作成したアカウントは読み取り専用になります。 • テナント ID はアカウント・プロバイダが HP Helion の場合のみ表示されます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」 (64ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」 (63ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : クラウド・アカウントのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
アカウント ID	アカウントの ID。アカウントの追加時に ALM によって自動生成されます。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
詳細	現在選択されているクラウド・アカウントの詳細が表示されます。使用可能なクラウド・アカウントのフィールドの詳細については、 「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」(71ページ) を参照してください。
クレジット	選択したアカウントの合計クレジットを指定します。 利用可能な場所 : ALM
リンクされたプロジェクト	アカウントにユーザ・プロジェクトをリンクします。ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントにユーザ・プロジェクトからアクセスするには、アカウントをプロジェクトにリンクする必要があります。詳細については、 「クラウド・アカウントの [リンクされたプロジェクト] ページ」(75ページ) を参照してください。 利用可能な場所 : ラボ管理
イベント・ログ	イベント・ログには、クラウド・アカウントを作成する際に発生したイベントが表示され、各イベントの原因と重大度が報告されます。詳細については、 「イベント・ログ」(135ページ) を参照してください。
履歴	現在選択されているクラウド・アカウントで行われた変更の一覧です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、クラウド・アカウントにプロジェクトをリンクします。

アクセス方法	<p>ラボ管理 のみ :</p> <ul style="list-style-type: none"> クラウド・アカウント・モジュールからの場合 : ラボ管理サイドバーの [ラボ設定] にある [クラウド設定] で [クラウドアカウント] を選択します。情報パネルで [リンクされたプロジェクト] を選択し、[クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て] ボタン  をクリックします。 [クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックスからの場合 : ラボ管理サイドバーの [ラボ設定] にある [クラウド設定] で [クラウドアカウント] を選択します。クラウド・アカウントを右クリックし、[クラウドアカウントの詳細] を選択します。[クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックスが開いたら、[リンクされたプロジェクト
---------------	--

	ト)を選択し, [クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て] ボタン  をクリックします。
重要な情報	[クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックスが表示されるのは, ラボ管理のみです。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(64ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(63ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように, グリッドを更新します。
割り当て	選択したプロジェクトをクラウド・アカウントに割り当てます。
<プロジェクト・グリッド>	クラウド・アカウントに割り当て可能なプロジェクトを一覧表示します。
選択済み	クラウド・アカウントに割り当ててるプロジェクトを表示します。

クラウド・アカウントの [リンクされたプロジェクト] ページ

このページでは, クラウド・アカウントに1つまたは複数のプロジェクトをリンクします。アカウントをプロジェクトにリンクすると, そのアカウントを使用して, プロジェクトからホストをプロビジョニングできます。さらにこのページでは, 選択したアカウントで使用できる合計クレジットが表示されます。

アクセス方法	<p>ラボ管理のみ:</p> <ul style="list-style-type: none"> クラウド・アカウント・モジュールからの場合: ラボ管理サイドバーの [ラボ設定] にある [クラウド設定] で [クラウドアカウント] を選択します。情報パネルで, [リンクされたプロジェクト] を選択します。 [クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックスからの場合: ラボ管理サイドバーの [ラボ設定] にある [クラウド設定] で [クラウドアカウント] を選択します。クラウド・アカウントを右クリックし, [クラウドアカウントの詳細] を選択します。[クラウドアカウントの詳細] ダイアログ・ボックスで, [リンクされたプロジェクト] を選択します。
重要な情報	<p>ユーザ・プロジェクトから, ラボ管理クラウド・アカウントのホストをプロビジョニングするには, このページでクラウド・アカウントをプロジェクトにリンクする必要があります。</p> <p>クラウド・アカウントの [リンクされたプロジェクト] ダイアログ・ボックスが表示されるのは, ラボ管理のみです。</p>
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(64ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(63ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	クラウド・アカウントへのプロジェクトの割り当て : [クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックスが開いたら、クラウド・アカウントからのプロビジョニングが可能なプロジェクトを選択します。詳細については、「 [クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックス 」(74ページ)を参照してください。
	クラウド・アカウントからのプロジェクトの割り当て解除 : 選択したプロジェクトは、クラウド・アカウントからプロビジョニングできなくなります。
	プロジェクトに移動 : プロジェクト設定モジュール内で選択したプロジェクトを表示します。
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
プロジェクト	クラウド・アカウントにリンクされているプロジェクトを表示します。
クレジット残高	クレジット残高を表示します。

ホスト・テンプレート

本項の内容

- [ホスト・テンプレートの概要](#) 77
- [ホスト・テンプレートを管理する方法](#) 78
- [ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース](#) 81

ホスト・テンプレートの概要

ホスト・テンプレートには、そのテンプレートを使ってプロビジョニングされるホストに関する技術的な詳細が定義されます。ホスト・テンプレートには、次の詳細情報が指定されます。

- ホストをプロビジョニングする際に使用するクラウド・アカウント
- 時間あたりのコスト。これは、ホストが1時間あたりに消費するクレジットの数を示します。

注: 使用され消費されるクレジットが、クラウド・プロバイダに対する実際のコストを表すわけではありません。

- ホストのタイプと用途。

注: HP ALM では、パフォーマンス・テストの Load Generator のみがサポートされています。

- ホストがプロビジョニングされるクラウドの場所。
- ホストのハードウェアの仕様 (インスタンス・タイプ)。
- ホストで使用するソフトウェア・イメージ (マシン・イメージ)

注: HP では、ホスト・テンプレートを作成する際に使用できる多くの定義済みのイメージが用意されています。定義済みのイメージを使用することをお勧めします。インスタンス・タイプとマシン・イメージは、クラウド・プロバイダの Web サイト上で管理され、ホスト・テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは、事前定義の画像は使用できません。画像の作成が必要です。

すべてのクラウド・ホストは、ホスト・テンプレートからプロビジョニングされます。ホストのプロビジョニング時、ALM はテンプレートの詳細情報をプロビジョニング対象となるホストにコピーします。

ALM は、HP Helion と Amazon EC2 クラウド・アカウントごとにホスト・テンプレートを作成します (標準設定)。テンプレートは事前定義の HP 画像と推奨ハードウェア設定 (インスタンス・タイプで定義) を Load Generator マシンに使用します。この標準設定のホスト・テンプレートを使用できますが、独自にホスト・テンプレートを作成することもできます。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは、ホスト・テンプレートを作成する必要があります。テンプレート・ホストを使用する場合は、どのマシン仕様の使用を可能にして推奨するかを管理者が管理できます。

ホスト・テンプレートの管理は、ラボ管理または ALM プロジェクトから実行できます。ラボ管理から追加したホスト・テンプレートは公開されており、テンプレートのクラウド・アカウントにリンクされるすべてのプロジェクトで使用できます。ユーザ・プロジェクトから追加したホスト・テンプレートは公開されておらず、このホスト・テンプレートを作成したプロジェクトでしか使用できません。

ホスト・テンプレートの作成手順については、[「ホスト・テンプレートを管理する方法」](#) (78ページ) を参照してください。

ホスト・テンプレートを管理する方法

本項では、ALM でホスト・テンプレートを作成および管理する方法を説明します。

概要については、「[ホスト・テンプレートの概要](#)」(77ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[クラウド・ホストの設定方法](#)」(50ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートの作成

このタスクでは、ALMでホスト・テンプレートを作成する方法を説明します。

1. ホスト・テンプレートを作成する際の考慮事項

ホスト・テンプレートを作成する際は、次の事項に留意してください。

- テスト担当者が必要とするホスト設定ごとに1つのテンプレートを作成します。テスト担当者は既存のテンプレートからのクラウド・ホストのみをプロビジョニングできます。
- テスト担当者が必要なクラウド・ホストのみをプロビジョニングできるように、各テンプレートによってプロビジョニングされるホストのタイプを明確に示します。
- ホストによって消費されるクレジット数とそのホストのプロビジョニング費用を正確に反映するようにします。

2. 前提条件

ALM にホスト・テンプレートを追加するには、少なくとも1つのクラウド・アカウントを追加しておく必要があります。詳細については、「[クラウド・アカウントを管理する方法](#)」(64ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートを作成する際は、次を指定する必要があります。

- **場所:** テンプレートによってホストがプロビジョニングされるクラウド領域を指定します。選択した場所によって、テンプレートで利用できるインスタンス・タイプとマシン・イメージが決まります。
- **インスタンス・タイプ:** テンプレートから作成したホストのハードウェア構成を指定します。インスタンス・タイプはクラウド・プロバイダによって提供されます。クラウド・プロバイダから利用できる各インスタンス・タイプを十分に理解してから、ホスト・テンプレートの作成を開始してください。
- **マシン・イメージ:** テンプレートから作成したホストで使用するソフトウェア・イメージを指定します。マシン・イメージは、クラウド・プロバイダの Web サイト上で管理されます。クラウド・プロバイダに必要なすべてのイメージをアップロードしてから、ホスト・テンプレートの作成を開始してください。HP では、使用できる定義済みのイメージのセットも用意しています。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは、事前定義の画像は使用できません。

3. ホスト・テンプレートの作成

ホスト・テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

- a. ホスト・テンプレートを作成しようとしているクラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
- b. **[クラウド設定]** > **[ホスト テンプレート]** に移動します。
- c. **[新規ホスト テンプレート]** ボタン  をクリックします。[新規ホストテンプレート] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「**[新規ホストテンプレート] ダイアログ・ボックス**」(86ページ)を参照してください。
- d. 新規ホスト・テンプレートの詳細を入力し、**[OK]** をクリックします。ホスト・テンプレートが作成されます。各フィールドに入力する内容の詳細については、「**ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド**」(84ページ)を参照してください。

これで、新しいホスト・テンプレートがクラウド・ホストをプロビジョニングするために使用できるようになりました。

注:

- ユーザ・プロジェクトから追加したホスト・テンプレートは公開されておらず、このホスト・テンプレートを作成したプロジェクトでしか使用できません。ラボ管理 から追加したホスト・テンプレートは公開されており、テンプレートのクラウド・アカウントにリンクされるすべてのプロジェクトで使用できます。
- ホスト・テンプレートを作成する際は、同じプロジェクトで追加したクラウド・アカウントしか選択できません。

Microsoft Azure クラウド・アカウント用の画像の作成

Microsoft Azure クラウド・アカウントで使用する画像を作成するには、次の手順を実行します。

1. Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1 x64 画像を使用して、クラウド・コンソールで新しいインスタンスを作成します。詳細については、<http://azure.microsoft.com/en-us/documentation/articles/virtual-machines-create-custom/> を参照してください。
2. 作成したインスタンスに接続します。詳細については、<http://azure.microsoft.com/en-us/documentation/articles/virtual-machines-log-on-windows-server/> を参照してください。
3. スタンドアロンの Load Generator を Performance Center にインストールします。
4. 次のコマンドを使用して、ファイアウォールを無効にします。

```
netsh advfirewall set allprofiles state off
```

5. 次のコマンドを使用して、LGCloudAgent サービスを登録します。

```
sc create LGCloudAgent binPath= "c:\Program Files (x86)\HP\Load Generator\bin\LGCloudAgent.exe" start= auto
```

6. LoadRunnerAgent サービスの自動起動を無効にします。

- sc config LoadRunnerAgent start= demand
 - sc config remotemanagementagent start= demand
7. [一般化する]と[シャットダウン] オプションを使用して、システム準備ツールを実行します。詳細については、<http://azure.microsoft.com/en-us/documentation/articles/virtual-machines-capture-image-windows-server/>を参照してください。インスタンスが停止するまでそのまま待機します。
- cd %windir%\system32\sysprep
 - sysprep (generalize, shutdown)
8. インスタンスから画像を作成します。次のフィールドに入力します。
- a. **\$new_image_name** : 画像の名前。
 - b. **\$new_image_label** : 画像のラベル。
 - c. **\$service_name** : 手順1でプロビジョニングしたインスタンスのサービスの名前。
 - d. **\$deployment_name** : デプロイメント名。
 - e. **\$role_name** : 仮想マシンの名前。

ホスト・テンプレートの詳細の変更

ホスト・テンプレートの詳細を変更するには、次の手順を実行します。

1. ホスト・テンプレートを作成したプロジェクトにログインします。
2. [クラウド設定] > [ホスト テンプレート] で、グリッド内のホスト・テンプレートを選択し、[ホスト テンプレートの詳細] ボタン  をクリックします。「[ホスト テンプレートの詳細] ダイアログ・ボックス」(86ページ)が開きます。
3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

ホスト・テンプレートの削除

ホスト・テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除するホスト・テンプレートを作成したプロジェクトにログインします。
2. [クラウド設定] > [ホスト テンプレート] で、グリッド内のホスト・テンプレートを選択し、[削除] ボタン  をクリックします。ホスト・テンプレートが削除されます。

注: ホスト・テンプレートを削除しても、そのテンプレートからプロビジョニングされたクラウド・ホストは終了しません。クラウド・ホストの終了の詳細については、「[クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法](#)」(89ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ](#)82
- [ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン](#)82
- [ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド](#)84
- [\[新規ホストテンプレート\] ダイアログ・ボックス](#)86
- [\[ホストテンプレートの詳細\] ダイアログ・ボックス](#)86

ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ

ホスト・テンプレート・モジュールでは、クラウド・ホストのプロビジョニングで使用するホスト・テンプレートを作成します。

アクセス方法	ラボ管理 および ALM : サイドバーの [クラウド設定] で [ホスト テンプレート] をクリックします。
重要な情報	ラボ管理 : ユーザ・プロジェクト内で作成したホスト・テンプレートは、読み取り専用になります。これらのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてください。 ALM : 現在のプロジェクト内で作成したホスト・テンプレートのみが表示されます。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(78ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(77ページ) , 「クラウド・ホストの概要」(49ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・テンプレート・モジュール共通の UI 要素>	ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド : フィールドの定義については、 「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(84ページ) を参照してください。 ホスト・テンプレートのメニューとボタン : コマンドとボタンの説明については、 「ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン」(82ページ) を参照してください。
<テンプレート・グリッド>	ALM に追加したホスト・テンプレートが一覧表示されます。
【説明】 タブ	選択したホスト・テンプレートの説明を入力します。
【履歴】 タブ	選択したホスト・テンプレートに行った変更が一覧表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン

本項では、ホスト・テンプレート・モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

重要な情報	ラボ管理 : ユーザ・プロジェクト内で作成したホスト・テンプレートは、読み取り専用になります。これらのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてください。 ALM : 現在のプロジェクト内で作成したホスト・テンプレートのみが表示されます。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(78ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(77ページ) , 「クラウド・ホストの概要」(49ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
お気に入り に追加 	お気に入り	<p>【追加 お気に入り】 ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
ホスト・テンプレート の詳細 	[ホストテンプレート] と <右クリック・メニュー>	<p>【ホストテンプレートの詳細】 ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、ホスト・テンプレートの詳細情報が表示されます。詳細については、「[ホストテンプレートの詳細] ダイアログ・ボックス」(86ページ)を参照してください。</p>
URL のコピー 	[ホストテンプレート] と <右クリック・メニュー>	<p>選択したホスト・テンプレートのリンクをコピーします。ホスト・テンプレート自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き、ホスト・テンプレートにアクセスできます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。</p>
削除 	[編集] と <右クリック・メニュー>	<p>選択したホスト・テンプレートを削除します。</p> <p>注: ホスト・テンプレートを削除しても、そのテンプレートからプロビジョニングされたクラウド・ホストは終了しません。</p>
エクスポート	[ホストテンプレート] と <右クリック・メニュー>	<p>【すべてのグリッドデータをエクスポート】 ダイアログ・ボックスが開きます。グリッド内のテンプレートを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索 	表示	<p>【検索】 ダイアログ・ボックスが開き、テンプレートを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
ホストテンプレート に移動 	ホスト・テンプレート	<p>【ホストテンプレートに移動】 ダイアログ・ボックスが開きます。ID 番号でホスト・テンプレートを検索できます。</p>
グリッド・フィルタ	[表示] と <右クリック・メニュー>	<p>グリッドの各カラムにフィルタ・ボックスが表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
情報パネル	[表示] と <右クリック・メニュー>	<p>モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。</p>
新規ホスト・テンプレート	ホスト・テンプレート	<p>【新規ホストテンプレート】 ダイアログ・ボックスが開き、新しいホスト・テンプレートを追加できます。詳細については、「[新規ホストテンプレート] ダイアログ・ボックス」(86ページ)を参照して</p>

UI 要素	メニュー	説明
		ください。
お気に入りの整理 	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
置換	【編集】と<右クリック・メニュー>	【置換】ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	【カラムの選択】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	<p>ホスト・テンプレート・グリッドで使用するフィルタ・オプションとソート・オプションを設定します。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フィルタ/ソートの設定：【フィルタ】ダイアログ・ボックスが開きます。ホスト・テンプレートのフィルタ処理とソートを実行できます。 • フィルタ/ソートのクリア：適用したフィルタまたはソートが解除されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	【編集】と<右クリック・メニュー>	【選択項目の更新】ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドで選択した複数のホスト・テンプレートについて、フィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド

本項では、ホスト・テンプレート・モジュールのフィールドについて説明します。ホスト・テンプレートのフィールドを編集するには、テンプレートを作成したプロジェクトから操作する必要があります。

フィールド	説明
クラウド・アカウント	ホストのプロビジョニングに使用したテンプレートのクラウド・アカウント。

フィールド	説明
説明	<p>ホスト・テンプレートの説明。</p> <p>ヒント: 各テンプレートでプロビジョニングするホストのタイプを明確に指定します。これによってテスト担当者は、ホストのプロビジョニング時に適切なテンプレートを選択することができます。</p>
ホスト属性	<p>ホストのシステム属性を指定します。</p> <p>例: ホストのメモリ: 高; ホストの強度: 中; インストール済みのコンポーネント: Citrix Client</p> <p>ヒント: ホスト属性はラボ管理でカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
ホスト・クレジット	<p>このテンプレートからプロビジョニングされた各ホストが1時間あたりに消費するクレジット数。</p>
ホスト・インストール	<p>ホストのインストール・タイプ。</p> <p>次のタイプを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unix Load Generator : この Unix ホストを、パフォーマンス・テストで Load Generator として使用することを示します。 • Windows Standalone LG : この Windows ホストを、パフォーマンス・テストでスタンドアロン Load Generator として使用することを示します。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージのインストール・タイプは正しく選択してください。設定を間違えると、パフォーマンス・テストが正しく実行されなくなります。 • [ホストインストール] リストには [Unified Functional Testing] オプションと [Windows ホスト] オプションが表示されますが、選択できません。
ホストの用途	<p>ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば、Controller, Load Generator, Data Processor, QuickTest Professional, Sprinter などがあります。</p> <p>注: HP ALM では Load Generator のみを選択できます。</p>
インスタンス・タイプ	<p>テンプレートからプロビジョニングするクラウド・ホストのハードウェア仕様。インスタンス・タイプは、クラウド・プロバイダの Web サイトで表示され、ホスト・テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。</p>
場所	<p>HP Helion では、ホストのプロビジョニングに使用できるゾーンです。Amazon EC2 と Microsoft Azure では、ホストのプロビジョニングに使用した領域です。</p>
マシン・イメージ	<p>テンプレートからクラウド・ホストをプロビジョニングする際に使用するソフトウェア・イメージ。マシン・イメージは、クラウド・プロバイダの Web サイトで管理され、ホスト・テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。</p> <p>注: マシン・イメージの値を表示できない場合は、使用したクラウド・アカウント番号が正しいことを確認してください。</p>
テンプレート ID	<p>ホスト・テンプレートの ID。テンプレートの作成時に ALM によって自動生成されます。</p>
テンプレート名	<p>テンプレートに割り当てる名前。</p>

[新規ホスト テンプレート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいホスト・テンプレートを ALM に追加します。

アクセス方法	ラボ管理 および ALM : 1. サイドバーの [クラウド設定] で [ホスト テンプレート] をクリックします。 2. [新規ホスト テンプレート] ボタン  をクリックするか、[ホストテンプレート] メニューから [新規ホスト テンプレート] を選択します。
重要な情報	ALM にホスト・テンプレートを追加するには、既存の HP Helion, Microsoft Azure, または Amazon EC2 アカウントが必要です。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(78ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(77ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドのリセット : ダイアログ・ボックス内のフィールドに入力されているデータをすべて消去します。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
名前	ホスト・テンプレートに付ける名前。テンプレートでプロビジョニングするホストのタイプを明確に示す名前を指定します。これによってテスト担当者は、必要なホストをプロビジョニングできるようになります。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。使用可能なホスト・テンプレートのフィールドの詳細については、 「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(84ページ) を参照してください。
説明	ホスト・テンプレートの説明を入力します。

[ホスト テンプレートの詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホスト・テンプレートの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<p>ラボ管理 および ALM :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの [クラウド設定] で [ホスト テンプレート] をクリックします。 2. グリッドでホスト・テンプレートを右クリックし、[ホスト テンプレートの詳細] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このダイアログ・ボックスは、ラボ管理 と ALM の両方で利用できます。 • ホスト・テンプレートのフィールドを編集するには、テンプレートを作成したプロジェクトから操作する必要があります。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(78ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(77ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : ホスト・テンプレートのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	<p>フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。</p> <p>例 : a*b は acb と adefb を返し、 a?b は acb を返します。</p>
テンプレート ID	ホスト・テンプレートの ID。ホスト・テンプレートの追加時に ALM によって自動生成されます。
テンプレート名	ホスト・テンプレートに付けた名前。
詳細	現在選択されているホスト・テンプレートの詳細が表示されます。使用可能なホスト・テンプレートのフィールドの詳細については、 「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(84ページ) を参照してください。
説明	ホスト・テンプレートの説明を入力します。
履歴	現在選択されているホスト・テンプレートに加えられた変更が一覧表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホストのプロビジョニング

本項の内容

- [ホストのプロビジョニングの概要](#)89
- [クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法](#)89
- [ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース](#)92

ホストのプロビジョニングの概要

クラウド・ホストをテスト実行に使用するには、テスト・ホストと同様に、ラボ・リソースに追加する必要があります。クラウド・ホストを追加する作業をプロビジョニングと呼びます。ホストのプロビジョニングでは、特定の設定を使用して、マシンをクラウド上で予約します。この設定には、マシンのハードウェアの詳細情報とマシンに適用されるソフトウェア・イメージが含まれます。ALM では、すべてのホストのプロビジョニングにテンプレートを使用します。ホスト・テンプレートの詳細については、「[ホスト・テンプレートの概要](#)」(77ページ)を参照してください。

ホストのプロビジョニングの詳細については、「[クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法](#)」(89ページ)を参照してください。

注:

- ラボ管理 でホストをプロビジョニングするには、[ラボ リソース] > [ホスト] を選択します。ユーザ・プロジェクトでホストをプロビジョニングするには、[ラボ リソース] > [テスト・ホスト] を選択します。
- プロビジョニングされたホストは、プロビジョニングで使用したプロジェクトのクレジットを消費します。各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。要求されたホストをプロビジョニングするには、少なくとも1クレジットが必要です。

クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法

本項では、ALM からクラウド・ホストをプロビジョニングする方法と終了する方法を説明します。概要については、「[ホストのプロビジョニングの概要](#)」(89ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[クラウド・ホストの設定方法](#)」(50ページ)を参照してください。

クラウド・ホストのプロビジョニング

このタスクでは、ALM でのクラウド・ホストのプロビジョニング方法を説明します。

1. 前提条件

ALM からホストをプロビジョニングするには、次の手順を実行します。

- クラウド・アカウントと、プロジェクトにリンクされたホスト・テンプレートが少なくとも1つつ必要です。詳細については、「[クラウド・アカウントを管理する方法](#)」(64ページ)お

および「[ホスト・テンプレートを管理する方法](#)」(78ページ)を参照してください。

- プロジェクトには、目的のホストをプロビジョニングするのに使用できる十分なクラウド・クレジットが必要です。詳細については、「[クラウド・アカウントを管理する方法](#)」(64ページ)を参照してください。プロジェクトにクレジットを追加するアクセス許可がない場合は、ラボ管理者に問い合わせてください。

ホストをプロビジョニングする際は、次を指定する必要があります。

- セキュリティ・グループ**：クラウド・ホストに対して許可される着信および発信ネットワーク・トラフィックを指定します。たとえば、クラウド・ホストにリモート・デスクトップ経由で接続する必要がある場合、セキュリティ・グループは、TCP ポート 3389 (RDP) 経由での着信トラフィックを許可する必要があります。セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダの Web サイト上で構成し、プロビジョニング時に ALM で選択します。セキュリティ・グループの詳細については、「[クラウドの初期設定の概要](#)」(52ページ)を参照してください。
- キー・ペア**：クラウド・ホストにリモートで接続できるようになります。Windows ホストの場合、キー・ペアはメインの管理者のパスワードを生成するのに使用します。Linux ホストの場合、キー・ペアはマシンへのログインに使用します。キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイト上で作成し、プロビジョニング時に ALM で選択します。キー・ペアの詳細については、「[クラウドの初期設定の概要](#)」(52ページ)を参照してください。

注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

注: セキュリティ・グループとキー・ペアはクラウドの場所ごとに個別に作成します。必要なセキュリティ・グループとキー・ペアがプロビジョニングを行う場所ごとに構成しておく必要があります。

注: HP Helion は、エラスティック IP アドレスのみをサポートします。ホストのプロビジョニングに、固定 IP アドレスは使用できません。詳細については、HP Helion Public Cloud Web サイト (<http://www.hpcloud.com/>) を参照してください。

2. ホストをプロビジョニングする際の考慮事項

ホストをプロビジョニングする際は、以下の事項に留意してください。

- ホストをプロビジョニングする場所は、テストの効率に影響する可能性があります。自分のテスト・ニーズに合ったクラウドの場所を選択するようにしてください。
- ホスト・テンプレートは場所ごとに個別に作成するため、ある場所に存在するテンプレートが別の場所には存在しないことがあります。必要なテンプレートがどの場所にあるかを把握し、また目的のテンプレートを必ずプロビジョニングする場所に追加する必要があります。
- プロビジョニング済みのホストにリモートで接続する必要がある場合、秘密キーを持つためにキー・ペアを選択し、リモート接続を許可するセキュリティ・グループを選択するようにします。

注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

- ホストはバッチでプロビジョニングします。1つのバッチでプロビジョニングしたホストはすべて、同じアカウント、場所、テンプレートを使用し、同じ構成になります。別のタイプのホストをプロビジョニングするには、異なるバッチを作成する必要があります。1つのプロビジョニング要求にホストの複数のバッチを含めることができます。

3. クラウド・ホストのプロビジョニング

クラウド・ホストをプロビジョニングするには、次の手順を実行します。

- a. ラボ管理で、**[ラボ リソース]** > **[ホスト]** に移動します。ALMで、**[ラボ リソース]** > **[テスト ホスト]** に移動します。
- b. **[プロビジョニング...]** ボタン  をクリックします。**[ホストのプロビジョニング]** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[\[クラウドホストのプロビジョニング\] ダイアログ・ボックス](#)」(93ページ)を参照してください。
- c. プロビジョニングするホストのバッチごとに詳細を入力し、**[バッチの追加]** をクリックします。

注: 要求されたホストをプロビジョニングするには、少なくとも1クレジットが必要です。

- d. 必要なバッチすべてを追加して、**[プロビジョニング]** をクリックします。ホストはプロビジョニングのためのキューに入り、クラウド・プロビジョニング・レポートが開きます。

4. プロビジョニング後 :

ホスト・プロビジョニング・レポートにはプロビジョニングの進行状況が表示され、レポートは自動的に更新され最新情報が表示されます。プロビジョニング中にエラーが発生すると、そのエラーがホスト・プロビジョニング・レポートに表示されます。詳細については、「[ホスト・プロビジョニング・レポート](#)」(96ページ)を参照してください。

クラウド・ホストのプロビジョニングが完了すると、ホストでのテスト実行が可能になります。

注: クラウド・ホストのステータスが稼働中に変ってから、ホストが使用可能になるまでに数分かかることがあります。

プロビジョニングが完了すると、ホストはプロジェクトのクレジットを消費します。

クラウド・ホストの終了

クラウド・ホストを終了するには、次の手順を実行します。

1. ラボ管理で、**[ラボ リソース]** > **[ホスト]** に移動します。ALMで、**[ラボ リソース]** > **[テスト ホスト]** に移動します。
2. グリッド内のクラウド・ホストを選択し、**[削除]** ボタン  をクリックします。クラウド・ホストが終了のためのキューに入ります。

ホストが終了するのに数分かかる場合があります。ホストは、終了すると、ホスト・グリッドから削除されます。

ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[クラウドホストのプロビジョニング\] ダイアログ・ボックス](#)93
- [ホスト・プロビジョニング・レポート](#)96

【クラウドホストのプロビジョニング】ダイアログ・ボックス

【クラウドホストのプロビジョニング】ダイアログ・ボックスでは、ホストのプロビジョニングを行います。プロビジョニングの対象となるホストの数、プロビジョニング先、必要なホスト設定を選択できます。

Microsoft Azure の場合は、【クラウドホストのプロビジョニング】ダイアログ・ボックスは次のようになります。

アクセス方法

ラボ管理:

1. サイドバーの【ラボリソース】で、【ホスト】をクリックします。
2. 【プロビジョニング】ボタン  をクリックするか、【テストングホスト】 >

	<p>【プロビジョニング】 を選択します。</p> <p>ALM:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの [ラボリソース] で, [テストイング ホスト] をクリックします。 2. 【プロビジョニング】 ボタン  をクリックするか, [テストイング ホスト] > 【プロビジョニング】 を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [リソース] > [テストイング ホスト] を選択します。 2. 【ホストのプロビジョニング】 ボタンをクリックします。
重要な情報	ホストをプロビジョニングするには, 1つ以上のクラウド・アカウントと1つ以上のホスト・テンプレートをプロジェクトにリンクしておく必要があります。
関連タスク	「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」 (89ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」 (89ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

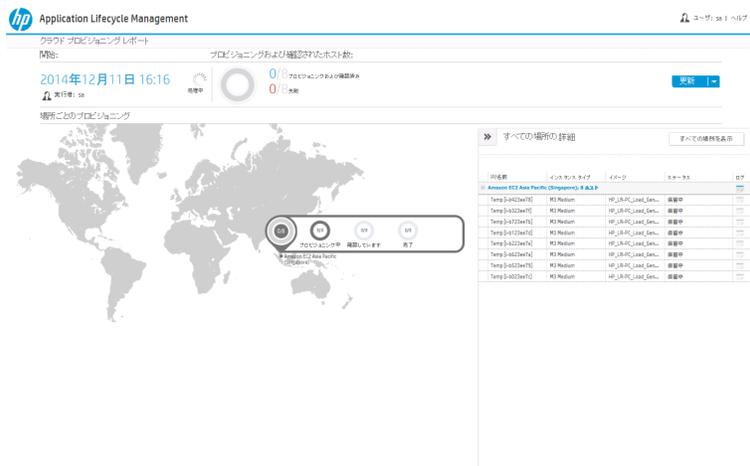
UI 要素	説明
バッチ番号	詳細情報の入力対象となるバッチの番号が表示されます。
ホスト数	バッチでプロビジョニングするホストの数を入力します。バッチ内のホストのアカウント, 場所, テンプレートがすべて同じであり, 設定も同じであることを確認してください。
アカウント	プロビジョニングを行うクラウド・アカウントを選択します。
場所	ホストのプロビジョニング先となる地理的な場所を選択します。適切なホスト・テンプレートが設定されている場所を選択してください。
テンプレート	ホスト・テンプレートでは, ホストの用途, ハードウェア, マシン・イメージ, 1時間あたりの消費クレジットが指定されています。テスト・ニーズに合ったホスト・テンプレートを選択します。使用可能なテンプレートのリストは, 選択した場所で異なります。
現在のアカウント残高	アカウントで使用可能なクレジット数が表示されます。 利用可能な場所: ALM と Performance Center
テンプレート・プライス	選択したテンプレートの1時間あたりのコストがクレジット単位で表示されます。 利用可能な場所: ALM と Performance Center
日次合計	バッチが1日あたりに消費するクレジットの総数が表示されます。 利用可能な場所: ALM と Performance Center
セキュリティ・グループ	テストイング・ホストへのアクセスを許可するセキュリティ・グループを選択します。セキュリティ・グループでは, ホストとの通信で許可する送信接続と受信接続(HTTPのポート80やRDPのポート3389など)を指定します。セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダのWebサイトで設定し, 場所ごとに個別に作成する必要があります。選択した場所で設定されているセキュリティ・グループのみが表示されます。詳細については, 「クラウドの初期設定の概要」 (52ページ) を参照してください。
	注: Microsoft Azureクラウド・アカウントには該当しません。

UI 要素	説明
プール	新しくプロビジョニングしたホストの追加先となるホスト・プールを選択します。
キー・ペア	<p>取得した秘密キーのキー・ペアを選択します。キー・ペアは、Windows マシンの管理者パスワードの生成、Linux マシンへのログインに使用されます。キー・ペアが必要になるのは、クラウド・ホストにリモート接続する場合のみです。キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイトで管理し、場所ごとに個別に作成する必要があります。選択した場所で設定されているキー・ペアのみが表示されます。</p> <p>注: ホストをプロビジョニングするには、キーペアが少なくとも 1 つ必要です。</p> <p>サイクルの詳細については、「クラウドの初期設定の概要」(52ページ)を参照してください。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。</p>
属性	<p>ホストの機能に合ったホスト属性を選択します。ホスト属性を元に、テストの実行時に目的に適したホストを特定します。</p> <p>注: 属性リストは、ALM プロジェクト・カスタマイズから変更できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
通知日	<p>ホストがクラウド・プロバイダでプロビジョニングされている場合、通知を送信する日を入力します。指定した日を過ぎたプロビジョニング済みホストは、クラウド・ホスト日時ダイジェストに表示されます。</p> <p>注: これはオプションのフィールドですが、期限日が過ぎているホストをよりよく追跡できるように、値を入力することをお勧めします。この値は、ホスト・モジュールから変更できます。</p>
エラスティック IP	<p>事前定義済みの IP アドレスのプールをクラウド・プロバイダで定義してある場合、このオプションを選択すると、その事前定義済みの静的 IP アドレスを使ってホストがプロビジョニングされます。エラスティック IP アドレスの詳細については、「クラウドの初期設定の概要」(52ページ)を参照してください。</p> <p>注: HP Helion は、エラスティック IP アドレスのみをサポートします。ホストのプロビジョニングに、固定 IP アドレスは使用できません。詳細については、HP Helion Public Cloud Web サイト (http://www.hpcloud.com/) を参照してください。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。</p>
ユーザ名	<p>RDP/SSH ポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのユーザ名。このユーザ名は、仮想マシンで使用するオペレーティング・システムで要求される複雑さの要件を満たす必要があります。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。</p>
パスワード	<p>RDP/SSH ポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのパスワード。このパスワードは、仮想マシンで使用するオペレーティング・システムで要求される複雑さの要件を満たす必要があります。</p> <p>注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。</p>

UI 要素	説明
パスワードの確認	RDP/SSH ポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのパスワードを再度入力します。 注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
RDP/SSH ポート	セキュアな接続のリモート・デスクトップのポート。 注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
バッチの追加	選択したバッチをカートに追加します。[プロビジョニング] をクリックすると、カート内にあるすべてのホストがプロビジョニングのキューに追加されます。
追加されたバッチ	プロビジョニングの対象バッチがすべて表示されます。カートからバッチを削除するには、[バッチの削除] ボタン  をクリックします。
バッチの削除 	選択したバッチを削除し、カートから削除します。
プロビジョニング	カート内のすべてのバッチをプロビジョニングのキューに追加し、ホスト・プロビジョニング・レポートを表示します。このレポートの詳細については、 「ホスト・プロビジョニング・レポート」(96ページ) を参照してください。

ホスト・プロビジョニング・レポート

ホスト・プロビジョニング・レポートでは、ホストのプロビジョニングの進行状況が場所ごとに表示されます。プロビジョニングのプロセスが手順を追って表示され、詳細な情報はログ・ファイルに記録されます。クラウド・ホストのプロビジョニングが完了すると、ホストでのテスト実行が可能になります。



アクセス方法

ラボ管理:

1. サイドバーの [ラボリソース] で、[ホスト] をクリックします。
2. [ホスト操作] ドロップダウン矢印をクリックし、[ホストプロビジョニングレ

	<p>ポート] を選択します。</p> <p>または、[プロビジョニング] ボタン  をクリックします。[クラウドホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックスが開いたら、[プロビジョニング] ボタンをクリックします。</p> <p>ALM:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの[ラボリソース]で、[テストイング ホスト] をクリックします。 2. [ホスト操作] ドロップダウン矢印をクリックし、[ホスト プロビジョニング レポート] を選択します。 <p>または、[プロビジョニング] ボタン  をクリックします。[クラウドホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックスが開いたら、[プロビジョニング] ボタンをクリックします。</p> <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、[リソース] > [テストイング ホスト] を選択します。 2. [プロビジョニング レポート] ボタンをクリックします。 または、[ホストのプロビジョニング] ボタンをクリックします。[クラウドホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックスが開いたら、[プロビジョニング] ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • ホストをプロビジョニングするには、1つ以上のクラウド・アカウントと1つ以上のホスト・テンプレートをプロジェクトにリンクしておく必要があります。 • クラウド・ホストのステータスが稼働中に変わってから、ホストが使用可能になるまでに数分かかることがあります。 • プロビジョニングが完了すると、ホストはプロジェクトのクレジットを消費します。
関連タスク	<p>「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(89ページ)</p>
参照情報	<p>「ホストのプロビジョニングの概要」(89ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
開始	<p>このセクションでは、次の詳細情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロビジョニングの開始日時。 • レポートを作成しているユーザの名前。 • レポートの進行状況。
プロビジョニングおよび確認されたホスト数	<p>プロビジョニングを待っているホストの数とそのステータスを示します。</p>
更新	<p>レポートは自動更新され、最新情報が表示されます。矢印をクリックすると、自動更新の頻度を秒単位で変更できます。頻度は、1 秒、10 秒、30 秒のいずれかを選択できます。</p>

UI 要素	説明
	<p>指定した場所について、プロビジョニングを待っているホストの数とそのステータスを示します。インジケータをクリックすると、レポートの詳細パネルが開きます。</p> <p>可能性のある状態は次のとおりです。</p> <p>プロビジョニング中：ホストはプロビジョニングの実行中です。</p> <p>確認しています：ホストは確認中です。</p> <p>完了：ホストのプロビジョニングが完了し、確認済みです。</p> <p>完了 - 失敗：ホストのプロビジョニングに失敗しました。</p>
	<p>レポートの詳細を表示します。レポートには次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての場所を表示：同時に複数の場所で稼働している場合は、すべての場所の詳細情報が表示されます。 • IP/名前：ホストの名前またはIPアドレス。 • インスタンス・タイプ：ホストのハードウェア仕様。 • イメージ：ホストの使用するソフトウェア・イメージ。 • ステータス：ホストのプロビジョニング・ステータスを示します。 • ログ ：ホストに関連するイベントのログが表示されます。

クラウド・リソースの監視

本項の内容

- [クラウド・リソースの監視の概要](#) 99
- [クラウド警告の構成方法](#) 99
- [クラウド・リソースの監視のユーザ・インターフェース](#) 100

クラウド・リソースの監視の概要

プロビジョニングしたホストが消費するクラウド・リソースの分析と監視には、使用状況レポートを作成する方法と警告と通知を送信する方法があります。

クラウドの使用状況レポート

次のクラウド使用状況レポートを作成できます。

レポート	説明
クラウド・サマリ	消費されたクレジットとプロビジョニングされたホストをプロジェクトごとにまとめて表示します。
クラウド・クレジット (タイプ別)	消費されたクラウド・クレジットを、場所、テンプレート、インスタンス、イメージごとの内訳で表示します。
クラウド利用率	クラウド・ホストの稼働時間、実行時間とアイドル時間を比較し、総アイドル時間のクレジット数をプロジェクトごとにまとめて表示します。
クラウド操作およびホスト	各ホストのプロビジョニングと終了の操作、詳細なプロビジョニング・データを表示します。

詳細については、[「使用状況レポートの概要」\(164ページ\)](#)を参照してください。

クラウド警告および通知

ホストのプロビジョニングでは、次の警告と通知を使用できます。

- ・ アイドル・ホスト (非アクティブ時間)
- ・ アカウント使用状況 (クレジット残高)
- ・ ホスト・ステータスの詳細 (稼働中、非稼働、利用不可のホスト)

警告の設定の詳細については、[「クラウド警告の構成方法」\(99ページ\)](#)を参照してください。

クラウド警告の構成方法

本項では、クラウド警告と通知を構成する方法を説明します。クラウド警告の詳細については、[「ホストのプロビジョニングの概要」\(89ページ\)](#)を参照してください。

1. 前提条件

- ・ ユーザに警告と通知を送信するには、ALM メール・プロトコルを設定する必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- クラウドの警告と通知を設定するには、ユーザ権限が必要です。アクセス許可の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
 - 電子メールを受信するには、管理者が電子メール送信に使用するメールを設定する必要があります。管理者は、TAdmin グループに所属し、有効な電子メール・アドレスを持っている必要があります。
2. または ALM または ラボ管理 のマストヘッドで、 をクリックして **[クラウド警告および通知]** を選択します。詳細については、「[\[クラウド警告および通知\] ダイアログ・ボックス](#) (101ページ)を参照してください。
 3. ユーザに通知する警告とルールを定義します。

クラウド・リソースの監視のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[クラウド警告および通知\] ダイアログ・ボックス](#)101

[クラウド警告および通知] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、警告と通知を設定することにより、重要なクラウド・アクティビティに関する情報をユーザに送信します。

アクセス方法	ALMまたはラボ管理のmastheadで、  をクリックして [クラウド警告および通知] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">ユーザに警告と通知を送信するには、ALMメール・プロトコルを設定する必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。クラウドの警告と通知を設定するには、ユーザ権限が必要です。アクセス許可の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「クラウド警告の構成方法」(99ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(89ページ)

警告の送信先

このパネルでは、警告と通知の送信先となるユーザを設定します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ホストをプロビジョニングしたユーザ (該当する場合)	クラウド・ホストをプロビジョニングしたユーザに通知します。
プロジェクト管理者	プロジェクトの管理者ユーザに通知します。
以下のユーザ :	指定したユーザに通知します。

警告と通知のルール

この表示枠では、ユーザに通知する際のルールを設定します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アイドル時間が次の長さを超えたホストに関する警告を送信	クラウド・ホストがアイドル状態のまま指定の時間が経過した場合、警告を送信します。 ALMのみ : 現在ログインしているプロジェクトからプロビジョニングしたホストに警告を送信します。 ラボ管理のみ : ラボ管理からプロビジョニングしたホストに警告を送信します。
他のプロジェクトの公開アカウントからブ	ラボ管理のみ : ラボ管理から追加したクラウド・アカウントでブ

UI 要素	説明
ロビジョニングされたホストを含める	ロビジョニングしたホストを含めます。
クラウド・ホストの日次ダイジェストを次の時刻に送信	指定した日時にクラウド・ホスト・サマリを送信します。このレポートには、今日の操作、アカウントの使用状況、ホストの詳細情報が含まれます。
プロジェクトの特定クラウド・アカウントの残りクレジット数が次の値を下回ったら警告を送信	プロジェクトで、クラウド・アカウントのクレジット残高が指定した値を下回った時点で警告を送信します。

第6章: ラボ・リソース

本章の内容

- ラボ・リソースの概要104
- ラボ・リソースの管理106
- ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース120

ラボ・リソースの概要

ラボ・リソース・モジュールでは、ALM サーバ側のテストで使用するテスト・リソースの定義、管理、保守を行います。

ラボ管理 なしで ALM を使用すると、ユーザはローカル・コンピュータからテストを管理する必要があります。このテスト方法はクライアント側の実行と呼ばれます。ラボ管理では、テスト実行にサーバ側の実行を使用することができます。テスト・ホストのセットアップが完了すると、ALM を使用して、リモート・サーバでのテストのスケジュール設定やテストの自動実行を行うことができます。ラボ管理では、テスト実行で使用するホストとホスト・プールのセットアップと保守を行います。

テスト・ホスト/ホスト

テスト・ホストは、テストを実行し、これらのテストから収集したデータを処理するために使用されます。機能ホストやパフォーマンス・ホストとしてホストを定義できます。

機能ホストとパフォーマンス・ホストは、次の用途に使用できます。

機能ホスト (ALM エディションのみ)	<ul style="list-style-type: none">• Business Process Testing : ビジネス・プロセス・テストが実行されるテスト・ホスト。• QuickTest Professional : QuickTest Professional が実行されるテスト・ホスト。• Service Test : Service Test が実行されるテスト・ホスト。• システム・テスト : システム・テストが実行されるホスト。• Unified Functional Testing : Unified Functional Testing が実行されるテスト・ホスト。• VAPI XP : VAPI-XP が実行されるテスト・ホスト。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">• 機能テストにテスト・ホストを使用するには、テスト・ホストを ALM に登録する必要があります。詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(289 ページ)を参照してください。• 機能テスト・ホストを自動選択の対象から除外することが可能です。• 特定のユーザにホストを予約し、他のユーザが予約済みホストを選択できないようにします。
パフォーマンス・ホスト	<ul style="list-style-type: none">• Controller : パフォーマンス・テストの管理に使用されるテスト・ホスト。テストの実行中に、Controller は、実行するスクリプト、スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数、仮想ユーザの実行の開始時点と停止時点を含む指示を Load Generator に発行します。Controller はテストごとに1つしかありません。• Load Generator : テスト中に仮想ユーザが実行されるテスト・ホスト。特定のテストに対して任意の数の Load Generator を使用できます。• Data Processor : テストの実行中に収集されたデータを処理、公開するために使用されるテスト・ホスト。 <p>注:</p>

- 柔軟性を高めるために(リソースが少ない場合に特に), Controller と Load Generator を兼用した1台のパフォーマンス・ホストを割り当てることができます。一般的に, この方法はお勧めできません。仮想ユーザの数が非常に少ないテストに対してのみ適しています。ホストの割り当て時に, システムは, Controller と Load Generator を兼用したホストの前に, 単一機能のホストの使用を試みます。
- 1台のホストを Controller, Data processor 兼用として設定することもできますが, データ処理用には別のホストを設定することをお勧めします。
- ファイアウォール越しのホストやUNIXホストは, Load Generator 専用として使用できません。

テスト・ホスト/ホスト・モジュールは, ラボ管理 プロジェクトと ALM プロジェクトの両方で使用できます。

テスト・ホストの管理に関するタスクの詳細は, [「テスト・ホストの管理方法」\(106ページ\)](#)を参照してください。

ホスト・プール

ホスト・プールとは, テスト・ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。ホスト・プールを管理する場合, 利用可能な総リソースを理解していることが重要です。

パフォーマンス・テストに関連するプロジェクトでプールを使用する場合, そのプールには Controller, Load Generator, Data Processor がそれぞれ1つ以上必要です。ホストには二重の機能を持たせられるため, プールには, 他のホストの中でも Controller 機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。

利用可能な場所: ラボ管理のみ。

ホスト・プールの管理に関するタスクの詳細は, [「ホスト・プールを管理する方法」\(113ページ\)](#)を参照してください。

クラウド・アカウント

クラウド・アカウントとは, クラウド・プロバイダで実際に設定されているアカウントの ラボ管理バージョンです。

詳細については, [「クラウド・アカウントの概要」\(63ページ\)](#)を参照してください。

クラウド・テンプレート

クラウド・テンプレートでは, クラウド・ホストの各タイプを示す詳細情報が定義されています。

詳細については, [「ホスト・テンプレートの概要」\(77ページ\)](#)を参照してください。

タイムスロット

テストを実行したり, ホスト・マシンでメンテナンスを実施する場合, これらのタスクに必要なリソースは, 利用可能であり, プロジェクトとライセンスの制限範囲内である必要があります。タイムスロット・モジュールでは, タスク実行準備が整ったときに, 必要なリソースが利用できるように,

事前に確認してリソースを予約できます。

タイムスロットには、テスト・タイムスロットとメンテナンス・タイムスロットの2タイプがあります。

- テスト・タイムスロットを予約すると、機能テストまたはパフォーマンス・テストの実行時に必要なリソースが確保されます。テスト・タイムスロットの予約は、ALM プロジェクトのみで行います。
- メンテナンス・タイムスロットを予約すると、メンテナンスの実行時に必要なリソースが確保されます。メンテナンス・タイムスロットの予約は、ラボ管理 プロジェクトで行います。

タイムスロットの予約の詳細については、「[タイムスロットの予約方法](#)」(116ページ)を参照してください。

ラボ・リソースの管理

次に、ラボ・リソースの管理ワークフローを示します。



テスティング・ホストの管理方法



本項では、ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側実行する際に必要になるテスト・ホストを作成、変更、監視する方法について説明します。

注:

- **ホスト・モジュール**は、ラボ管理 と ALM で表示されます。ただし、ALM では「**テスティング・ホスト**」と表示されます。ここでの説明は、ラボ管理 の**ホスト・モジュール**を対象にしたものですが、ほとんどの機能は ALM の**テスティング・ホスト・モジュール**でも使用できます。
- ALM の**テスティング・ホスト・モジュール**を使用している場合、プロジェクトの**ホスト・プール**に関連付けられている**テスティング・モジュール**のみが表示されます。
- **製品の機能紹介ムービー**：パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALM のメイン・ウィンドウで、**[ヘルプ] > [ムービー]** を選択します。

- ALM のエディション：機能テスト・ホストの管理は、ALM Edition のみで実行できません。ALM エディションとその機能の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理者にお問い合わせください。

本タスクの内容

- 「[テスト・ホストの追加](#)」(107ページ)
- 「[Excel を使用したテスト・ホストのインポート](#)」(108ページ)
- 「[ラボ・リソースの詳細の変更/表示](#)」(111ページ)
- 「[テスト・ホストに対するホスト接続のチェック](#)」(111ページ)
- 「[ホストの再起動](#)」(112ページ)
- 「[ホストへのパッチのインストール](#)」(112ページ)
- 「[ホストの再設定](#)」(113ページ)
- 「[パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了](#)」(113ページ)
- 「[テスト・ホストのホスト・プールへのリンク](#)」(113ページ)

テスト・ホストの追加



機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行するには、テスト・ホストを ALM に追加する必要があります。テスト・ホストの概要については、「[ラボ・リソースの概要](#)」(104ページ)を参照してください。

テスト・ラボのホストを ALM に追加するには、次の手順を実行します。

1. 前提条件

次の内容を確認します。

- 必要なテスト・ツールがテスト・ホストにインストールされている必要があります。インストール手順については、各テスト・ツールのドキュメントを参照してください。
- リモートの場所にあるパフォーマンス・テスト・ホストを追加する場合は、場所を [ラボ リソース] > [場所] モジュールに追加する必要があります。タスクの詳細については、「[ホストの場所を管理する方法](#)」(115ページ)を参照してください。
- 追加するテスト・ホストがファイアウォール越しにある場合、ホストは MI Listener 経由でパフォーマンス・ホストと通信します。MI Listener が [ラボ リソース] > [MI Listener] モジュールで追加されたことを確認してください。タスクの詳細については、

[「MI Listener を管理する方法」 \(211ページ\)](#)を参照してください。

- 機能テスト用にホストを使用する場合、追加するテスト・ホストに HP ALM Lab Service をインストールしておく必要があります。HP ALM Lab Service をダウンロードしてインストールするには、[ヘルプ] > [ALM ツール] を選択してツール・アドインページを開き、[HP ALM Lab Service] リンクをクリックしてから、各オペレーティング・システム用のパッケージをダウンロードします。HP Lab Service のインストールの詳細については、[「HP ALM Lab Service のインストール」 \(282ページ\)](#)を参照してください。

2. 新しいテスト・ホストの作成

ヒント: ホストのインポート機能を使用すると、ホストのリストを Excel ファイルから ALM にインポートできます。詳細については、[「Excel を使用したテスト・ホストのインポート」 \(108ページ\)](#)を参照してください。

[ラボ リソース] > [ホスト] を選択し、[新規テスト ホスト] ボタン  をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[新規テスト ホスト\] ダイアログ・ボックス」 \(132ページ\)](#)を参照してください。

注: ALM プロジェクト内で作成されたホストは非公開ホストであり、同時に1つのホスト・プールにしか存在できません。

3. テスト・ホストを登録します。

機能テスト・ホストを使用するには、セキュリティ上の理由から、HP ALM Lab Service を使用して機能テスト・ホストを登録する必要があります。テスト・ホストの登録後、テスト・ホストの登録はラボ管理内で承認される必要があります。

テスト・ホストで [登録自動承認] フィールドを **Y** に設定した場合、ホストは登録時に自動承認されます。[登録自動承認] を **N** に設定した場合、[ステータス] フィールドを [登録済み] に変更すると登録作業が完了します。

Lab Service でテスト・ホストを登録する手順の詳細については、[「HP ALM Lab Service の使用」 \(289ページ\)](#)を参照してください。

注: 互換性を確保するには、Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中の Lab Service のバージョンが ALM サーバと一致しない場合、[ホスト/テスト ホスト] グリッドでテスト・ホストが **[利用不可]** と表示されません。

パフォーマンス・テスト用にクラウドからホストをプロビジョニングする手順は、[「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」 \(89ページ\)](#)を参照してください。

Excel を使用したテスト・ホストのインポート

ALM または ラボ管理 では、テスト・ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) からインポートできます。

- Excel ファイルが、インポート機能によってそのカラムを認識、マップできるように設定されていることを確認します。
 - Excel ファイルの最初の行には、次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は、大文字と小文字が区別されません。)

フィールドの中には、必須のフィールド、あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

 - 必須**は、Excel ファイルに**必ずなければならない**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると、その特定の行のインポートが失敗します。
 - 必要**は、Excel ファイルに**ある必要がある**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても、このカラムのいずれかの行で値を省略すると、コードによってその行に標準設定値が追加されます。
 - 任意指定**は、Excel ファイルにある必要がないフィールドを示します。このフィールドを省略しても、インポート手順に影響はありません。
 - 仮想、参照、無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
 - 空のカラムは許可されます。

次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_NAME 必須	名前	任意の文字列	テストング・ホスト・マシンの有効な名前。
HOST_PURPOSE 必須	用途	Controller, Load Generator, QTP, Sprinter などがあります。	テストング・ホストの用途。 注: オプションの任意の組み合わせを指定できます。オプションは、スペースなしでセミコロンで区切る必要があります。 例: Controller; Data Processor; QTP
HOST_STATE 必要	ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 稼働中 非稼働 利用不可 標準設定値: 稼働中	テストング・ホストの状態。
HOST_INSTALLATION 必要	インストール	<ul style="list-style-type: none"> Unified Functional Testing Unix Load Generator Windows Host Windows 	テストング・ホストのインストールのタイプ。 注: 次には、ダブル・スペースがあります。 <ul style="list-style-type: none"> 「Windows <スペース> <スペース> Host」

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
		Standalone LG 標準設定値: Windows Host	<ul style="list-style-type: none"> 「Unix<スペース><スペース>Load Generator」
HOST_PRIORITY 必要	優先度	<ul style="list-style-type: none"> 1 - 優先度が最も低い 2, 3 ... 8 9 - 優先度が最も高い 標準設定値: 5	テストング・ホストの優先度。
HOST_SSL_ENABLED 必要	SSLの有効化	<ul style="list-style-type: none"> Y N 標準設定値: N	SSLの有効化。
HOST_USERNAME 任意指定	ユーザ名	任意の文字列	テストング・ホストへのログインで使用するユーザ名。
HOST_PASSWORD 任意指定	パスワード	任意の文字列	テストング・ホストへのログインで使用するユーザ・パスワード。
HOST_DOMAIN 任意指定	ドメイン	任意の文字列	テストング・ホストのドメイン。
HOST_DESCRIPTION 任意指定	説明	任意の文字列	テストング・ホストの説明。

次の表に指定したフィールドは、Excel ファイルに含めないでください。各ホストのインポート中に、これらのフィールドには標準設定値が割り当てられます。

フィールド名	割り当てられる標準設定値
所属プール	一般 (ALM プロジェクトから追加する場合は、プロジェクトのプール)
場所	標準設定値
MI Listener	なし

注: これらのフィールドのデータが Excel ファイルに含まれている場合、そのデータは無視されます。特定のホストに関連しない標準設定値は、ホスト・モジュールで手動で変更する必要があります。

例:

次の図は、2 台の AUT ホスト (**testabc**, **testhost**) と名前が提供されていない 3 番目のホストによる Excel ファイルの設定を示しています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	HOST_NAME	HOST_PURPOSE	HOST_STATE	HOST_INSTALLATION	HOST_PRIORITY	HOST_SSL_ENABLED	HOST_USER_NAME	HOST_PASS_WORD	HOST_DOMAN	HOST_DESCRPTION
2	testabc	Load Generator	Operational	Windows Host	3	N				Host number 1
3	testhost	ControllerLoad Generator			8	Y	user	pass	domain	
4		Data Processor		Windows Host						
5										

2. 次の手順でテストング・ホストをインポートします。

- [ラボ リソース] > [ホスト] で [テストング ホスト] > [インポート] を選択します。
- ホストを含む Excel ファイルを参照し、[開く] をクリックします。

インポート・プロセスの最後に、レポートにインポート結果が表示され、インポートされたホストがホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかったホストは、手動で追加する必要があります。

ラボ・リソースの詳細の変更/表示

[ラボ リソース] > [ホスト] を選択してからグリッドのテストング・ホストを選択し、[テストング ホストの詳細] ボタン  をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[テストング ホストの詳細\] ダイアログ・ボックス](#)」(133ページ)を参照してください。

テストング・ホストに対するホスト接続のチェック

[ラボ リソース] > [ホスト] を選択してから、グリッドのテストング・ホストを右クリックして [ホストの確認] を選択します。

タスク・マネージャが開き、ホスト上で実行された各チェックの結果全体、[成功] または [失敗] が表示されます。

ホスト・チェックの進行状況は、ホスト・モジュールの [ホストのステータスの確認] タブで確認できます。

注: 機能ホストで実行可能なテストは、[ホストへの ping] のみです。

テストング・ホストの用途と場所に基づいて、次のチェックが実行されます。

実行される チェック	Load Generator ホスト				Controller ホスト	Data Processor ホスト	機能ホスト
	通常	UNIX	スタンダ ア ロン	OFW			
ホストに対 する ping	はい	はい	はい	なし	はい	はい	はい
インスト ール済みの パッチ	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし
サービス	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし
パフォー マンス	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし
ファイ アウォール 越しのステ ータス	なし	なし	なし	はい	なし	なし	なし

あるいは、上記のチェックとともにホストから特定の URL への追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のホストを右クリックし、**URL への接続性の確認**を選択して、URL を入力します。

例：

- 通常の URL : http://www.website.com
- マシン名 : machine22 または http://machine22

ホストの再起動

[ラボ リソース] > [ホスト] を選択し、再起動するホストをグリッド内で右クリックして **ホストの再起動** を選択します。

ホストへのパッチのインストール

注：

- ホストにパッチをインストールするには、最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については、[「パッチの ALM へのアップロード方法」\(236ページ\)](#)を参照してください。
- パッチをホストにインストールできるのは、ホストの状態が **アイドル** の場合のみです。
- パッチは、パフォーマンス・ホストにのみインストールできます。

[ラボ リソース] > [ホスト] を選択し、パッチをインストールするホストをグリッド内で右クリックして **パッチのインストール** を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[インストールするパッチの選択\] ダイアログ・ボックス](#)」(142ページ)を参照してください。

ホストの再設定

注: 再設定可能なのはパフォーマンス・ホストのみです。

ホストを再設定すると、ホストのライセンス、Performance Center のシステム・ユーザ (IUSR_METRO)、ホスト・マシンの通信セキュリティ・パスフレーズがリセットされます。

ホストを再設定するには、**[ラボ リソース]** > **[ホスト]** を選択します。グリッド内の再設定するホストを右クリックし、**[ホストの再設定]** を選択します。

パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了

パフォーマンス・ホストでプロセスを終了するには、**[ラボ リソース]** > **[ホスト]** を選択します。ホストを選択し、**[プロセス]** タブでプロセスを選択して、 をクリックします。

テストング・ホストのホスト・プールへのリンク

注: ホスト・プール管理は、ラボ管理でのみ使用できます。

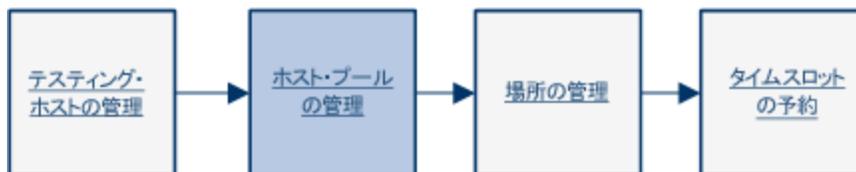
次のいずれかの方法で、ラボ管理 でホスト・プールを設定できます。

- **ホスト・モジュールからの場合:** 1つまたは複数のホスト・プールにテストング・ホストをリンクできます。
- **プール・モジュールからの場合:** 各ホスト・プールに1つまたは複数のテストング・ホストをリンクできます。詳細については、「[ホスト・プールを管理する方法](#)」(113ページ)を参照してください。

ホスト・モジュールからテストング・ホストを1つまたは複数のホスト・プールにリンクするには、次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[ホスト]** を選択します。
2. グリッドのホストを右クリックし、**[テストング ホストの詳細]** を選択します。
3. **[所属プール]** の横にある下向き矢印をクリックし、ホストを含めるプールを選択します。**[OK]** をクリックします。

ホスト・プールを管理する方法



本項では、ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行する際に、使用するテスト・ホストのプールを管理する方法について説明します。

注: 製品の機能紹介ムービー: パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALM のメイン・ウィンドウで、**[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択します。

本タスクの内容

- [「ホスト・プールの追加」](#) (114ページ)
- [「ホスト・プールの詳細の変更/表示」](#) (114ページ)
- [「ホストのホスト・プールへのリンク」](#) (114ページ)

ホスト・プールの追加

ALM でサーバ側テストを設計および実行するには、テスト・ホストをホスト・プールに追加し、ホスト・プールをプロジェクトに割り当てる必要があります。ホスト・プールの概要については、[「ラボ・リソースの概要」](#) (104ページ)を参照してください。テスト・ホストの作成の詳細については、[「テスト・ホストの管理方法」](#) (106ページ)を参照してください。

ホスト・プールを追加するには、次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[プール]** を選択します。
2. **[新規ホスト プール]** ボタン  をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[新規ホスト プール\] ダイアログ・ボックス」](#) (144ページ)を参照してください。

ホスト・プールの詳細の変更/表示

[ラボ リソース] > **[プール]** を選択してからグリッドのホスト・プールを選択し、**[ホスト プール詳細]** ボタン  をクリックします。

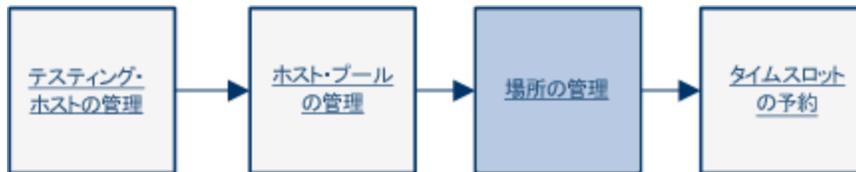
ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[ホストプール詳細\] ダイアログ・ボックス」](#) (145ページ)を参照してください。

ホストのホスト・プールへのリンク

プール・モジュールから1つまたは複数のホストを1つのホスト・プールにリンクするには、次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[プール]** を選択します。
2. グリッド内のホスト・プールを選択します。
3. **[リンクされたホスト]** タブで、**[ホストをプールに追加]**  をクリックします。グリッドからホストを選択し、**[追加]** をクリックします。
ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[リンクされたホスト\] ページ」](#) (147ページ)を参照してください。

ホストの場所を管理する方法



本項では、ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行する際に使用するテスト・ホストの場所を管理する方法について説明します。

注:

- 新しいクラウド・アカウントを ALM に追加すると、クラウドの場所が自動的に作成されます。クラウドの場所は読み取り専用です。
- **製品の機能紹介ムービー**：パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALM のメイン・ウィンドウで、**[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択します。

本タスクの内容

- [「ホストの場所の追加」](#) (115ページ)
- [「ホストの場所の詳細の変更/表示」](#) (115ページ)
- [「ホストへのホストの場所の割り当て」](#) (116ページ)

ホストの場所の追加

場所に基づいてテスト・ホストを管理するには、場所モジュールでホストの場所エンティティを作成します。ホストの場所の概要については、[「ラボ・リソースの概要」](#) (104ページ)を参照してください。テスト・ホストの作成の詳細については、[「テスト・ホストの管理方法」](#) (106ページ)を参照してください。

ホストの場所を追加するには、次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[場所]** を選択します。
2. **[新規ホストの場所]** ボタン  をクリックします。ユーザ・インターフェースの詳細については、[「\[新規ホストの場所\] ダイアログ・ボックス」](#) (150ページ)を参照してください。

ホストの場所の詳細の変更/表示

[ラボ リソース] > **[場所]** を選択してからグリッド内でホストの場所を選択し、**[ホストの場所の詳細]** ボタン  をクリックします。

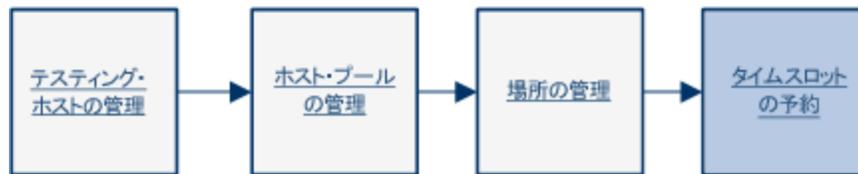
ユーザ・インターフェースの詳細については、[「\[ホストの場所詳細\] ダイアログ・ボックス」](#) (150ページ)を参照してください。

ホストへのホストの場所の割り当て

場所をホストに割り当てるには、次の手順を実行します。

1. [ラボ リソース] > [ホスト] を選択します。
 2. グリッドでテストिंग・ホストを選択して、[テストिंग ホストの詳細] ボタン  をクリックします。
 3. [テストिंग ホスト] ダイアログ・ボックスが開いたら、[場所] フィールドで場所を選択します。
- ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テストिंग ホストの詳細] ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。

タイムスロットの予約方法



このタスクでは、メンテナンス・タスクを実行するホストの予約方法を説明します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。
- テストिंग・ホストの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

1. メンテナンス・タイムスロットの作成

- a. ラボ管理サイドバーの[ホスト]で、[タイムスロット]を選択します。
- b. タイムスロットのツールバーで、[新規メンテナンス タイムスロット]  ボタンをクリックします。
- c. タイムスロットの詳細を入力し、ホストを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[タイムスロットの予約: メンテナンス\] ダイアログ・ボックス](#)」(152ページ)を参照してください。

2. 要求されたホストの可用性の確認

次のいずれかを行います。

- (推奨) [可用性の計算] をクリックします。システムにより、選択したタイムスロットに要求したホストの可用性が確認されます。この計算の結果は、[タイムスロットのステータ

ス] タブに表示され、リソース可用性予定表に視覚的に表示されます。可用性予定表には、要求されたホストを予約できるタイムスロットがすべて表示されます。要求されたホストを選択したタイムスロットで予約できない場合でも、他のタイムスロットでは利用できることがあります。

タイムスロットを予約できない場合、ホストを再度選択するときに、[タイムスロットのステータス] タブに表示された理由を検討します。タイムスロットを予約できる場合、[送信] をクリックして、タイムスロットを保存できます。

たとえば、15:00 から 1 時間、特定のホストを要求する場合は、[可用性の計算] をクリックします。可用性予定表から、17:00 ~ 21:00 はすでに予約されていることがわかります。したがって、15:00 ~ 16:00 のタイムスロットを選択するか、21:00 以降のタイムスロットを選択できます。[タイムスロットのステータス] タブでは、予約可能なタイムスロットが表示されます。

- [送信] をクリックします。システムにより、選択したタイムスロットに要求したホストの可用性が計算されます。すべてのホストが利用可能な場合、[タイムスロットの予約] ダイアログ・ボックスが閉じ、タイムスロットが予約され、タイムスロット・モジュールに表示されます。タイムスロットが予約できない場合、[タイムスロットのステータス] タブに理由が表示されます。

注: メンテナンスに予約しようとしているホストがまだ開始していない別のタイムスロットに予約されていて、メンテナンス・タスクを遅延できない場合は、まず他のタイムスロットを予約したユーザに相談してください。そのユーザが同意した場合は、他のタイムスロットの開始時刻を移動するか、適宜削除します。

メンテナンス・タイムスロットのスケジュール - 管理者のユース・ケース

Paul は、Mercury Tours のデータセンターでシステム管理者を務めています。システム管理者になって 3 年が経過し、サーバ・ラボの管理も担当しています。Mercury Tours は ALM を使用してプロジェクトを管理しており、昨年、サーバ・ラボのテスト・ホストの管理に ラボ管理 を使用することを決定しました。

テスト・ホストが正常稼働することを確認することは Paul の職務であり、ラボ管理 を使用してサーバの保守を行っています。Paul は、テスト・ホストを個々に保守できるようにメンテナンス・タイムスロットのスケジュールを設定しており、次のチェックリストを使ってタイムスロットを計画します。

- メンテナンス・タイムスロットのスケジュール設定の前提条件
- 自分のメンテナンス・タイムスロットの新規作成
- タイムスロット内でのメンテナンス・タスクの実行

Paul は、今日のメンテナンス・タイムスロットをスケジュール設定し、一部のホストを安全にシャットダウンして新しいハードウェアをインストールしようとしています。チェックリストを使用して、作業を開始します。

メンテナンス・タイムスロットのスケジュール設定の前提条件

Paul は、ラボ管理 が正常に稼働しており、テストング・ホストがすべて登録済みで使用可能な状態であることを確認します。

自分のメンテナンス・タイムスロットの新規作成

Paul は LM で [テスト] > [タイムスロット] を選択します。[タイムスロットの予約] ダイアログ・ボックスが開きます。

要求されたホスト	2014年02月14日
ホストタイプ	プロパティ
	10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00

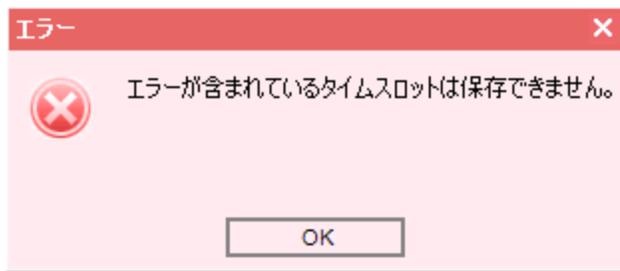
参照: 「[タイムスロットの予約: メンテナンス] ダイアログ・ボックス」(152ページ)

Paul は、[タイムスロットの予約] フィールドに次の内容を入力します。

- **名前:** Mercury Tours ホスト再起動
- **継続時間:** 1 時間 30 分
- **開始時刻:** 10/12/2012, 14:00
- **開始時刻:** 10/12/2012, 15:30

Paul は [特定のホストの追加] ボタンをクリックし、再起動するホストを選択します。

タイムスロットの詳細を再度確認してから、[送信] をクリックします。すると、エラー・メッセージが表示されました。



Paul は、[タイムスロットの予約] ダイアログ・ボックスの下にある [タイムスロットのステータス] タブを確認します。

タイムスロットのステータス	説明
---------------	----

タイムスロットを予約できません。

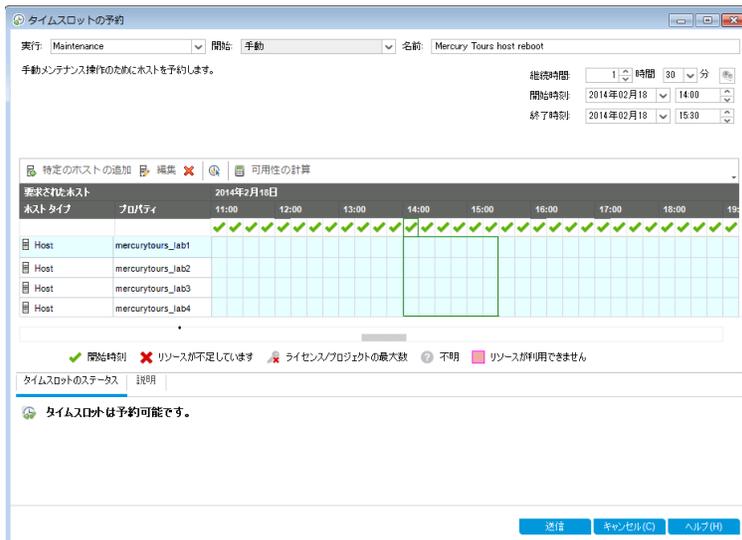
次のホストは既に使用中です: mercurytours_lab2

メッセージには、mercurytours_lab2 ホスト (再起動するために予約していたテストング・ホストの1つ) が指定のタイムスロットですでに予約されておりことが表示されています。この競合を解消しないと、メンテナンス用にホストを予約することはできません。

Paul が選択できるのは、別のタイミングでメンテナンスを行う方法と、テストング・タイムスロットの所有者に連絡してテストング・タイムスロットの移動を依頼する方法のいずれかです。

Paul がテスト担当者の名前を確認したところ、テストング・タイムスロットを予約したのは John であることがわかりました。John は仲の良い友人です。電話で連絡し、テストング・タイムスロットを 16:00 に変更できないか尋ねたところ、快く応じてくれました。

Paul はテストング・タイムスロットを開き、開始時間を変更しました。これにより、メンテナンス・タイムスロットを 14:00 に予約することができました。



タイムスロット内でのメンテナンス・タスクの実行

14:00 になると、Paul はサーバ・ラボ内のテスト・ホストをシャットダウンし、新しいハードウェアをインストールします。作業が完了したら、サーバを再起動してテストします。完了までに1時間しかかからなかったため、タイムスロットの終了時間には十分間に合います。

ラボ・リソース・モジュールのユーザ・ インタフェース

本項の内容

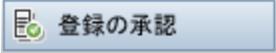
- [ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン](#) 121
- [ホスト・モジュール](#) 125
- [プール・モジュール](#) 142
- [場所モジュール](#) 148
- [タイムスロット・モジュール](#) 151

ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン

ラボ・リソース・モジュールを使用すると、テスト実行に使用するラボ・リソースを管理できます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一部のリソースは、ラボ管理でのみ使用できます。管理者権限を持つユーザのみ、これらのリソースを管理できます。 ラボ管理の管理者以外のユーザは、自身のプロジェクトに属するホストの詳細とホスト・プールの詳細の表示、ホストの再設定、再起動、ホスト上でのホスト接続のチェックを行うことができます。 このトピックは、次のラボ・リソース・モジュールのすべてに関連します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト プール 場所 MI Listener (Performance Center グループで利用可能) <p>これらすべてのリソースは、通常、<リソース>として参照されます。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「ラボ・リソースの管理」 (106ページ)</p>

ラボ・リソース・モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
<p>お気に入りに追加</p>	<p>お気に入り</p>	<p>〔追加 お気に入り〕ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール</p>	<p>テストング・ホストの登録を承認できます。これにより、テスト実行にそのホストが使用できるようになります。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択したホストの〔登録自動承認〕フィールドが「Y」の場合、このボタンは無効になります。 このボタンはラボ管理のみで表示されません。ホストの追加に使用したプロジェクトには関係しません。
<p>自動更新</p> 	<p>ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール</p>	<p>グリッドを 30 秒ごとに自動更新します。</p>
	<p>ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール</p>	<p>〔ホストの確認〕ボタンと同じチェック、任意の指定された URL への接続性のチェックを実行します。</p>

UI 要素	場所	説明
 ホストの確認	ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール	機能ホストの場合、選択したテスト・ホストに有効な用途が関連付けられているかどうかをチェックします。検証チェックの結果は、[タスクマネージャ] ダイアログ・ボックスに表示されます。 パフォーマンス・ホストの場合、選択したホストとシステム内の他のマシン間の接続性をチェックします。
 Data Processor キュー	ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール	[Data Processor キュー] ウィンドウが開き、保留中のデータ処理要求を表示できます。 注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
削除 	[編集] と <右ク リック・メニュー>	グリッド内の選択したリソースを削除します。 注: ホストが使用中の MI Listener は、削除できません。
<リソース> の詳細 	ツールバーと右ク リック・メニュー	[<リソース> の詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリソースの詳細を表示、編集できます。
エクスポート	ツールバーと <右ク リック・メニュー>	[すべてのグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き、リソースを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• すべてエクスポート: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。• 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索 	表示	[検索] ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リソース> に移動 	ツールバー	[<リソース> に移動] ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のリソースを検索できます。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	[表示] と <右ク リック・メニュー>	[フィルタ] ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ホスト・プロビジョニング・レポー	ホスト/テスト	選択したクラウド・ホストのプロビジョニング・レ

UI 要素	場所	説明
ト	グ・ホスト・モジュール	ポートを表示します。詳細については、「 ホスト・プロビジョニング・レポート 」(96ページ)を参照してください。複数のホストを選択した場合やクラウド・ホスト以外を選択した場合、このオプションは無効になります。
インポート	ホスト/テストイング・ホスト・モジュール	lab ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) から ALM (.xls または .csv 形式) にインポートできます。
情報パネル	【表示】と <右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。
 パッチのインストール	ホスト・モジュール	<p>【パッチのインストール】ダイアログ・ボックスが開き、選択したホストにインストールするパッチを選択できます。詳細については、「インストールするパッチの選択」ダイアログ・ボックス」(142ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> Controller ホストと Load Generator ホストが 【実行中】 状態の場合、これらのホスト上でパッチのインストール機能は使用できません。これらのホストがアイドル時のみ、パッチをインストールできます。 この機能は、ALM 認定パッチのインストールのみに使用してください。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 <p>利用可能な場所: ラボ管理のみ。</p>
最終プロビジョニング・レポート	ホスト/テストイング・ホスト・モジュール	最後にプロビジョニングしたクラウド・ホストのプロビジョニング・レポートを表示します。詳細については、「 ホスト・プロビジョニング・レポート 」(96ページ)を参照してください。
新規 <リソース> 	ツールバー	リソースを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
プロビジョニング 	ホスト/テストイング・ホスト・モジュール	クラウド・ホストのプロビジョニングを行います。詳細については、「 クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法 」(89ページ)を参照してください。

UI 要素	場所	説明
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
 クイック フィルタ: 	ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール	<p>クイック・ビューとは、ホスト・グリッドで事前定義されているフィルタです。次のクイック・ビューを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてのホスト：すべてのホストを表示します。このビューには、クラウド、ローカル、パフォーマンス、機能の各種ホストが含まれます。 • 機能テストング・ホスト：UFT, Service Test Professional, Business Process Testing, システム・テスト, VAPI-XP 用のホストをすべて表示します。 • すべてのパフォーマンス・テストング・ホスト：Controller, Data Processor, Load Generator 用のホストをすべて表示します。このビューには、クラウド・ホストとローカル・ホストが両方含まれます。 • ローカル・パフォーマンス・テストング・ホスト：ローカルのパフォーマンス・テストング・ホストをすべて表示します。 • クラウド Load Generator：クラウド Load Generator をすべて表示します。
 ホストの再起動	ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール	<p>リモートでホスト・マシンを再起動できます。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Controller ホストと Load Generator ホストは、【実行中】状態の場合、再起動できません。アイドル時にのみ、これらのホストを再起動できます。 • UNIX Load Generator ホストは再起動できません。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
 ホストの再設定	ホスト/テスト ング・ホスト・モ ジュール	<p>選択したホスト・マシンの次の項目をリセットします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト・ライセンス • システム・ユーザ (IUSR_METRO) • 通信セキュリティ・パスフレーズ <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一度に1つのホストのみ再設定できます。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。

UI 要素	場所	説明
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集] と <右クリック・メニュー>	グリッドに <置換> ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・サマリ・パネルの表示	ホスト/テスト グ・ホスト・モ ジュール	ホスト・グリッドの上に [クラウドサマリ] パネルを表示します。
	ホスト/テスト グ・ホスト・モ ジュール	テスティング・ホストの登録を解除できます。これにより、テスト実行にそのホストが使用できなくなります。
選択項目の更新	[編集] と <右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

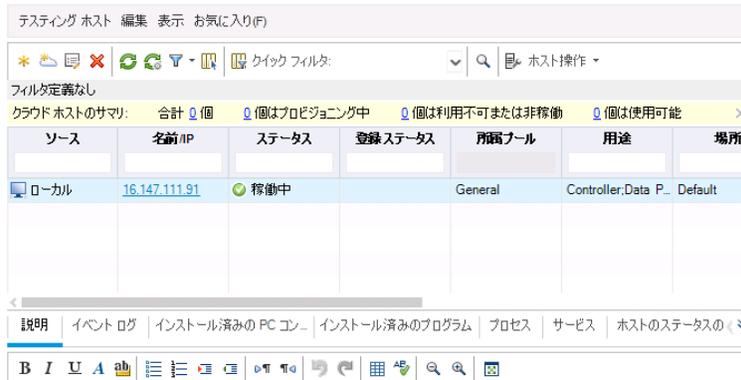
ホスト・モジュール

- [ホスト/テスト・ホスト・モジュールのウィンドウ](#) 126
- [ホストのフィールド](#) 128
- [\[新規テストホスト\] ダイアログ・ボックス](#) 132
- [\[テストホストの詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 133
- [イベント・ログ](#) 135
- [\[プロセス\] ページ](#) 137
- [\[サービス\] ページ](#) 138
- [\[ホストのステータスの確認\] ページ](#) 139

- [【ファイアウォール越し】 ページ](#)140
- [【インストールするパッチの選択】 ダイアログ・ボックス](#)142

ホスト/テストング・ホスト・モジュールのウィンドウ

このモジュールを使用すると、テスト実行に使用するホストを表示および管理できます。



アクセス方法	<p>ラボ管理：サイドバーの 【ラボ リソース】 で、【ホスト】 を選択します。</p> <p>ALM：サイドバーの 【ラボ リソース】 で、【テストング ホスト】 を選択します。</p>
重要な情報	<p>一部の要素は、パフォーマンス・ホストでのみ表示されます。</p> <p>ラボ管理：ホスト・モジュールによって、利用可能なすべてのホストのリストが表示されます。</p> <p>ALM：テストング・ホスト・モジュールによって、プロジェクトのホスト・プール内のすべてのホストのリストが表示されます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ALM のエディション：機能テストング・ホスト管理に関連する一部の機能は ALM Edition にのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理者に問い合わせてください。</p> </div>
関連タスク	「テストング・ホストの管理方法」 (106ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・モジュールの共通の	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト・モジュールのフィールド：フィールドの定義については、「ホストのフィールド」 (128ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト・モジュールのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(121ページ)を参照してください。
<クラウド・サマリ・パネル>	<p>クラウド・ホストのサマリ情報を、ステータスとホストの状態ごとに表示します。ステータス/ホストの状態の横にある数値をクリックすると、そのステータス/ホストの状態に基づいてホスト・グリッドをフィルタ処理できます。</p> <p>【クラウドサマリ】パネルを表示：[クラウド]メニューで【クラウドサマリパネルの表示】を選択します。</p> <p>【クラウドサマリ】パネルを閉じる：表示枠の右にあるXボタンをクリックします。</p>
<ホスト・グリッド>	ALM内のホストのリストを表示します。
【説明】タブ	<p>現在選択されているホストについての説明が表示されます。</p> <p>ヒント:この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
【イベントログ】タブ	<p>選択したホストで実行されているタスク、操作のステータス、エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「イベント・ログ」(135ページ)を参照してください。</p>
【インストール済みのPCコンポーネント】タブ	<p>ホスト・マシンにインストールされているPCコンポーネント(バージョンとパッチを含む)のリストを表示します。</p> <p>注:パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>グリッドを更新するには、をクリックします。</p>
【インストール済みのプログラム】タブ	<p>ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には、バージョン、ソフトウェアの発行元、ホスト・マシンにインストールされた日付が含まれます。</p> <p>注:パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>グリッドを更新するには、をクリックします。</p>
【プロセス】タブ	<p>選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。</p> <p>注:パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>詳細については、「【プロセス】ページ」(137ページ)を参照してください。</p>
【サービス】タブ	<p>ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。</p> <p>注:パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>詳細については、「【サービス】ページ」(138ページ)を参照してください。</p>
【ホストのステータスの確認】タブ	<p>ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには、[ホストのステータスの確認]タブの行を右クリックし、【ホストステータスの詳細の確認】を選択します。詳細については、「ホストのステータスの確認のフィー</p>

UI 要素	説明
	ルド (140ページ)を参照してください。
【PC 実行】 タブ	選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。詳細については、 「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」 (157ページ)を参照してください。
【ファイアウォール越し】 タブ	ファイアウォール越しのホストの場合、ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、 「【ファイアウォール越し】 ページ」 (140ページ)を参照してください。 注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
【履歴】 タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホストのフィールド

本項では、ホストのフィールドについて説明します。ラボ管理 で、プライベート・ホストおよびパブリック・ホストのフィールドを変更できます。ALM では、プライベート・ホストのフィールドのみが変更できます。

フィールド	説明
アクティブなタイムスロット ID	このホストが予約されていて、現在開いているタイムスロットの ID。
所属プール	ホストの割り当て先のホスト・プール。 ホスト・プールを使用すると、どのホストをどのホスト・プールに割り当てるかを制御できます。テスト用のホストを割り当てる場合、システムでは、プロジェクトのホスト・プールからホストを割り当てます。ホストは少なくとも1つのプールに割り当てする必要があります。 注: プライベート・ホストは、1つのプールにしか割り当てできません。 利用可能な場所: ラボ管理 のみ。
クラウド・アカウント	ホストのプロビジョニングで使用したクラウド・アカウントの名前。
クラウド・ホスト ID	クラウド・プロバイダがホストに割り当ててる一意の ID。
クラウド・イメージ	クラウド・ホストに適用するマシン・イメージ。
クラウド・インスタンス・タイプ	クラウド・ホストのインスタンス・タイプ。
クラウド要求 ID	単一のプロビジョニング要求を示すクラウド・プロバイダの ID。プロビジョニング要求には、対象となるホストのバッチがすべて含まれます。バッチにはそれぞれのクラウド要求項目 ID が割り当てられています。

フィールド	説明
	<p>ヒント: クラウド要求 ID でフィルタ処理すると、あるプロビジョニング要求でプロビジョニングされたホストがすべて表示されます。</p>
クラウド要求項目 ID	<p>プロビジョニング要求に含まれるホストのバッチに割り当てられたクラウド・プロバイダ ID。バッチ内のホストは、仕様と設定がすべて同じです。</p> <p>ヒント: クラウド要求項目 ID でフィルタ処理すると、あるホスト・バッチでプロビジョニングされたホストがすべて表示されます。</p>
クラウド・テンプレート	<p>ホストのプロビジョニングに使用したホスト・テンプレート。ホスト・テンプレートを変更しても、そのテンプレートを元にプロビジョニングを行った既存のホストには影響しません。</p>
作成されたプロジェクト	<p>ホストが作成されたプロジェクト。プライベート・ホストなど、ラボ管理内のすべてのホストを変更できます。ALM では、プロジェクトのプール内のプライベート・ホストのみを作成し、変更できます。</p> <p>注: ラボ管理でのみ表示できます。</p>
説明	<p>ホストの説明。</p>
SSL の有効化	<p>Load Generator ホストと Controller との通信を SSL (Secure Socket Layer) 経由で行うかどうかを示します。</p> <p>注: Load Generator は、実行時にのみ SSL を使用して Controller と通信します。実行時以外の機能 (結果の照合など) では、Load Generator は通信プロトコルとして SSL を使用しません。</p> <p>ファイアウォール越しの Load Generator ホストにのみ関連します。</p>
自動適合から除外	<p>このフィールドを Y に設定すると、自動適合でホストを選択できなくなります。ホストを選択するには、名前を指定する必要があります。</p> <p>この設定は、機能ホストのみに適用されます。</p>
ホスト属性	<p>ホストのシステム属性。</p> <p>例: メモリ、強度、インストールされているコンポーネント。</p> <p>ヒント: ホスト属性はラボ管理でカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
ホスト ID	<p>ホストの ID。</p>
ホストの状態	<p>ホスト上の現在のアクティビティ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイドル: ホストが使用されていないことを示します。 ・ インストール中: バッチをホストにインストール中であることを示します。 ・ 再起動中: ホストを再起動中であることを示します。 ・ <実行状態>: パフォーマンス・テストの実行中のホストの状態を示します。 ・ <データ処理の状態>: データ処理タスク中のホストの状態を示します。 ・ <プロビジョニング状態>: クラウド・ホストのプロビジョニング・ステータスを示します。ホストのプロビジョニングが完了すると、[ホストの状態] は「アイドル」になり

フィールド	説明
	ます。
ホスト・バージョン	<p>テスト・ホストにインストールされている Lab Service エージェントのバージョン。</p> <p>注意: テスト・ホストにインストールされている Lab Service エージェントと ALM サーバのバージョンが異なる場合、テスト・ホストのステータスは 【利用不可】 になり、サーバ側のテストを実行できなくなります。テスト・ホストを使用可能な状態に戻すには、Lab Service エージェントを最新バージョンにアップグレードし、テスト・ホスト・グリッドでステータスを 【稼働中】 にリセットします。</p>
インストール	<p>ホストのインストール・タイプ。</p> <p>次のタイプを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows UFT : このホストに Unified Functional Testing がインストールされていることを示します。 HP Unified Functional Testing (UFT) は、以前は HP QuickTest Professional と HP Service Test と呼ばれていた製品で構成されています。 <ul style="list-style-type: none"> • QuickTest の機能は、UFT では GUI テストと呼ばれます。 • Service Test の機能は、UFT では API テストと呼ばれます。 <p>注: [Windows UFT] を選択すると、Service Test と QTP が標準設定の用途として選択されます。Windows UFT のインストールでは、この標準設定の用途を1つ以上含める必要があります。</p> • Unix Load Generator : この Unix ホストを、パフォーマンス・テストで Load Generator として使用することを示します。 • Windows Host : この Windows ホストは、パフォーマンス・テスト (Controller, Load Generator, Data Processor) または汎用機能テスト (システム・テスト, Vapi-XP など) で使用可能であることを示します。 • Windows Standalone LG : この Windows ホストを、パフォーマンス・テストでスタンドアロン Load Generator として使用することを示します。 <p>注: 既存のホストのこのフィールドは変更できません。</p>
最終設定チェック	実行済みの最後の設定チェック。
最終接続性チェック	実行済みの最後の接続チェック。
最終インストール・チェック	実行済みの最後のインストール・チェック。
最終パフォーマンス・チェック	実行済みの最後のパフォーマンス・チェック。
最終ポーリング時刻	実行済みの最後のポーリング時刻。
最終回復時刻	ホストのステータスが「稼働中」に復帰した最終時刻。ホストが稼働できない状態になると、ALM はホストの状態を「非稼働中」に変更します。その後、稼働状態に復帰すると、ALM はステータスを「稼働中」に変更し、 【最終回復時刻】 フィールドをタイムスタンプで更新します。

フィールド	説明
最終実行のタイムスロット ID	ホスト上でパフォーマンス・テストまたはデータ処理が行われたタイムスロットの ID。
場所	ホストの場所。たとえば、物理的領域に従って場所を定義できます。 場所によって、ホストがファイアウォール越しにあるかどうか判断できます。ファイアウォール越しにある場合、データ収集を有効にする MI Listener を選択する必要があります。
論理名	ホストの名前または IP アドレス。
名前/IP	ホストの名前または IP アドレス。 注: ホスト名は、サフィックスを付けずに入力します。
パスワード	ホスト・マシン上の Performance Center システム・ユーザのパスワード。 標準設定値: P3rfoRm@1nce 注: <ul style="list-style-type: none"> Performance Center システム・ユーザの名前とパスワードは、UNIX ホスト、以前のバージョンの Performance Center から移行されたホストでのみ表示されます。 新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード(ここでは詳細は表示されません)は、残りの Performance Center システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。
MI Listener	データ収集を可能にする MI Listener の IP アドレスまたは名前。 ファイアウォール越しのホストにのみ関連します。
優先度	ホストに割り当てられているランク。ホストに指定する優先度が高いほど、そのホストがテストに割り当てられる可能性が高くなります。優先度の割り当てでは、さまざまな条件を考慮する必要があります。主な考慮点は、ホストが専用マシンかどうか、そのマシンにインストールされているハードウェアのタイプです。
プロバイダの場所 ID	クラウド・ホストのプロビジョニングに使用した領域。
用途	ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば、Controller, Load Generator, Data Processor, QuickTest Professional, Sprinter があります。 注: <ul style="list-style-type: none"> ホスト・マシンがファイアウォール越しに配置されている場合、または UNIX マシンである場合、Controller または Data Processor として使用することはできません。 インストール・オプションとして [Windows Standalone LG] または [Unix Load Generator] を選択した場合、ホストの用途として [Load Generator] が自動的に選択され、他のオプションは無効になります。
登録自動承認	テストिंग・ホストが HP ALM Lab Service による登録後に自動承認されたかどうかを示します。 詳細については、「 HP ALM Lab Service の使用 」(289ページ)を参照してください。
登録要求日	新しく追加したテストिंग・ホストから ALM がホスト登録要求を受信した日時。

フィールド	説明
登録要求詳細	登録要求を送信したホストに関する詳細情報。
登録ステータス	<p>ホストの登録のステータス。テスト用のホストを使用するには、最初に HP ALM Lab Service を使用してホストを登録する必要があります。ホストはラボ管理のラボ管理者によって承認する必要があります。</p> <p>詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(289ページ)を参照してください。</p> <p>注: [登録ステータス] が [未登録] の場合、ホストの [ステータス] を「稼働中」に変更することはできません。</p>
ユーザ用に予約	<p>このホストへのアクセスが許可されるユーザです。</p> <p>この設定は、機能ホストのみに適用されます。</p>
ソース	<p>テストिंग・ホストのソース。</p> <p>ローカル: ホストはテストिंग・ラボ内にあります。</p> <p>クラウド: ホストはクラウド・プロバイダからプロビジョニングされています。</p>
ステータス	<p>ホストのステータス。ホスト名の横に表示される、現在のステータスを示すインジケータ。可能性のあるステータスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 稼働中: ホスト・マシンは稼働しています。 非稼働: ホスト・マシンはダウンしています。 利用不可: ホストのステータスに関して利用可能な情報はありません。
ユーザ名	<p>ホスト・マシン上のシステム・ユーザの名前。</p> <p>標準設定値: IUSR_METRO</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> システム・ユーザの名前とパスワードは、UNIX ホスト、以前のバージョンのラボ管理から移行されたホストでのみ表示されます。 新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード(ここでは詳細は表示されません)は、残りのラボ管理システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。

[新規テストングホスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスではテストング・ホストを作成できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ラボ管理: [ラボリソース] で [テストングホスト] を選択します。[新規テストングホスト]  ボタンをクリックします。 ALM: [ラボリソース] で [テストングホスト] を選択します。[新規テストングホスト]  ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> 新しいパブリック・ホストを作成できるのは、ラボ管理内のみです。ALM 内で作成したホストはプライベート・ホストとみなされ、プロジェクトのホスト・プールに直接追加され

	<p>ます。プライベート・ホストは、ALM 内で変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホストを Load Generator として使用する場合は、ファイアウォール越しにのみ作成できません。
関連タスク	「テスト・ホストの管理方法」(106ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア ：データをクリアします。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
名前	<p>新規ホストの名前。</p> <p>ヒント: ホストに意味のある名前を付けてください。これは、ホストの場所、用途、タイプ、ID、オペレーティング・システムから作成できます。名前により多くの情報を付加すれば、システムの使用と保守がより簡単になります。名前は覚えやすく、長くしすぎないでください。</p> <p>注意: リモート・ホスト上で機能テストを実行するために、ドメイン名を含まないコンピュータ名である必要があります。入力した名前が登録するホストの名前と一致しない場合、登録は失敗します。</p>
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用可能なホスト・フィールドの詳細については、 「ホストのフィールド」(128ページ) を参照してください。

「テスト・ホストの詳細」ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホストの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ラボ管理：[ラボリソース] で 「テスト・ホスト」 を選択します。グリッドのホストを右クリックし、「テスト・ホストの詳細」 を選択します。 ALM：[ラボリソース] で 「テスト・ホスト」 を選択します。グリッドのホストを右クリックし、「テスト・ホストの詳細」 を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> このダイアログ・ボックスは、ラボ管理 と ALM の両方で利用できます。

	<ul style="list-style-type: none"> 一部のUI要素は、パフォーマンス・ホストでのみ使用できます。
関連タスク	「テストング・ホストの管理方法」(106ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し、 a?b は acb を返します。
ホスト ID	ホストの ID。
名前	ホストの名前です。
詳細	現在選択されているホストの詳細が表示されます。使用可能なホストのフィールドについては、 「ホストのフィールド」(128ページ) を参照してください。
インストール済みの PC コンポーネント	ホストにインストールされている Performance Center コンポーネント (バージョンとパッチを含む) のリストを表示します。 注: <ul style="list-style-type: none"> すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
イベント・ログ	選択したホストで実行されているタスク、イベント・ステータス、エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、 「イベント・ログ」(135ページ) を参照してください。
インストール済みのプログラム	ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には、バージョン、ソフトウェアの発行元、ホスト・マシンにインストールされた日付が含まれます。 注: <ul style="list-style-type: none"> すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使

UI 要素	説明
	<p>用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
プロセス	<p>選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については、「【プロセス】ページ」(137ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
サービス	<p>ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。詳細については、「【サービス】ページ」(138ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
ホストのステータスの確認	<p>ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには、「ホストのステータスの確認」タブの行を右クリックし、「ホストステータスの詳細の確認」を選択します。詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(140ページ)を参照してください。</p>
PC 実行	<p>選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。詳細については、「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(157ページ)を参照してください。</p> <p>注: すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。</p>
ファイアウォール越し	<p>ファイアウォール越しのホストの場合、ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、「【ファイアウォール越し】ページ」(140ページ)を参照してください。</p> <p>注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p>
履歴	<p>現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

イベント・ログ

イベント・ログには、プロジェクトで発生したイベントが表示され、各イベントの原因と重大度が報告されます。

アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">  をクリックして 【イベント ログ】 を選択します。
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【イベント ログ】 タブを選択します。 <p>利用可能なモジュール：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラボ管理の場合：ホスト，PCテスト実行，タイムスロット，PCサーバ ・ ALM プロジェクト：タイムスロット(グリッド・ビューのみ)，ホスト，テスト実行
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・ログは，グリッド・ビューでのみ利用可能です。 ・ イベント・ログには，関連する選択内容の情報が表示されます。つまり，プロジェクト全体，タイムスロット，ホスト，サーバなどのイベントが表示されます。 ・ 削除可能なイベントをEVENT_LOGデータベース・テーブルに残しておく期間(日数)は，EVENT_LOG_PURGE_PERIOD_DAYS サイト・パラメータによって決定されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	フィルタの設定 ：イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 ：[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，イベント・ログに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	更新 ：最新の情報が表示されるように，イベント・ログを更新します。
	すべてエクスポート ：[すべてのグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き，グリッドのリソースを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，またはHTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。 例 ：サーバの作成。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。 例 ：PCサーバ：VM05
作成日	イベントがログに記録された日時。
説明	イベントの説明。
イベント・ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順に，エラー，警告，または情報。
フロー・コンテキスト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば，テストの実行など。
モジュール	イベントの原因となった ALM モジュール。 例 ：テスト

UI 要素	説明
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。
ソース	イベントの原因となったシステム要素。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 例: テスト・ラボ

[プロセス] ページ

このページには、選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ホスト・モジュールからの場合: サイドバーの [ラボ リソース] で、[ホスト] を選択します。情報パネルで、[プロセス] を選択します。 [ホスト詳細] ダイアログ・ボックスからの場合: サイドバーの [ラボ リソース] で、[ホスト] を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細] を選択します。[ホスト詳細] ダイアログ・ボックスで、[プロセス] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ALM では、UNIX マシンまたは Windows スタンドアロン Load Generator に関するプロセスおよびリソースの使用情報を表示できません。 [プロセス] ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「テスト・ホストの管理方法」 (106ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	プロセスの強制終了: グリッド内の選択したプロセスを終了します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト・モジュールの場合: 選択したプロセスを終了するには、プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。 ラボ管理サーバ・モジュールの場合: ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。
自動更新	選択した期間が経過した後にグリッドを自動的に更新します。
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 名前: プロセスの名前。 PID: プロセス ID。 プロセッサ時間 (%): プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • メモリ使用量 (KB) : プロセスが使用するメモリ量 (KB)。 • 経過時間 (d.hh:mm:ss) : プロセス開始以降に経過した時間で、dは日数、hh:mm:ssは経過した時間、分、秒です。
<ナビゲーション領域>	グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。 ページの下部にあります。

[サービス] ページ

このページには、選択したホストのサービスが表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト・モジュールの場合 : サイドバーの [ラボ リソース] で、[ホスト] を選択します。情報パネルで、[サービス] を選択します。 • [ホスト詳細] ダイアログ・ボックスの場合 : サイドバーの [ラボ リソース] で、[ホスト] を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細] を選択します。[ホスト詳細] ダイアログ・ボックスで、[サービス] を選択します。
重要な情報	[サービス] ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「テストング・ホストの管理方法」(106ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新 : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
名前	サービスの名前。
表示名	サービスの正式名。
ステータス	サービスのステータス : [Running] または [Stopped] 。
スタートアップ・タイプ	サービスのスタートアップの設定方法 : <ul style="list-style-type: none"> • Auto : サービスが自動的に開始します。 • Disabled : サービスは無効になっています。 • Manual : サービスは手動で開始する必要があります。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり、グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。

[ホストのステータスの確認] ページ

このページには、選択したホストのチェックのステータスが表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト・モジュールからの場合：サイドバーの [ラボ リソース] で、 [ホスト] を選択します。ホストを選択し、情報パネルで、 [ホストのステータスの確認] を選択します。 • 【ホスト詳細】ダイアログ・ボックスからの場合：サイドバーの [ラボ リソース] で、 [ホスト] を選択します。ホストを右クリックして、 [ホスト詳細] を選択します。 [ホストの詳細] ダイアログ・ボックスで、 [ホストのステータスの確認] を選択します。
関連タスク	「 テストング・ホストの管理方法 」 (106ページ)
参照情報	「 ラボ・リソースの概要 」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	ホストのステータスの確認の詳細 ： [ホストのステータスの確認詳細] ダイアログ・ボックスが開き、各チェックの詳細を表示できます。フィールドの詳細については、 「 ホストのステータスの確認のフィールド 」 (140ページ)を参照してください。
	すべて更新 ：最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 ：グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 ： [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 ： [検索] ダイアログ・ボックスが開き、確認を検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<ホストのステータスの確認のグリッド>	ホストの確認のステータスを表示します。グリッドに表示するカラムを選択するには、  をクリックします。フィールドの詳細については、「 ホストのステータスの確認のフィールド 」 (140ページ)参照してください。

ホストのステータスの確認のフィールド

【ホストのステータスの確認】ページには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
実際の値	ホストの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	ホストの確認機能によってチェックされるホストの領域。 <ul style="list-style-type: none">• 設定• 接続性• インストール• パフォーマンス
確認	ホストの確認機能によってチェックされるホストのサブ領域。たとえば、パフォーマンス・チェックの場合のサブ領域は、 プロセッサ 、 メモリ 、 システム です。
確認日	ホストがチェックされた日付。
確認結果 ID	ホストの確認の各ステップの ID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合、エラーを表示します。
期待値	ホストの確認による期待される値。
ステータス	ホストの確認が成功または失敗したかを示します。

【ファイアウォール越し】ページ

このページには、Performance Center Load Generator ホストと MI Listener 間の通信設定が表示され、選択した Load Generator ホストのファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none">• ホスト・モジュールからの場合：サイドバーの [ラボリソース] で、[ホスト] を選択します。情報パネルで、[ファイアウォール越し] を選択します。• 【ホスト詳細】ダイアログ・ボックスからの場合：サイドバーの [ラボリソース] で、[ホスト] を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細] を選択します。[ホストの詳細] ダイアログ・ボックスで、[ファイアウォール越し] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• ホストの場所がファイアウォール越しとして定義されている場合に、このページにその情報が表示されます。• ファイアウォール越しのホストは、Load Generator ホストとしてのみ使用できます。• 【ファイアウォール越し】ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">• 「テストング・ホストの管理方法」(106ページ)• 「MI Listener を管理する方法」(211ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none">• 「ラボ・リソースの概要」(104ページ)• 「MI Listener の概要」(211ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
接続タイムアウト (秒)	<p>エージェントがMI Listener マシンに接続を再試行するまでの待ち時間 (秒単位)。ゼロの場合、接続はエージェントの実行時点から開いたままになります。</p> <p>標準設定値 : 20 秒</p> <p>注: このフィールドは必要なフィールドです。</p>
接続の種類 - TCP/HTTP	<p>使用している設定に応じて、[TCP] または [HTTP] を選択します。</p> <p>標準設定値 : TCP</p>
HTTP	<p>HTTP 接続タイプ用の HTTP の設定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロキシの名前 : プロキシ・サーバの名前。[接続の種類] オプションが [HTTP] に設定されている場合、このフィールドは必須です。 • プロキシ・ポート : プロキシ・サーバの接続ポート。[接続の種類] オプションが [HTTP] に設定されている場合、このフィールドは必須です。 • プロキシ・ユーザ名 : プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前。 • プロキシ・パスワード : プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。 • プロキシ・ドメイン : プロキシ・サーバの設定で定義されている場合のユーザのドメイン。このオプションは、NTLM を使用する場合にのみ必要です。
MI Listener パスワード	<p>MI Listener マシンへの接続に必要なパスワード。</p>
MI Listener ユーザ名	<p>MI Listener マシンへの接続に必要なユーザ名。</p>
ポーリング・タイムアウト (秒)	<p>ファイアウォール越しの Load Generator のステータスを確認するために、ALM は Load Generator が最後に MI Listener に接続した時期を確認します。</p> <p>Load Generator が [ポーリングタイムアウト] で設定した時間数より長い時間 MI Listener マシンに接続されなかった場合、ラボ管理によって Load Generator のステータスは [リソースエラー] に変更されます。</p> <p>標準設定値 : 60 秒</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • このフィールドは必要なフィールドです。 • [ポーリングタイムアウト] は ALM の設定です。Performance Center エージェントでは設定されません。 • ポーリング・タイムアウト は、以下に示す接続タイムアウトより長くなるように指定する必要があります。
セキュア接続を使用	<p>Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用して通信できます。</p> <p>標準設定値 : 無効</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバ証明書を確認 : サーバから送信される SSL 証明書を認証します。サーバ証明書が信頼された証明機関によって署名されていることを確認するには、[Medium] を選択します。送信者の IP アドレスが証明書の情報と一致することを確認するには、[High] を選択します。この設定は、[セキュア接続を使用] が [True] に設定されている場合にのみ利用できます。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 秘密キー・パスワード: SSL 証明書の認証プロセス中に必要となるパスワード。このオプションは、「クライアント証明書の所有者」 オプションが有効になっている場合にのみ関係します。 • クライアント証明書を使用: SSL 証明書を読み込むことができます (接続を許可するためにサーバが必要な場合)。このオプションは、「セキュア接続を使用」 オプションが有効になっている場合にのみ関係します。 <p>標準設定値: 無効</p>

「インストールするパッチの選択」ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、パフォーマンス・ホストにパッチをインストールできます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの 「ラボ リソース」 で、「ホスト」 を選択します。 2. 「ホスト操作」 ドロップダウン矢印をクリックし、「パッチのインストール」 を選択します。 <p>ヒント: パッチは、複数のホストに同時にインストールできます。複数のホストを選択するには、キーボードの CTRL キーを押しながらホストを選択します。</p>
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • ラボ管理のみでパッチをインストールできます。 • ホストにパッチをインストールするには、最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については、「パッチの ALM へのアップロード方法」 (236ページ) を参照してください。
関連タスク	「テスト・ホストの管理方法」 (106ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<パッチ・グリッド>	選択したホストにインストールできる、ALM 内のパッチを表示します。

プール・モジュール

- **プール・モジュール・ウィンドウ**143
- **プール・フィールド** 144
- **「新規ホスト プール」ダイアログ・ボックス** 144
- **「ホスト プール詳細」ダイアログ・ボックス** 145

- [\[ホストをプールに追加\] ダイアログ・ボックス](#) 146
- [\[リンクされたホスト\] ページ](#) 147

プール・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、ホスト・プールを表示、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [ラボリソース] で、 [プール] を選択します。
重要な情報	<p>ホスト・プールとは、ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。</p> <p>HP ALM (Performance Center Edition) パフォーマンス・ホストでホスト・プールを管理する場合、利用可能な総リソースを理解することが重要です。ホスト・プールには、少なくとも1つの Controller, 1つの Load Generator, 1つの Data Processor が含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため、プールには、他のホストの中でも Controller 機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。</p> <p>プライベート・ホストは、一度に1つのプールにしか存在できません。</p> <p>ホスト・プールにホストを追加する方法はいくつかあります。 「テストング・ホストの管理方法」(106ページ)を参照してください。</p>
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(113ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・プール・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> • プール・モジュールのフィールド: フィールドの定義については、 「プール・フィールド」(144ページ)を参照してください。 • プール・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、 「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(121ページ)を参照してください。
<ホスト・プールのグリッド>	ALM 内で定義されているホスト・プールのリストを表示します。
[説明] タブ	<p>現在選択されているホスト・プールについての説明が表示されます。</p> <p>ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[リンクされたホスト] タブ	ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、 「[リンクされたホスト] ページ」(147ページ) を参照してください。
[履歴] タブ	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プール・フィールド

本項では、ホスト・プールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
C + LG ホスト	ホスト・プール内の Controller と Load Generator を兼用したホストの数。
Controller ホスト	ホスト・プール内の Controller ホストの数。
説明	ホスト・プールの説明。
DP ホスト	ホスト・プール内の Data Processor ホストの数。
LG ホスト	ホスト・プール内の Load Generator ホストの数。
プール ID	ホスト・プールの ID。
プール名	ホスト・プールの名前。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: この名前には、スペース、ピリオド、次のいずれかの文字を除き、最大 255 文字まで指定できます。</p> <p>;;*\~/~&?{}\$% <>+=^[]()</p> </div>
ホストの総数	ホスト・プール内のホストの合計数。

[新規ホスト プール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ホスト・プールを ALM に追加できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [ラボリソース] で、[プール] を選択します。 プール・モジュールで、[新規ホスト プール] ボタン  をクリックします。
重要な情報	各プロジェクトには、少なくとも 1 つの Controller ホスト、1 つの Load Generator ホスト、1 つの Data Processor ホストを含む必要がある 1 つのホスト・プールがあります。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」 (113ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : データをクリアします。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
プール名	新規ホスト・プールの名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用可能なホスト・プール・フィールドの詳細については、「 プール・フィールド 」(144ページ)を参照してください。

[ホスト プール詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホスト・プールの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、 [プール] を選択します。 グリッドのホスト・プールを右クリックし、 [ホスト プール詳細] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ホスト・プールとは、ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。 ホスト・プールを管理する場合、利用可能な総リソースを理解していることが重要です。プールには、少なくとも1つの Controller、1つの Load Generator、1つの Data Processor が含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため、プールには、他のホストの中でも Controller 機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。 プライベート・ホストは、一度に1つのプールにしか存在できません。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」 (113ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 ：詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ ：ホスト・プールのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
プール名	ホスト・プールの名前。
詳細	選択したホスト・プールの詳細情報をリストします。利用可能なフィールドの詳細については、「 プール・フィールド 」(144ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、「 [リンクされたホスト] ページ 」(147ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス

このページを使用すると、ホスト・プールに追加するホストを選択できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> プール・モジュールからの場合： ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、[プール] を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト] を選択し、[ホストをプールに追加] ボタン  をクリックします。 [ホストプール詳細] ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、[プール] を選択します。ホスト・プールを右クリックし、[ホスト プール詳細] を選択します。[ホストプール詳細] ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト] を選択し、[ホストをプールに追加] ボタン  をクリックします。
重要な情報	あるいは、ホストの詳細の [所属プール] フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については、「 ホストのフィールド 」(128ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」 (113ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	選択したホストをホスト・プールに追加します。
<ホスト・グリッド>	ホスト・プールに追加できるホストが一覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択したホストが表示されます。

[リンクされたホスト] ページ

このページを使用すると、ホストをホスト・プールに追加し、プールからホストを削除できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール・モジュールからの場合 : ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、[プール] を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト] を選択します。 ・ [ホストプール詳細] ダイアログ・ボックスからの場合 : ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、[プール] を選択します。ホスト・プールを右クリックし、[ホストプール詳細] を選択します。[ホストプール詳細] ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト] を選択します。
重要な情報	<p>[リンクされたホスト] ページを使用すると、複数のホストをホスト・プールにリンクできます。</p> <p>あるいは、ホストの詳細の [所属プール] フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については、「ホストのフィールド」(128ページ)を参照してください。</p>
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」 (113ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	テストング・ホストの詳細 : [ホスト詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリンクされているホストの詳細情報を表示できます。詳細については、「 [テストングホ

UI 要素	説明
	ストの詳細 ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。
	ホストをプールに追加 ：[ホストをプールに追加] が開き、ホスト・プールに追加するホストを選択できます。詳細については、「 [ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス 」(146ページ)を参照してください。
	ホストの削除 ：ホスト・プールから選択したホストを削除します。
	ホストに移動 ：ホスト・モジュール内の選択したリンクされているホストを表示します。
	すべて更新 ：最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 ：グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 ：[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 ：[検索] ダイアログ・ボックスが開き、ホストを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされているホストのグリッド>	ホスト・プールに属しているホストが一覧表示されます。

場所モジュール

- [場所モジュール・ウィンドウ](#)149
- [場所のフィールド](#)149
- [\[新規ホストの場所\] ダイアログ・ボックス](#)150
- [\[ホストの場所詳細\] ダイアログ・ボックス](#)150

場所モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、ホストの場所を表示、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、 [場所] を選択する。 注: 場所モジュールは、ラボ管理でのみ使用できます。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」 (115ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<場所モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none">場所モジュールのフィールド: フィールドの定義については、 「場所のフィールド」 (149ページ) を参照してください。場所モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、 「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」 (121ページ) を参照してください。
<ホストの場所のグリッド>	ALM 内で定義されているホストの場所のリストを表示します。
【説明】 タブ	現在選択されているホストの場所についての説明が表示されます。 ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
【履歴】 タブ	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

場所のフィールド

本項では、ホストの場所のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
クラウド・プロバイダ	場所の作成に使用したクラウド・プロバイダを示します。 クラウドの場所のみで表示されます。
説明	ホストの場所の説明。
場所 ID	ホストの場所の ID。
場所の名前	ホストの場所の名前。名前には、ホストの場所との論理接続がある必要があります。
ファイアウォール越し	ホストの場所がファイアウォール越しかを示します。
プロバイダの場所 ID	クラウド・プロバイダが場所の特定に使用する ID を示します。

フィールド	説明
	クラウドの場所のみで表示されます。

[新規ホストの場所] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ホストの場所を ALM に追加できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [ラボリソース] で、[場所] を選択します。 ホストの場所モジュールで、[新規ホストの場所] ボタン  をクリックします。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(115ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア ：データをクリアします。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
場所の名前	新規ホストの場所の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用可能なホストの場所のフィールドの詳細については、 「場所のフィールド」(149ページ) を参照してください。

[ホストの場所詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホストの場所の詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [ラボリソース] で、[場所] を選択します。 グリッド内の場所を右クリックし、[ホストの場所詳細] を選択します。
重要な情報	ホストの場所は、ホストの詳細でその場所を選択する前に定義する必要があります。

関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(115ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : ホストの場所のリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
場所 ID	ホストの場所の ID。
場所の名前	ホストの場所の名前。
詳細	現在選択されているホストの場所の詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、 「場所のフィールド」(149ページ) を参照してください。
履歴	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

タイムスロット・モジュール

注: 本項では、ラボ管理専用のプロジェクトタイムスロット・モジュールで表示される画面のユーザ・インタフェースを説明します。タイムスロット・モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

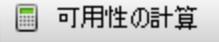
[タイムスロットの予約：メンテナンス] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、メンテナンスのタイムスロットを予約し、予約したメンテナンスのタイムスロットの詳細を表示できます。

<p>アクセス方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規メンテナンス・タイムスロットの予約 (ラボ管理のみ) : ラボ管理サイドバーの [ラボ リソース] で、 [タイムスロット] を選択します。次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> タイムスロットのツールバーで、 [新規タイムスロット] ボタンをクリックします。 カレンダー・ビューのみ：カレンダーの任意の場所をダブルクリックするか、ターゲット時間を右クリックして、 [新規タイムスロット] を選択します。 既存のメンテナンス・タイムスロットの予約 : 【ラボ管理】 から：サイドバーの [ラボ リソース] で、 [タイムスロット] を選択します。 ALM から：サイドバーの [テスト] の下にある [タイムスロット] を選択します。 次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> グリッド・ビュー：タイプが [メンテナンス] のタイムスロットを右クリックして、 [タイムスロットの詳細] を選択します。 カレンダー・ビューのみ：メンテナンス (黄色) のタイムスロットを右クリックして、 [タイムスロットの詳細] を選択します。
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスのタイムスロットを予約または表示するには、このダイアログ・ボックスを使用します。 テストのタイムスロットとデータ処理のタイムスロットについては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>「タイムスロットの予約方法」 (116ページ)</p>
<p>参照情報</p>	<p>『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』</p>

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<p>実行</p>	<p>タイムスロットがメンテナンス・タイプであることを示します。</p>
<p>起動</p>	<p>メンテナンス・タスクが手動で実行されることを示します。</p> <p>注: このフィールドは無効になっていて、選択は変更できません。</p>
<p>名前</p>	<p>タイムスロットのわかりやすい名前。</p>
<p>継続時間</p>	<p>メンテナンス・タイムスロットの継続時間 (時, 分)。</p> <p>注: メンテナンス・タイムスロットは、15分以上、480時間 (20日) 以下で</p>

UI 要素	説明
	<p>予約できます。</p>
<p>開始時刻</p>	<p>タイムスロットが開始する日時(時, 分)。</p> <p>注: メンテナンス・タスクにホストを予約する必要があるため、ホストが同じタイムスロットのテストの実行にすでに予約されている場合、テストのタイムスロットの開始を変更するか、テストのタイムスロットを削除できます。変更する前に、テストのタイムスロットを予約したユーザに相談してください。</p>
<p>終了時刻</p>	<p>タイムスロットが終了する日時(時, 分)。</p>
<p></p>	<p>[特定のホストの追加] ダイアログ・ボックスが開き、メンテナンス・タイムスロットのホストを選択できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>注: タイムスロットには、少なくとも1つのホストを選択する必要があります。</p> <p>利用可能な条件: 新しい、開かれた、または未来のメンテナンス・タイムスロット。</p>
<p></p>	<p>削除: 選択したホストを要求したホストのリストから削除します。</p>
<p></p>	<p>開始時刻を現在に設定: リソースの可用性のグラフで、現在の時刻を選択します。</p> <p>注: 開始時刻が現在の時刻に設定されているタイムスロットは、予約の送信時に直ちに開きます。</p>
<p></p>	<p>選択したタイムスロットに要求したリソースの可用性が計算されます。結果は、リソースの可用性の予定表に視覚的に表示され、[タイムスロットのステータス] タブにメッセージが表示されます。</p> <p>可用性予定表には、要求されたホストを予約できるタイムスロットがすべて表示されます。要求されたホストを選択したタイムスロットで予約できない場合でも、他のタイムスロットでは利用できることがあります。</p>
<p><メッセージ・バー></p>	<p>ダイアログ・ボックスの上部にあります。タイムスロットに関するメッセージと警告が表示されます。</p> <p>利用可能な場所: 既存のタイムスロットのみ。</p>
<p><リソース可用性予定表></p>	<p>要求されたリソースの可用性が予定表に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 可用性が計算されていません: 新しいタイムスロットに要求したリソースの可用性を計算する前、またはタイムスロットを変更するときに予定表に表示されます。 •  開始時刻: 要求したリソースが利用できる場合、タイムスロットに利用可能な開始時刻を示します。 •  リソースが不足しています: 要求されたすべてのリソースが、予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> •  ライセンス/プロジェクトの最大数：予定表に示された開始時刻のライセンスまたはプロジェクトの上限の問題を示します。たとえば、ライセンスで利用可能なホストの上限より多くのホストが要求されている場合。 •  不明：タイムスロットに要求したリソースの可用性の計算前に表示されます。 •  リソースが利用できません：要求されたリソースが、予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。
<p>【要求されたホスト】グリッド</p>	<p>タイムスロットに要求されたホストが表示されます。</p> <p>注: タイムスロットには、少なくとも1つのホストを選択する必要があります。</p>
<p>【タイムスロットのステータス】タブ</p>	<p>タイムスロット予約のステータスが表示されます。</p> <p>タイムスロット障害の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<p>【説明】タブ</p>	<p>現在選択されているタイムスロットについての説明が表示されます。</p> <p>ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
<p>【追加の詳細】タブ</p>	<p>タイムスロットに関連する追加の詳細が表示されます。</p> <p>利用可能な場所：既存のタイムスロットのみ。</p>
<p>【イベントログ】タブ</p>	<p>タイムスロットに関連するイベントのログが表示されます。詳細については、『イベント・ログ (135ページ)を参照してください。</p> <p>利用可能な条件：既存のタイムスロットの詳細。</p>

第7章: PC テスト実行

本章の内容

- PC テスト実行モジュールの概要 156
- PC テスト実行のユーザ・インタフェース 156

PC テスト実行モジュールの概要

PC テスト実行モジュールは、システム内の全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行に関する情報を表示します。テストの実行状態に関連する詳細情報、関連仮想ユーザ、ホストとタイムスロット情報を表示できます。イベント・ログでは、各テストで発生したイベントにドリルダウンし、詳細を表示できます。

PC テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [PC テスト実行モジュールのウィンドウ](#)157
- [PC テスト実行モジュールのフィールド](#)158
- [PC テスト実行モジュールのメニューとボタン](#)159
- [【実行詳細】ダイアログ・ボックス](#)161

PC テスト実行モジュールのウィンドウ

このモジュールは、システム内の全プロジェクトにわたる個々のテスト実行に関する情報を表示します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [PC テスト実行] を選択します。
---------------	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
< PC テスト実行モジュールの共通の UI 要素 >	<ul style="list-style-type: none">• PC テスト実行モジュールのフィールド : フィールドの定義については、「PC テスト実行モジュールのフィールド」 (158ページ) を参照してください。• PC テスト実行モジュールのメニューとボタン : コマンドとボタンの説明については、「PC テスト実行モジュールのメニューとボタン」 (159ページ) を参照してください。• ALM メイン・メニューとサイドバー : [ツール] メニュー、[ヘルプ] メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
< PC テスト実行のグリッド >	全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行のリストが表示されます。各テスト実行の詳細情報が表示されます。

【イベント ログ】 タブ

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	フィルタの設定 : イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、イベント・ログに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	更新 : 最新の情報が表示されるように、イベント・ログを更新します。
	すべてエクスポート : [すべてのグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのリソースを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
	イベントの詳細 : [イベントの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したイベント・ログの詳細を表示できます。

UI 要素	説明
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。 例: サーバの作成。
作成日	イベントがログに記録された日時。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。 例: PCサーバ: VM05
説明	イベントの説明。
イベント・ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順に、エラー、警告、または情報。
フロー・コンテキスト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば、テストの実行など。
モジュール	イベントの原因となった ALM モジュール。 例: テスト
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 例: テスト・ラボ

PC テスト実行モジュールのフィールド

PC テスト実行モジュールでは、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
平均仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの平均数。
Controller	テスト実行に関わる Controller。
ドメイン/プロジェクト	テストのドメインとプロジェクト。
経過時間	テストの実行にかかった時間(分)。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
終了日	実行の終了日。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。

フィールド	説明
関係する仮想ユーザ数	実行中に少なくとも一度初期化された仮想ユーザ数。
Load Generator	テスト実行に関わる Load Generator。
最大仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの最大数。
プロジェクト ID	テストのプロジェクト ID。
実行 ID	テスト実行の識別番号。この番号は、負荷テストの実行開始時にシステムによって自動的に生成されます。
実行名	テスト実行の名前。
状態	テスト実行の状態。テストが特定の状態で停止する場合、変更できます。
開始日	実行の開始日。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
開始時刻	実行の開始時刻。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
一時結果のディレクトリ・パス	テスト結果が一時的に格納されるディレクトリのパス。
テスト名	作成時にテストに与えられた名前。
テスト担当者	テストを実行しているユーザの名前。
VUD を消費	テスト実行で使用されている VUD 数。
タイムスロット ID	テスト実行のタイムスロットの ID。

PC テスト実行モジュールのメニューとボタン

本項では、PC テスト実行モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [PC テスト実行] を選択する。
---------------	--

PC テスト実行モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
	<右クリック・メニュー>	現在実行中のテストを停止します。 注: 選択したテスト実行のステータスが [初期化中] 、 [実行中] 、 [停止中] のいずれかである場合のみ有効です。
お気に入り追加	お気に入り	[追加 お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加

UI 要素	場所	説明
		できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー 	[実行] と <右クリック・メニュー>	選択したテスト実行をコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。テスト実行自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、テスト実行ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
削除 	[編集] と <右クリック・メニュー>	選択したテスト実行を削除します。 注: 選択したテスト実行がアクティブな状態のいずれかでない場合にのみ有効になります。
 Data Processor キュー	<右クリック・メニュー>	実行後のテスト実行の分析、SLA の再計算、テスト実行のトレンド・レポートへの追加を行う場合、そのアクションがデータ処理キューに追加されるため、アクションがいつ実行されるか確認できます。
エクスポート	[実行] と <右クリック・メニュー>	[すべてのグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスを開き、グリッド内のテスト実行を、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッド内のすべてのテスト実行をエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッド内の選択したテストの実行をエクスポートします。
検索 	表示	[検索] ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでテスト実行を検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
実行に移動 	実行	[実行に移動] ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のテスト実行を検索できます。現在のフィルタに含まれるテスト実行にのみ移動できます。
タイムスロットに移動 	<右クリック・メニュー>	タイムスロット・モジュールが開き、選択したテスト実行のタイムスロットが表示されます。
グリッド・フィルタ	[表示] と <右クリック・メニュー>	[フィルタ] ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示] と <右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある [情報パネル] を表示/非表示にします。

UI 要素	場所	説明
お気に入りの整理	お気に入り	【整理 お気に入り】ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
実行の詳細 	【実行】と<右クリック・メニュー>	【実行の詳細】ダイアログ・ボックスが開き、選択したテスト実行の詳細を表示、編集できます。
実行画面 	<右クリック・メニュー>	パフォーマンス・テスト実行画面が開き、テスト実行を表示、管理できます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 注: テスト実行のステータスが 【実行中】 である場合のみ有効です。
カラムの選択 	表示	【カラムの選択】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 テスト実行のフィールドの詳細については、「 PC テスト実行モジュールのフィールド 」(158ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のテスト実行に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

【実行詳細】ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、テスト実行の詳細が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの 【Performance Center】 で、【PC テスト実行】 を選択する。 2. グリッド内のテスト実行を右クリックし、【実行の詳細】 を選択します。
--------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : プロジェクトのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
詳細	選択したテスト実行の詳細情報が表示されます。詳細については、 「PC テスト実行モジュールのフィールド」 (158ページ) を参照してください。
イベント・ログ	選択したテスト実行中に発生したイベントがリストされます。詳細については、 「イベント・ログ」 (135ページ) を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト実行に行われた変更の一覧です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第8章: 使用状況レポート

本章の内容

- 使用状況レポートの概要 164
- 使用状況レポートを作成する方法 165
- レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法 166
- 使用状況レポートの時間フレーム 166
- 使用状況レポートのユーザ・インタフェース 167

使用状況レポートの概要

ALM Performance Center 使用状況レポート・モジュールでは、Performance Center 全体の分析を実行できます。実行可能な分析には、サイト・ユーザ、リソース使用状況、同時実行リソースの使用状況とライセンスによる上限との比較、タイムスロットの使用状況、継続時間別および実行別のリソース使用状況があります。クラウドベースのホストを使用する環境では、クラウド・リソースの使用状況を分析および監視することもできます。

次の表に、各レポートの説明を示します。

レポート	説明
リソース・サマリ	プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計データを表示します。
同時実行対ライセンス	プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細、ライセンスの上限内でのシステム・リソースの使用方法に関する情報を表示します。
タイムスロットの使用状況	タイムスロットに関連付けられたリソースの予約と使用状況に関する情報を表示します。
継続時間別リソース	選択した時間フレームにわたるシステム・リソースの使用状況に関する一般的な情報を表示します。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できません。
実行別リソース	テスト実行に関する一般的な情報を表示します。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。
プロジェクトごとのVUDライセンス使用状況	選択した各プロジェクトの1日あたりのVUD使用状況に関する情報を表示します。
日次VUDライセンス使用状況	すべてのプロジェクトにわたって集計された1日あたりのVUD使用状況に関する情報を表示します。
プロトコル粒度	仮想ユーザ・スクリプトと関連付けられているプロトコルの使用状況に関する情報を表示します。
クラウド高レベル・レポート	消費されたクレジットとプロビジョニングされたホストをプロジェクトごとの内訳で表示します。
クラウド・クレジット(タイプ別)	消費されたクレジットを、場所、テンプレート、インスタンス、イメージごとの内訳で表示します。
クラウド利用率	クラウド・ホストの稼働時間、実行時間とアイドル時間を比較し、総アイドル時間のクレジット数をプロジェクトごとにまとめて表示します。
クラウド操作	各ホストのプロビジョニングと終了の操作、詳細なプロビジョニング・データを表示します。

レポートの表示方法の詳細については、[「使用状況レポートを作成する方法」\(165ページ\)](#)を参照してください。

使用状況レポートを作成する方法

このタスクでは、使用状況レポートを表示する方法と、フィルタ条件を設定する方法について説明します。フィルタ条件は、レポートの対象にするプロジェクト、結果を表示する時間フレームを定義します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、[「ラボ管理の管理の使用方法」\(14ページ\)](#)を参照してください。

ALM Performance Center レポートの詳細については、[「使用状況レポートの概要」\(164ページ\)](#)を参照してください。

1. 表示したいレポートの選択

ラボ管理 から : ラボ管理の [Performance Center] で [使用状況レポート] を選択すると、ALM Performance Center レポート・ツリーが表示されます。ツリーから、表示したいレポートを選択します。

Performance Center から : My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。

各レポートのユーザ・インタフェース要素の詳細については、[「使用状況レポートのユーザ・インタフェース」\(167ページ\)](#)を参照してください。

2. レポートで表示するプロジェクトの選択

[プロジェクト] ドロップダウン・リストでプロジェクトを選択します。

注: レポートを生成するには、少なくとも1つのプロジェクトを選択する必要があります。

3. レポートに関する必要な時間フレームの選択

[時間フレーム] ドロップダウン・リストから、レポートに適用する時間フレームを選択します。指定されているオプションに加えて、カスタムの時間フレームを設定できます。

指定されている時間フレームの説明については、[「使用状況レポートの時間フレーム」\(166ページ\)](#)を参照してください。

4. レポートに関する必要なクラウド・アカウントの選択

[アカウント] ドロップダウン・リストから、レポートに適用するクラウド・アカウントを選択します。

注: 利用可能な場所 : クラウドの使用状況レポート

5. レポートの更新による新しいフィルタ設定の反映

[生成] をクリックします。レポートに、選択したプロジェクトと時間フレームに関する情報が表示されます。

レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法

次のタスクでは、Performance Center レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

レポートの PDF へのエクスポート

レポートを PDF ファイルにエクスポートするには、レポートの右上隅にある [PDF にエクスポート]  をクリックします。

利用できない場所: クラウドの使用状況レポート

レポートの編集可能な Excel ファイルへのエクスポート

レポートを編集可能な Excel ファイルにエクスポートするには、レポートの右上隅にある [Excel にエクスポート]  をクリックします。

使用状況レポートの時間フレーム

次の表に、レポートの選択で利用できる時間フレームの説明を示します。

時間フレーム	説明
今日	現在の日付の 00:00 ~ 23:59
前日	前日の 00:00 ~ 23:59
今週	現在の週の月曜日から日曜日まで
先週	前の週の月曜日から日曜日まで
今月	現在のカレンダー月の最初から最後まで
先月	前のカレンダー月の最初から最後まで
今四半期	現在の四半期
前四半期	前の四半期
今年	現在の年の 1 月から 12 月まで
前年	前年の 1 月から 12 月まで

使用状況レポートのユーザ・インタフェース

注意: 使用状況レポートを 1024x768 の解像度で表示する場合、すべてのユーザ・インタフェース・コントロールを表示するには、ALM モジュールやレポート選択ツリーを折りたたみます。

本項の内容

• リソース・サマリ・レポート	168
• 同時実行対ライセンス・レポート	170
• タイムスロット使用状況レポート	175
• 継続時間別リソース・レポート	177
• 実行別リソースレポート	180
• プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポート	182
• 日次 VUD ライセンス使用状況レポート	184
• プロトコル粒度使用状況レポート	185
• クラウド高レベル・レポート	187
• クラウド・クレジット(タイプ別) レポート	189
• クラウド利用率レポート	192
• クラウド操作レポート	194

リソース・サマリ・レポート

リソース・サマリ・レポートには、プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計データが表示されます。

リソース サマリ レポート

レポートは、プロジェクトごとのリソース使用状況に関する集計情報を示します



プロジェクト: すべての項目がチェックされ 時間フレーム: 今日 生成

プロジェクト	実行数	仮想ユーザ数	マシン数	継続時間 (時間:分)
DEFAULTTest	17	160	32	0:57
DEFAULTAFPC01	7	380	14	0:57

アクセス方法	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで、[リソース サマリ] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 2. [使用状況レポート] のリストで、[リソース サマリ] を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(165ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ : プロジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」(166ページ) を参照してください。
【プロジェクト別リソース使用状況】タブ	選択した各プロジェクトのリソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、 「【プロジェクト別リソース使用状況】テーブル」(169ページ) を参照してください。
【マシン別上位プロジェクト】タブ	すべての実行にわたって集計された、プロジェクトごとに使用されているマシン数を表示するグラフが含まれています。 X 軸 : プロジェクトごとに使用されているマシン数。

UI 要素	説明
	<p>Y 軸 : 使用されているマシン数に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p> <p>注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>
【実行別上位プロジェクト】タブ	<p>プロジェクトごとのテスト実行数を表示するグラフが含まれています。</p> <p>X 軸 : プロジェクトごとのテスト実行数。</p> <p>Y 軸 : テスト実行数に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p> <p>注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>
【仮想ユーザ別上位プロジェクト】タブ	<p>すべての実行にわたって集計された、プロジェクトごとの仮想ユーザ数を表示するグラフが含まれています。</p> <p>X 軸 : プロジェクトごとの仮想ユーザ数。</p> <p>Y 軸 : 仮想ユーザ数に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p>

【プロジェクト別リソース使用状況】テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
継続時間	プロジェクト内でテストが実行された合計時間。
マシン数	すべてのプロジェクトにわたって集計された、プロジェクトで使用されたマシンの合計数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されません。
実行数	すべてのテストにわたって集計された、プロジェクト内のテスト実行の合計数。
仮想ユーザ数	すべての実行にわたって集計された、プロジェクト内の仮想ユーザの合計数。

同時実行対ライセンス・レポート

同時実行対ライセンス・レポートには、プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細、ライセンスの上限内でのシステム・リソースの使用方法に関する情報が表示されます。

同時実行 対 ライセンス レポート

レポートは、プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細およびライセンス上限との対比情報を示します。



プロジェクト: 時間フレーム:

プロジェクト別同時実行 全体的な同時実行数 全体的なライセンス使用状況 実行別上位プロジェクト 仮想ユーザ別上位プロジェクト

プロジェクト <small>(0 = 削除されたプロジェクト)</small>	同時実行			同時実行仮想ユーザ			同時実行マシン			全体的な連続時間 <small>[時間:分]</small>
	最大値	平均	上限	最大値	平均	上限	最大値	平均	上限	
DEFAULTtest	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	1000	0:00
DEFAULTAPCS1	0	0.0	100	0	0.0	100	0	0.0	1000	0:00

<p>アクセス方法</p>	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 [使用状況レポート] のリストで、[同時実行対ライセンス] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 [使用状況レポート] のリストで、[同時実行対ライセンス] を選択します。
<p>関連タスク</p>	<p>「使用状況レポートを作成する方法」 (165ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ : プロジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」 (166ページ) を参照してください。
【プロジェクト別同時実行】 タブ	選択した各プロジェクトの同時実行リソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、 「【プロジェクト別同時実行】 テーブル」 (171ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
【全体的な同時実行数】 タブ	<p>選択したすべてのプロジェクト、およびシステム内のすべてのプロジェクトにわたって集計された同時実行リソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。</p> <p>詳細については、「【全体的な同時実行数】 テーブル (172ページ)を参照してください。</p>
【全体的なライセンス使用状況】 タブ	<p>実行数と仮想ユーザ数の最大値と平均値の使用状況を Performance Center ライセンスの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれていて、管理者は実際に使用されている Performance Center ライセンスの割合を判断できます。</p> <p>使用状況は、選択したすべてのプロジェクト、およびシステム内のすべてのプロジェクトにわたって集計されています。</p> <p>詳細については、「【全体的なライセンス使用状況】 グラフ (173ページ)を参照してください。</p>
【実行別上位プロジェクト】 タブ	<p>プロジェクトごとの同時実行数の最大値と平均値を、プロジェクトの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれています。このプロジェクトの上限は、プロジェクト設定 (【ラボ設定] > 【プロジェクト設定]) で定義されています。これによって、管理者は、指定された上限内で最も効率的に実行されているプロジェクトを特定できます。</p> <p>詳細については、「【実行別上位プロジェクト】 グラフ (173ページ)を参照してください。</p>
【仮想ユーザ別上位プロジェクト】 タブ	<p>プロジェクトごとの同時実行仮想ユーザ数の最大値と平均値を、プロジェクトの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれています。このプロジェクトの上限は、プロジェクト設定 (【ラボ設定] > 【プロジェクト設定]) で定義されています。これによって、管理者は、指定された上限内で最も効率的に実行されているプロジェクトを特定できます。</p> <p>詳細については、「【仮想ユーザ別上位プロジェクト】 グラフ (174ページ)を参照してください。</p>

【プロジェクト別同時実行】 テーブル

重要な情報	<p>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</p>
--------------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
同時実行マシン 平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシン (Controller と Load Generator) の平均数。
同時実行マシン 上限	プロジェクト設定 (【ラボ設定] > 【プロジェクト設定]) で定義されている、このプロジェクトに許可されている同時実行マシンの最大数。
同時実行マシン 最大値	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシン (Controller と Load Generator) の最大数。
同時実行 平均	プロジェクトの同時テスト実行の平均数。このレポートの目的から、1つのテスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行 上限	プロジェクト設定 (【ラボ設定] > 【プロジェクト設定]) で定義されている、このプロジェ

UI 要素	説明
	クトに許可されている同時実行の最大数。このレポートの目的から、1つのテスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行 最大値	プロジェクトの同時テスト実行の最大数。このレポートの目的から、1つのテスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行仮想ユーザ 平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの平均数。
同時実行仮想ユーザ 上限	プロジェクト設定 ([ラボ設定] > [プロジェクト設定]) で定義されている、このプロジェクトに許可されている同時実行仮想ユーザの最大数。
同時実行仮想ユーザ 最大値	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの最大数。
全体的な継続時間	プロジェクト内でテストが実行された合計時間。この値は、同時実行継続時間ではなく、負荷テストにシステムが使用された実際の時間を示します。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されません。

【全体的な同時実行数】 テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
同時実行マシン 平均	同時実行マシンの平均数。
同時実行マシン 最大値	同時実行マシンの最大数。
同時実行 平均 (ライセンス (%))	同時実行の平均数。括弧内の値は、同時実行の平均数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行 最大値 (ライセンス (%))	同時実行の最大数。括弧内の値は、同時実行の最大数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行 PC ライセンス	Performance Center ライセンスで許可された同時実行の最大数。
同時実行仮想ユーザ 平均 (ライセンス (%))	同時実行仮想ユーザの平均数。括弧内の値は、同時実行仮想ユーザの平均数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行仮想ユーザ 最大値 (ライセンス (%))	同時実行仮想ユーザの最大数。括弧内の値は、同時実行仮想ユーザの最大数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行仮想ユーザ PC ライセンス	Performance Center ライセンスで許可された同時実行仮想ユーザの最大数。

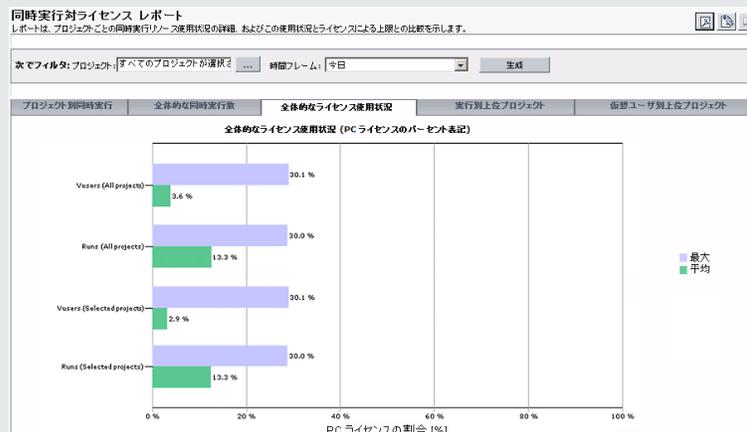
UI 要素	説明
全体的な継続時間	すべてのプロジェクトにわたって集計された、テストが実行された合計時間。
プロジェクト	[All Projects] または [Selected Projects]。

【全体的なライセンス使用状況】 グラフ

X 軸	使用中の Performance Center ライセンスの最大と平均のパーセント。
Y 軸	すべてのプロジェクトにわたって集計された仮想ユーザ数と実行数の使用状況、および選択したプロジェクトのみの仮想ユーザ数と実行数の使用状況。

例

次の例では、システム内のすべてのプロジェクトの仮想ユーザの最大数が Performance Center ライセンスの 30.1% を使用していましたが、すべてのプロジェクトの仮想ユーザの平均数はライセンスの 3.6% しか使用していませんでした。このことで、管理者は Performance Center ライセンスのかなりの部分が未使用であることがわかります。



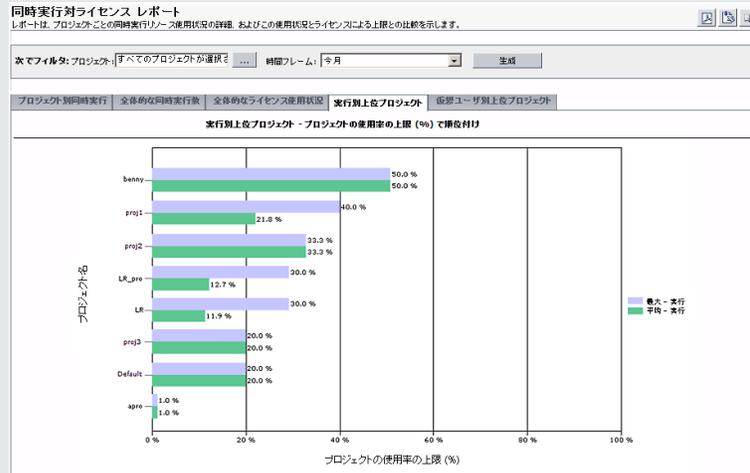
【実行別上位プロジェクト】 グラフ

【実行別上位プロジェクト】 グラフ

重要な情報	ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。
X 軸	使用中の許可された同時実行数の最大と平均のパーセント。
Y 軸	同時実行の最大数に従って、降順に表示されたプロジェクト。

例

次の例では、**LR_pro** プロジェクトの [最大値 - 実行数] の値は 30% です。つまり、このプロジェクトの同時実行の最大数はその上限の 30% に到達していました。このプロジェクトの [平均 - 実行数] の値は、同時実行の平均数がその上限の 12.7% に到達したことを示しています。これらの値によって、管理者は、同時実行のプロジェクトの定義済み上限のかなりの部分が活用されていないことがわかります。



【仮想ユーザ別上位プロジェクト】 グラフ

重要な情報	ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。
X 軸	使用中の許可された同時実行仮想ユーザ数の最大と平均のパーセント。
Y 軸	同時実行仮想ユーザの最大数に従って、降順に表示されたプロジェクト。

例

次の例では、**proj1** プロジェクトの [最大値 - 仮想ユーザ数] の値は 10% です。つまり、このプロジェクトの同時実行仮想ユーザの最大数はその上限の 10% に到達していました。このプロジェクトの [平均 - 仮想ユーザ数] の値は、同時実行仮想ユーザの平均数がその上限の 8.4% に到達したことを示しています。これらの値によって、管理者は、同時実行仮想ユーザのプロジェクトの定義済み上限のかなりの部分が活用されていないことがわかります。



タイムスロット使用状況レポート

タイムスロット使用状況レポートには、タイムスロットに関連付けられたリソースの予約と使用状況に関する情報が表示されます。

タイムスロット使用状況レポート

レポートは、予約使用状況に関する詳細を示します

プロジェクト: 時間フレーム:

プロジェクト別タイムスロットの使用状況 | 期間使用状況別上位プロジェクト | 仮想ユーザーの使用状況別上位プロジェクト | マシン使用状況別上位プロジェクト

プロジェクト別タイムスロットの使用状況

プロジェクト	継続時間 [時間:分]		マシン数		仮想ユーザー	
	予約済み	使用済み	予約済み	使用済み	予約済み	使用済み
DEFAULTtest	1:13	0:57	34	32	170	160
DEFAULTJAP01	2:27	1:23	20	16	560	440

<p>アクセス方法</p>	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで、[タイムスロットの使用状況] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 2. [使用状況レポート] のリストで、[タイムスロットの使用状況] を選択します。
<p>関連タスク</p>	<p>「使用状況レポートを作成する方法」(165ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>PDF/Excel にエクスポート：クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。</p>
<p>生成</p>	<p>レポートを生成します。</p>
<p>次でフィルタ：プロジェクト</p>	<p>レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所：ラボ管理のみ</p>
<p>次でフィルタ：時間フレーム</p>	<p>レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(166ページ)を参照してください。</p>
<p>【プロジェクト別タイムスロットの使用状況】タブ</p>	<p>プロジェクトごとの継続時間、マシン数、仮想ユーザ数に関する予約と使用状況の情報を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、「【プロジェクト別タイムスロットの使用状況】テーブル」(177ページ)を参照してください。</p>
<p>【期間使用状況別上位プロジェクト】タブ</p>	<p>プロジェクトごとのタイムスロットの継続時間に関する予約と使用状況の情報を表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予約済みの継続時間を最も効率的に使用しているかがわかります。 X 軸：各プロジェクトで予約され、使用されている継続時間の合計。 Y 軸：継続時間の使用状況に従って、降順に表示されたプロジェクト。 注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>
<p>【マシン使用状況別上位プロジェクト】タブ</p>	<p>プロジェクトごとのタイムスロットのマシンに関する予約と使用状況の情報を表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予約済みのマシン数を最も効率的に使用しているかがわかります。 X 軸：各プロジェクトで予約され、使用されているマシン数の合計。 Y 軸：仮想ユーザの使用状況に従って、降順に表示されたプロジェクト。 注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>
<p>【仮想ユーザの使用状況別上位プロジェクト】タブ</p>	<p>プロジェクトごとのタイムスロットの仮想ユーザに関する予約と使用状況の情報を表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予約済みの仮想ユーザ数を最も効率的に使用しているかがわかります。 X 軸：各プロジェクトで予約され、使用されている仮想ユーザの合計数。 Y 軸：マシンの使用状況に従って、降順に表示されたプロジェクト。 注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>

UI 要素	説明
	性があります。

【プロジェクト別タイムスロットの使用状況】テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
継続時間 予約済み	プロジェクトに予約された時間。
継続時間 使用済み	プロジェクト内で使用された時間。
マシン数 予約済み	プロジェクトに予約されたマシン数。
マシン数 使用済み	プロジェクト内で使用されたマシン数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されます。
仮想ユーザ 予約済み	プロジェクトに予約された仮想ユーザ数。
仮想ユーザ 使用済み	プロジェクト内で使用された仮想ユーザ数。

継続時間別リソース・レポート

継続時間別リソース・レポートには、選択した時間フレームにわたるシステム・リソースの使用状況に関する一般的な情報が表示されます。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。

レポートは、プロジェクトごとやユーザごとの時間別リソース使用状況の詳細を示します。

プロジェクト: 時間フレーム:

プロジェクト別リソース使用状況 | ユーザ別リソース使用状況

プロジェクト	アクティブな合計継続時間 [時間:分]	合計予約継続時間 [時間:分]	アクティブな 1 時間ごとの平均マシン数	アクティブな 1 時間ごとの平均仮想ユーザ数
DEFAULTtest	0:57	1:13	2.0	0.0
DEFAULTAFCC01	1:23	2:27	2.0	0.0

アクセス方法	ALM / ラボ管理 :
---------------	---------------------

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【Performance Center】 > 【使用状況レポート】 を選択します。 2. 【使用状況レポート】 のリストで、【継続時間別リソース使用状況】 を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、【レポート】 をクリックします。 2. 【使用状況レポート】 のリストで、【継続時間別リソース使用状況】 を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」 (165ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ : プロジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」 (166ページ) を参照してください。
【プロジェクト別リソース使用状況】タブ	選択した時間フレームにわたるプロジェクトごとのリソース使用状況を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、 「【プロジェクト別リソース使用状況】テーブル」 (178ページ) を参照してください。
【ユーザ別リソース使用状況】タブ	ユーザごとのリソース使用状況を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、 「【ユーザ別リソース使用状況】テーブル」 (179ページ) を参照してください。

【プロジェクト別リソース使用状況】テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
アクティブな 1 時間ごとの平均マシン数	アクティブな 1 時間ごとに使用されているマシンの平均数。 注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の

UI 要素	説明
	実行時間のことです。
アクティブな1時間ごとの平均仮想ユーザ数	アクティブな1時間ごとに実行されている仮想ユーザの平均数。 注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色のxで示されます。
アクティブな合計継続時間	予約済みのタイムスロット中にテストが実行された合計時間。 注: アクティブな継続時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
合計予約継続時間	プロジェクト別に [タイムスロット] ページで予約された合計時間。

【ユーザ別リソース使用状況】テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> 選択したプロジェクト内の権限を持つユーザのみ表示されます。 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
アクティブな1時間ごとの平均ホスト数	アクティブな1時間ごとに使用されているホストの平均数。 注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
アクティブな1時間ごとの平均仮想ユーザ数	アクティブな1時間ごとに実行されている仮想ユーザの平均数。 注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
氏名	ユーザの名前。削除されたユーザもレポートに表示されます。
アクティブな合計継続時間	予約済みのタイムスロット中にテストが実行された合計時間。 注: アクティブな継続時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
合計予約継続時間	ユーザ別に [タイムスロット] ページで予約された合計時間。

実行別リソースレポート

実行別リソースレポートには、テスト実行に関する一般的な情報が表示されます。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。

実行別リソース レポート

レポートは、プロジェクトごとやユーザごとの実行別リソース使用状況の詳細を示します 

プロジェクト: 時間フレーム:

プロジェクト別リソース使用状況		ユーザ別リソース使用状況				
プロジェクト	合計実行数	関連ユーザの合計数	実行ごとの平均ユーザ数	合計継続時間 (時間:分)	実行ごとの平均継続時間 (時間:分)	実行ごとの平均マシンの数
DEFAULT@set	16	160	10.0	0:57	0:04	2.0
DEFAULT@PC01	9	500	55.6	1:28	0:10	2.0

<p>アクセス方法</p>	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 [使用状況レポート] のリストで、[実行別リソース] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 [使用状況レポート] のリストで、[実行別リソース] を選択します。
<p>関連タスク</p>	<p>「使用状況レポートを作成する方法」 (165ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ : プロジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」 (166ページ) を参照してください。
【プロジェクト別リソース使用状況】 タブ	選択した時間フレームにわたるプロジェクトごとのテスト実行の統計を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、 「【プロジェクト別リソース使用状況】 テーブル」 (181ページ) を参照してください。
【ユーザ別リソース使用状況】 タブ	ユーザごとのテスト実行の統計を表示するテーブルが含まれています。

UI 要素	説明
	詳細については、「 「[ユーザー別リソース使用状況] テーブル」 (181ページ) を参照してください。

【プロジェクト別リソース使用状況】テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されます。
合計継続時間	リストされている実行で使用された合計時間。
合計実行数	プロジェクト内の実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	プロジェクト内の仮想ユーザの合計数。

【ユーザー別リソース使用状況】テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、システムから削除されたか、権限がなくなったユーザの実行も含まれています。 • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。

UI 要素	説明
氏名	ユーザの名前。削除されたユーザもレポートに表示されます。
合計継続時間	リストされている実行で使用された合計時間。
合計実行数	ユーザに関連付けられている実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	ユーザに関連付けられている仮想ユーザの合計数。

プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポート

プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポートには、選択した各プロジェクトの 1 日あたりの VUD 使用状況に関する情報が表示されます。

アクセス方法	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで、[VUD ライセンスのプロジェクト使用状況] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 2. [使用状況レポート] のリストで、[VUD ライセンスのプロジェクト使用状況] を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(165ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ : プロジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」(166ページ) を参照してください。
[プロジェクトごとの VUD] タブ	選択したプロジェクトごとの日次 VUD 使用状況に関する情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、 「[プロジェクトごとの VUD] テーブル」(183ページ) を参照してください。
[VUD トランザク	トランザクションごとの VUD に関する情報を表示するテーブルが含まれています。詳細につい

UI 要素	説明
シヨン] タブ	ては, 「 [VUD トランザクション] テーブル」 (183ページ)を参照してください。

【プロジェクトごとの VUD】 テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには, 継続時間のあるすべての実行の詳細情報, 1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って, テーブルをソートできます。見出しの矢印は, カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには, カラムの見出しをクリックします。
-------	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
割り当て済み	当日の初めにプロジェクトに割り当てられた VUD 数。
消費済み	当日中に消費された VUD 数。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
新しい値	当日の終わりに残った VUD 数。
プロジェクト	プロジェクトの名前。

【VUD トランザクション】 テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには, 継続時間のあるすべての実行の詳細情報, 1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って, テーブルをソートできます。見出しの矢印は, カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには, カラムの見出しをクリックします。
-------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アクション	VUD の現在の状態。
日付	VUD 情報が表示されている日付。
使用中	現在実行中の VUD 数。
新規上限	プロジェクトで現在利用できる VUD 数。
保留中	実行できる VUD 数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており, 赤色の x で示されません。

UI 要素	説明
実行 ID	実行 ID。
テスト名	パフォーマンス・テストの名前。
一意 ID	発行から有効期限まで VUD を識別する一意な ID。
ユーザ	トランザクションを実行したユーザ。
値	[アクション] カラムで示された状態にある VUD 数。

日次 VUD ライセンス使用状況レポート

日次 VUD ライセンス使用状況レポートには、特定の日のすべてのプロジェクトにわたって集計された全体的な VUD 使用状況情報が表示されます。

アクセス方法	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで、[日次 VUD ライセンスのサイト使用状況] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 2. [使用状況レポート] のリストで、[日次 VUD ライセンスのサイト使用状況] を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(165ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
【日次 VUD 使用状況】タブ	日次 VUD 使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、 「【日次 VUD 使用状況】テーブル」(184ページ) を参照してください。
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」(166ページ) を参照してください。

【日次 VUD 使用状況】テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含
-------	---

	<p>まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
追加済み	当日追加された VUD 数。
消費済み	当日使用された VUD 数。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
新しい値	当日の終わりに残った VUD 数。

プロトコル粒度使用状況レポート

プロトコル粒度使用状況レポートでは、仮想ユーザ・スクリプトによるプロトコルの使用状況が表示されます。

- リソース サマリ
- 同時実行 対ライセンス
- タイムスロットの使用状況
- 継続時間別リソース
- 実行別リソース
- プロジェクトごとの VUD ライセンス使
- 日次 VUD ライセンス使用状況
- プロトコル粒度**
- クラウド高レベルレポート
- クラウド クレジット (タイプ別)
- クラウド利用率
- クラウド操作

プロトコル粒度使用状況レポート

レポートは、スクリプト プロトコルの使用状況に関する詳細を示します



時間フレーム: 今週 生成

[プロトコル粒度使用状況サマリ](#) |
 [スクリプト使用状況](#) |
 [期間使用状況](#)

プロトコル粒度使用状況サマリ

プロトコルタイプ	スクリプト		仮想ユーザ		継続時間 分 (%)
	# 使用済み (%)	実行ごとの平均	最大	実行ごとの平均	
Ajax - Click and Script	1 (33.33%)	1	1	1	6 (25%)
C User	1 (33.33%)	1	10	2	12 (50%)
Web - HTTP/HTML	1 (33.33%)	1	4	1	6 (25%)

アクセス方法	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 [使用状況レポート] のリストで, [プロトコル粒度] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> My Performance Center ナビゲーション・バーで, [レポート] をクリックします。 [使用状況レポート] のリストで, [プロトコル粒度] を選択します。
重要な情報	このレポートには, 実行段階に到達した仮想ユーザのみが反映されます。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」 (165ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
次でフィルタ : 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「 使用状況レポートの時間フレーム 」(166ページ)を参照してください。
生成	レポートを生成します。
【プロトコル粒度使用状況サマリ】タブ	スクリプトの使用状況、仮想ユーザの使用状況、継続時間に関する情報を表示します。
【スクリプト使用状況】タブ	スクリプト使用状況をプロトコルごとにグラフで表示します。
【期間使用状況】タブ	期間の使用状況をプロトコルごとにグラフで表示します。

プロトコル粒度使用状況サマリ

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロトコル・タイプ	仮想ユーザ・スクリプトのプロトコル
スクリプト	<ul style="list-style-type: none"> ● # 使用済み (%) : 特定のプロトコル・タイプについて、テストがスクリプトを使用した回数の合計。テストが同じスクリプトを使用した回数を合計します。パーセンテージは、スクリプトの使用回数全体に対して、特定のプロトコルの使用回数が占める割合を示します。計算式 : $\frac{(\# \text{ Used}) \times 100}{\text{Sum of } \# \text{ Used}}$ ● 実行ごとの平均 : すべての実行回数に対するプロトコルの実行回数が占める割合を示します。計算式 : $\frac{\# \text{ Used}}{\text{Total number of runs}}$
仮想ユーザ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大 : サンプリングした1回の実行で使用される仮想ユーザの最大数。複数のテスト・スクリプトを同時に同じプロトコルで実行する場合、たとえば、最初のテスト・スクリプトで仮想ユーザ10人、他のスクリプトで仮想ユーザ100人を実行した場合、レポートの最大値は100となります。同時実行した他のテスト・スクリプトの仮想ユーザは集計されません。 ● 実行ごとの平均 : 実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。計算式 : $\frac{\text{Sum of the average number of Users}}{\text{Total number of runs}}$
継続時間	分 (%) : プロトコルが使用された分数の合計。計算式 : $\text{Sum of the Avg Users Per Run} \times \text{Duration}$

UI 要素	説明
	パーセンテージは、すべての継続時間に対して、プロトコルの継続時間が占める割合を示しています。計算式： $\frac{\text{Total duration} \times 100}{\text{Total duration of all runs}}$

クラウド高レベル・レポート

クラウド高レベル・レポートでは、プロビジョニング済みのホストと消費クレジットがプロジェクトごとに時系列で表示されます。

グリッド・ビュー：

クラウド高レベル レポート

レポートには、クラウド使用状況の高レベルのビューが表示されます

プロジェクト: 時間フレーム: 今日 アカウント:

アカウントの使用状況 (プロビジョニング)

Weeks:

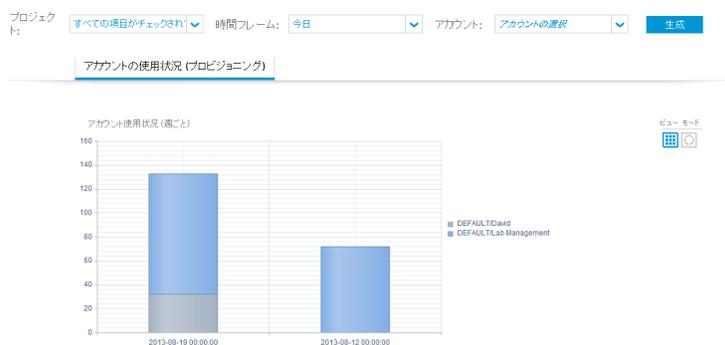
プロジェクト	2013-08-19 00:00:00	ホスト	2013-08-12 00:00:00	ホスト
DEFAULT:Cloud	32.0	4	0	0
DEFAULT:Lab Management	101.0	5	72.0	3
合計	133.0	9	72.0	3

ビュー モード

グラフ・ビュー：

クラウド高レベル レポート

レポートには、クラウド使用状況の高レベルのビューが表示されます



アクセス方法

ALM / ラボ管理：

1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。
2. [使用状況レポート] のリストで、[クラウド高レベル レポート] を選択します。

My Performance Center：

	<ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、【レポート】 をクリックします。 2. 【使用状況レポート】 のリストで、【クラウド高レベル レポート】 を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このレポートはグリッドまたはグラフで表示できます。 • レポートをグリッド表示すると、エクスポート・オプションを使用できます。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(165ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「クラウド・アカウントの概要」(63ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」(99ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	<p>レポートがグラフで表示されます。</p> <p>PDF/Excel にエクスポート：クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。</p>
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に、レポート・フィルタを更新してください。
次でフィルタ：アカウント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには、選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
次でフィルタ：プロジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには、選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 利用可能な場所： ラボ管理 のみ。
次でフィルタ：時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」(166ページ) を参照してください。
<月/週でグループ化>	<p>レポートの結果の集計方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【月】 を選択すると、各月のデータをカラムごとに表示します。 • 【週】 を選択すると、各週のデータをカラムごとに表示します。 <p>例： 【月】 を選択すると、レポートの各カラムには、その月全体で消費されたクレジットとプロビジョニングされたホストが集計されます。選択した時間フレーム内の各月がカラム1つに相当します。</p>
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した 【表示モード】 に応じて、レポートがグリッドまたはグラフで表示できます。
<使用状況の内訳>	<p>レポートがグラフで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クレジット： アカウントの使用状況を消費クレジットごとに表示します。 • ホスト： アカウントの使用状況をプロビジョニング済みホストごとに表示します。
表示モード	<p>レポートの出力方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グリッド・ビュー ：レポートをグリッドで表示します。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • グラフ・ビュー : レポートをグラフで表示します。

グリッド表示では、次のカラムがレポートに表示されます (見出しがない項目は括弧で囲みます)。

フィールド	説明
クレジット	指定した時間フレーム内で、プロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
<日付>	カラムに表示する時間フレームの開始時間を表示します。
ホスト	指定した時間フレーム内で、プロジェクトがプロビジョニングしたホストの数を表示します。
プロジェクト	ホストのプロビジョニングを行い、クレジットを消費したプロジェクト (ドメインを含む) を表示します。

クラウド・クレジット (タイプ別) レポート

クラウド・クレジット (タイプ別) レポートには、消費されたクラウド・クレジット数が場所、テンプレート、インスタンス、マシン・イメージごとに表示されます。

グリッド・ビュー:

クラウド クレジット (タイプ別)

レポートには、消費されたクラウド クレジットの内訳が表示されます

プロジェクト: すべての項目がチェックされ 時間フレーム: 今日 アカウント: アカウントの選択 生成

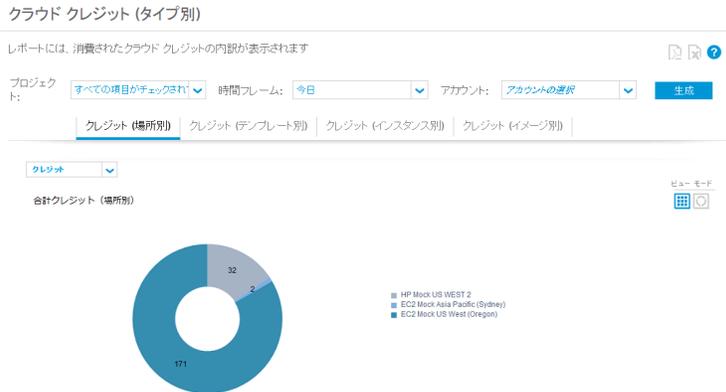
クレジット (機所別)
 クレジット (テンプレート別)
 クレジット (インスタンス別)
 クレジット (イメージ別)

プロジェクト	HP Mock US WEST 2		EC2 Mock Asia Pacific (Sydney)		EC2 Mock US West (Oregon)	
	クレジット	ホスト	クレジット	ホスト	クレジット	ホスト
DEFAULT:Dev	32.0	4	0	0	0	0
DEFAULT:Lab Management	0	0	2.0	2	171.0	3
合計	32.0	4	2.0	2	171.0	3

グラフ・ビュー:

ラボ管理ガイド

第8章: 使用状況レポート



アクセス方法	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで [クラウドクレジット(タイプ別)] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [レポート] をクリックします。 2. [使用状況レポート] のリストで [クラウドクレジット(タイプ別)] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このレポートはグリッドまたはグラフで表示できます。 • レポートをグリッド表示すると, エクスポート・オプションを使用できます。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」 (165ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「クラウド・アカウントの概要」 (63ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」 (99ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして, レポートを PDF または Excel にエクスポートします。 利用可能な場所 : グラフ・ビューのみ。
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に, レポート・フィルタを更新してください。
【クレジット(イメージ別)】タブ	マシン・イメージごとにクレジットの使用状況を表示します。
【クレジット(インスタンス別)】タブ	インスタンス・タイプごとにクレジットの使用状況を表示します。

UI 要素	説明
【クレジット (場所別)】タブ	場所ごとにクレジットの使用状況を表示します。
【クレジット (テンプレート別)】タブ	ホスト・テンプレートごとにクレジットの使用状況を表示します。
次でフィルタ：アカウント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには、選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
次でフィルタ：プロジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには、選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 利用可能な場所 ：ラボ管理のみ。
次でフィルタ：時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「 使用状況レポートの時間フレーム 」(166ページ)を参照してください。
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した【表示モード】に応じて、レポートがグリッドまたはグラフで表示できます。
<使用状況の内訳>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クレジット：アカウントの使用状況を消費クレジットごとに表示します。 ・ ホスト：アカウントの使用状況をプロビジョニング済みホストごとに表示します。 利用可能な場所 ：グラフ・ビューのみ。
表示モード	レポートの出力方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グリッド・ビュー ：レポートをグリッドで表示します。 ・ グラフ・ビュー ：レポートをグラフで表示します。

グリッド表示では、次のカラムがレポートに表示されます (見出しがない項目は括弧で囲みます)。

フィールド	説明
クレジット	指定した場所、テンプレート、インスタンス、イメージを使用するプロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
<イメージ>	マシン・イメージを使用してプロビジョニングしたホストの数と、そのマシン・イメージのホストが消費するクレジット数を表示します。 利用可能な場所 ：【クレジット (イメージ別)】タブのみ。
<インスタンス>	インスタンス・タイプを使用してプロビジョニングしたホストの数と、そのインスタンス・タイプのホストが消費するクレジット数を表示します。 利用可能な場所 ：【クレジット (インスタンス別)】タブのみ。
ホスト	指定した場所、テンプレート、インスタンス、イメージを使用するプロジェクトがプロビジョニングしたホストの数を表示します。
<場所>	場所からプロビジョニングしたホストの数と、その場所が消費するクレジット数を表示します。 利用可能な場所 ：【クレジット (場所別)】タブのみ。
プロジェクト	ホストのプロビジョニングを行い、クレジットを消費したプロジェクト (ドメインを含む) を表

フィールド	説明
	示します。
<テンプレート>	テンプレートからプロビジョニングしたホストの数と、そのテンプレートからプロビジョニングしたホストが消費するクレジット数を表示します。 利用可能な場所 ： [クレジット (テンプレート別)] タブのみ。

クラウド利用率レポート

クラウド利用率レポートでは、クラウド・ホストの稼働時間とアイドル時間を比較します。このレポートでは、クラウド・リソースが有効活用されているかどうかを確認できます。

グリッド・ビュー：

クラウド利用率

レポートには、クラウドリソースの利用率が表示されます

プロジェクト: 時間フレーム: 今日 アカウント:

ホスト利用率

プロジェクト	合計使用時間	合計アイドル時間	クレジット消費の合計アイドル時間
DEFAULTDavid	7.33	7.33	29.31
DEFAULTLab Management	54.93	54.93	194.48
Total	62.26	62.26	193.79

グラフ・ビュー：



アクセス方法

ALM / ラボ管理：

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【Performance Center】 > 【使用状況レポート】 を選択します。 2. 【使用状況レポート】 のリストで、【クラウド利用率】 を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、【レポート】 をクリックします。 2. 【使用状況レポート】 のリストで、【クラウド利用率】 を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このレポートはグリッドまたはグラフで表示できます。 • レポートをグリッド表示すると、エクスポート・オプションを使用できます。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(165ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「クラウド・ホストの概要」(49ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」(99ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	レポートがグラフで表示されます。 PDF/Excel にエクスポート：クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に、レポート・フィルタを更新してください。
次でフィルタ：アカウント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには、選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
次でフィルタ：プロジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには、選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 利用可能な場所： ラボ管理のみ。
次でフィルタ：時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、 「使用状況レポートの時間フレーム」(166ページ) を参照してください。
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した 【表示モード】 に応じて、レポートがグリッドまたはグラフで表示できます。
表示モード	レポートの出力方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • グリッド・ビュー  : レポートをグリッドで表示します。 • グラフ・ビュー  : レポートをグラフで表示します。

グリッドに表示されるレポートの出力には、次のカラムがあります。

フィールド	説明
合計使用時間	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで、テストを実行した時間の合計(時間単位)。

フィールド	説明
合計アイドル時間	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで、テスト実行が可能であるにもかかわらず未使用状態だった時間の合計 (時間単位)。
クレジット換算の合計アイドル時間 (推定)	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで、テスト実行が可能であるにもかかわらず未使用状態だったときに消費したクレジット数の合計。
プロジェクト	使用状況のサマリを表示するプロジェクト (ドメインを含む)。

クラウド操作レポート

クラウド操作レポートでは、クラウド・ホストで行ったプロビジョニングと終了操作が個々に表示されます。また、テストでの使用状況がホストごとに表示されます。

アクセス方法	<p>ALM / ラボ管理 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで、[クラウド操作] を選択します。 <p>My Performance Center :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、[レポート] をクリックします。 2. [使用状況レポート] のリストで、[クラウド操作] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このレポートには、操作、ホスト、使用状況という3つの要素が含まれます。 • このレポートに表示されるデータは、Excel のみにエクスポートできます。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」 (165ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「クラウド・ホストの概要」 (49ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」 (99ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「クラウド・ホストの概要」 (49ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」 (99ページ)

ユーザ・インタフェース要素

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	Excel にエクスポート: クリックすると、レポートが Excel にエクスポートされます。Excel のレポートには、レポート出力の追加カラムが含まれます。
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に、レポート・フィルタを更新してください。

UI 要素	説明
ホストに戻る	クラウド操作またはホストの使用状況を個別に表示しているときに選択できます。クラウド・ホストのリストに戻ります。
操作に戻る	クラウド・ホストを個別に表示しているときに選択できます。クラウド操作のリストに戻ります。
<カラム検索>	選択したカラムを検索します。数値フィールドの検索では、入力した数値と 完全一致 するレコードを検索します。テキスト・フィールドの検索では、入力したテキストを 含む レコードを検索します。
次でフィルタ：アカウント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには、選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストと操作のみが表示されます。
次でフィルタ：プロジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには、選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストと操作のみが表示されます。 利用可能な場所 ：ラボ管理のみ。
次でフィルタ：時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「 使用状況レポートの時間フレーム 」(166ページ)を参照してください。
操作とホストの選択	すべてのクラウド・ホストまたはすべてのクラウド操作を表示しているときに選択できます。レポート出力が変更され、クラウド操作またはクラウド・ホストのいずれかが表示されます。
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した[表示モード]に応じて、レポートがグリッドまたはグラフで表示できます。
すべてのホストの表示	クラウド・ホストを個別に表示しているときに選択できます。クラウド・ホストをすべて表示するリストに戻ります。
すべての操作の表示	クラウド操作を個別に表示しているときに選択できます。クラウド操作をすべて表示するリストに戻ります。

操作ビュー

cation Lifecycle Management ドメイン: DEFAULT, プロジェクト: LAB_PROJECT | ユーザ: alex_alm |

クラウド操作

レポートには、クラウドホスト上の操作のログが表示されます

プロジェクト: すべての項目がチェックされ 時間フレーム: 今日 アカウント: アカウントの選択 生成

ID	操作 ID	操作	開始時間	継続時間	実行されたホスト	ホスト	プロジェクト
1001	9a4d88f1-108f-493a-9332-7a0c95914297	Provision	9/9/2019 10:19:45 AM	2.06	1		
1002	232a495357a451a7b25c37339360507	Provision	9/10/2019 10:28:29 AM	0.66	1	1	
1003	958a7a7c4558-4269-9a4c-2928a4e4792	Provision	9/10/2019 10:32:51 AM	0.84	1	1	
1004	75210927-a26a-4177-08a5-4023a050282	Terminate	9/10/2019 10:34:13 AM	1.37	1	1	
1005	9920149-a45c-448a-80a1-4942aa820119	Terminate	9/10/2019 12:09:20 PM	1.20	1	1	
1006	490c7919-9371-4c12-82a1-2702128a31f	Provision	9/10/2019 12:24:40 PM		1		
1007	811488-0288-409a-9307-407420511150	Provision	9/10/2019 12:28:02 PM	1.15	1	1	
1008	858a5007-a4a2-409a-4a27-894a797a62c	Terminate	9/10/2019 12:28:39 PM	3.38	1	1	
1009	e173a7e-aa57-445a-83a5-aa487107195	Provision	9/10/2019 2:12:05 PM	6.57	1		

15 items in 2 pages

操作ビューでは、各プロビジョニング操作と終了操作が一覧表示されます。[ホスト]カラムの数値をクリックすると、操作の対象となるホストを確認できます。

アクセス方法: [操作] ラジオ・ボタンをクリックします。

操作ビューのレポートには、次のカラムがあります。

フィールド	説明
ID	クラウド操作の ID。
要求 ID	クラウド操作を示すクラウド・プロバイダの ID。
操作	クラウド操作のタイプ([プロビジョニング] または [終了])。
開始時刻	クラウド操作が開始された日時。
継続時間	ホストのプロビジョニングまたは終了にかかった時間(分)。
要求されたホスト	プロビジョニング操作: クラウド・プロバイダに要求されたホストの数。 終了操作: 終了するホストの数。
ホスト	プロビジョニング操作: 実際にプロビジョニングされたホストの数。すべてのホストでプロビジョニングが失敗した場合は空白になります。 終了操作: 終了するホストの数。 ホスト数をクリックすると、操作の対象となるホストがすべて一覧表示されます。
プロジェクト	クラウド操作を開始したプロジェクト。

ホスト・ビュー

クラウド操作

レポートには、クラウド ホスト上の操作のログが表示されます

プロジェクト: 時間スレーム: 今日 アカウント:

操作 ホスト

ホスト名	レベル	プロビジョニング済み	終了済み	合計アップタイム	合計アイドル時間	使用状況	プロビジョニング操作	終了操作
187.21.76.103	187.21.76.103	9/10/2019 10:15:48 AM				Usage	1001	0
23.20.33.65	23.20.33.65	9/10/2019 10:28:28 AM	9/10/2019 10:34:13 AM	7	7	Usage	1002	1004
64.211.220.147	64.211.220.147	9/10/2019 10:32:01 AM	9/10/2019 12:09:28 PM	85	85	Usage	1003	1005
184.72.199.245	184.72.199.245	9/10/2019 12:20:52 PM	9/10/2019 12:28:39 PM	1	1	Usage	1007	1008
64.212.234.173	64.212.234.173	9/10/2019 2:12:05 PM	9/10/2019 3:17:28 PM	65	65	Usage	1009	1010

ホスト・ビューでは、各ホストに関連するプロビジョニング操作と終了操作が表示されます。[**プロビジョニング操作**] カラムの ID をクリックすると、そのプロビジョニング操作の詳細を確認できます。[**終了操作**] カラムの ID をクリックすると、その終了操作の詳細を確認できます。

アクセス方法: [ホスト] ラジオ・ボタンをクリックします。

ホスト・ビューのレポートには、次のカラムがあります。

フィールド	説明
ホスト名	クラウド・ホストのIPアドレス。
ラベル	プロビジョニング操作で指定したクラウド・ホストの論理名。
プロビジョニング	ホストのプロビジョニングを行った日時。
終了済み	ホストを終了した日時。ホストが終了していない場合は空白になります。
合計アップタイム	ホストのプロビジョニングにかかった時間。ホストが終了していない場合は空白になります。
合計アイドル時間	プロビジョニング済みのホストがテストに使用されていない時間。ホストが終了していない場合は空白になります。
使用状況	クリックすると、選択したホストの使用状況ビューが開きます。
プロビジョニング操作	ホストをプロビジョニングしたときの操作のID。
終了操作	ホストを終了したときの操作のID。ホストが終了していない場合は「0」と表示されず。

使用状況ビュー

使用状況ビューでは、選択したホストを使用して実行したテストがすべて表示されます。

アクセス方法: ホスト・ビューの [使用状況] カラムで、ホストの [使用状況] ボタンをクリックします。

使用状況ビューのレポートには、次のカラムがあります。

フィールド	説明
タイムスロット ID	テストを実行したタイムスロットのID。
実行 ID	テスト実行のID。
開始	テスト実行を開始した日時。
終了	テスト実行が終了した日時。
継続時間	テスト実行の継続時間(分)。
プロジェクト	テスト実行を開始したプロジェクト。
ユーザ	テスト実行を開始したユーザ。

第9章: システム・ヘルス

本章の内容

- システムのヘルスの概要 199
- システムのヘルスのユーザ・インタフェース 199

システムのヘルスの概要

ALM でパフォーマンス・テストを設計, 実行するには, Performance Center システムが正常に稼働中である必要があります。システムのヘルス・モジュールでは, システム・コンポーネント間の通信をチェックするタスクを実行することによって, システム稼働を正常な状態に維持することができます。

システムのヘルスのユーザ・インタフェース

本項の内容

- システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ200
- [システム チェックの設定] ダイアログ・ボックス 201

システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには、ALM Performance Center システムのヘルスのメンテナンス・タスクと全般的なシステム・チェックに関する情報が表示され、ALM Performance Center システムで完全な検証を実行できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [システムのヘルス] を選択します。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(199ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	<p>【システム チェックの設定】ダイアログ・ボックスが開き、システム・チェックの対象にする ALM-Performance Center システム内のサーバとホストを選択できます。詳細については、「[システム チェックの設定] ダイアログ・ボックス」(201ページ)を参照してください。</p>
	<p>すべて更新：最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。</p> <p>【自動更新】が有効になっている場合、このボタンは無効になります。</p>
	<p>自動更新をオンに設定/自動更新をオフに設定：有効にした場合、最新のタスク情報が表示されるように、グリッドを5秒ごとに自動更新します。</p>
	<p>失敗ステータスのみを持つシステム・チェック結果が表示されます。</p>
	<p>【グリッドデータのエクスポート】ダイアログ・ボックスが開き、システム・チェックの結果を Microsoft Excel ワークシートとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて：グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。 • 選択済み：グリッドの選択したタスクをエクスポートします。
<結果グリッド>	<p>システム・チェックの進行状況と結果が表示されます。次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステータス：システム・チェックのステータスです。 • コンポーネント：サーバ名またはホスト名。 • 説明：タスクの説明。 • 結果：タスクの結果。 • 開始時刻：タスクが開始された時刻。 • 終了時刻：タスクが終了した時刻。 • 成功：タスクの確認が成功または失敗したかを示します。
タスク結果	<p>タスク・ステータスとシステム・チェックの結果が表示されます。</p>

UI 要素	説明
タスク・ログ	稼働中のサーバまたはホストで実行されるタスク、アクションのステータス、エラーの説明に関する詳細情報が表示されます。

[システムチェックの設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、システム・チェックの実行時に対象とする ALM-Performance Center システム・コンポーネント (サーバとホスト) を選択できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[システムのヘルス] を選択します。  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> システム・チェックは、稼働中状態の Performance Center サーバとホストのみで実行されます。 システム・チェックは、Controller 用途のホストのみで実行されます。
参照情報	「システムのヘルスの概要」 (199ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
ALM Platform の確認	システム・チェックで ALM サーバを対象にします。
Performance Center サーバの確認	システム・チェックで稼働中の Performance Center サーバを対象にします。 <ul style="list-style-type: none"> すべて：システム・チェックで稼働中の Performance Center サーバをすべて対象にします。 特定：システム・チェックの対象にする稼働中の Performance Center サーバを選択できません。
ホストの確認	システム・チェックで Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストを対象にします。 <ul style="list-style-type: none"> すべて：システム・チェックで Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストをすべて対象にします。 特定：システム・チェックの対象にする Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストを選択できます。
<Performance Center サーバのグリッド>	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center サーバがリストされ、その詳細が表示されます。詳細については、 「PC サーバ・モジュールのフィールド」 (267ページ) を参照してください。
<Performance Center ホスト・グリッド>	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center ホストがリストされ、その詳細が表示されます。詳細については、 「ホストのフィールド」 (128ページ) を参照してください。

第10章: PC ライセンス

本章の内容

- HP ALM Performance Center ライセンスの概要 203
- Performance Center のライセンス・キーの設定方法 204
- PC ライセンスのユーザ・インタフェース 205

HP ALM Performance Center ライセンスの概要

HP ALM Performance Center を使用するには、次のライセンスを定義する必要があります。

ライセンス	説明
ALM	ALM ライセンスは、ALM のインストール・プロセスの一環として設定され、サイト管理で管理されます。ALM ライセンスの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
Performance Center	<p>Performance Center のライセンスには2つのタイプがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">● PC : PC ライセンスは、同時実行または仮想ユーザの合計数によって制限され、有効期限が設定されている可能性があります。 <p>注: このライセンスは、恒久的な Community ライセンス・バンドルとして無償で提供されます。このバンドルには、Controller 1 つ (同時実行数は 1) と仮想ユーザ 50 人が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">● PC_VUDS : パーチャル・ユーザ・デイ (VUD) ライセンスでは、指定された仮想ユーザ数 (VUD) を 24 時間の期間 (パーチャル・ユーザ・デイ) 以内に無制限で実行できます。パーチャル・ユーザ・デイの終わりに、ライセンス済み VUD の残りの数が計算されます。この計算では、使用済みの VUD 数を差し引くか、同時実行で使用した場合は、ライセンス済み VUD の合計数から同時実行 VUD の最大数を差し引きます。 <p>たとえば、ユーザに 1,000 個の VUD を実行できるライセンスがあったとします。ユーザは、200 個の仮想ユーザを必要とし、45 分間実行されるパフォーマンス・テストを作成します。テストを 08:00:00 時、10:00:00 時、14:00:00 時、16:00:00 時に実行します。それぞれのケースで、テストは次のテストが始まる前に終了します。仮想ユーザを同時実行で使用していないため、各テストで同じ 200 個の VUD を再利用できます。つまり、24 時間の期間の最後に、ライセンスから 200 個の VUD のみ差し引かれ、残りの 800 個を今後使用できることとなります。</p> <p>ただし、ユーザが 2 番目の実行を午前 8 時 30 分に開始した場合、2 番目のテストの初期化時に最初のテストはまだ実行中です。この重複によって、同時実行のために 400 個 (各テストで 200 個ずつ) の仮想ユーザ数が必要となります。この期間の最後に、ライセンスから 400 個の VUD が差し引かれます。400 が同時実行仮想ユーザの最大数であるためです。今後使用できる残りの合計は、600 個の VUD となります。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">● Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは、Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は、PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については、『PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ (206ページ)』を参照してください。● 次のものを除き、HP 開発のプロトコル上で VUD を実行できます。COM/DCOM, VB Com, VB 仮想ユーザ, VB Script 仮想ユーザ, VB.NET 仮想ユーザ, VB.NET テンプレート。● SDK プロトコル上では、VUD を実行できません。● UFT Professional スクリプトなどの GUI 仮想ユーザ・スクリプト上では、VUD を実行できません。● VUD ベースの Performance Center ライセンスを使用する場合、ホスト・ライセンスは無関係です。

ライセンス	説明
ホスト	<p>ホスト・ライセンスは、ホスト上のプロトコルごとの仮想ユーザ数の上限を定義します。ホスト・ライセンスの仮想ユーザ・タイプには、次の2つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・ <バンドル・タイプ> バンドル : 各バンドルにプロトコルの集合が含まれています。プロトコル・バンドルを選択した場合、このセクションには、含まれているプロトコルのリストが表示されます。・ グローバル : グローバル・ライセンスを使用すると、合計制限内に留まる限り、すべての仮想ユーザ・タイプを実行できます。「グローバル」の後に続く数は、購入した仮想ユーザの合計数を示します。
Community ライセンス・バンドル	<p>Performance Center では、恒久的な Community ライセンス・バンドルが無償で提供されます。このバンドルには、次の内容が含まれます。</p> <p>Controller 1 つ (同時実行数は 1)、PC Lifecycle ユーザ 1 人、恒久的な仮想ユーザ 50 人。これらの仮想ユーザは、GUI (UFT)、COM/DCOM、テンプレート・プロトコル以外のすべてのプロトコルに対して有効です。Community ライセンス・バンドルにはサポートは含まれません。</p> <p>注: このバンドルは、Performance Center インストール DVD のルート・ディレクトリにある CommunityLicense に格納されています。</p>

注: Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは、Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は、PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については、「[Performance Center のライセンス・キーの設定方法](#)」を参照してください。

Performance Center のライセンス・キーの設定方法

本項では、Performance Center のライセンス・キーを設定する方法について説明します。

1. 前提条件

ALM ライセンスが ALM サイト管理で設定されていることを確認します。ALM ライセンスの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. ライセンス・キーをアクティブ化します。

ライセンスをアクティブにするには、HP Software Licensing Portal (<http://www.hp.com/software/licensing>) にアクセスし、Entitlement Order Number を入力してください。

ライセンスを持っていない場合は、HP Software Licensing Portal (<http://www.hp.com/software/licensing>) にアクセスし、[\[ライセンス サポートへの問い合わせ\]](#) リンクをクリックしてください。

3. ライセンス・キーを設定します。

a. ラボ管理で、Performance Center にある **[PC ライセンス]** を選択します。PC ライセンス・

モジュール・ウィンドウが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ](#)」(206ページ)を参照してください。

- b. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **ライセンス・キーの追加** : ライセンス・キーを1つ追加します。
 - **ファイルからライセンスを追加** : 複数のライセンス・キーを同時に追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[ファイルからライセンスを追加\] ダイアログ・ボックス](#)」(208ページ)を参照してください。

PC ライセンスのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ](#) 206
- [\[ファイルからライセンスを追加\] ダイアログ・ボックス](#) 208

PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ

このページでは、Performance Center ライセンスと VUD ベースのライセンスのサマリ、ホスト・ライセンスの情報を表示できます。

PC ライセンスのサマリ (仮想ライセンス)		Host ライセンスのサマリ (仮想ライセンス)	
合計仮想ユーザ数:	1150	Community	50
合計同時実行数:	101	Database	200
次のライセンス有効期限:	Unlimited	DCOM	100
VUD ライセンスのサマリ		.NET Record/Replay	400
購入済み VUD 合計数:	0	Wireless	100
残りの VUD 合計数:	0	Web&Multimedia	100
プロジェクトに割り当てられていない数:	0		

ライセンスタイプ	期限切れモード	有効期限 (GMT)	Host ライセンスバンドル	数量	PC 仮想ユーザ	同時実行
Host	Permanent	Unlimited	Community	50		
PC	Permanent	Unlimited				1
PC	Permanent	Unlimited			50	
PC	Permanent	Unlimited			100	
PC	Permanent	Unlimited			100	
PC	Permanent	Unlimited			100	
PC	Permanent	Unlimited				100
PC	Permanent	Unlimited			100	
PC	Permanent	Unlimited			100	
Host	Permanent	Unlimited	Database	100		

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] から [PC ライセンス] を選択します。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> 「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」(204ページ)
参照情報	「 HP ALM Performance Center ライセンスの概要 」(203ページ)

【PC ライセンスのサマリ】領域

すべての Performance Center ライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
合計仮想ユーザ数	すべてのライセンスの仮想ユーザの合計数。
合計同時実行数	同時に実行できる仮想ユーザの合計数。
次のライセンスの有効期限	ライセンスの有効期限が切れる日を示します。

【VUD ライセンスのサマリ】領域

VUD ベースのすべてのライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
購入済み VUD 合計数	購入した VUD の合計数。
残りの VUD 合計数	残っている VUD の合計数。
プロジェクトに割り当てられていない数	割り当てられていない VUD の合計数。

【Host ライセンスのサマリ】領域

すべてのホスト・ライセンスについて、プロトコル・バンドルと容量の情報を表示します。

すべてのライセンス領域

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
 ライセンス キーの追加	一度に1つのライセンス・キーをインストールできます。 クリックして [新規ライセンスの追加] ダイアログ・ボックスを開き、新規ライセンス・キーを入力します。 注: 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスを追加できます。
 ファイルからライセンスを追加	[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックスを開くと、複数のライセンス・キーを同時にインストールできます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「 [ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス 」(208ページ)を参照してください。
 期限切れを表示  期限切れを非表示	すべてのライセンスを表示、または期限切れのライセンスを非表示にします。
 ライセンスの詳細	クリックすると、[ライセンスの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 割り当て日 : ライセンスがシステムに追加された日付。 • ライセンス・キー : ライセンス・キー。 • タイプ : ライセンスのタイプ。 詳細を Excel ファイルにエクスポートするには、 [Excel にエクスポート] をクリックします。 注: 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスの詳細を表示できます。
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおり

UI 要素	説明
	です。PC, PC_VUODS, Host。詳細については、 「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(203ページ) を参照してください。
期限切れモード	<ul style="list-style-type: none"> • Permanent • Time Limited : ライセンスは有効期限で制限されます。 • Temporary : 製品のインストール後、定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。
有効期限 (GMT)	ライセンスの有効期限が切れる日時。
Host	<ul style="list-style-type: none"> • ライセンス・バンドル : ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。ライセンスを使用すると、Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。 • 容量 : LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。
PC	<ul style="list-style-type: none"> • 仮想ユーザ : 仮想ユーザ数。 • 同時実行 : 同時に実行できるテスト実行の最大数。

[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、複数の Performance Center ライセンス・キーを同時にインストールできます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] から [PC ライセンス] を選択します。  ファイルからライセンスを追加 をクリックします。
重要	必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスを追加できます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> • 「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」(204ページ)
参照情報	「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(203ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ライセンス・ファイル	[選択] をクリックしてライセンス・ファイルを選択します。
期限切れまたはインストール済みのライセンスを表示/非表示	すべてのライセンスを表示するか、または期限切れとインストール済みのライセンスを非表示にします。

UI 要素	説明
#	連続する ID 番号を示します。
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。 PC , PC_VUDS , Host 。詳細については、 「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(203ページ) を参照してください。
期限切れモード	<ul style="list-style-type: none">• 永続• 時間制限：ライセンスは有効期限で制限されます。• 一時：製品のインストール後、定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。
有効期限	ライセンスの有効期限が切れる GMT 日時を示します。
ホスト	<ul style="list-style-type: none">• ライセンス・バンドル：ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。ライセンスを使用すると、Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。• 容量：LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。
PC	<ul style="list-style-type: none">• 仮想ユーザ：仮想ユーザ数。• 同時実行：同時に実行できるテスト実行の最大数。
追加	選択したライセンスをインストールします。

第11章: MI Listener

本章の内容

- [MI Listener の概要](#)211
- [MI Listener を管理する方法](#) 211
- [MI Listener モジュール](#)212

MI Listener の概要

MI Listener は、コントローラと Performance Agent 間のルータとして機能します。MI Listener を使用することにより、ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。

MI Listener は、Performance Agent から定期的にデータを受け取ります。テストの実行中に、Controller は MI Listener からデータを取得し、実行時データとして処理します。

MI Listener は Load Generator でのみ利用できます。

ファイアウォールを使用するようにラボ管理を設定する方法の詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』のファイアウォールの使用に関する項を参照してください。

MI Listener の管理については、[「MI Listener を管理する方法」\(211ページ\)](#)を参照してください。

MI Listener を管理する方法

本項では、ファイアウォールを介してホスト上でパフォーマンス・テストを実行する際に使用する MI Listener を管理する方法を説明します。

注: 製品の機能紹介ムービー: パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALM のメイン・ウィンドウで、[\[ヘルプ\]](#) > [\[ムービー\]](#) を選択します。

本タスクの内容

- [「MI Listener の追加」\(211ページ\)](#)
- [「ホストの場所の詳細の変更/表示」\(211ページ\)](#)
- [「ホストへの MI Listener の割り当て」\(212ページ\)](#)

MI Listener の追加

MI Listener を追加するには、次の手順を実行します。

1. [\[Performance Center\]](#) > [\[MI Listener\]](#) を選択します。
2. [\[新規 MI Listener\]](#) ボタン  をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[新規 MI Listener\] ダイアログ・ボックス」\(216ページ\)](#)を参照してください。

ホストの場所の詳細の変更/表示

[\[Performance Center\]](#) > [\[MI Listener\]](#) を選択し、グリッドで MI Listener を選択してから、[\[MI Listener の詳細\]](#) ボタン  をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[MI Listener 詳細\] ダイアログ・ボックス](#)」(216ページ)を参照してください。

ホストへの MI Listener の割り当て

ホストに MI Listener を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[ホスト]** を選択します。
2. ファイアウォール越しに位置するホストをグリッドで選択し、**[テストイング ホストの詳細]** ボタン  をクリックします。
3. **[テストイング ホスト]** ダイアログ・ボックスが開いたら、**[MI Listener]** フィールドで MI Listener を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[テストイング ホストの詳細\] ダイアログ・ボックス](#)」(133ページ)を参照してください。

MI Listener モジュール

- [MI Listener モジュール・ウィンドウ](#) 213
- [MI Listener のフィールド](#) 213
- [MI Listener モジュールのメニューとボタン](#) 214
- [\[新規 MI Listener\] ダイアログ・ボックス](#) 216
- [\[MI Listener 詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 216

MI Listener モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、MI Listener を表示、管理できます。MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しのホスト上でパフォーマンス・テストを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [MI Listener] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ファイアウォールを使用するように ALM を設定する方法の詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』でのファイアウォールの使用に関する項を参照してください。 MI Listener がホストによって使用されている場合は、削除できません。
関連タスク	「MI Listener を管理する方法」 (211ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> 「MI Listener の概要」 (211ページ) 「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<MI Listener モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> MI Listener モジュールのフィールド：フィールドの定義については、「MI Listener のフィールド」 (213ページ)を参照してください。 MI Listener モジュールのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」 (121ページ)を参照してください。
<MI Listener のグリッド>	ALM 内の MI Listener のリストを表示します。
【説明】 タブ	<p>現在選択されている MI Listener についての説明が表示されます。</p> <p>ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
【履歴】 タブ	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

MI Listener のフィールド

本項では、MI Listener のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	MI Listener の説明。

フィールド	説明
MI Listener ID	MI Listener の ID。
パブリック IP	MI Listener の公開 IP アドレス。 注: 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス (1 つは Controller との内部通信用, もう 1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通信用) がある場合, ここに 公開 IP アドレス を入力します。【MI Listener 名】フィールド (次を参照) には, 内部 IP アドレスを入力します。
MI Listener 名	MI Listener の名前。 注: 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス (1 つは Controller との内部通信用, もう 1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通信用) がある場合, ここに 内部 IP アドレス を入力します。【公開 IP】フィールドには, 公開 IP アドレスを入力します (上記参照)。
用途	MI Listener に指定されたロール。 <ul style="list-style-type: none"> ファイアウォール越しの診断データの収集 ファイアウォール越しの監視 ファイアウォール越しのホストの実行

MI Listener モジュールのメニューとボタン

MI Listener モジュールでは, MI Listener を管理します。

関連タスク [「MI Listener を管理する方法」 \(211ページ\)](#)

MI Listener モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入り に追加	お気に入り	【追加 お気に入り】ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
削除 	【編集】と<右クリック・メニュー>	グリッドで選択した MI Listener を削除します。 注: ホストが使用中の MI Listener は, 削除できません。
MI Listener の詳細 	ツールバーと右クリック・メニュー	【MI Listener の詳細】ダイアログ・ボックスが開き, 選択したリソースの詳細を表示および編集できます。
エクスポート	ツールバーと<右クリック・メニュー>	【すべてのグリッド データをエクスポート】ダイアログ・ボックスまたは【選択済みグリッド データをエクスポート】ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドの MI Listener を, テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。

UI 要素	場所	説明
		次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべて : グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • 選択項目 : グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索 	表示	【検索】 ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リソース>に移動 	ツールバー	【MI Listener に移動】 ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で MI Listener を検索できます。移動できるのは、現在適用しているフィルタに含まれる MI Listener のみです。
グリッド・フィルタ	【表示】と<右クリック・メニュー>	【フィルタ】ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	【表示】と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。
新規 MI Listener 	ツールバー	MI Listener を追加します。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	【編集】と<右クリック・メニュー>	グリッドに【置換】ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	【カラムの選択】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内の MI Listener に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	【編集】と<右クリック・メニュー>	【選択項目の更新】ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP

UI 要素	場所	説明
		Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、MI Listener を ALM に追加できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[MI Listener] を選択します。 MI Listener モジュールで、[新規 MI Listener] ボタン  をクリックします。
重要な情報	MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「MI Listener を管理する方法」(211ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> 「MI Listener の概要」(211ページ) 「ラボ・リソースの概要」(104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア ：データをクリアします。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
MI Listener 名	新しい MI Listener の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用できる MI Listener のフィールドの詳細については、 「MI Listener のフィールド」(213ページ) を参照してください。

[MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択した MI Listener の詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [MI Listener] を選択します。 2. グリッド内の MI Listener を右クリックし、 [MI Listener 詳細] を選択します。
重要な情報	MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しのホスト上でテストを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「テストング・ホストの管理方法」 (106ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「MI Listener の概要」 (211ページ) • 「ラボ・リソースの概要」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : MI Listener のリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し、 a?b は acb を返します。
MI Listener ID	MI Listener の ID。
MI Listener 名	MI Listener の名前。
詳細	現在選択されている MI Listener についての詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、 「MI Listener のフィールド」 (213ページ) を参照してください。
履歴	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第12章: 診断管理

本章の内容

- J2EE/.NET 診断の概要 219
- ERP/CRM 診断の概要 219
- ERP/CRM メディエータの追加方法 221
- HP Diagnostics サーバの追加方法 222
- Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法 222
- Oracle 11i 診断を事前に設定する方法 226
- SAP 診断を事前に設定する方法 227
- Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法 227
- Oracle サーバのログを有効にする方法 229
- Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法 230
- 診断のユーザ・インタフェース 230

J2EE/.NET 診断の概要

HP Diagnostics と HP Application Lifecycle Management (ALM) との統合によって、Java 2 Enterprise Edition (J2EE) , .NET 接続, SAP, Oracle, その他の複雑な環境のパフォーマンスを監視, 分析できるようになります。

パフォーマンス・テスト中に、HP Diagnostics データをドリルダウンしてテスト全体や特定のトランザクションを表示できます。テストの後に、HP LoadRunner Analysis を使用して、テスト中に収集されたオフライン診断データを分析できます。

サーバ要求の監視

J2EE/.NET 診断を使用するようにパフォーマンス・テストを設定する場合、仮想ユーザ・トランザクションのコンテキスト外で発生するサーバ要求のパーセントをキャプチャするように ALM に指示できます。

この機能を有効にする利点は、次の場合にも、バックエンドの VM への呼出しをキャプチャできることです。

- プロンプが RMI 呼び出しをキャプチャしていない場合
- RMI 呼び出しをキャプチャできない場合 (おそらく、サポートされていないアプリケーション・コンテナが使用されているため)
- アプリケーションが複数の VM 間の通信に他の何らかのメカニズムを使用している場合

J2EE と .NET の診断の使用の詳細については、『HP Diagnostics User Guide』を参照してください。

ERP/CRM 診断の概要

次の項では、ERP/CRM 診断の概要について説明します。

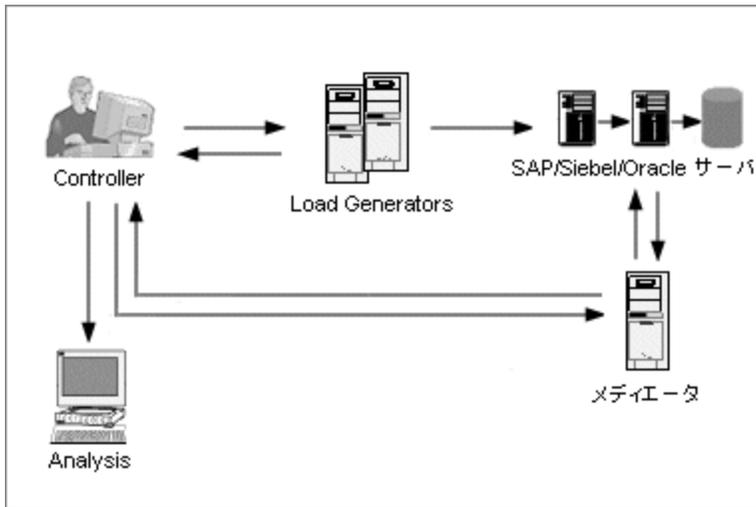
ERP/CRM 診断について

パフォーマンス・テスト中、ALM 診断モジュールは、Web、アプリケーション、データベース・サーバにわたって個々のトランザクションのトレース、時間測定、トラブルシューティングを行います。これで、低速のエンドユーザ・トランザクションからボトルネックとなったメソッドや SQL ステートメントまでドリルダウンできます。ALM Performance Center 診断モジュールを使用すると、組織では次のことが可能になります。

- エンドユーザ体験に重大な影響を与えるアプリケーション・コンポーネントの迅速な隔離。
- 開発者へのパフォーマンスの改善方法に関する正確なデータの提供。

ERP/CRM 診断モジュールのアーキテクチャ

ERP/CRM 診断のアーキテクチャは、次の図に示すように、次のコンポーネントで構成されています。



- **メディエータ** : ERP/CRM メディエータ ("メディエータ") は、Web、データベース、アプリケーション・サーバからオフライン・トランザクション・データを収集し、相関します。メディエータのインストールの詳細については、『HP LoadRunner インストール・ガイド』を参照してください。
- **Controller** : テスト実行の前に、Controller はすべてのサーバ情報をメディエータに転送し、監視に参加するユーザのパーセントを分配します。テストの実行後に、Controller は、集計されたトランザクション・データ・ファイルをメディエータから収集し、結果を照合します。結果は、Siebel 診断、SAP 診断、Oracle DB 結果ディレクトリに転送されます。
- **Load Generator** : 負荷テストを実行すると、Controller によって各仮想ユーザが Load Generator に分配され、Load Generator によって仮想ユーザ・スクリプトが実行されます。
- **Analysis** : 詳細な診断グラフと診断レポートを表示します。診断グラフの詳細については、『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

メディエータのリモート・サーバへの接続

ERP/CRM 診断モジュールを設定する場合、監視するサーバを定義するには、トレース/ログ・ファイルを格納するサーバのユーザ名を入力します。本項では、サーバがリモート Windows サーバまたは UNIX サーバである場合に、メディエータがサーバに接続する方法について説明します。

- リモート Windows サーバを監視する場合、メディエータは、診断設定プロセス中に [<診断タイプ> サーバの設定] ダイアログ・ボックスに入力した設定詳細を使用してサーバへの接続を試みます。この設定では、リモート・マシンに対する管理者権限を付与する必要があります。
- リモート Linux を監視する場合、メディエータではリモート・シェル接続タイプをサポートしています。リモート・シェル接続の詳細については、『HP LoadRunner インストール・ガイド』の Linux Load Generator のインストールの確認に関する項を参照してください。

Siebel 診断と Siebel DB 診断の概要

Siebel 診断は、次の 2 つのモジュールに分かれています。

- **Siebel 診断モジュール** : Siebel トランザクションをレイヤ、領域、サブ領域、サーバ、スクリプトにブレイクダウンできます。また、トランザクションの呼び出しチェーンと呼び出しスタックの統計を表示して、トランザクションの各部分で費やされる時間のパーセントを追跡することもできます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel 診断がサポートされています。
- **Siebel DB 診断モジュール** : データベースのパフォーマンスの問題を迅速に特定し解決できます。各トランザクションの SQL が表示されるほか、各スクリプトで問題が生じている SQL クエリと、問題がどの時点で発生したかを特定できます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel DB 診断がサポートされています。

Siebel/Siebel DB 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については、[「Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法」\(222ページ\)](#)を参照してください。

Oracle 11i 診断の概要

Oracle 11i 診断では、Oracle NCA システム上のパフォーマンスの問題を特定できます。診断情報は、トランザクションから SQL ステートメントおよび各ステートメントの SQL ステージまでドリルダウンできます。Oracle NCA 仮想ユーザでは Oracle 11i 診断がサポートされています。

Oracle 11i 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については、[「Oracle 11i 診断を事前に設定する方法」\(226ページ\)](#)を参照してください。

SAP 診断の概要

SAP 診断では、特定の問題(たとえば DBA、ネットワーク、WAS、アプリケーション、OS/HW)の根本原因をすばやく簡単に特定できます。また問題を該当する専門家に限定して通知し、チームのメンバー全員に示す必要はありません。

SAP 診断モジュールの設定方法の詳細については、[「SAP 診断を事前に設定する方法」\(227ページ\)](#)を参照してください。

サーバ側のデータ収集 : SAP 診断は SAP Distributed Statistical Records (DSR) に基づいています。アプリケーション・サーバで実行されるダイアログ・ステップごとに統計レコードが生成されます。レコードには、応答時間コンポーネント、データベースの統計情報、RFC 時間などの情報が含まれます。Diagnostics メディエータは、パフォーマンス・テスト中にサーバからの診断データの収集を担当します。

仮想ユーザの色分け : SAP 診断では、SAPGUI プロトコルを再生できます。[設定] ダイアログで色分けされる仮想ユーザのパーセントを設定します(最大 100%)。SAPGUI ユーザの色分けによるアプリケーション・サーバのオーバーヘッドは発生しません。

ERP/CRM メディエータの追加方法

このタスクでは、J2EE/.NET 診断と ERP/CRM 診断を使用するために、Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータを追加する方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、[「ラボ管理の管理の使用方法」\(14ページ\)](#)を参照してください。

1. 前提条件

メディエータが監視対象サーバと同じ LAN にインストールされていることを確認します。ERP/CRM メディエータのインストールの詳細については、『HP LoadRunner インストール・ガイド』を参照してください。

2. メディエータの追加と設定

- a. ラボ管理サイドバーで、**Performance Center**の下の [診断] を選択します。
- b. [ERP/CRM 診断] タブを選択します。
- c. [新規 Diagnostics メディエータ] ボタン  をクリックし、必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、『診断モジュールのフィールド』(231ページ)を参照してください。

HP Diagnostics サーバの追加方法

このタスクでは、HP Diagnostics サーバを追加して J2EE/.NET 環境を監視、分析できるようにする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、『[ラボ管理の管理の使用方法](#)』(14ページ)を参照してください。

1. ラボ管理サイドバーで、**Performance Center**の下の [診断] を選択します。
2. [J2EE/.NET 診断] タブを選択します。
3. [新規 Diagnostics サーバ] ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、『[診断モジュールのフィールド](#)』(231ページ)を参照してください。
4. [ラボ設定] で、[プロジェクト設定] を選択します。該当するプロジェクトを右クリックし、[プロジェクト設定の詳細] を選択します。[Diagnostics サーバ] フィールドで該当するサーバ情報を追加します。

注: 診断データをオンラインで利用できるようにするには、Diagnostics サーバの時刻がプローブと同期されていることを確認してください。

Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者が Siebel 診断を有効にし、実行できるようになる、ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、『[ラボ管理の管理の使用方法](#)』(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(223ページ)
- 「リモート・シェル (RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続している場合」(223ページ)
- 「診断を有効にするサーバ・マシンの設定」(223ページ)
- 「Siebel アプリケーション・サーバからメディエータへのファイルのコピー」(224ページ)
- 「時間の同期」(225ページ)
- 「(Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化」(225ページ)

1. 前提条件

ERP/CRM メディエータがインストールされ、設定されていることを確認します。詳細については、「[ERP/CRM メディエータの追加方法](#)」(221ページ)を参照してください。

2. リモート・シェル (RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続している場合

- RSH と RCP デーモンが UNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
- UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには、DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
rsh <サーバ・マシン名> -l <UNIX ユーザのログイン名> -n <コマンド>
```

例:

```
rsh my_unix -l my_name -n "cd ~;pwd"
```

注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンドウから動作する RSH コマンドのみ使用できません。

- RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

注: `.login`、`.profile`、`.cshrc` の各ファイルから出力を生成しないでください(たとえば、`echo` による出力や、`biff` などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合、そのステップを削除できないのであれば、出力が生成されない新しいユーザを作成し、そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンドおよび RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. 診断を有効にするサーバ・マシンの設定

診断データを収集するように Siebel アプリケーション・サーバと Web サーバを設定するには、次の手順を実行します。

- a. **テストの対象となるすべての Siebel アプリケーション・サーバおよび Web サーバで、Siebel 診断を有効にします。**

Siebel サーバの環境変数を次のように設定します。

```
SIEBEL_SarmEnabled=true
```

次に、サーバを再起動します。

b. サーバのパフォーマンス設定を最適化します。

次の変数を使用して、メモリ・キャッシュやファイル・サイズの最大値を変更できます。

SIEBEL_SarmMaxMemory= <バイト数> SIEBEL_SarmMaxFileSize = <バイト数>

SIEBEL_SarmMaxMemory の値は、情報を Siebel ログ・ファイルに書き込む前に Siebel がメモリ内に保持するバッファのサイズを制御します。このパラメータ値を増やすことで、サーバのパフォーマンスを向上できます。ただし、実行の最後に得られる情報は、Analysis グラフには表示されません。

次の設定をお勧めします。

o **SIEBEL_SarmMaxMemory**

値	仮想ユーザ数
5000	20 未満 (低い負荷の場合)
1000000	100 超 (高い負荷の場合)

o **SIEBEL_SarmMaxFileSize**

値	仮想ユーザ数
5000000	20 未満 (低い負荷の場合)
25000000	100 超 (高い負荷の場合)

サーバで Siebel ログ・ファイルが生成される頻度が 10 秒ごとに 2 つ以上の場合、**SIEBEL_SarmMaxFileSize** の値を増やす必要があります。

c. Siebel サーバ ID のリストを生成します。

Siebel サーバでコマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /u <ユーザ名> /p <パスワード> /g <ゲートウェイ・サーバ> /e <Enterprise サーバ> /c "list servers show SBLSRVR_NAME, SV_SRVRID"
```

ここで：

/u <ユーザ名> : サーバ管理者のユーザ名

/p <パスワード> : サーバ管理者のパスワード

/g <ゲートウェイ・サーバ> : ゲートウェイ・サーバのアドレス

/e <Enterprise サーバ> : Enterprise サーバ名

/c <コマンド> : 単一のコマンドを実行

このコマンドにより、すべての Siebel アプリケーション・サーバおよび ID のリストが生成されます。この情報は [Siebel サーバ設定] ダイアログ・ボックスで必要となるため、サーバ ID を記録しておいてください。

4. Siebel アプリケーション・サーバからメディアータへのファイルのコピー

アプリケーション・サーバを設定したら、次に示すファイルを Siebel アプリケーション・サーバの **\bin** ディレクトリから、<メディアータのルート>\bin ディレクトリ、<Windows>\System32

ディレクトリ, またはメディアータ・マシンの PATH に含まれる他の任意のディレクトリにコピーします。

Siebel 7.53 の場合, 次のファイルをコピーします。

<ul style="list-style-type: none">• sarmanalyzer.exe• sslcver.dll• sslcsym.dll	<ul style="list-style-type: none">• sslcshar.dll• sslcosa.dll
--	--

Siebel 7.7 の場合, 次のファイルをコピーします。

<ul style="list-style-type: none">• sarmanalyzer.exe• libarm.dll• msvcp70.dll• msvcr70.dll• sslcacln.dll• sslccore.dll• sslcevt.dll• sslcos.dll	<ul style="list-style-type: none">• sslcosa.dll• sslcosd.dll• sslcrsa.dll• sslcscr.dll• sslcshar.dll• sslcsrd.dll• sslcsym.dll• sslcver.dll
--	--

5. 時間の同期

- **Windows Siebel サーバの場合** : Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって, SQL とトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

Load Generator から次のコマンドを実行して, Siebel Gateway と Load Generator の時間を同期します。

```
net time \<Gateway 名> /set /y
```

<Gateway 名> は, Siebel Gateway の名前です。

- **Unix Siebel サーバの場合** : Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって, SQL とトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

UNIX システムでは, 次のいずれかの方法で時間を同期させることができます。

- UNIX Siebel Gateway サーバで **date** コマンドを使用して時間を手動で変更して, Load Generator の時間と同期するようにします。
- Load Generator で時間を変更して, UNIX Siebel Gateway サーバと同期するようにします。
- Analysis で時間差を設定します。詳細については, 『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』の Siebel DB 診断グラフに関する章を参照してください。

6. (Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化

タスクの詳細については, 「[Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法](#)」(227ページ)を参照してください。

Oracle 11i 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者が Oracle 11i Diagnostics を有効にし、実行できるようになる、ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「[前提条件](#)」(226ページ)
- 「[リモート・シェル \(RSH/RCP\) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項](#)」(226ページ)
- 「[Oracle サーバでのログの有効化](#)」(226ページ)
- 「[Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 - オプション](#)」(227ページ)

1. 前提条件

ERP/CRM メディエータがインストールされ、設定されていることを確認します。詳細については、「[ERP/CRM メディエータの追加方法](#)」(221ページ)を参照してください。

2. リモート・シェル (RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項

- RSH と RCP デモンが UNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
- UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには、DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
rsh <サーバ・マシン名> -l <UNIX ユーザのログイン名> -n <コマンド>
```

例:

```
rsh my_unix -l my_name -n "cd ~;pwd"
```

注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンドウから動作する RSH コマンドのみ使用できません。

- RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

注: `.login`, `.profile`, `.cshrc` の各ファイルから出力を生成しないでください(たとえば、`echo` による出力や、`biff` などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合、そのステップを削除できないのであれば、出力が生成されない新しいユーザを作成し、そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンドおよび RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. Oracle サーバでのログの有効化

タスクの詳細については、「[Oracle サーバのログを有効にする方法](#)」(229ページ)を参照してください。

4. Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 - オプション

ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには、仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか、サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。タスクの詳細については、「[Oracle サーバの診断パスワードを設定、無効にする方法](#)」(230ページ)を参照してください。

SAP 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者が SAP 診断を有効にし、実行できるようになる、ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

ERP/CRM メディエータのインストール

ERP/CRM メディエータがインストールされ、設定されていることを確認します。詳細については、「[ERP/CRM メディエータの追加方法](#)」(221ページ)を参照してください。

注: SAP 診断を使用する場合、SAPGUI クライアントが ERP/CRM メディエータと同じマシンにインストールされていることを確認します。

Siebel サーバでログを有効、無効にする方法

このタスクでは、Siebel サーバでログを有効、無効にする方法について説明します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。
- Siebel サーバでログを有効にすると、サーバのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。ログを無効にして、パフォーマンス・テストの完了後にログの標準設定を復元することをお勧めします。

Siebel サーバのログを有効にするには

次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。
<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e
<Enterprise サーバ名> /u <ユーザ名> /p <パスワード>

ここで:

/u <ユーザ名> : サーバ管理者のユーザ名
/p <パスワード> : サーバ管理者のパスワード
/g <ゲートウェイ・サーバ> : ゲートウェイ・サーバのアドレス
/e <Enterprise サーバ> : Enterprise サーバ名
/s <Siebel サーバ> : Siebel サーバ (標準設定のサーバ)

2. 次のコマンドを入力します。
change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp <コンポーネント名>
evtloglvl EventContext=3 for comp <コンポーネント名>
evtloglvl ObjMgrSessionInfo =3 for comp <コンポーネント名>

例:

Call Center コンポーネントの場合、コンポーネント名として **sccobjmgr_enu** を入力します。

```
change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp sccobjmgr_enu
```

Siebel サーバのログを無効にするには

次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。
<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e
<Enterprise サーバ名> /u <ユーザ名> /p <パスワード>

ここで:

/u <ユーザ名> : サーバ管理者のユーザ名
/p <パスワード> : サーバ管理者のパスワード
/g <ゲートウェイ・サーバ> : ゲートウェイ・サーバのアドレス
/e <Enterprise サーバ> : Enterprise サーバ名
/s <Siebel サーバ> : Siebel サーバ名 (標準設定のサーバ)

2. 次のコマンドを入力します。
change evtloglvl ObjMgrsqllog=0 for comp <コンポーネント名>
change evtloglvl EventContext=0 for comp <コンポーネント名>
change evtloglvl ObjMgrSessionInfo =0 for comp <コンポーネント名>

Oracle サーバのログを有効にする方法

このタスクでは、Oracle サーバでログを有効にする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「[トレース診断が有効であることの確認](#)」(229ページ)
- 「[トレース・ファイルのサイズの無制限への設定](#)」(229ページ)

1. トレース診断が有効であることの確認

次の手順を実行します。

- a. 管理者権限を持つユーザとして Oracle アプリケーション・サーバにログオンし、Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities] ダイアログ・ボックスが開きます。
- b. [System Administrator] を選択し、[OK] をクリックします。
- c. [Functions] タブで、[Profile] > [System] を選択し、[Open] をクリックします。[System Profile Values] ダイアログ・ボックスが開きます。
- d. [Display] セクションで [Site] および [Profiles with No Values] を選択し、[Profiles] フィールドに %Diagnostics% と入力して、[Find] をクリックします。
- e. 診断プロファイルが無効になっている場合は ([Site] カラムに「Yes」と表示される)、設定を「No」に変更します。
- f. 設定を保存します。

2. トレース・ファイルのサイズの無制限への設定

Oracle 9i の場合 :

Oracle サーバで、SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

```
Alter system set max_dump_file_size=UNLIMITED scope=both;
```

Oracle 8i の場合 :

- a. Oracle サーバで、SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

```
Alter system set max_dump_file_size=2048000;
```

- b. \$ORACLE_HOME\admin\<sid> \pfile\init <sid> .ora の init*.ora ファイルを編集します。パラメータの行を検索して値を変更し、ファイルを保存します。

注: トレース・ファイルは非常に大きくなる可能性があるため、データベース・サーバ上に十分なディスク領域があることを確認してください。

Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法

ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには, 仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか, サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。

注: このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については, 「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

- 「[仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定](#)」(230ページ)
- 「[Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化](#)」(230ページ)

仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定

VuGen で, スクリプトに `nca_set_diagnostics_password(<パスワード>)` 関数を追加し, パスワードを選択します。

注: `nca_set_diagnostics_password` 関数は, `nca_connect_server` 関数よりも後の位置に追加する必要があります。

Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化

次の手順を実行します。

1. 管理者権限を持つユーザとして Oracle サーバにログオンし, Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities] ダイアログ・ボックスが開きます。
2. [System Administrator] を選択し, [OK] をクリックします。
3. [Functions] タブで, [Profile] > [System] を選択し, [Open] をクリックします。[System Profile Values] ダイアログ・ボックスが開きます。
4. [Display] セクションで [User] を選択し, 必要なユーザ名を入力します。[Profile] フィールドに %Utilities:Diagnostics% と入力し, [Find] をクリックします。Utilities:Diagnostics プロファイルの値が表示されます。
5. Utilities:Diagnostics プロファイルの [User] カラムの値を「Yes」に設定します。
6. 設定を保存します。

診断のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [診断モジュール・ウィンドウ](#) 231
- [診断モジュールのフィールド](#) 231
- [診断モジュールのメニューとボタン](#) 232

診断モジュール・ウィンドウ

診断モジュールのウィンドウを使用すると、ERP/CRM メディエータと J2EE/.NET サーバを追加、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで、 Performance Center の下の 【診断】 を選択します。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">「ERP/CRM メディエータの追加方法」(221ページ)「HP Diagnostics サーバの追加方法」(222ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ALM の共通領域>	ALM の共通領域の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<診断モジュールのフィールド>	診断モジュールで利用できるフィールドの詳細については、「 診断モジュールのフィールド 」(231ページ)を参照してください。
<診断モジュールのメニューとボタン>	診断モジュールで利用できるアイコンの詳細については、「 診断モジュールのメニューとボタン 」(232ページ)を参照してください。
【ERP/CRM 診断】 タブ	ERP/CRM 診断メディエータを追加、管理できます。
【J2EE/.NET 診断】 タブ	J2EE/.NET 診断サーバを追加、管理できます。
【履歴】 タブ	変更日時、変更者の名前を含め、選択したサーバ/メディエータに加えられた変更の履歴が表示されます。 詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

診断モジュールのフィールド

本項では、診断モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	メディエータ/サーバの説明。
SSL の有効化	ALM が SSL 経由で Diagnostics と通信している場合、 【有効化】 を選択します。
論理名	メディエータ/サーバに与えられている論理名。
コンピュータ名/IP	メディエータ/サーバの名前または IP アドレス。
ファイアウォール越し	ファイアウォール越しの監視が有効かどうかを指定します。有効にする場合は、 【Y】 を選択し、無効にする場合は、 【N】 を選択します。

フィールド	説明
	<p>注: ERP/CRM 診断でのみ利用可能です。</p>
パスワード	<p>HP Diagnostics へのログオンに使用するパスワードを入力します。</p> <p>標準設定値: Admin</p> <p>注: J2EE/.NET 診断でのみ利用可能です。</p>
ポート	<p>Diagnostics サーバが使用するポート番号を入力します。</p> <p>標準設定値: 2006</p> <p>注: J2EE/.NET 診断でのみ利用可能です。</p>
タイプ	<p>ERP/CRM メディエータのタイプ。</p> <p>注: ERP/CRM 診断でのみ利用可能です。</p>
ユーザ名	<p>HP Diagnostics にログインするユーザ名を入力します。</p> <p>注: 指定するユーザ名には、[表示]、[変更]、[実行]の各権限がある必要があります。ユーザ権限の詳細については、『HP Diagnostics インストールおよび設定ガイド』を参照してください。</p>

診断モジュールのメニューとボタン

本項では、診断モジュールのメニューとボタンについて説明します。

UI 要素	メニュー	説明
	[編集] と <右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバ/メディエータを削除します。
サーバ/メディエータの確認 	[Diagnostics サーバ/メディエータ] と <右クリック・メニュー>	クリックして、サーバ/メディエータが起動され、実行中であるかどうかをチェックします。
URL のコピー 	Diagnostics サーバ/メディエータ	選択したサーバ/メディエータをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。サーバ/メディエータ自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き、サーバ/メディエータに移動します。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
Diagnostics サーバ/メディエータ詳細 	[Diagnostics サーバ/メディエータ] と <右クリック・メニュー>	クリックすると、サーバ/メディエータの詳細が表示されます。
エクスポート	[Diagnostics サーバ	[グリッドデータのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きま

UI 要素	メニュー	説明
	/メディアータ] と < 右クリック・メニュー >	<p>す。グリッドのサーバ/メディアータをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのサーバ/メディアータをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッド内で選択したサーバ/メディアータをエクスポートします。
検索 	表示	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでフィールドの詳細を検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
Diagnosics サーバ/メディアータに移動 	Diagnosics サーバ/メディアータ	<p>サーバ/メディアータ ID の入力を要求するダイアログ・ボックスが開きます。[OK] をクリックすると、サーバ/メディアータの詳細ウィンドウが開きます。</p>
グリッド・フィルタ	[表示] と < 右クリック・メニュー >	<p>[フィルタ] ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
情報パネル	[表示] と < 右クリック・メニュー >	<p>モジュールの下部領域にある [情報パネル] を表示/非表示にします。</p>
新規 Diagnosics サーバ/メディアータ 	Diagnosics サーバ/メディアータ	<p>クリックして、新しいERP/CRM メディアータまたは J2EE/.NET サーバを追加します。関連するフィールドの詳細については、『診断モジュールのフィールド』(231ページ)を参照してください。</p>
すべて更新 	表示	<p>最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。</p>
置換	[編集] と < 右クリック・メニュー >	<p>グリッドに [置換] ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
カラムの選択 	表示	<p>[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>診断のフィールドの詳細については、『診断モジュールのフィールド』(231ページ)を参照してください。</p>
フィルタ/ソートの設定 	表示	<p>グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
選択項目の更新	[編集] と < 右クリック・メニュー >	<p>[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照して</p>

UI 要素	メニュー	説明
		ください。

第13章: パッチ管理

本章の内容

- [パッチの概要](#) 236
- [パッチの ALM へのアップロード方法](#) 236
- [パッチ管理のユーザ・インタフェース](#) 236

パッチの概要

パッチ・モジュールでは、Performance Center パッチを ラボ管理 にアップロードし、該当するホストまたはサーバにインストールできます。

パッチの ALM へのアップロード方法

このタスクでは、パッチを ALM にアップロードする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)を参照してください。

パッチをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. ラボ管理サイドバーで、**Performance Center**の下の **[パッチ]** を選択します。
2. **[新規パッチ]** ボタン  をクリックします。 **[パッチの選択]** ダイアログ・ボックスが開き、アップロードするパッチ (.msp/.msi) を選択できます。
3. **[開く]** をクリックします。 **[新規パッチ]** ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 新しいパッチの詳細を入力し、 **[OK]** をクリックします。パッチがシステムに追加され、パッチ・グリッドに表示されます。

パッチ管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [パッチ・モジュール・ウィンドウ](#)237
- [パッチ・モジュールのフィールド](#)237
- [パッチ・モジュールのメニューとボタン](#)238
- [\[パッチの詳細\] ダイアログ・ボックス](#)239
- [\[新規パッチ\] ダイアログ・ボックス](#)240

パッチ・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、パッチを表示、アップロードできます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで、 Performance Center の下の【パッチ】を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」(236ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none">・ 「テストング・ホストの管理方法」(106ページ)・ 「Performance Center サーバを管理する方法」(262ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。グリッド内で選択されたパッチに関する説明を表示します。
<パッチ・グリッド>	ALM Performance Center にアップロードされたパッチのリストを表示します。
<パッチ・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none">・ パッチ・モジュールのフィールド：フィールドの定義については、「パッチ・モジュールのフィールド」(237ページ)を参照してください。・ パッチ・モジュールのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、「パッチ・モジュールのメニューとボタン」(238ページ)を参照してください。・ ALM メイン・メニューとサイドバー：[ツール]メニュー、[ヘルプ]メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

パッチ・モジュールのフィールド

本項では、パッチ・モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	選択したパッチの説明を表示します。
ID	パッチ ID。
名前	パッチ名。
パス	パッチのパス。

パッチ・モジュールのメニューとボタン

本項では、パッチ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで、 Performance Center の下の【パッチ】を選択します。
---------------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入り に追加	お気に入り	【追加 お気に入り】ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー 	【パッチ】と<右クリック・メニュー>	選択したパッチをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。パッチ自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、パッチ・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
エクスポート	【パッチ】と<右クリック・メニュー>	<p>【グリッドデータのエクスポート】ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのパッチをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。
検索 	表示	【検索】ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでパッチを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
パッチに移動 	パッチ	【パッチに移動】ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のパッチを検索できます。現在のフィルタに含まれるパッチにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	【表示】と<右クリック・メニュー>	【フィルタ】ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	【表示】と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。
新規パッチ 	パッチ	【パッチの選択】ダイアログ・ボックスが開き、アップロードするパッチを選択できます。

UI 要素	場所	説明
お気に入りの整理	お気に入り	【整理 お気に入り】 ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
 パッチの詳細	【パッチ】 と<右クリック・メニュー>	【パッチの詳細】 ダイアログ・ボックスが開き、選択したパッチの詳細を表示、編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
 すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	【編集】 と<右クリック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに【置換】 ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
 カラムの選択	表示	<p>【カラムの選択】 ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>パッチのフィールドの詳細については、「パッチ・モジュールのフィールド」 (237ページ)を参照してください。</p>
 フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のパッチに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	【編集】 と<右クリック・メニュー>	【選択項目の更新】 ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[パッチの詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ラボ管理 のパッチの詳細を表示できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで、 Performance Center の下の【パッチ】を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」 (236ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> 「テスト・ホストの管理方法」 (106ページ) 「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ ：プロジェクトのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
詳細	フィールドの定義については、「 パッチ・モジュールのフィールド 」(237ページ)を参照してください。

[新規パッチ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、Performance Center の新しいパッチを追加できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーで、Performance Center の下の [パッチ] を選択します。 [新規パッチ] ボタン  をクリックします。[パッチの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。 パッチの場所に移動し、[開く] をクリックします。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」 (236ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア ：ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。

UI 要素	説明
	例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
詳細	<p>パッチのフィールドがリストされます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「パッチ・モジュールのフィールド」(237ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント:このページの【説明】フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
名前	<p>新しいパッチに付ける名前を入力します。</p> <p>構文の例外 : サーバ名には、次の文字は使用できません。 \ / : " ? < > * % ' </p>

第14章: AUT ホストの管理

本章の内容

- AUT リソースの概要 243
- Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法 243
- AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース 246

AUT リソースの概要

テスト対象アプリケーション (AUT) のコンポーネント (Web サーバ/アプリケーション・サーバやデータベース・サーバなど) は、AUT ホストと呼ばれるマシンでホストされます。AUT ホストをグループ化したものが、**AUT プール**です。

AUT ホストは、トポロジと SiteScope の統合機能の核となる要素です。

Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法

このタスクでは、AUT ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) から ALM にインポートする方法について説明します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- [「前提条件」 \(243ページ\)](#)
- [「AUT ホストのインポート \(Performance Center ユーザのみ\)」 \(245ページ\)](#)
- [「結果」 \(245ページ\)](#)

1. 前提条件

Excel ファイルは、インポート機能によってそのカラムを認識、マップできるように設定する必要があります。

- Excel ファイルの最初の行には、次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は、大文字と小文字が区別されません。)

フィールドの中には、必須のフィールド、あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

- **必須**は、Excel ファイルに**必ずなければならない**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると、その特定の行のインポートが失敗します。
- **必要**は、Excel ファイルに**ある必要がある**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても、このカラムのいずれかの行で値を省略すると、コードによってその行に標準設定値が追加されます。
- **任意指定**は、Excel ファイルにある必要がないフィールドを示します。このフィールドを省略しても、インポート手順に影響はありません。
- 仮想、参照、無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
- 空のカラムは許可されます。

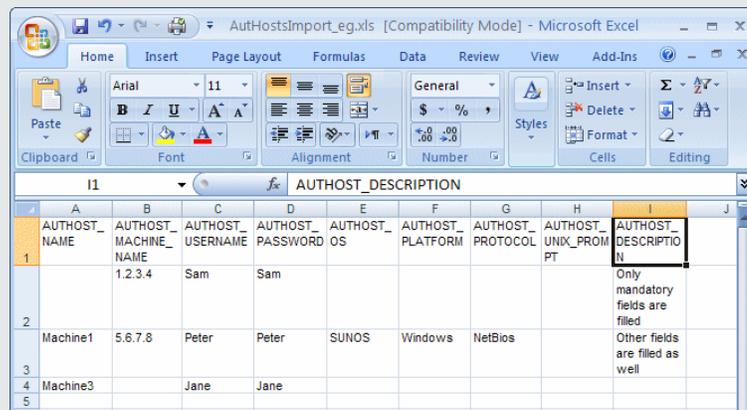
次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_NAME 必要	論理名	任意の文字列	AUT ホストの論理名 注: この値が空の場合, AUTHOST_MACHINE_NAME と同じ値が設定されます
AUTHOST_MACHINE_NAME 必須	コンピュータ名/IP	マシン名/IP	AUT ホストの物理マシン名
AUTHOST_USERNAME 必須	ユーザ名	マシンのユーザ名	AUT ホスト・マシンにログオンするためのユーザ名
AUTHOST_PASSWORD 必須	パスワード	ユーザ名のパスワード	AUT ホスト・マシンにログオンするためのパスワード
AUTHOST_OS UNIX プラットフォーム に対してのみ必要	OS タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • SUNOS (標準設定) • Sun Solaris • MacOSX • Linux • Red Hat Enterprise Linux • AIX • FreeBSD • HP-UX • HP/UX • HP/UX 64-bit • NonStopOS • OPENSERVER • SCO • SGI Irix • Tru64 5.x • Tru64 pre 4.x (Digital) 	AUT ホスト・マシンのオペレーティング・システム (UNIX プラットフォームに対してのみ)
AUTHOST_PLATFORM 必要	プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> • Windows (標準設定) • UNIX 	AUT ホスト・プラットフォーム
AUTHOST_PROTOCOL 必要	プロトコル	Windows : <ul style="list-style-type: none"> • NetBIOS (標準設定) • SSH • WMI UNIX :	AUT ホスト・プロトコル

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
		<ul style="list-style-type: none"> rlogin Telnet (標準設定) SSH 	
AUTHOST_UNIX_PROMPT UNIX プラットフォーム に対してのみ必要	UNIX プロンプト	# (標準設定)	AUT ホスト・マシン上の UNIX プロンプト
AUTHOST_DESCRIPTION 任意指定	説明	任意の文字列	AUT ホストの説明

例：

次の図は、2 台の AUT ホスト (1.2.3.4, 5.6.7.8) と名前が提供されていない3 番目のマシンによる Excel ファイルの設定を示しています。



2. AUT ホストのインポート (Performance Center ユーザのみ)

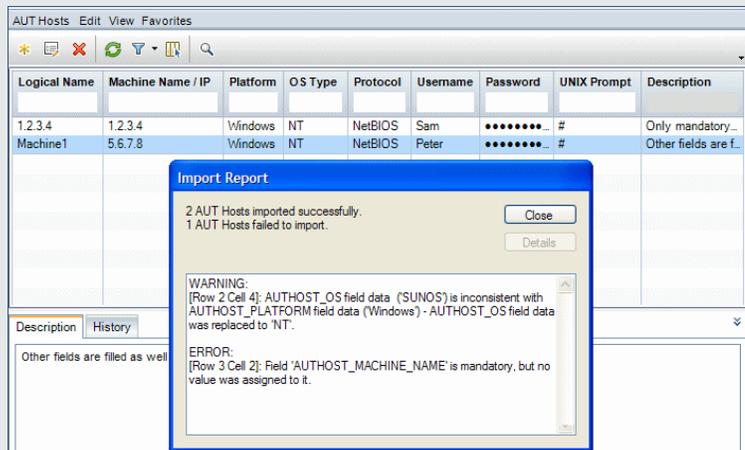
- a. 次のように AUT ホスト・モジュールを開きます。
 - **ALMの場合**：ALM サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。
 - **ラボ管理の場合**：ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。
- b. [AUT ホスト] > [インポート] を選択します。
- c. AUT ホストを含む Excel ファイルを参照し、[開く] をクリックします。

3. 結果

インポート・プロセスの進行状況が表示されます。プロセスの最後に、レポートにインポート結果が表示されます。インポートされた AUT ホストが AUT ホスト・モジュールにリストされません。正常にインポートされなかった AUT ホストは、手動で追加する必要があります。

例：

上記の手順 1 での Excel ファイルのインポート結果を、次の図に示します。



注：

- Excel ファイルには、マシン 1.2.3.4 の論理名が入力されていなかったため、マシン名/IP と同じ論理名が与えられています。
- マシン 1 のオペレーティング・システムは SUNOS と指定されていましたが、プラットフォームは Windows と指定されていました。SUNOS は UNIX プラットフォームにのみ関連するため、これらの値は整合性を欠いています。このため、値 SUNOS は NT で置き換えられました。
- Excel ファイルにリストされていた 3 番目のマシンには、マシン名が指定されていませんでした。このマシンはインポートされませんでした。手動で追加する必要があります。
- 必要であるが、必須ではない値は、インポート・プロセス中にシステムによって自動的に入力されています。
- 仮想、参照、無効なフィールドを表すカラムは無視されます。

AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [AUT ホスト・モジュール](#) 247
- [AUT ホストのフィールド](#) 247
- [\[新規 AUT ホスト\] ダイアログ・ボックス](#) 248
- [\[AUT ホストの詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 249
- [AUT プール・モジュール](#) 250
- [\[リンクされたホスト\] ページ](#) 251

- [\[AUT ホストをプールに追加\] ダイアログ・ボックス](#) 252
- [AUT プールのフィールド](#) 253
- [\[新規 AUT ホストプール\] ダイアログ・ボックス](#) 253
- [\[AUT ホスト プール詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 254
- [AUT リソース・モジュールのメニューとボタン](#) 255

AUT ホスト・モジュール

このモジュールを使用すると、AUT ホストを表示、管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。 • ALM サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。
重要な情報	AUT ホスト・モジュールは、ラボ管理と ALM の両方で利用できます。
参照情報	「AUT リソースの概要」(243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<共通のメニューとツールバー>	AUT リソース・モジュールのメニューとツールバーの詳細については、 「AUT リソース・モジュールのメニューとボタン」(255ページ) を参照してください。
<AUT ホスト・グリッド>	ALM で定義されている AUT ホストのリストを表示します。
[説明] タブ	AUT ホストに関する主な詳細と説明を表示します。 ヒント: 編集と形式のオプション用の [説明] 領域を右クリックしてください。
[履歴] タブ	選択した AUT ホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUT ホストのフィールド

次の表に、AUT ホストのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
所属プール	AUT ホストが所属するホスト・プール。 利用可能な場所: ラボ管理のみ

フィールド	説明
説明	AUT ホストの説明。
論理名	AUT ホストに与えられている論理名。
マシン名/IP	AUT ホスト・マシンの名前または IP アドレス。
更新日時	AUT ホストの詳細情報が最後に変更された日付。
OS タイプ	AUT ホスト・マシンのオペレーティング・システム。
パスワード	AUT ホスト・マシンにログインするためのパスワード。
プラットフォーム	AUT ホスト・マシンの基本オペレーティング・システム：Window または UNIX。
プロトコル	AUT ホストとの通信 (監視目的) に使用されるネットワーク・プロトコル。 標準設定値：NetBIOS, WMI, SSH
UNIX プロンプト	オペレーティング・システムによって使用されるプロンプト。AUT ホストとの通信 (監視目的) にも使用されます。 利用可能な場所：UNIX の AUT ホストのみ。
ユーザ名	AUT ホスト・マシンにログインするためのユーザ名。

[新規 AUT ホスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい AUT ホストを作成できます。

アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <p>【ラボ管理】 から：</p> <ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。 [新規 AUT ホスト]  をクリックします。 <p>ALM から：</p> <ol style="list-style-type: none"> ALM サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。 [新規 AUT ホスト]  をクリックします。
重要な情報	<p>ALM で AUT ホストを作成すると、AUT ホストが自動的にプロジェクトの AUT プールに追加されます。</p> <p>ヒント: AUT ホストのリストを Excel ファイルからインポートできます。詳細については、「Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法」(243ページ)を参照してください。</p>
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> 「AUT リソースの概要」(243ページ) 『HP ALM Performance Center ガイド』

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : データをクリアします。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
マシン名/IP	AUT ホスト・マシンの名前または IP。
説明	新しい AUT ホストの詳細情報を入力できます。詳細については、 「AUT ホストのフィールド」 (247ページ) を参照してください。

[AUT ホストの詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、AUT ホストの詳細を表示、変更できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。グリッドの AUT ホストを右クリックし、[AUT ホストの詳細] を選択します。 ALM サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。グリッドの AUT ホストを右クリックし、[AUT ホストの詳細] を選択します。
参照情報	「AUT リソースの概要」 (243ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : AUT ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
マシン名/IP	AUT ホスト・マシンの名前または IP。
詳細	選択した AUT ホストの詳細情報を表示します。詳細については, 「AUT ホストのフィールド」 (247ページ) を参照してください。
履歴	選択した AUT ホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUT プール・モジュール

このモジュールを使用すると, AUT プールを表示, 管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で, [AUT プール] を選択します。
関連タスク	AUT プール・モジュールは, ラボ管理でのみ利用できます。
参照情報	「AUT リソースの概要」 (243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<共通のメニューとツールバー>	AUT プール・モジュールのメニューとツールバーの詳細については, 「AUT リソース・モジュールのメニューとボタン」 (255ページ) を参照してください。
<AUT プールのグリッド>	システム内で定義されている AUT プールを表示します。
【説明】 タブ	AUT プールに関する主な詳細と説明を表示します。 ヒント: 編集と形式のオプション用の 【説明】 領域を右クリックしてください。
【リンクされたホスト】 タブ	AUT ホストを選択したプールに追加し, プールからホストを削除できます。詳細については, 「【リンクされたホスト】 ページ」 (251ページ) を参照してください。
【履歴】 タブ	選択した AUT プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[リンクされたホスト] ページ

このページを使用すると、AUT ホストを AUT プールに追加し、AUT プールから AUT ホストを削除できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none">• AUT プール・モジュールからの場合： ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT プール] を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト] を選択します。• [AUT プール詳細] ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT プール] を選択します。AUT プールを右クリックし、[AUT プール詳細] を選択します。[AUT プール詳細] ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト] を選択します。 <p>注: ラボ管理でのみ利用できます。</p>
重要な情報	<p>[リンクされたホスト] ページを使用すると、複数の AUT ホストを AUT プールにリンクできます。</p> <p>あるいは、AUT ホストの詳細の [所属プール] フィールドから単一の AUT ホストを複数の AUT プールにリンクできます。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(247ページ)を参照してください。</p>
参照情報	「AUT リソースの概要」(243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	AUT ホストの詳細： [AUT ホストの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリンクされている AUT ホストの詳細情報を表示できます。詳細については、 「AUT ホストのフィールド」(247ページ) を参照してください。
	ホストをプールに追加： [AUT ホストをプールに追加] が開き、AUT プールに追加する AUT ホストを選択できます。
	ホストの削除： AUT プールから選択した AUT ホストを削除します。
	ホストに移動： AUT ホスト・モジュール内の選択したリンクされている AUT ホストを表示します。
	すべて更新： 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定： グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択： [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management

UI 要素	説明
	『ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 ： [検索] ダイアログ・ボックスが開き、AUT ホストを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされているホストのグリッド>	AUT プールに属している AUT ホストが一覧表示されます。ホストのフィールドの詳細については、『AUT ホストのフィールド』(247ページ)を参照してください。

[AUT ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス

このページを使用すると、AUT プールに追加する AUT ホストを選択できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> AUT プール・モジュールからの場合： ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT プール] を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト] を選択し、[ホストをプールに追加] ボタン  をクリックします。 [AUT プール詳細] ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[AUT プール] を選択します。AUT プールを右クリックし、[AUT プール詳細] を選択します。[AUT プール詳細] ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト] を選択し、[ホストをプールに追加] ボタン  をクリックします。 <p>注: ラボ管理でのみ利用できます。</p>
重要な情報	あるいは、AUT ホストの詳細の [所属プール] フィールドから単一の AUT ホストを複数の AUT プールにリンクできます。詳細については、『AUT ホストのフィールド』(247ページ)を参照してください。
参照情報	「AUT リソースの概要」(243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新 ：最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	カラムの選択 ：[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	選択した AUT ホストを AUT プールに追加します。
<AUT ホスト・グリッド>	AUT プールに追加できる AUT ホストが一覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択した AUT ホストが表示されます。

AUT プールのフィールド

AUT プールには、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	AUT プールの説明。
更新日時	AUT プールの詳細情報が最後に変更された日付。
プール ID	AUT プールの ID。
プール名	AUT プールの名前。 注: この名前には、スペース、ピリオド、次のいずれかの文字を除き、最大 128 文字まで指定できます。 :;*\/"~&?{}\$% <>+=^[]()
ホストの総数	ホスト・プール内の AUT ホストの合計数。

[新規 AUT ホスト プール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい AUT プールを作成できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [AUT プール] を選択します。 [新規 AUT ホスト プール]  をクリックします。
参照情報	「AUT リソースの概要」 (243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : データをクリアします。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し、 a?b は acb を返します。
プール名	AUT プールの名前。
詳細	新しい AUT プールの詳細情報を入力できます。詳細については、 「AUT プールのフィールド」 (253ページ) を参照してください。

[AUT ホスト プール詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、AUT プールの詳細を表示、変更できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、 [AUT ホスト] を選択します。グリッドの AUT ホストを右クリックし、 [AUT ホストの詳細] を選択します。
参照情報	「AUT リソースの概要」 (243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : AUT プールのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 ：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。
プール名	AUT プールの名前。
詳細	選択した AUT プールの詳細情報を表示します。詳細については、 「AUT プールのフィールド」(253ページ) を参照してください。
リンクされたホスト	AUT ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、 「[リンクされたホスト] ページ」(251ページ) を参照してください。
履歴	選択した AUT プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUT リソース・モジュールのメニューとボタン

これらのモジュールを使用すると、テスト対象のアプリケーションをホストしている AUT リソースを管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ラボ管理の場合：ラボ管理サイドバーの [Performance Center] で、[<AUT リソース>] を選択します。 • ALM の場合：ALM サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。 <p>注: ラボ管理では、AUT ホストと AUT プールの両方を定義できます。ALM では、AUT ホストのみ定義できます。</p>
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • AUT ホストは、ラボ管理と ALM の両方で管理できます。 • 管理者権限を持つユーザのみ、AUT プールを管理できます (ラボ管理で)。
参照情報	「AUT リソースの概要」(243ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	場所	説明
<AUT リソース> の詳細 	<AUT リソース> と右クリック・メニュー	[<AUT リソース> 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した AUT リソースの詳細情報を表示できます。

UI 要素	場所	説明
お気に入り追加	お気に入り	<p>【追加 お気に入り】 ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
URL のコピー 	<AUT リソース> と <右クリック・メニュー>	<p>選択した AUT リソースの URL をコピーして、リンクとして貼り付けます。電子メールやドキュメントなどの別の場所に URL を貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。</p>
削除 	【編集】 と <右クリック・メニュー>	<p>グリッド内の選択した AUT リソースを削除します。</p>
エクスポート 	<AUT リソース> と <右クリック・メニュー>	<p>【すべてのグリッドデータをエクスポート】 ダイアログ・ボックスが開き、AUT リソースを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索 	ビュー	<p>【検索】 ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<AUT リソース> に移動 	<AUT リソース>	<p>【<AUT リソース> に移動】 ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のリソースを検索できます。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動できます。</p>
グリッド・フィルタ 	【表示】 と <右クリック・メニュー>	<p>【フィルタ】 ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
インポート 	AUT ホスト	<p>AUT ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) から ALM にインポートできます。詳細については、『Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法』(243ページ)を参照してください。</p>
情報パネル 	【表示】 と <右クリック・メニュー>	<p>モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。</p>
新規 <AUT リソース> 	<AUT リソース>	<p>AUT リソースを追加できます。</p> <p>注: AUT プールの場合、ラボ管理でのみ利用できます。</p>
お気に入りの整理 	お気に入り	<p>【整理 お気に入り】 ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	場所	説明
		ズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	ビュー	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	【編集】と<右クリック・メニュー>	<AUT リソース>グリッドに【置換】ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのリソースのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	ビュー	【カラムの選択】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 リソースのフィールドの詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 「AUT ホストのフィールド」(247ページ) 「AUT プールのフィールド」(253ページ)
フィルタ/ソートの設定 	ビュー	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	【編集】と<右クリック・メニュー>	【選択項目の更新】ダイアログ・ボックスが開き、<AUT リソース>グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第15章: プロジェクト管理

ラボ管理対応プロジェクトを作成した後、サイト管理でそのプロジェクトを管理します。ALM でのプロジェクトの管理の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ただし、サイト管理の管理タスクに加え、追加の手順を把握しておく必要がある特定のユースケースがあります。次に、それらのユースケースを示します。

プロジェクトのステージングから運用環境への移行

詳細については、「[ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法](#)」(259ページ)を参照してください。

プロジェクトのコピーの作成

プロジェクトのコピーの作成方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトのコピーを作成する場合、次のことを認識しておく必要があります。

- 新しいプロジェクトでも、ラボ管理拡張が有効になっている必要があります。
- テスト実行の詳細情報は、**使用状況レポート**には表示されません。
- タイムスロットとプロジェクトの設定はコピーされません。
- 元のプロジェクトに関連付けられている結果ファイルはコピーされません。

ラボ管理プロジェクトのアーカイブ

ラボ管理対応プロジェクトのアーカイブとは、プロジェクトが置かれているサーバからプロジェクトをエクスポートまたは削除し、後でそのプロジェクトを同じサーバにインポートし戻すことです。

プロジェクトのエクスポート、インポート、アクセスの復元の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトをアーカイブする場合、次のことを認識しておく必要があります。

- 同じ PUID を持つプロジェクトが元のサーバに存在している場合、プロジェクトをそのサーバにインポートできません。
- プロジェクトへのアクセスを復元する場合、次のことを認識しておく必要があります。
 - テスト実行の詳細情報は、**使用状況レポート**には表示されません。
 - タイムスロットとプロジェクトの設定情報が失われます。

ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法

次のタスクでは、ラボ管理システムをステージングから運用環境へ正常に移行する方法について説明します。

注: システムの移行の結果、運用環境で最初に作成され、ラボ管理に含まれていたすべての情報が失われます。

タスクは次の手順で構成されています。

- 「[サイト管理のオープン](#)」 (259ページ)
- 「[ラボ管理のステージングから運用環境への移行](#)」 (259ページ)
- 「[運用環境でのラボ管理のアクティブ化](#)」
- 「[ALM ライセンスの更新](#)」 (259ページ)
- 「[サーバおよびホストの更新](#)」 (259ページ)
- 「[プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行](#)」 (260ページ)
- 「[運用環境でのプロジェクトのアクティブ化](#)」 (260ページ)
- 「[運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定](#)」 (260ページ)

1. サイト管理のオープン

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. ラボ管理のステージングから運用環境への移行

- a. ステージング環境で、サイト管理の [[ラボ管理](#)] タブを選択します。
- b. ステージングからラボ管理プロジェクトを削除し、運用環境に復元します。ラボ管理の削除と復元の詳細については、「[\[ラボ管理\] タブ](#)」 (18ページ)を参照してください。

3. 運用環境でのラボ管理のアクティブ化

ラボ管理のアクティブ化の詳細については、「[\[ラボ管理\] タブ](#)」 (18ページ)を参照してください。

4. ALM ライセンスの更新

運用環境のラボ管理で、ALM ライセンスを更新します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

5. サーバおよびホストの更新

注: 運用環境のサーバとホストがステージング環境のものと異なる場合に、この手順を実行してください。

ラボ管理で既存のサーバとホストを削除し、新しいサーバとホストで置き換えます。

- Performance Center サーバを追加する方法の詳細については、[「Performance Center サーバを管理する方法」\(262ページ\)](#)を参照してください。
- ホストを追加する方法の詳細については、[「テストング・ホストの管理方法」\(106ページ\)](#)を参照してください。

6. プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行

各プロジェクトをステージング環境から削除し、運用環境に復元します。プロジェクトの削除と復元の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

7. 運用環境でのプロジェクトのアクティブ化

プロジェクトのアクティブ化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

8. 運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定

運用環境に移行した各プロジェクトについて、この手順を実行します。プロジェクト設定の詳細については、[「プロジェクト設定」\(21ページ\)](#)を参照してください。

第16章: PC サーバ

本章の内容

- PC サーバの概要262
- Performance Center サーバを管理する方法262
- Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース263

PC サーバの概要

PC サーバ・モジュールでは、Performance Center の機能で必要な情報とリソースの管理を行います。PC サーバの新規作成、Performance Center サーバ・ステータスのモニタ、サーバ情報の編集、サーバ・パフォーマンスのチェックを実行できます。

Performance Center サーバの管理の詳細については、「[Performance Center サーバを管理する方法](#)」(262ページ)を参照してください。

Performance Center サーバを管理する方法

このタスクでは、Performance Center サーバを管理するためのさまざまなオプションについて説明します。

注: このタスクは、次の上位レベルのタスクの一環です。「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(14ページ)

Performance Center サーバの詳細については、「[PC サーバの概要](#)」(262ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「[サーバの追加](#)」(262ページ)
- 「[Performance Center server に対するサーバ接続のチェック](#)」(262ページ)
- 「[サーバの再起動](#)」(263ページ)
- 「[サーバへのパッチのインストール](#)」(263ページ)

サーバの追加

1. ラボ管理で、[サーバ] > [PC サーバ] を選択します。
2. [新規 PC サーバ] ボタン  をクリックします。
3. [新規 PC サーバ] ダイアログ・ボックスで、必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[新規 PC サーバ\] ダイアログ・ボックス](#)」(269ページ)を参照してください。

Performance Center server に対するサーバ接続のチェック

ラボ管理サイドバーの [サーバ] から [PC サーバ] を選択します。グリッド内のサーバを右クリックし、[サーバの確認] > [サーバの確認] を選択します。

タスク・マネージャが開き、サーバ上で実行された各チェックの結果全体、[成功] または [失敗] が表示されます。

サーバ・チェックの進行状況は、PC サーバ・モジュールの [サーバのステータスの確認] タブで確認できます。

次のチェックが実行されます。

- **サーバへの ping** : Performance Center サーバが選択したマシンへの ping を実行します。
- **Ping URL** : 選択したサーバがリストされている URL への ping を実行します。

あるいは、上記のチェックとともにサーバから特定の URL への追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のサーバを右クリックし、**[サーバの確認]** > **[URL への接続性の確認]** を選択して、URL を入力します。

例 :

- 通常の URL : `http://www.website.com`
- マシン名 : `machine22` または `http://machine22`

サーバの再起動

ラボ管理サイドバーの **[サーバ]** で、**[PC サーバ]** を選択します。グリッド内の再起動するサーバを右クリックし、**[サーバの再起動]** を選択します。

サーバへのパッチのインストール

注: サーバにパッチをインストールするには、最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については、[「パッチの ALM へのアップロード方法」\(236ページ\)](#)を参照してください。

ラボ管理サイドバーの **[サーバ]** で、**[PC サーバ]** を選択します。グリッド内のパッチをインストールするサーバを右クリックし、**[パッチのインストール]** を選択します。

ヒント: パッチは、複数のサーバに同時にインストールできます。複数のサーバを選択するには、キーボードの CTRL キーを押しながらサーバを選択します。

Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [PC サーバ・モジュール・ウィンドウ](#) 264
- [PC サーバ・モジュールのメニューとボタン](#) 265
- [PC サーバ・モジュールのフィールド](#) 267
- [\[PC サーバの詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 268
- [\[新規 PC サーバ\] ダイアログ・ボックス](#) 269
- [\[プロセス\] ページ](#) 270
- [\[サーバのステータスの確認\] ページ](#) 271

PC サーバ・モジュール・ウィンドウ

PC サーバ・モジュール・ウィンドウを使用すると、Performance Center サーバを管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、 [PC サーバ] を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

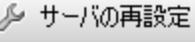
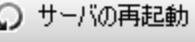
UI 要素	説明
<PC サーバ・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> • PC サーバのフィールド : フィールドの定義については、 「PC サーバ・モジュールのフィールド」 (267ページ) を参照してください。 • PC サーバのメニューとボタン : コマンドとボタンの説明については、 「PC サーバ・モジュールのメニューとボタン」 (265ページ) を参照してください。 • ALM のマストヘッド、メニュー、サイドバー : (詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。)
<グリッド・フィルタ>	<p>各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合、現在カラムにはフィルタが適用されていません。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、 [フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。</p>
<サーバ・グリッド>	Performance Center サーバのリストを表示します。
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。グリッド内で選択したサーバに関する情報を表示します。
【説明】 タブ	<p>現在選択されているサーバについての説明が表示されます。</p> <p>テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
【イベントログ】 タブ	選択したサーバで実行されているタスク、操作のステータス、エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、 「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」 (157ページ) を参照してください。
【プロセス】 タブ	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については、 「【プロセス】 ページ」 (270ページ) を参照してください。
【サーバのステータスの確認】 タブ	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには、タブ内の行を右クリックし、 「サーバのステータスの確認の詳細」 を選択します。詳細については、 「【サーバのステータスの確認】 ページ」 (271ページ) を参照してください。
【履歴】 タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。

PC サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では、PC サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、 [PC サーバ] を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
 ALM 接続	[PCサーバ] と <右クリック・メニュー>	内部と外部の ALM URL を定義できます。 内部 URL は、すべての Performance Center コンポーネントが ALM への接続に使用します。 この URL は次の形式である必要があります。http://<alm>:<port> 例 : http://myalm:8080 注 : SSL 接続では、ALM の内部 URL は、https で始まる必要があります。例 : https://myalm:443.
 サーバの再設定	[PCサーバ] と <右クリック・メニュー>	選択したサーバのシステム情報をリセットします。たとえば、内部/外部 URL、ユーザ ID などです。
 パッチのインストール	[PCサーバ] と <右クリック・メニュー>	[パッチのインストール] ダイアログ・ボックスが開き、選択したサーバにインストールするパッチを選択できます。
 サーバの確認	PCサーバ	選択したサーバとシステム内の他のマシン間の接続性をチェックします。
 サーバの再起動	[PCサーバ] と <右クリック・メニュー>	選択したサーバをリモートで再起動できます。
お気に入り追加	お気に入り	[追加 お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー 	PCサーバ	選択したサーバをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。サーバ自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除 	[編集] と <右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。
エクスポート	[PCサーバ] と <右	[グリッドデータのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き

UI 要素	メニュー	説明
	クリック・メニュー >	<p>ます。グリッドのサーバをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。
検索 	表示	[検索] ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでサーバを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
PC サーバに移動 	PC サーバ	[PC サーバに移動] ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	[フィルタ] ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある [情報パネル] を表示/非表示にします。
新規 PC サーバ 	PC サーバ	PC サーバを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』
PC サーバの詳細 	[PC サーバ] と <右クリック・メニュー>	[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したサーバの詳細が表示されます。詳細については、「 [PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックス 」(268ページ)を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集] と <右クリック・メニュー>	PC サーバのグリッドに [置換] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』

UI 要素	メニュー	説明
		を参照してください。 PCサーバのフィールドの詳細については、「 PC サーバ・モジュールのフィールド 」(267ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

PC サーバ・モジュールのフィールド

本項では、PC サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[PC サーバ] を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
設定の最終チェック	最後の設定のチェックが成功または失敗したかを表示します。
接続性の最終チェック	最後の接続のチェックが成功または失敗したかを表示します。
説明	Performance Center サーバの説明。
外部 URL	外部ソースから Performance Center サーバへの接続に使用する URL。 注: SSL 接続の場合、外部 URL に次の形式を使用して、Performance Center server を追加します。 https://<PC サーバ> 例: https://mypcs:443
インストールの最終チェック	最後のインストールのチェックが成功または失敗したかを表示します。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信、および負荷分散に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。
パフォーマンスの最終チェック	最後のパフォーマンスのチェックが成功または失敗したかを表示します。

UI 要素	説明
サーバ ID	サーバ ID。
サーバの状態	<p>サーバの現在の状態。可能性のある状態は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アイドル：サーバはアイドル状態です。 • パッチのインストール中：インストール用のパッチをサーバにインストール中で、サーバは一時的に利用できません。 • 再起動中：サーバは再起動中で、一時的に利用できません。 <p>標準設定値： [アイドル]</p>
ステータス	<p>サーバの現在のステータス。可能性のあるステータスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 稼働中：サーバは稼働中です。 • 非稼働：サーバは稼働していません。 • 利用不可：サーバは利用できません。

[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックス

[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックスでは、単一のサーバの表示と更新ができます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、 [PC サーバ] を選択します。 2. サーバを右クリックし、 [PC サーバの詳細] を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 ：詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ ：サーバのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 ：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション ：スペル・チェックの方法を設定できます。
	<p>フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。</p> <p>例：a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。</p>

UI 要素	説明
サーバ ID	サーバの ID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「 PC サーバ・モジュールのフィールド 」(267ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したサーバで実行されているタスク、操作のステータス、エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「 イベント・ログ 」(135ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『 HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参照してください。
プロセス	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については、「 [プロセス] ページ 」(270ページ)を参照してください。
サーバステータスの確認	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには、タブ内の行を右クリックし、「 サーバステータスの詳細の確認 」を選択します。詳細については、「 [サーバのステータスの確認] ページ 」(271ページ)を参照してください。

[新規 PC サーバ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい Performance Center サーバを追加できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[PC サーバ] を選択します。 2. [新規 PC サーバ] ボタン  をクリックします。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し、a?b は acb を返します。

UI 要素	説明
詳細	<p>PCサーバのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(267ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント: このページの「説明」フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
名前	<p>新しいサーバに付ける名前を入力します。</p> <p>構文の例外: サーバ名には、次の文字は使用できません。 \ / : " ? < > * % '</p>

[プロセス] ページ

このページには、選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> • PC サーバ・モジュールからの場合: ラボ管理サイドバーの「サーバ」で、「PC サーバ」を選択します。情報パネルで、「プロセス」を選択します。 • 「PC サーバの詳細」ダイアログ・ボックスからの場合: ラボ管理サイドバーの「サーバ」で、「PC サーバ」を選択します。サーバを右クリックして、「サーバの詳細」を選択します。「PCサーバの詳細」ダイアログ・ボックスで、「プロセス」を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」 (262ページ)
参照情報	「PC サーバの概要」 (262ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	<p>プロセスの強制終了: グリッド内の選択したプロセスを終了します。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト・モジュールの場合: 選択したプロセスを終了するには、プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。 • Performance Center サーバ・モジュールの場合: ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。
<プロセス・グリッド>	<p>プロセスに関する次の詳細情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前: プロセスの名前。 • PID: プロセスID。 • プロセッサ時間 (%): プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> メモリ使用量 (KB) : プロセスが使用するメモリ量 (KB)。 経過時間 (d.hh:mm:ss) : プロセス開始以降に経過した時間で、dは日数、hh:mm:ssは経過した時間、分、秒です。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり、グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。

[サーバのステータスの確認] ページ

このページは、サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> PC サーバ・モジュールからの場合 : ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[PC サーバ] を選択します。情報パネルで、[サーバのステータスの確認] を選択します。 [PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックスからの場合 : ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[PC サーバ] を選択します。サーバを右クリックし、[PC サーバの詳細] を選択します。[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックスで、[サーバのステータスの確認] を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(262ページ)
参照情報	「PC サーバの概要」(262ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	<p>[サーバのステータスの確認] の詳細 : 次のフィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際値 : サーバの接続性の確認による実際の値。 確認 : サーバの確認機能によってチェックされるサーバのサブ領域。 確認結果 ID : サーバの確認の各ステップの ID。 期待値 : サーバの確認による期待される値。 カテゴリ : サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域 : 設定, 接続性, インストール, パフォーマンス。 確認日 : サーバがチェックされた日付。 エラー : チェック中にエラーが発生した場合, エラーを表示します。 ステータス : サーバの確認が成功または失敗したかを示します。
	更新 : ページを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば, ツールバーの下に表示されます。詳細については,

UI 要素	説明
	『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 ：[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 ：[検索] ダイアログ・ボックスが開き、グリッド内を検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバのステータスの確認のグリッド>	サーバの確認のステータスを表示します。グリッドに表示するカラムを選択するには、  をクリックします。
実際の値	サーバの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域： <ul style="list-style-type: none"> • 設定 • 接続性 • インストール • パフォーマンス
確認	サーバの確認機能によってチェックされるサブ領域。たとえば、パフォーマンス・チェックの場合のサブ領域は、プロセッサ、メモリ、システムです。
確認日	サーバがチェックされた日付。
確認結果 ID	サーバの確認の各ステップの ID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合、エラーを表示します。
期待値	サーバの確認による期待される値。
ステータス	サーバの確認が成功または失敗したかを示します。

第17章: CDA サーバ

本章の内容

- CDA サーバの概要274
- CDA サーバを管理する方法274
- CDA サーバのユーザ・インタフェース275

CDA サーバの概要

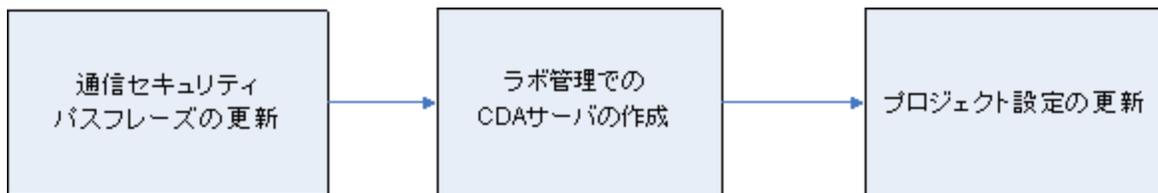
CDA サーバ・モジュールは、ラボ管理内での HP Continuous Delivery Automation (CDA) サーバの作成と構成に使用します。CDA には、一連の動的なターゲット環境に複合アプリケーションを送信する方法の定義に必要な結果および関係を示すデータ・モデルが用意されています。

CDA は ALM と統合して、リソースの動的なプロビジョニングおよびデプロイメントを可能にします。AUT 環境設定を CDA にリンクすると、ALM は環境パラメータの特定の値を入力するようにユーザーに要求しなくてもリンクされたテストの実行を行うことができます。ラボ管理で CDA サーバを定義すると、AUT 環境パラメータを CDA パラメータにリンクするために ALM で CDA サーバを使用できます。CDA および AUT パラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバを管理する方法

このタスクでは、ラボ管理で CDA サーバを作成する方法を説明します。ラボ管理で CDA サーバを管理し、ALM で CDA リンケージを実行します。

ALM での CDA 設定は、次のワークフローで行います。



1. 通信セキュリティ・パスフレーズの更新

- サイト管理で、**COMMUNICATION_SECURITY_PASSPHRASE** サイト・パラメータを更新します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- ALM サーバ上の HP Application Lifecycle Management サービスを再起動します。

2. ラボ管理での CDA サーバの作成

- ラボ管理で、[サーバ] > [CDA サーバ] を選択します。
- [新規 CDA サーバ] ボタン  をクリックします。

注: サイトごとに設定できる CDA サーバは 1 つだけです。

- [新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックスで、サーバ情報を入力します。CDA のフィールドの詳細については、『[CDA サーバ・モジュールのフィールド](#) (278 ページ)』を参照してください。ユーザー・インタフェースの詳細については、『[\[新規 CDA サーバ\] ダイアログ・ボックス](#)』 (278 ページ)』を参照してください。
- 送信後、CDA サーバ・データで互換性チェックが行われます。内部 URL は、接続チェックに

使用します。接続に問題がない場合には、CDA サーバがグリッドに表示されます。

3. プロジェクト設定の更新

- a. ラボ管理で、**【ラボ設定】** > **【プロジェクト設定】** を選択します。
- b. 該当するプロジェクトをグリッドから選択し、**【プロジェクト設定の詳細】** ボタン  をクリックします。
- c. **【プロジェクト設定の詳細】** ダイアログ・ボックスで、**【CDA サーバ】** フィールドと **【CDA ドメイン】** フィールドを更新します。 **【OK】** をクリックします。

これで、CDA サーバがALM とリンクできます。

CDA サーバのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ](#)276
- [CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン](#)276
- [CDA サーバ・モジュールのフィールド](#)278
- [【新規 CDA サーバ】 ダイアログ・ボックス](#)278
- [【CDA サーバ詳細】 ダイアログ・ボックス](#)279

CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [サーバ] で, [CDA サーバ] を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(274ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<CDA サーバ・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> • CDA サーバのフィールド: フィールドの定義については, 「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(278ページ)を参照してください。 • CDA サーバのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については, 「CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン」(276ページ)を参照してください。 • ALM のマストヘッド, メニュー, サイドバー: (詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。)
<グリッド・フィルタ>	<p>各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合, 現在カラムにはフィルタが適用されていません。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか, ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し, [フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<サーバ・グリッド>	CDA サーバのリストを表示します。
【履歴】 タブ	現在選択されている CDA サーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では, CDA サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [サーバ] で, [CDA サーバ] を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(274ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入りに] ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りにビューを追加できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバ詳細	[CDA サーバ] と <	[CDA サーバ詳細] ダイアログ・ボックスが開き, 選択したサーバの詳細

UI 要素	メニュー	説明
	右クリック・メニュー>	細が表示されます。詳細については、「 【CDA サーバ詳細】ダイアログ・ボックス 」(279ページ)を参照してください。
削除 	【編集】と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。
エクスポート	【CDA サーバ】と<右クリック・メニュー>	<p>【グリッドデータのエクスポート】ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート：グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート：グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。
検索 	表示	【検索】ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでサーバを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバに移動 	CDA サーバ	【CDA サーバに移動】ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	【フィルタ】ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある【情報パネル】を表示/非表示にします。
新規 CDA サーバ 	CDA サーバ	CDA サーバを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	【編集】と<右クリック・メニュー>	CDA サーバのグリッドに【置換】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	【カラムの選択】ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP

UI 要素	メニュー	説明
		Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 PCサーバのフィールドの詳細については、「 CDA サーバ・モジュールのフィールド 」(278ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	編集	「選択項目の更新」ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバ・モジュールのフィールド

本項では、CDA サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[CDA サーバ] を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」 (274ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
外部 URL	外部ソースから CDA サーバへの接続に使用する URL。これは、必須フィールドです。 URL のフォーマット : <code>http://[サーバ名]:[ポート]/cda</code> 注: SSL 接続の場合、外部 URL に次の形式を使用して、CDA サーバを追加します。 <code>https://<cda_server></code>
ID	サーバ ID。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信、および負荷分散に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。 URL のフォーマット : <code>http:// [サーバ名] : [ポート]</code>

「新規 CDA サーバ」ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい CDA サーバを作成できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[CDA サーバ] を選択します。
--------	---

	2. [新規 CDA サーバ] ボタン  をクリックします。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(274ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
詳細	CDA サーバのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、 「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(278ページ) を参照してください。 ヒント: このページの [説明] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
名前	新しいサーバに付ける名前を入力します。 構文の例外 : サーバ名には、次の文字は使用できません。 \ / : " ? < > * % '

[CDA サーバ詳細] ダイアログ・ボックス

[CDA サーバ詳細] ダイアログ・ボックスでは、単一のサーバの表示と更新ができます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの [サーバ] で、[CDA サーバ] を選択します。 2. サーバを右クリックし、[CDA サーバ詳細] を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(274ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存 : 詳細を保存します。
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ : サーバのリストの間を移動できます。

UI 要素	説明
	
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索 : 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例 : a*b は acb と adefb を返し, a?b は acb を返します。
ID	サーバの ID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、 「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(278ページ) を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第18章: Lab Service

本章の内容

- HP ALM Lab Service の概要282
- HP ALM Lab Service のインストール282
- HP ALM Lab Service の使用289
- HP ALM Lab Service Agent292

HP ALM Lab Service の概要

HP ALM Lab Service はテスト・ツール・ホスト上でエージェントとして機能するため、ALM はホスト上でテストとメンテナンス・タスクをリモートで開始できます。

Lab Service は、テスト・ツール・ホストでバックグラウンド実行されます。テスト・ツール・ホストを ALM ラボ管理機能と統合するには、ラボ管理または ALM のホスト/テスト・ツール・ホスト・モジュールでホストを定義してから、[Lab Service の設定] ページを使用して ALM Lab Service を ALM サーバに指定します。ユーザ・インターフェースの詳細については、[「HP ALM Lab Service Agent」\(292ページ\)](#)を参照してください。

1 回の登録処理で、エージェントの ID が検証され、ALM とホスト間にセキュリティ保護された通信チャンネルが確立されます。登録後、ALM を使用してリモート・ホスト上で機能テストとメンテナンス・タスクを実行します。

Lab Service は、ALM とテスト・ツール・ホスト間のセキュアなインターフェースとして機能します。ALM との通信(テスト要求、テスト結果、メンテナンス・タスクなど)は、Lab Service を経由します。Lab Service は、標準 HTTP プロトコルを通じて ALM と通信し、ファイアウォールを通過できます。ALM Lab Service を停止すると、テストの実行で ALM ラボ管理によるホストの使用が回避されます。

タスクの詳細については、[「HP ALM Lab Service の使用」\(289ページ\)](#)を参照してください。

HP ALM Lab Service のインストール

このタスクでは、HP ALM Lab Service のインストール方法について説明します。

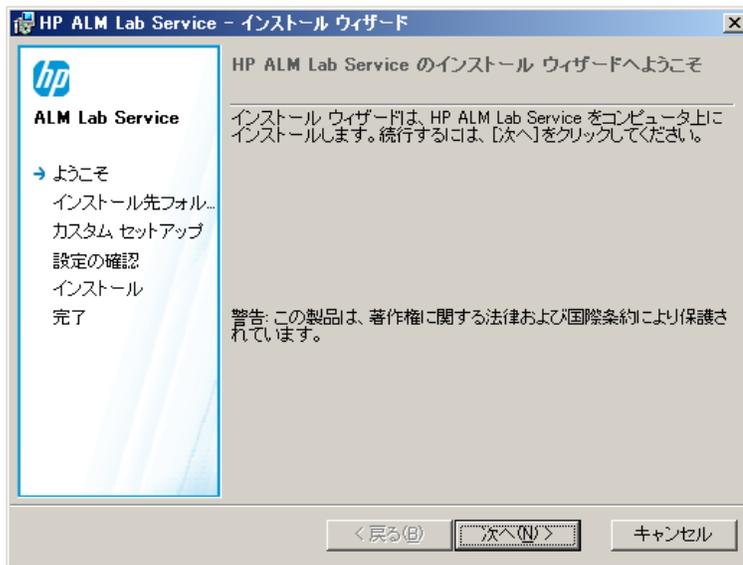
注: HP ALM Lab Service のインストールの修正、修復の詳細については、[「HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール」\(288ページ\)](#)を参照してください。

HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードによる Lab Service のインストール

1. HP ALM Lab Service MSI インストール・ファイルを HP ALM の [アドイン] ページでダウンロードします。オペレーティング・システム環境に合わせてインストール・パスを選択します。

注: 互換性を確保するには、Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中の Lab Service のバージョンが ALM サーバと一致しない場合、[ホスト/テスト・ツール・ホスト] グリッドでテスト・ツール・ホストが [利用不可] と表示されます。

2. MSI インストール・ファイルを実行します。HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードが起動し、[ようこそ] 画面が開きます。



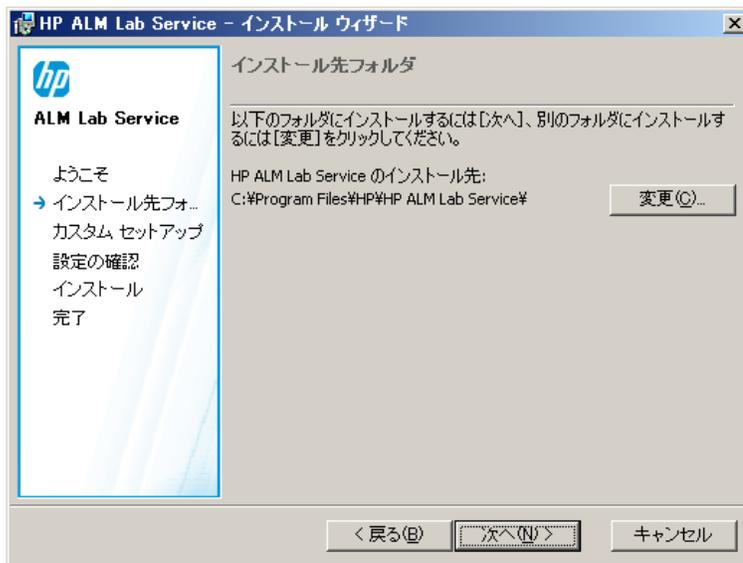
注:

- マシンの管理者権限が必要です。
- ユーザ・アクセス制御 (UAC) を無効にする必要があります。

[次へ] をクリックします。

3. [インストール先フォルダ] 画面が開きます。

Lab Service をインストールするフォルダを指定します。[変更] をクリックすると、インストール先フォルダを変更できます。

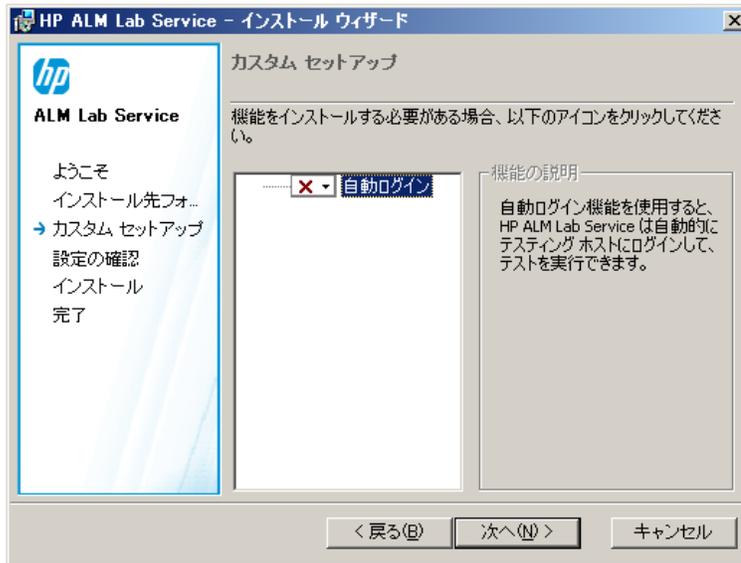


注: インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限が必要です。

表示されているフォルダへのインストールを開始するには、**「次へ」** をクリックします。

4. **「カスタム セットアップ」** 画面が開きます。

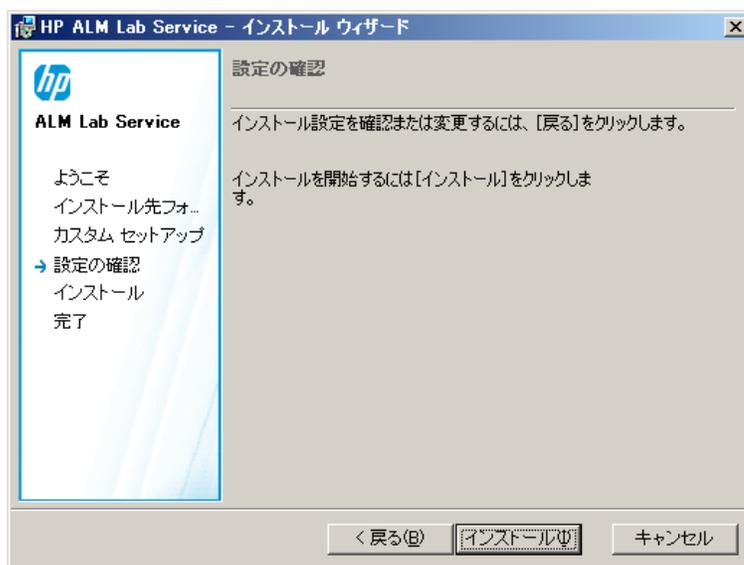
この画面では、Lab Service の自動ログイン機能を有効にすることができます。**「自動ログイン」** チェックボックス・アイコンをクリックし、**「この機能を有効にする」** を選択します。自動ログインの詳細については、**「自動ログイン」** (291ページ)を参照してください。



注意: Windows XP では、HP ALM Lab Service のセットアップを行うと、自動ログインに必要なファイル (GINA DLL) がインストールされます。他のアプリケーションでホストへのログインをカスタマイズしている場合、別バージョンのファイルがすでにインストールされている可能性があります。したがって、このファイルを置換するとエラーが発生することがあります。自動ログイン機能を有効にする場合は、他のアプリケーションをアンインストールしてから、Lab Service のインストールを再開してください。

「次へ」 をクリックします。

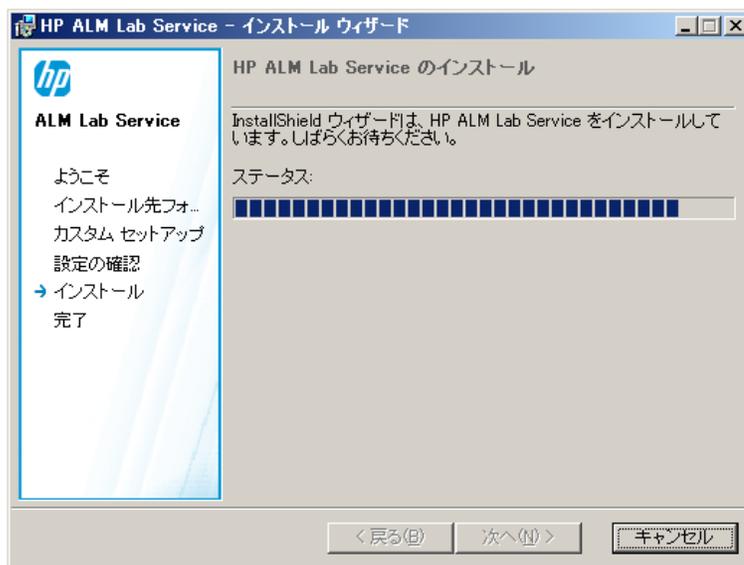
5. **「設定の確認」** 画面が開きます。



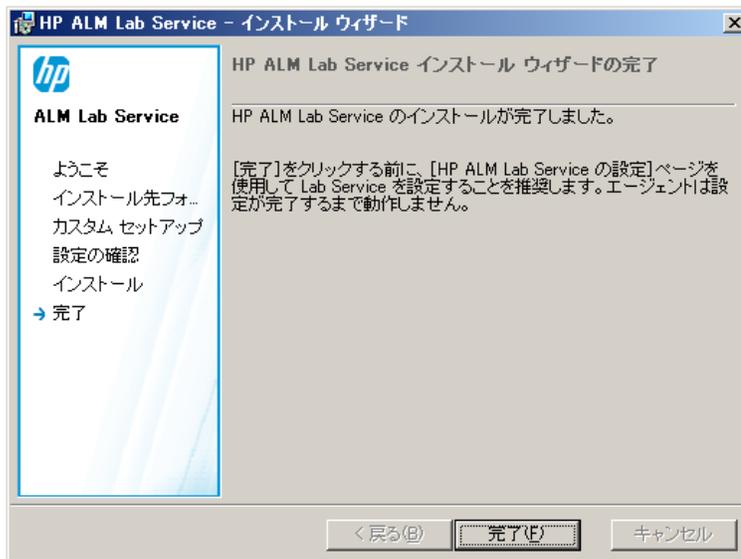
設定を確認または変更する場合は、**「戻る」**をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、**「インストール」**をクリックします。

「インストール」 ページが開き、HP ALM Lab Service のファイルがインストールされます。



6. インストールが完了すると、**「HP ALM Lab Service の設定」** ダイアログ・ボックスと**「完了」**画面が開きます。



[Lab Service の設定] ダイアログ・ボックスにホスト設定を入力し、[OK] をクリックします。[Lab Service の設定] ページのユーザ・インタフェースの詳細については、「[HP ALM Lab Service Agent](#)」(292ページ)を参照してください。

注:

- Lab Service の設定はこの段階で行うことをお勧めしますが、後で設定することも可能です。エージェントを実行するには、設定を完了する必要があります。
- インストールで自動ログインを有効にすると、コンピュータの再起動を指示するメッセージが表示されます。[Lab Service の設定] ページの内容を確認してから、再起動してください。

これで、Lab Service のインストールは完了です。[完了] 画面の [完了] をクリックします。Lab Service のトレイ・アイコンが Windows タスクバーに表示されます。

サイレント・モードでの Lab Service のインストール

コマンド・ラインで、次の Microsoft MSI サイレント・インストール・コマンドを入力します。

```
msiexec /i "< MSI の場所 > /HpAlmLabService_x64.msi" /qb SERVERNAME=http:// < サーバ名 > : < ポート > /qcbn HOSTUSERNAME= < ユーザ名 >
```

注:

- マシンの管理者権限が必要です。
- ユーザ・アクセス制御 (UAC) を無効にする必要があります。

次に、指定可能な ALM 固有のパラメータを示します。

パラメータ	説明
HOSTUSERDOMAIN= < ドメイン >	自動ログインが有効の場合に必要です。ログイン・ユーザのドメインを指定します。
HOSTUSERNAME= < ユーザ名 >	<p>必須パラメータ。 テスティング・ホストでのテスト実行時に、ログインが必要なユーザを指定します。</p> <p>注: このユーザには次の権限が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル・オブジェクトの作成 ・ All COM の権限 ・ インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限 ・ 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば、UFT テストを ALM から実行する場合、選択するユーザには UFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールで必要な権限の詳細については、テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。
HOSTUSERPASSWORD= < パスワード >	自動ログインが有効の場合に必要です。ログイン・ユーザのパスワードを指定します。
ISAUTOLOGIN=1	自動ログイン機能を有効にします。自動ログインが有効の場合、HOSTUSERDOMAIN パラメータと HOSTUSERPASSWORD パラメータを指定してください。自動ログインの詳細については、「 自動ログイン 」(291ページ)を参照してください。
LOGLEVEL= < ログ・レベル >	Lab Service がログを記録する際のレベル(< ログ・レベル >)を指定します。サポートされるログのレベルは、エラー、オフ、警告、情報、詳細です。ログ・レベルの詳細については、「 HP ALM Lab Service Agent 」(292ページ)を参照してください。
LOGLOCATION=" < ログ・ディレクトリ > "	Lab Service のログを記録する場所(< ログ・ディレクトリ >)を指定します。
REGISTER=1	インストールの完了後に、登録要求を ALM サーバに自動送信します。
SERVERNAME=http:// < サーバ名 > : < ポート > /qcbn	<p>必須パラメータ。 ALM サーバの URL。</p> <p>例 : SERVERNAME=http://almserver1:8080/qcbn</p>

これ以外にも標準の MSI パラメータが提供されています。詳細情報は、コマンド・ラインで `msiexec /?` と入力して確認できます。

HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール

HP ALM Lab Service のインストールの変更

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[ようこそ] 画面で **HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード** が起動します。[次へ] をクリックします。
2. [プログラムのメンテナンス] 画面が開きます。
[変更] ラジオ・ボタンを選択します。[次へ] をクリックします。
3. [カスタム セットアップ] 画面が開きます。
機能アイコンを使用して、HP ALM Lab Service 機能を有効または無効にします。
[次へ] をクリックします。
4. [設定の確認] 画面が開きます。
[次へ] をクリックします。
5. [完了] 画面が開きます。[完了] をクリックします。

HP ALM Lab Service の削除

注意: Lab Service を削除したら、別のバージョンを再インストールする前にホストを再起動する必要があります。再起動せずに新しいバージョンを再インストールしようとする、インストールが失敗します。

MSI ファイルを使用して Lab Service を削除するには、次の手順を実行します。

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[ようこそ] 画面で **HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード** が起動します。[次へ] をクリックします。
2. [プログラムのメンテナンス] 画面が開きます。
[削除] ラジオ・ボタンを選択します。[次へ] をクリックします。
3. [プログラムの削除] 画面が開きます。[削除] をクリックします。
MSI インストール・ファイルの実行時に Lab Service が実行中であった場合、[使用中のファイル] 画面が開く場合があります。[OK] をクリックして、削除を完了します。
4. [完了] 画面が開きます。[完了] をクリックします。

Windows の [プログラムと機能] を使用して Lab Service を削除するには、次の手順を実行します。

1. [コントロール パネル] > [すべてのコントロール パネル項目] > [プログラムと機能] に移動して、Windows の [プログラムと機能] 画面を開きます。
2. [HP ALM Lab Service] を右クリックして、[アンインストール] を選択します。

サイレント・アンインストールを使用して Lab Service を削除するには、次のいずれかのコマンドを実行します。

- `msiexec /x " < msi の場所 > \HpAlmLabService_x64.msi"`
- `msiexec /x {8A0D781B-7976-419F-91D9-15F3121FCFA5}`

HP ALM Lab Service の使用

このタスクでは、HP ALM Lab Service の使用方法について説明します。ALM を使用してテストング・ホストで機能テスト・セットからテストを実行するには、Lab Service を使用して ALM でホストを登録する必要があります。

HP ALM Lab Service の詳細については、[「HP ALM Lab Service の概要」\(282ページ\)](#)を参照してください。

注: 互換性を確保するには、Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中の Lab Service のバージョンが ALM サーバと一致しない場合、[ホスト/テストングホスト] グリッドでテストング・ホストが**【利用不可】**と表示されます。



このタスクは次のステップで構成されています。

- [「テストング・ホストの作成」\(289ページ\)](#)
- [「HP ALM Lab Service の構成」\(290ページ\)](#)
- [「ラボ管理でのホストの登録の承認」\(290ページ\)](#)
- [「Lab Service の停止/開始」\(291ページ\)](#)

1. テスティング・ホストの作成

ALM またはラボ管理の [ラボ リソース] で、ホスト/テストング・ホスト・モジュールを選択します。[新規テストングホスト] ボタンをクリックし、テストング・ホスト情報を入力します。新しいテストング・ホストの [登録ステータス] が [未登録] に設定されます。

注: [登録自動承認] を [Y] に設定することで、ALM でテストング・ホスト登録を自動的

に承認するように準備できます。

タスクの詳細については、「[テスト・ホストの管理方法](#)」(106ページ)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[新規テスト ホスト\] ダイアログ・ボックス](#)」(132ページ)を参照してください。

2. HP ALM Lab Service の構成

Lab Service を設定するには、次の内容が必要です。

- ALM サーバの URL。
- テスティング・ホストでのテスト実行専用使用する、専用の Windows ユーザ名。

注: このユーザには次の権限が必要です。

- グローバル・オブジェクトの作成
- All COM の権限
- 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば、UFT テストを ALM から実行する場合、選択するユーザには UFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールに必要な権限の詳細については、テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。

- Windows ユーザ名のパスワードとドメイン。インストールの間に自動ログインを有効にした場合のみ、利用できます。
- (オプション) テスティング・ホストと ALM 間の通信で使用するプロキシ・サーバの URL と証明書。

[設定] ページを使用して、ALM と通信するように Lab Service を設定できます。

[設定] ページを使用して Lab Service を登録するには、次の手順を実行します。

- a. システム・トレイにある [Lab Service] アイコンを右クリックします。[設定] ページを開きます。
- b. ALM サーバ URL とホスト・ユーザ情報を入力します。必要に応じてプロキシ・サーバ情報を入力します。[設定] ページに関するユーザ・インタフェースの詳細については、「[HP ALM Lab Service Agent](#)」(292ページ)を参照してください。[ホストの登録] をクリックします。
- c. ラボ管理で、ホスト・グリッドを更新します。新しいホストの [登録ステータス] が [保留中] に設定されます。

3. ラボ管理でのホストの登録の承認

ホストを作成したときに [登録自動承認] を [Y] に設定した場合、登録が自動的に承認されません。

自動的に承認されるようにホストを設定しない場合には、ホストを手動で承認する必要があります。ホストの登録要求はラボ管理者によってラボ管理内から承認できます。ホストをプライ

ベート・ホストとして ALM プロジェクトから作成した場合、そのプロジェクトから登録を承認できます。

ホスト・モジュールのグリッドからホストを選択し、**【ホスト操作】** ドロップダウン矢印をクリックし、**【登録の承認】** を選択します。**【登録ステータス】** が **【保留中】** から **【登録済み】** に変わります。

新しいテスト・ホストが登録されます。ALM を使用して、このホストで機能テストのスケジュールを設定して実行できます。

4. Lab Service の停止/開始

タスクバーのアイコンを使用して、Lab Service を開始および停止できます。アイコンを右クリックして、次のいずれかを実行します。

- 停止するには、**【ALM Lab Service の停止】** をクリックします。
- 開始するには、**【ALM Lab Service の開始】** をクリックします。

注意:

- Lab Service を停止すると、テスト・ホストはラボ管理に **【非稼働】** と表示されます。再度開始するまで、テスト・ホストでサーバ側の実行を使用してテストを実行することはできません。
- Lab Service を停止した後、待機時間が長すぎると、ALM で Lab Service が再起動されたかどうかを確認するためにポーリングが停止されます。ホスト/テスト・ホスト・グリッドでテスト・ホストの **【ステータス】** を手動で **【稼働中】** に設定する必要があります。

自動ログイン

ALM を使用して、登録したテスト・ホスト上でテストを実行するには、テストの実行権限を持つ Lab Service ユーザがテスト・ホストにログインする必要があります。Lab Service では、テスト実行を要求したユーザがテスト・ホストに自動ログインする設定を行うことができるので、ユーザがログインしていない状況を避けることができます。

自動ログインを有効にするには、**【設定】** ページでユーザ名とパスワードを入力する必要があります。詳細については、[「HP ALM Lab Service Agent」\(292ページ\)](#)を参照してください。

自動ログインが有効な状態でセッションを切断すると(セッション・ウィンドウを閉じる、など)、ユーザは自動的にログイン状態に戻り、テストを実行します。ただし、画面がロックされていると、セッション・ユーザ・インタフェース(UFT GUI テストなど)が必要なテストは実行できません。

注:

- 自動ログインを有効にする操作には、マシンの管理者権限が必要です。
- 自動ログインを有効にするには、ユーザ・アクセス制御(UAC)を無効にする必要があります。

- 既存の Lab Service 環境で自動ログインを無効または有効にするには、MSI ファイルを実行してから **【変更】** をクリックします。詳細については、[「HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール」 \(288ページ\)](#)を参照してください。

HP ALM Lab Service Agent

アクセス方法	Windows タスクバーで Lab Service のアイコンを右クリックして、 【設定】 を選択します。
重要な情報	【設定】 ページを使用して、Lab Service と ALM サーバとの通信を管理できます。
関連タスク	「HP ALM Lab Service の使用」 (289ページ)
参照情報	「HP ALM Lab Service の概要」 (282ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

【一般】 タブ

The screenshot shows the 'HP ALM Lab Service の設定' dialog box with the '一般' (General) tab selected. The 'プロキシ' (Proxy) sub-tab is also visible. The 'サーバ設定' (Server Settings) section includes the 'ALM サーバ' (ALM Server) field with the value 'http://almserver1:8080/qcbin'. The 'ホスト設定' (Host Settings) section includes 'ホスト ユーザ名' (Host Username) 'mtoursuser', 'ホストパスワード' (Host Password) masked with asterisks, and 'ホストドメイン' (Host Domain) 'mtours'. The 'ホストの登録' (Host Registration) section contains a text box for 'ホスト名' (Host Name) 'mtours' and a larger text box for 'メッセージ' (Message). The 'ログ設定' (Log Settings) section includes 'ログ ファイルの場...' (Log File Location) 'C:\ProgramData\HP\ALM-Execution Agent Logs' and 'ログ レベル' (Log Level) 'Error'. At the bottom are 'OK(O)' and 'キャンセル(C)' buttons.

このタブでは、Lab Service の一般的な設定を行います。

UI 要素	説明
【サーバ設定】セクション	<p>ALM サーバ : Lab Service と通信する ALM サーバの URL。</p> <p>この URL は次の形式である必要があります。 http(s)://<サーバ名>:<ポート>/qcbn</p>
【ホスト設定】セクション	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト・ユーザ名 : このホストでの ALM テストの実行に使用する Windows ユーザの名前。名前には、バックスラッシュ記号 (\) は指定できません。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注: このユーザには次の権限が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グローバル・オブジェクトの作成 • All COM の権限 • インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限 • 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば、UFT テストを ALM から実行する場合、選択するユーザには UFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールに必要な権限の詳細については、テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。 </div> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト・パスワード : Windows ユーザのパスワード。このフィールドに入力できるのは、自動ログインが有効な場合のみです。 • ホスト・ドメイン : Windows ユーザのドメイン。このフィールドに入力できるのは、自動ログインが有効な場合のみです。
【ホストの登録】セクション	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 : ALM がテスト・ホストの識別に使用する名前。 • メッセージ : ラボ管理の管理者に送信されるメッセージ。 • ホストの登録 : ALM サーバを使用したテスト・ホストを登録します。 <p>詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(289ページ)を参照してください。</p>
【ログ設定】セクション	<p>ログ・ファイルの場所 : ログが書き込まれるディレクトリ。ログでテスト実行およびメンテナンス・タスクの進行状況が記録されます。ディレクトリが存在しない場合は、作成されます。このフィールドは入力必須です。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注: [ホスト設定] で定義したユーザ名に、ログ・ファイルのパスに対する書き込みアクセス権が割り当てられていないと、実行ログは作成されません。</p> </div> <p>ログ・レベル : ドロップダウン・メニューでログ・レベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Off : ログは記録されません。 • Error : エラーのみがログに記録されます。 • Warning : エラーと警告がログに記録されます。 • Info : エラー、警告、情報がログに記録されます。 • Verbose : Lab Service エージェントが実行したアクションがすべてログに記録されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注意: ログ・レベルを高く設定すると、パフォーマンスに影響する可能性があります。デバッグ情報の生成が必要である場合を除き、[Error] レベルに設定することをお勧めします。</p> </div>

【プロキシ】 タブ

HP ALM Lab Service の設定

一般 プロキシ

プロキシなし
 手動プロキシ設定

• プロキシタイプ: HTTP

• プロキシサーバ: 193.71.207 : 8080

プロキシサーバにパスワードが必要です

• ユーザ名: mtours

• パスワード: *****

OK(O) キャンセル(C)

このタブでは、テスト・ホストがプロキシ・サーバ経由で ALM と通信する場合に使用するプロキシ・サーバ情報を入力します。

UI 要素 (表示順)	説明
プロキシなし	テスト・ホストが ALM サーバと直接通信する場合、このオプションを選択します。
手動プロキシ設定	テスト・ホストが ALM サーバとプロキシ・サーバを介して通信する場合、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、プロキシ・タイプとプロキシ・サーバを入力する必要があり、オプションでユーザ名とパスワードを指定できます。
プロキシ・タイプ	テスト・ホストとプロキシ・サーバ間の通信で使用するプロトコル。
プロキシ・サーバ: <ポート番号>	プロキシ・サーバのホスト名または IP アドレス。右のフィールドにポート番号を入力してください。
プロキシ・サーバにパスワードが必要です	プロキシ・サーバとの通信で認証が必要な場合、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、プロキシ・サーバのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

UI 要素 (表示順)	説明
ユーザ名	プロキシ・サーバの認証に使用するユーザ名。
パスワード	指定したユーザ名のパスワード。

注: プロキシ設定には、UI では指定できないものがあります。このようなプロキシの詳細設定を行うには、**HP.ALM.Lab.Agent.RemoteService.exe.config** 設定ファイル (HP ALM Lab Service インストール・ディレクトリ) を変更します。標準のインストール・ディレクトリは **C:\Program Files\HP\HP ALM Lab Service** です。設定ファイルを編集する手順は、[このリンク](#)に掲載されている MSDN の手順を参照してください。

フィードバックをお送りください



ラボ管理ガイドについて何かお気づきのことはありませんか？

ご意見をお聞かせください。 SW-Doc@hp.com

